
丸亀市男女共同参画に関する
市民アンケート調査結果報告書

令和2年 11 月

丸亀市

目次

調査の概要

1	調査目的	1
2	調査実施の概要	1
3	調査方法	1
4	留意点	1

市民アンケート調査結果

1	あなた自身のことなどについて	3
	F1. あなたの性別は	3
	F2. あなたの年齢は	3
	F3. あなたは結婚(事実婚も含みます)していますか	4
	F4. あなたとあなたの配偶者の現在の職業	5
	F5. 現在、あなたが同居しているご家族の構成	7
	F6. 現在、あなたが同居している未成年者について	9
	F7. 日常的に介護を必要とする方について	11
2	男女平等について	13
	問1. あなたは次の分野で、男女は平等になっていると思いますか	13
3	職業、職場環境について	38
	問2. 一般的に女性が職業を持つことについて	38
	問3. 育児休業の取得について	41
	問4. 育児休業を取得しなかった理由	43
	問5. 介護休業の取得について	45
	問6. 介護休業を取得しなかった理由	47
	問7. 職場での性別による差について	49
	問8. 新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動の影響による働き方改革	70
	問9. 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと	72
4	家庭生活、地域活動と、仕事とのかかわりについて	75
	問10. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	75
	問11. 家庭での家事などの役割分担について【コロナ影響前】	78
	問11. 家庭での家事などの役割分担について【コロナ影響後】	85
	問11. 家庭での家事などの役割分担について【理想】	92
	問11. 家庭での家事などの役割分担について【理想と現実】	99

問 12. 新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前後の生活の変化	111
問 13. 地域活動や社会活動について参加しているもの	112
問 14. 地域活動や社会活動に参加していない理由	114
問 15. 防災活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについて	116
5 ドメスティック・バイオレンス(DV)について	118
問 16. DVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか	118
問 17. DVを経験、見聞き、相談を受けた時期	120
問 18. DVを受けたことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか	122
問 19. DVを受けたことを相談しなかったのはなぜですか	125
問 20. DVの被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているもの	128
6 男女共同参画社会づくりについて	130
問 21. 男女共同参画に関する項目についての認知度	130
問 22. 男女共同参画社会を実現していくために、丸亀市が力を入れていくべきこと	143
問 23. 男女共同参画社会づくりについてのご意見等(抜粋)	146

調査の概要

1 調査目的

このアンケート調査は、次期男女共同参画プランの策定及び今後の施策の実施に向け、市民の意識やニーズ等を把握し、計画づくりの基礎資料とするため実施しました。

2 調査実施の概要

ア 対象者

市内に在住する18歳以上から無作為抽出した男女3,000人

イ 実施期間

令和2年8月12日～令和2年9月4日

ウ 回収結果

配布数	回収数	回収率
3,000件	986件	32.9%

3 調査方法

調査票を郵送により配布後、回答用紙を返信用封筒にて回収。

4 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下のとおりとなっています。

1. グラフは原則として回答者の比率（百分率）で表現しています。
2. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数を示しています。
3. 百分率による集計では、回答者数を100.0%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
4. 複数回答の場合、百分率の合計が100.0%を超える場合があります。
5. 単数回答の場合も「無回答」を除いているため、100.0%とならない場合があります。

6. 参考として、一部の質問において前回調査や香川県調査、内閣府調査との比較を行いました。それぞれの調査の概要は次のとおりとなります。

①前回調査（市民アンケート）

「丸亀市男女共同参画に関する市民アンケート調査」〔平成27年8月実施〕

- ・調査対象：市内在住の20歳以上の男女3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出による
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・有効回収数: 1,186件　有効回収率：39.5%

②県調査（香川県調査）

「香川県男女共同参画社会に関する意識調査」〔平成26年11月実施〕

- ・調査対象：県内在住の20歳以上の男女3,000人
- ・抽出方法：選挙人名簿に基づく層化二段無作為抽出
- ・調査方法：郵送法
- ・有効回収数: 958件　有効回収率：31.9%

③国調査（内閣府調査）

「女性の活躍推進に関する世論調査」〔平成26年8月実施〕

- ・調査対象：全国の市区町村に居住する満20歳以上の日本国籍を有する者5,000人
- ・抽出方法：層化二段無作為抽出法
- ・調査方法：調査員による個別面接聴取法
- ・有効回収数: 3,037人　有効回収率：60.7%

④国調査（内閣府調査）

「男女共同参画社会に関する世論調査」〔令和元年9月実施〕

- ・調査対象：全国18歳以上の日本国籍を有する者5,000人
- ・抽出方法：層化二段無作為抽出法
- ・調査方法：調査員による個別面接聴取法
- ・有効回収数: 2,645人　回収率：52.9%

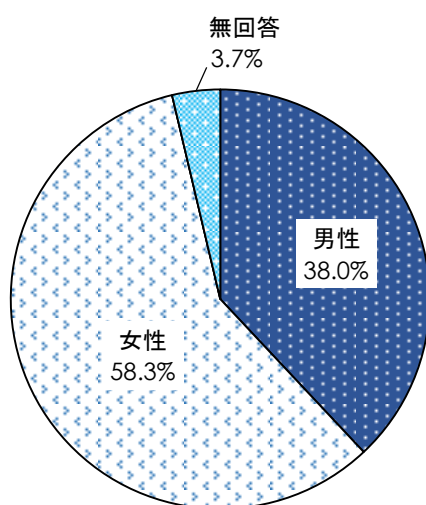
市民アンケート調査結果

1 あなた自身のことなどについて

F1. あなたの性別は。(〇は1つ)

回答者の性別をみると、「男性」38.0%、「女性」58.3%と「女性」の割合がやや高くなっています。

【回答者の性別について】



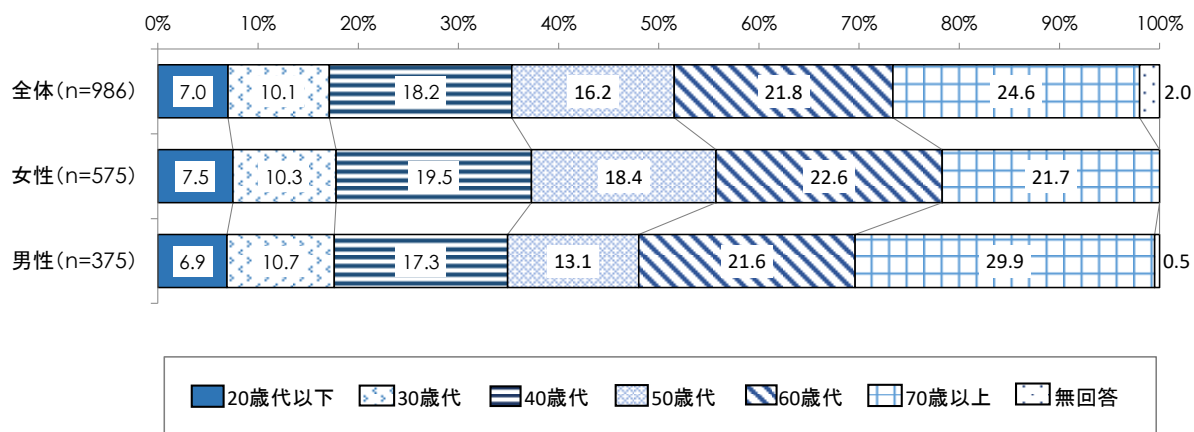
全体(n=986)

F2. あなたの年齢は。(記入日の時点で。〇は1つ)

回答者の年齢をみると、「70歳以上」24.6%の割合が最も高く、次いで「60歳代」21.8%、「40歳代」18.2%、「50歳代」16.2%の順となっています。

性別にみると、男性は女性より「70歳以上」の割合が高くなっています。

【性別にみた回答者の年齢について】

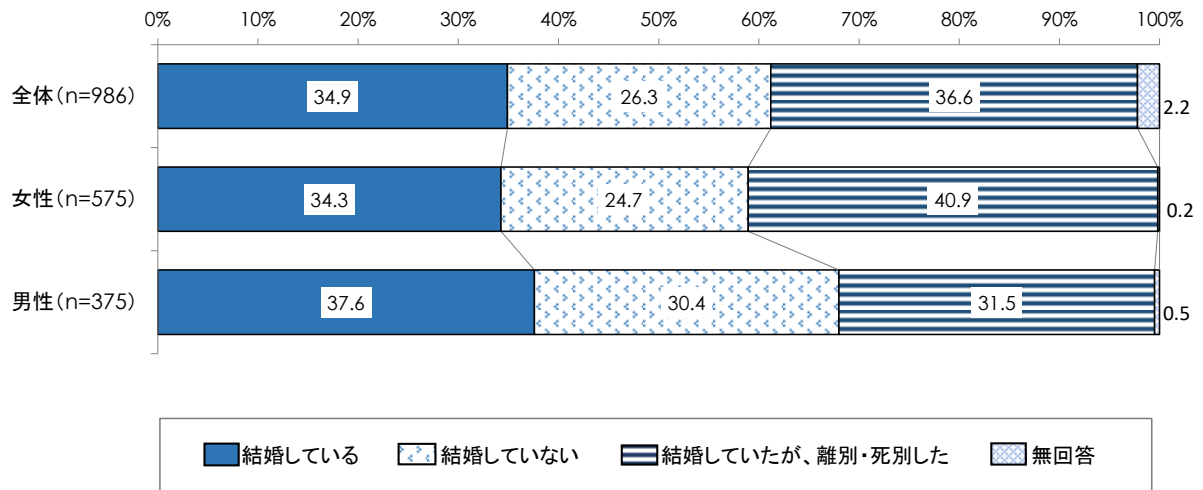


F3. あなたは、結婚(事実婚も含みます)していますか。(〇は1つ)

結婚(事実婚を含みます)の状況を見ると、「結婚している」34.9%、「結婚していない」26.3%、「結婚していたが、離別・死別した」36.6%となっています。

性別にみると、女性は男性より「結婚していたが、離別・死別した」の割合が高くなっています。

【性別にみた結婚の状況について】



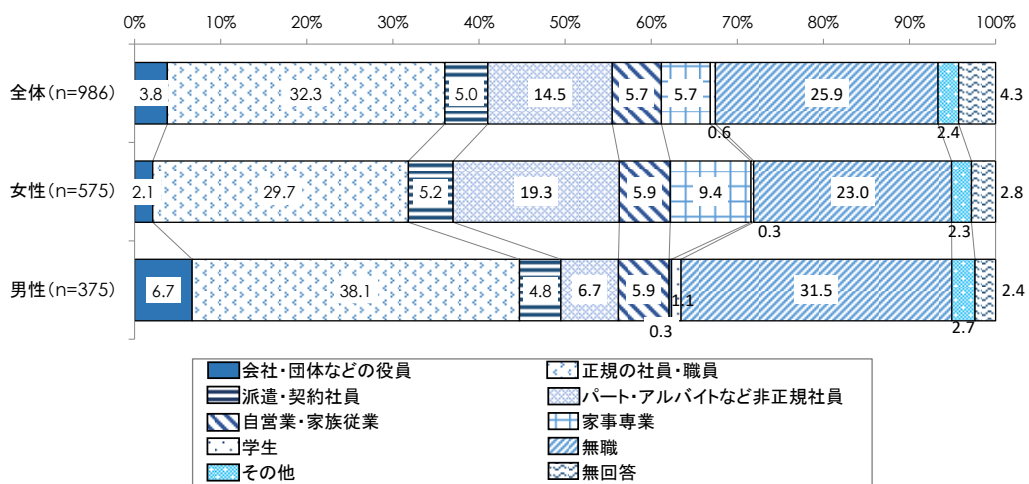
F4. あなたとあなたの配偶者(事実婚のパートナーも含みます)の現在の職業は、次のうちどれですか。
 配偶者がいない方は、ご自身の欄だけご記入ください。(〇はそれぞれ1つずつ)

自身の現在の職業をみると、「正規の社員・職員」32.3%の割合が最も高く、次いで「無職」25.9%、「パート・アルバイトなど非正規社員」14.5%の順となっています。「その他」としては「シルバー人材センター会員」、「農業」などの回答がありました。

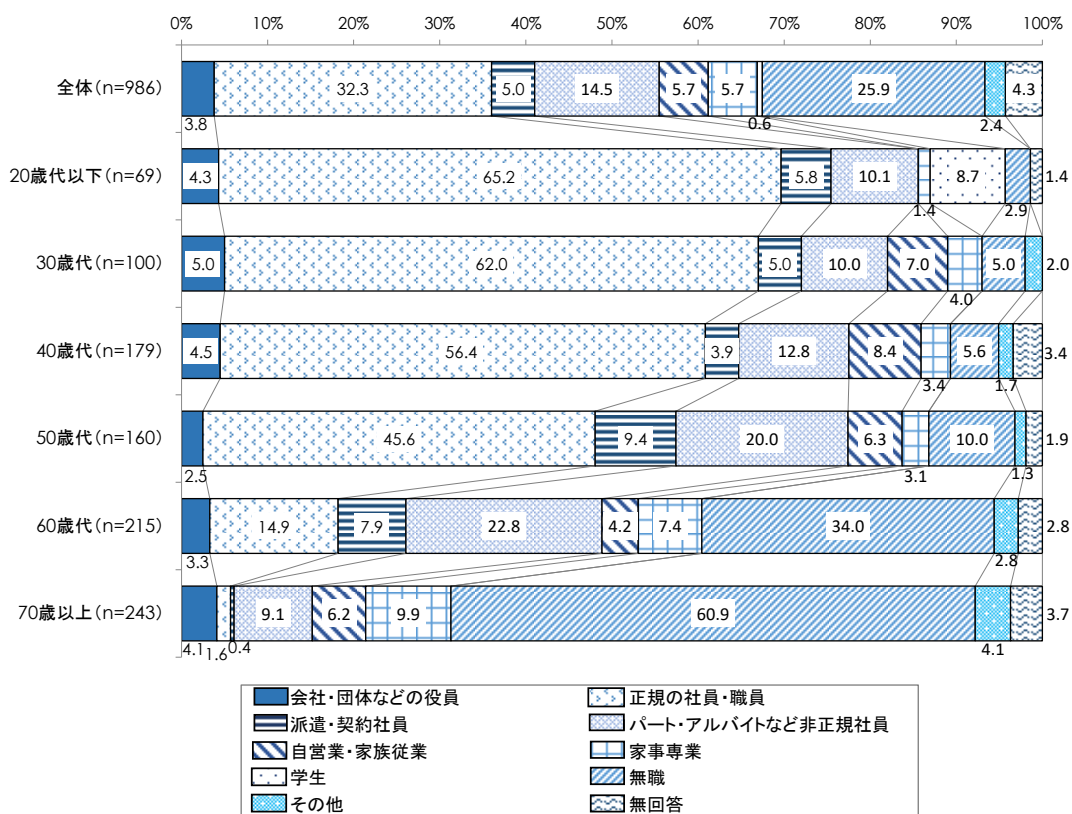
性別にみても、男性・女性ともに「正規の社員・職員」の割合が高くなっており、加えて女性は男性より「パート・アルバイトなど非正規社員」の割合が約13ポイント高くなっています。

年代別にみると、20歳代以下～50歳代は「正規の社員・職員」、60歳代、70歳以上は「無職」の割合が高くなっています。

【性別にみた自身の現在の職業について】



【年代別にみた自身の現在の職業について】

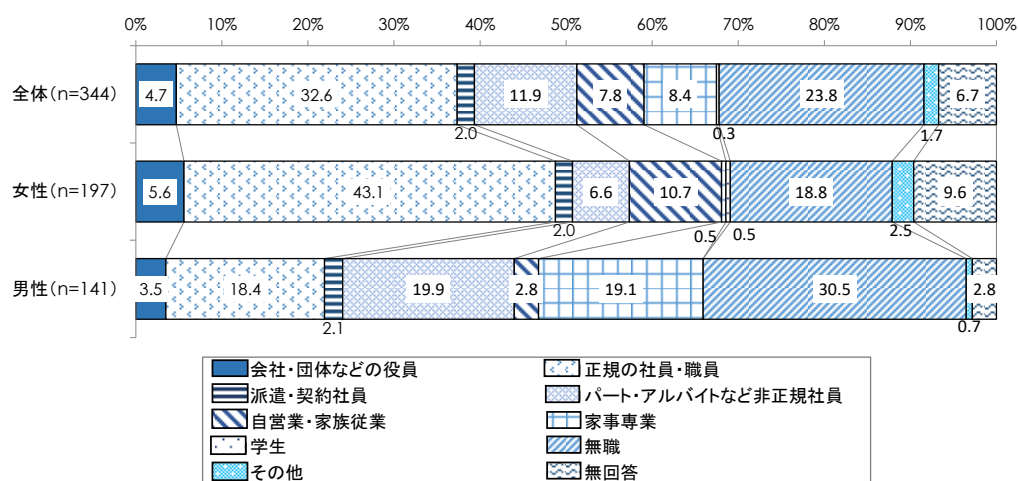


配偶者の現在の職業をみると、「正規の社員・職員」32.6%の割合が最も高く、次いで「無職」23.8%、「パート・アルバイトなど非正規社員」11.9%、「家事専業」8.4%の順となっています。「その他」としては「シルバー人材センター会員」、「農業」、「公務員」などの回答がありました。

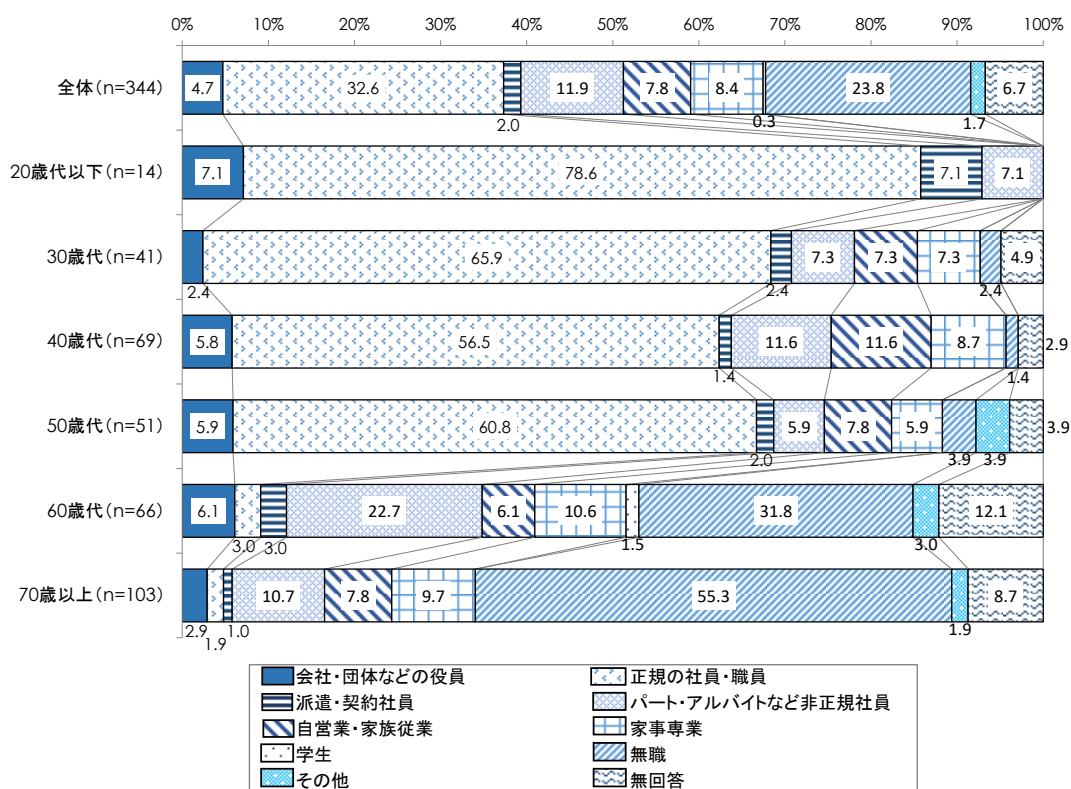
性別にみると、男性は「無職」、女性は「正規の社員・職員」、の割合が高くなっています。

年代別にみると、20歳代以下～50歳代は「正規の社員・職員」、60歳代、70歳以上は「無職」の割合が高くなっています。

【性別にみた配偶者の現在の職業について】



【年代別にみた配偶者の現在の職業について】



F5. 現在、あなたが同居しているご家族の構成は、次のうちのどれですか。(〇は1つ)

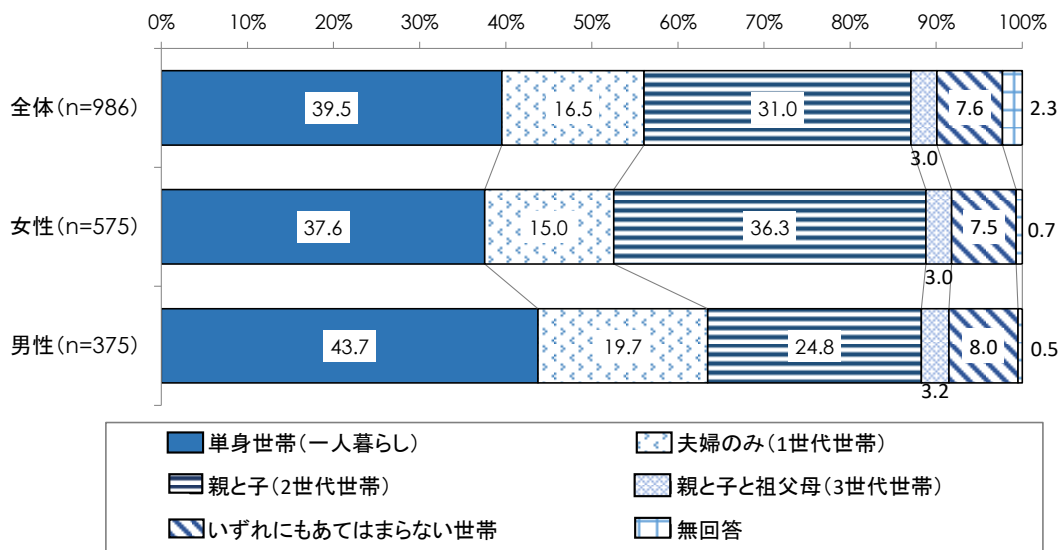
現在、同居している家族の構成をみると、「単身世帯（一人暮らし）」39.5%の割合が最も高く、次いで「親と子（2世代世帯）」31.0%、「夫婦のみ（1世代世帯）」16.5%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「親と子（2世代世帯）」の割合が11.5ポイント高くなっています。

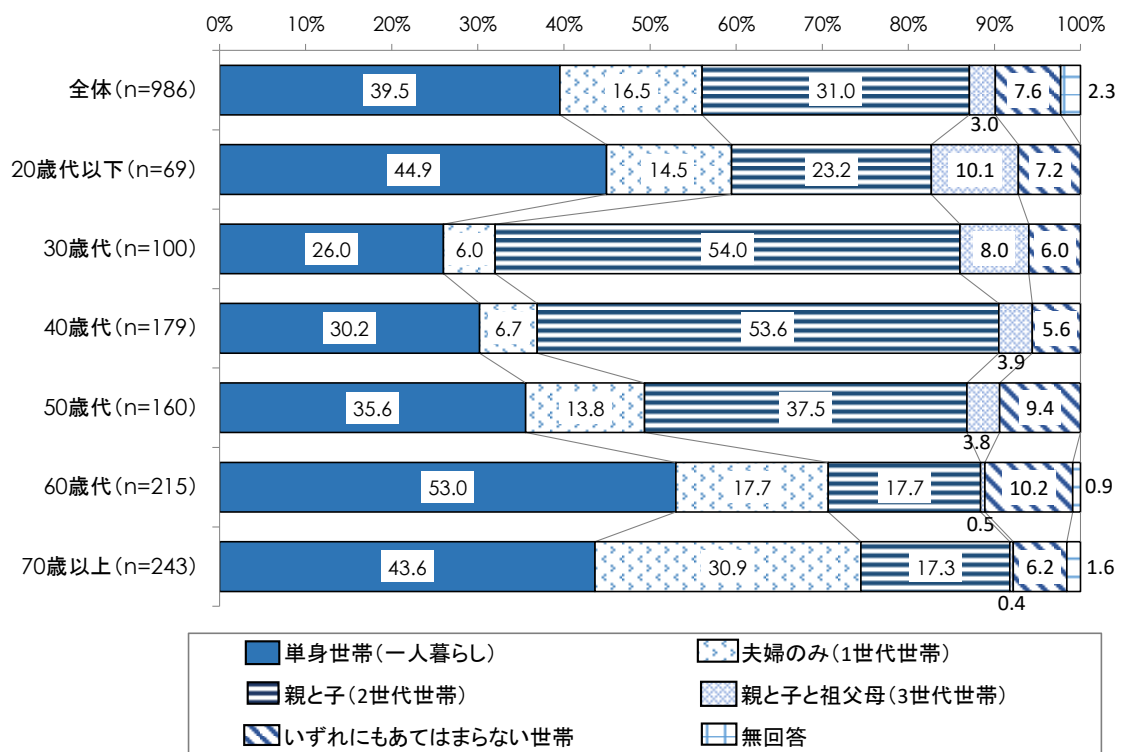
年代別にみると、20歳代以下と60歳代・70歳以上は「単身世帯（一人暮らし）」の割合が高く、30歳代～50歳代は「親と子（2世代世帯）」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「単身世帯（一人暮らし）」が大幅に増加しています。

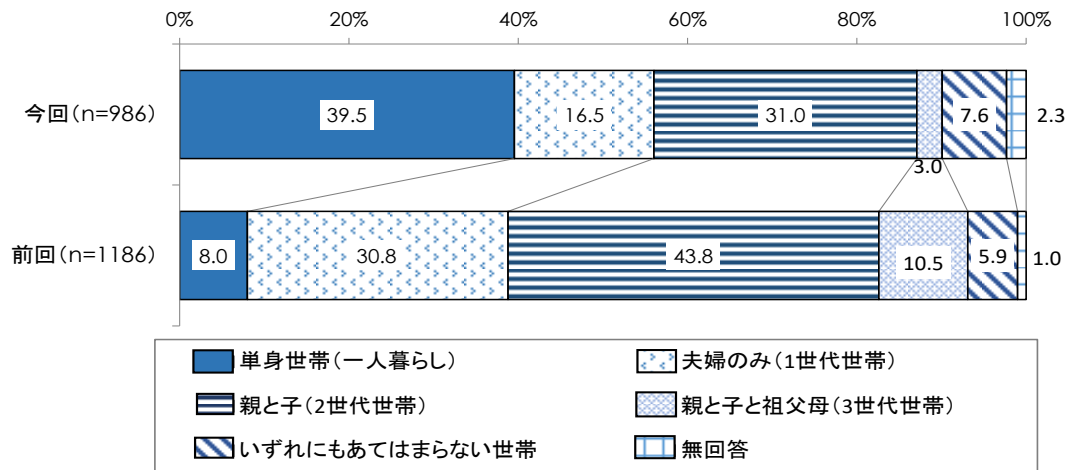
【性別にみた同居している家族の構成について】



【年代別にみた同居している家族の構成について】



【 前回調査と比較した同居している家族の構成について 】



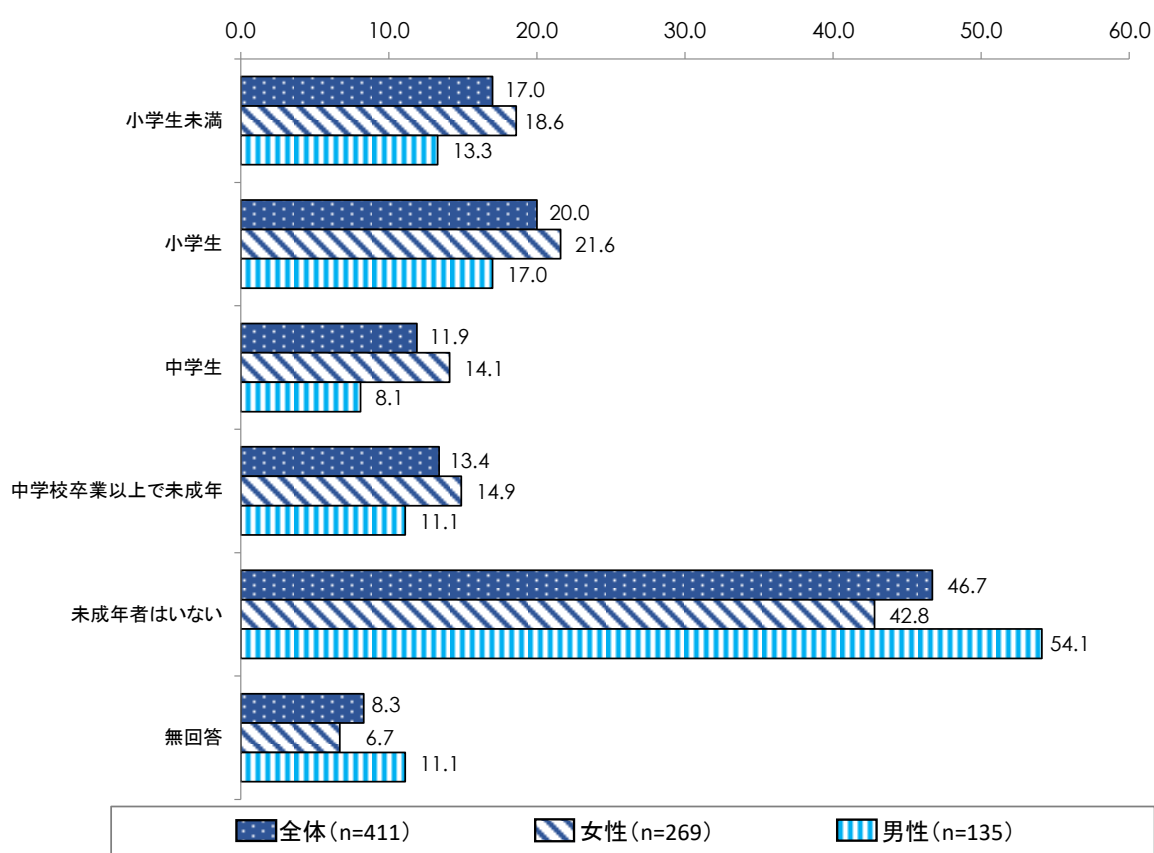
F6. 現在、あなたが同居しているご家族に、次にあてはまる方はいますか。(〇はあてはまるものすべて)

現在、同居している未成年の家族についてみると、「未成年者はいない」46.7%の割合が最も高く、次いで「小学生」20.0%、「小学生未満」17.0%の順となっています。

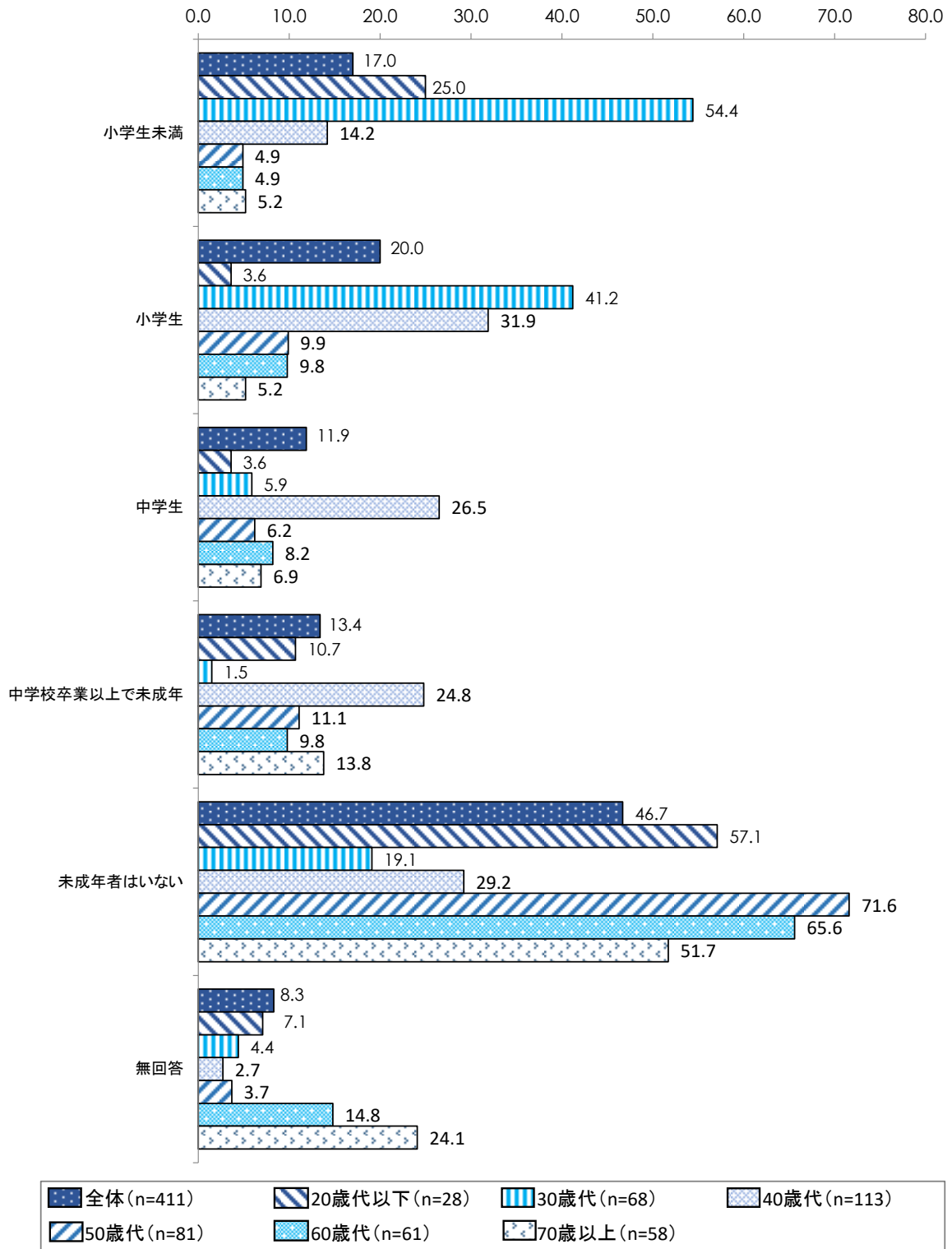
性別にみても、男性・女性ともに「未成年者はいない」の割合が最も高く、次いで「小学生」、「小学生未満」の順となっています。

年代別にみると、20歳代以下、50歳代～60歳代、70歳以上では「未成年者はいない」、30歳代では「小学生未満」、40歳代では「小学生」の割合が最も高くなっています。

【性別にみた同居している家族の未成年者について】



【年代別にみた同居している家族の未成年者について】



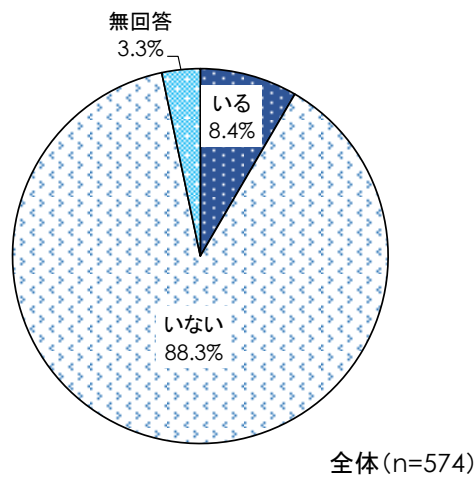
F7. 現在、あなたが同居しているご家族に、日常的に介護を必要とする方はいますか。(〇は1つ)

現在、同居している家族に、日常的に介護を必要とする方の有無についてみると、「いない」88.3%、「いる」8.4%となっています。

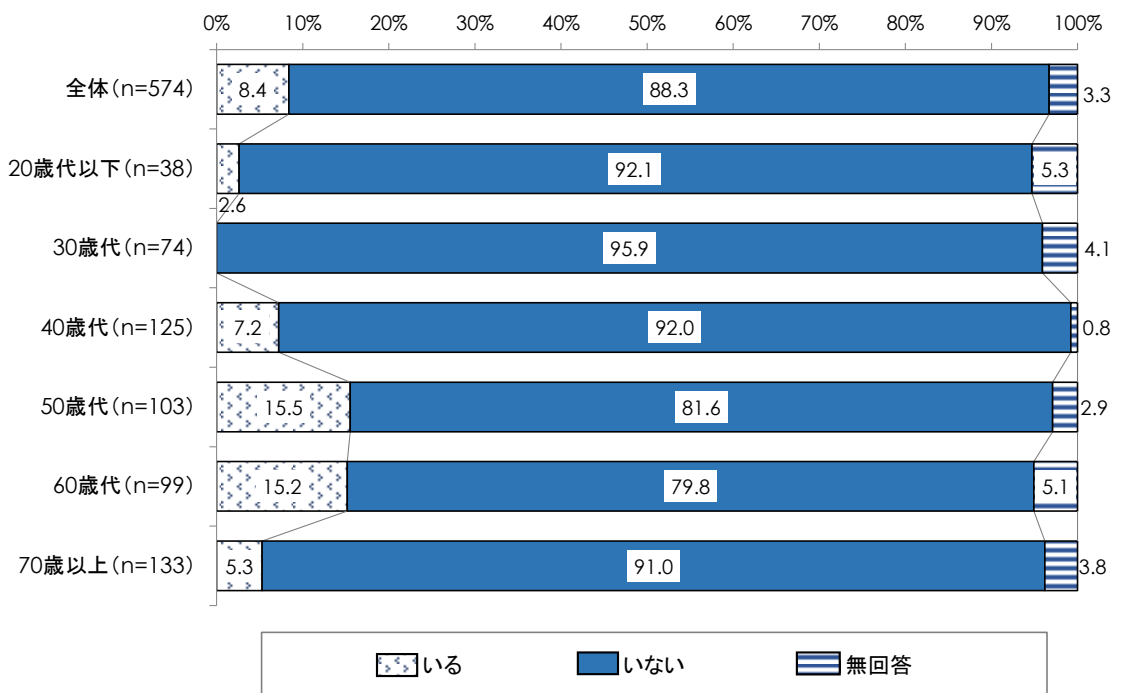
年代別にみると、50歳代・60歳代は他の年代より「いる」の割合が高くなっています。

家族構成別にみると、「親と子と祖父母(3世代世帯)」は他の世帯より「いる」の割合が高くなっています。

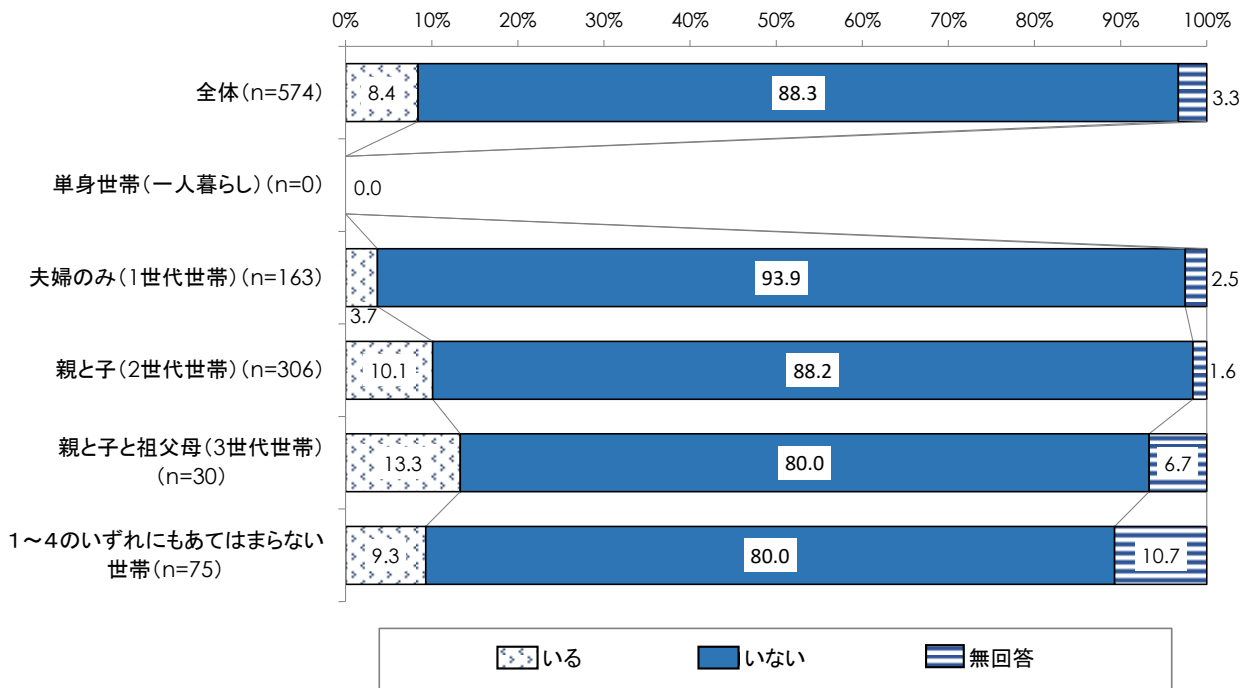
【性別にみた同居している家族の介護者について】



【年代別にみた同居している家族の介護者について】



【 家族構成別にみた同居している家族の介護者について 】



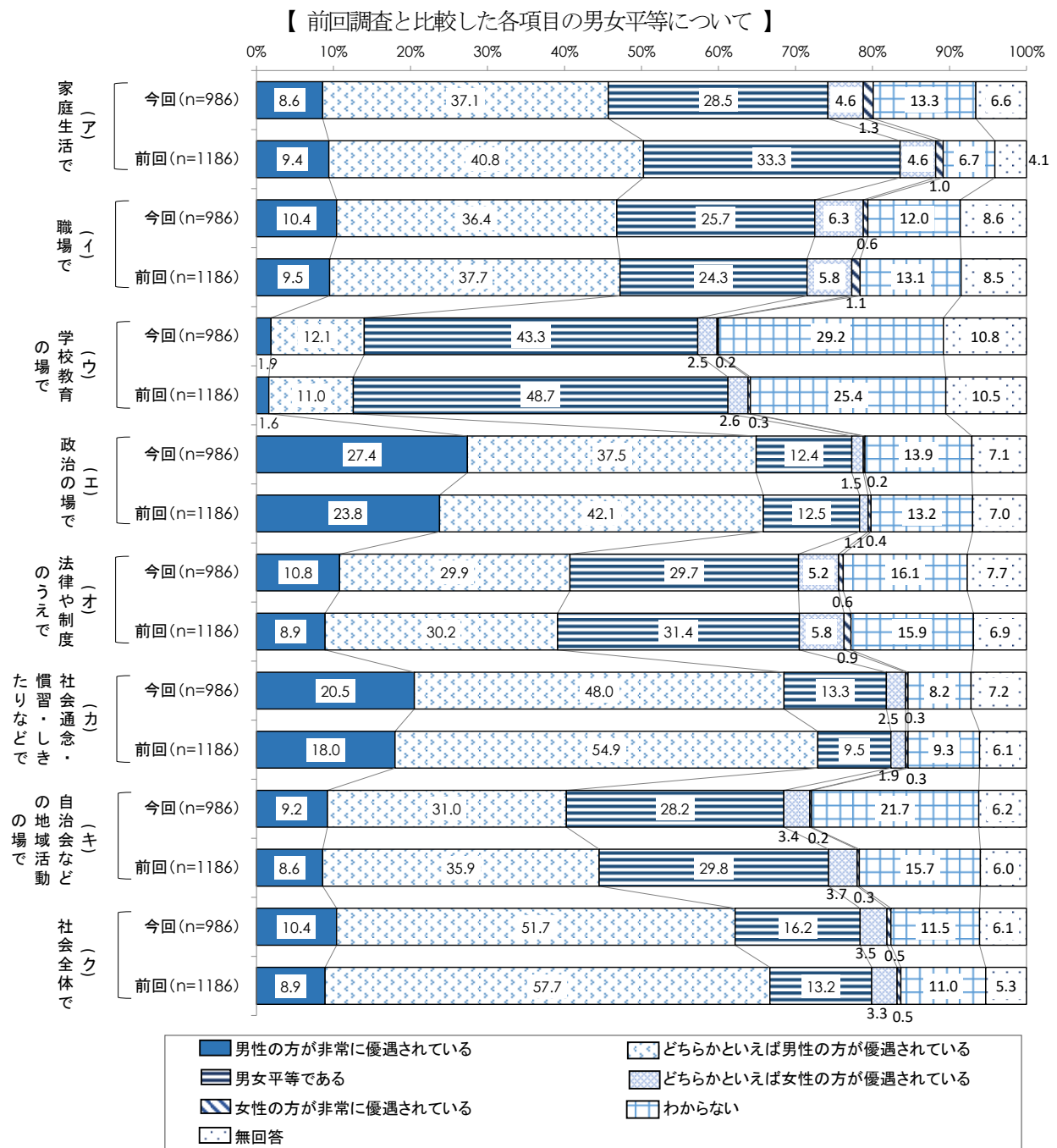
2 男女平等について

問 1. あなたは、次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。(ア)から(ク)までの項目についてお答えください。(〇は各項目1つずつ)

【全体】

男女平等についてみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は「(カ) 社会通念・慣習・しきたりなどで」、「(エ) 政治の場で」、「(ク) 社会全体で」の順で割合が高くなっています。

「男女平等である」をみると、「(ウ) 学校教育の場で」の割合が高くなっています。
前回調査と比較すると、概ね同様の割合となっています。



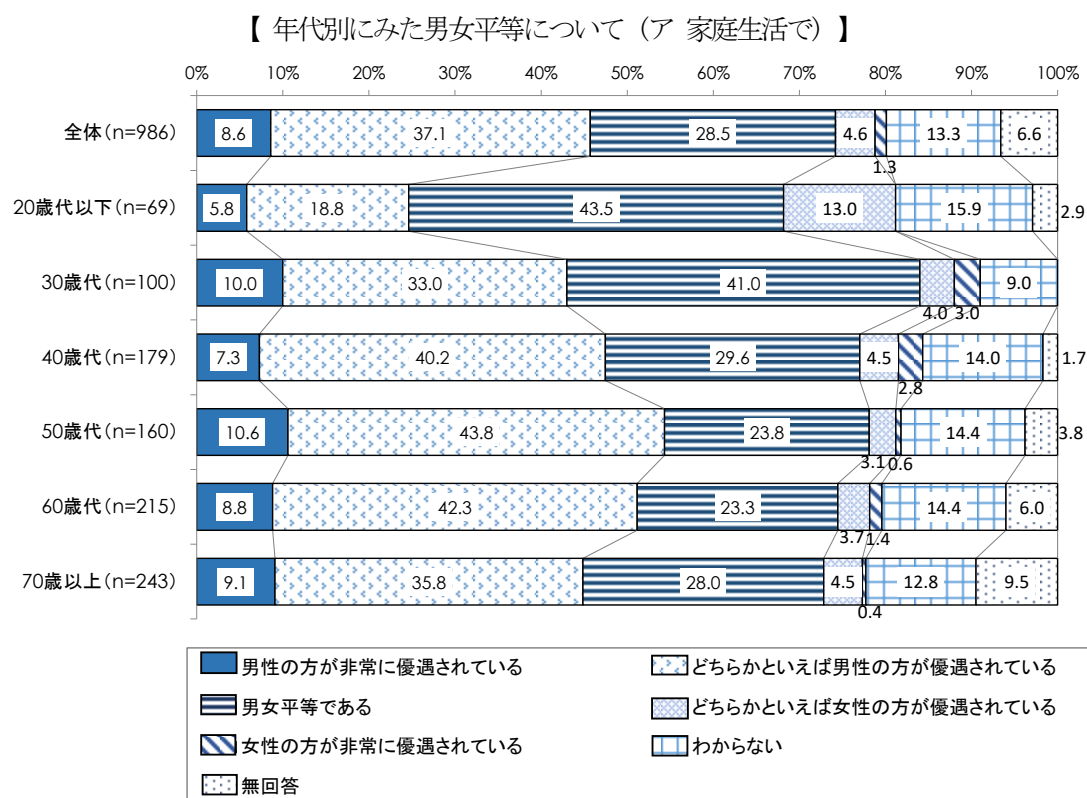
ア 家庭生活で

家庭生活での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」37.1%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」28.5%、「わからない」13.3%の順となっています。

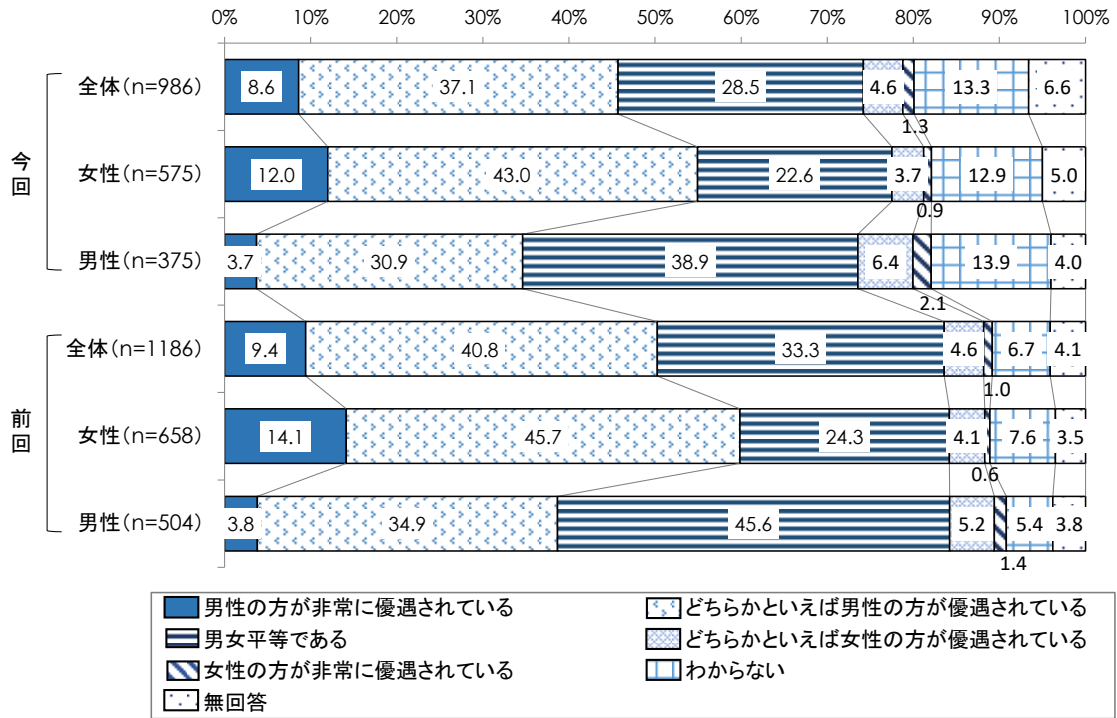
年代別にみると、『男性優遇』は50歳代、60歳代、40歳代の順で割合が高く、「男女平等である」の割合は、70歳以上を除くと年代が上がるにつれて低下しています。

前回調査を性別に比較すると、概ね同様の割合となっています。

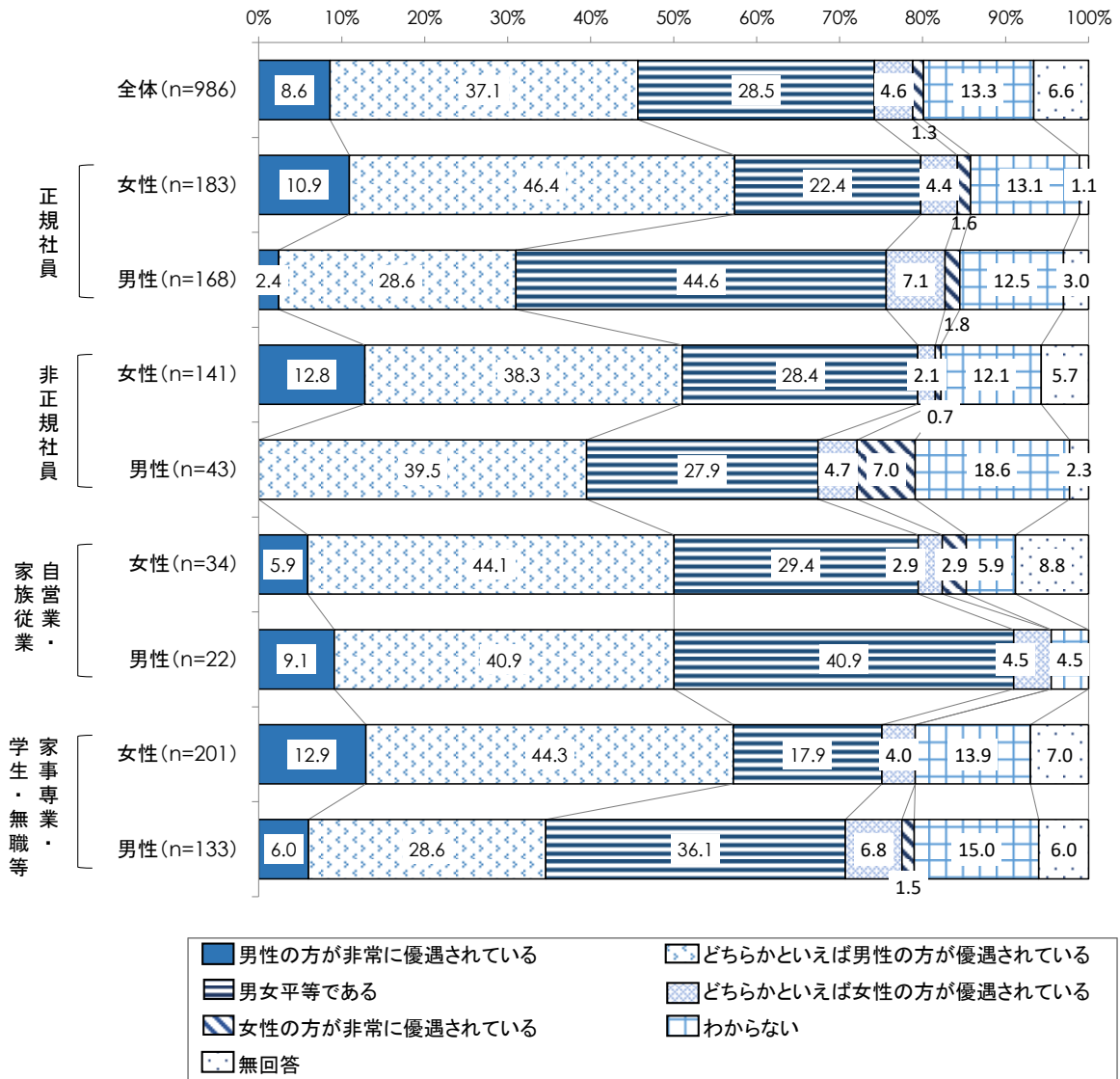
雇用形態別・性別でみると、正規社員、家事専業・学生・無職等の男性はその他の男性と比べて「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。



【 前回比較・性別にみた男女平等について（ア 家庭生活で） 】

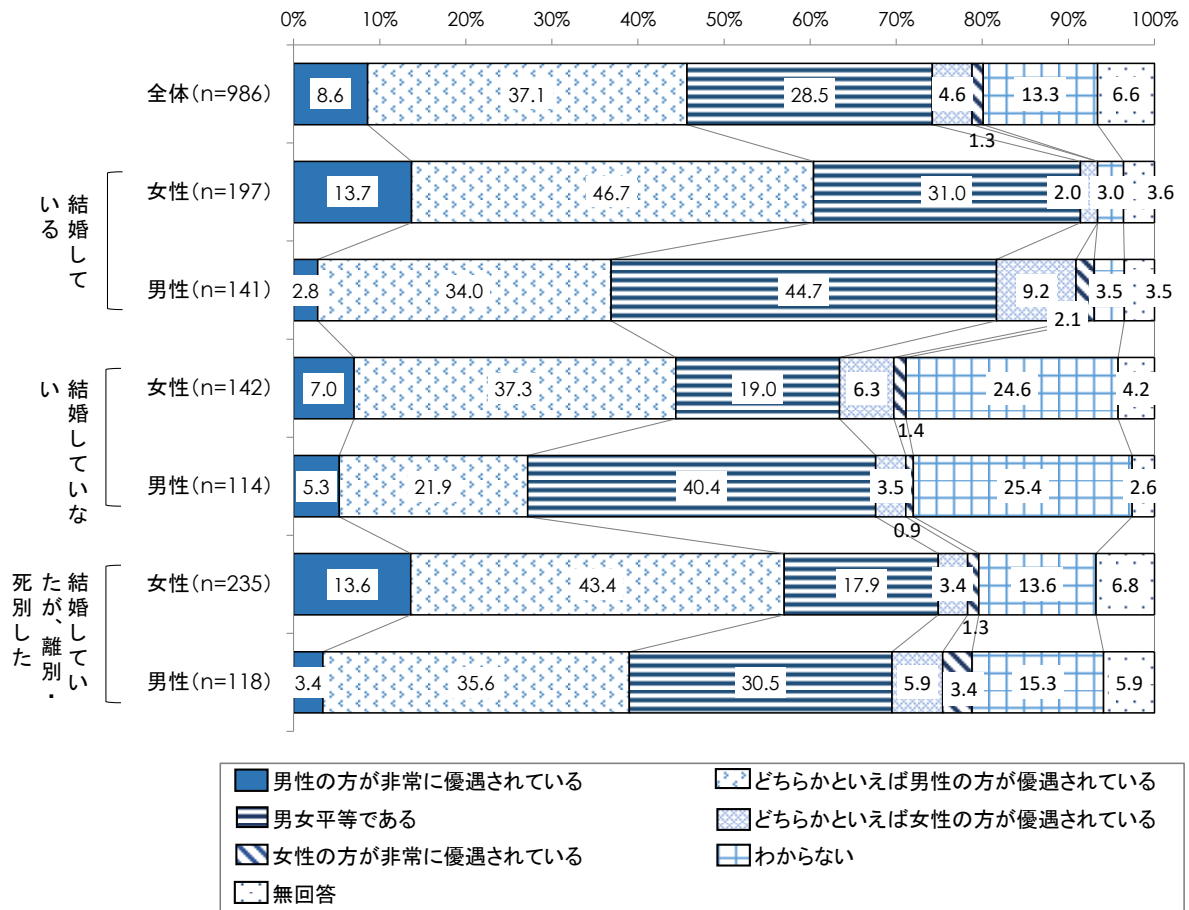


【 雇用形態別・性別にみた男女平等について（ア 家庭生活で） 】



婚姻状況別・性別にみると、結婚していない男性はその他の男性と比べて『男性優遇』の割合が、結婚していない女性はその他の女性と比べて「男女平等である」の割合が低くなっています。

【 婚姻状況別・性別にみた男女平等について (ア 家庭生活で) 】



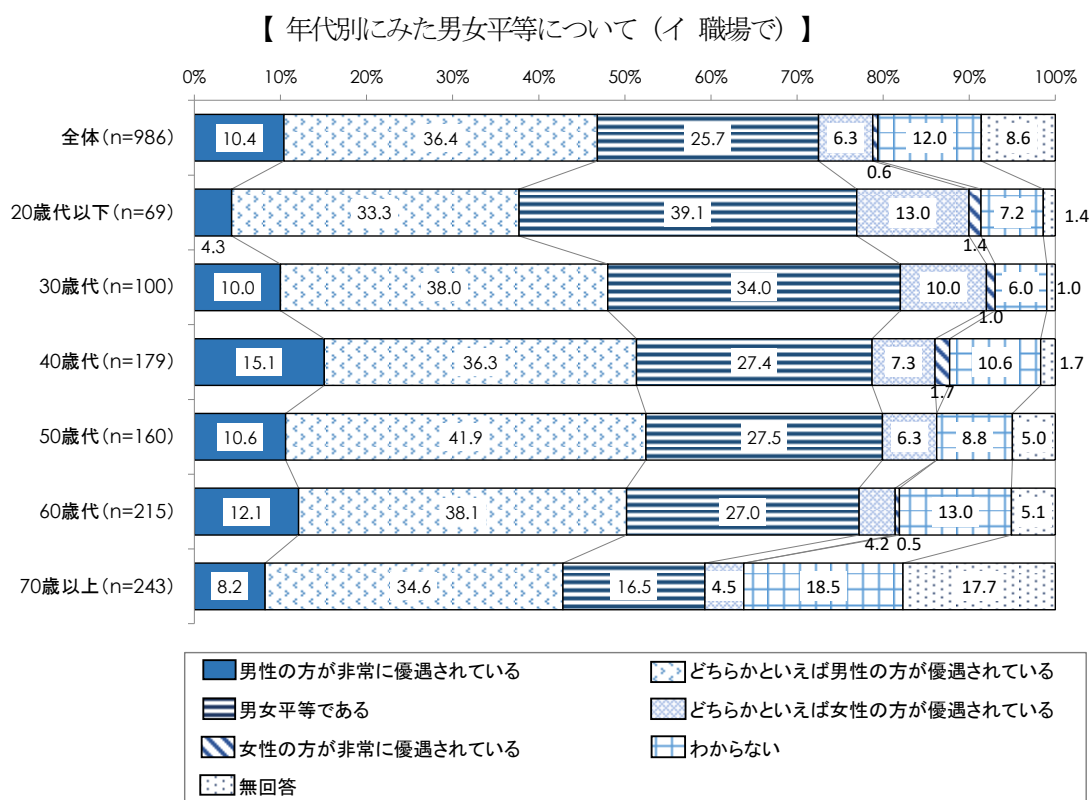
イ 職場で

職場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」36.4%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」25.7%、「わからない」12.0%の順となっています。

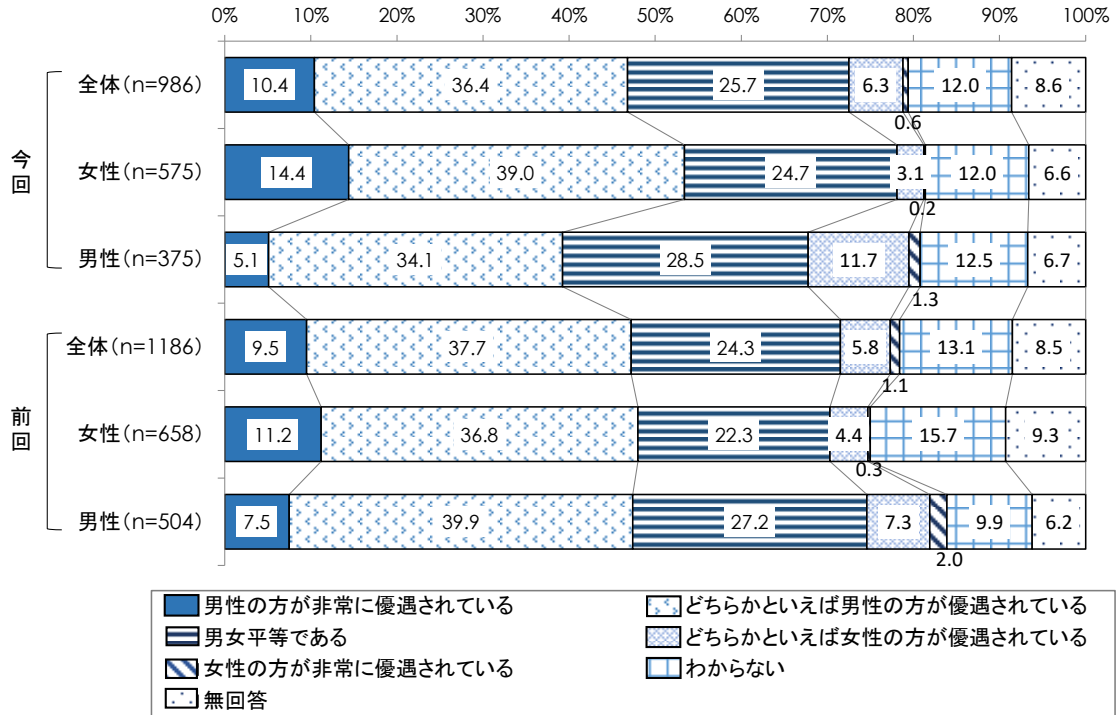
年代別にみると、20歳代以下は「男女平等である」、30歳代以降は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

前回調査を性別で比較すると、男性は『男性優遇』の割合が低く、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。

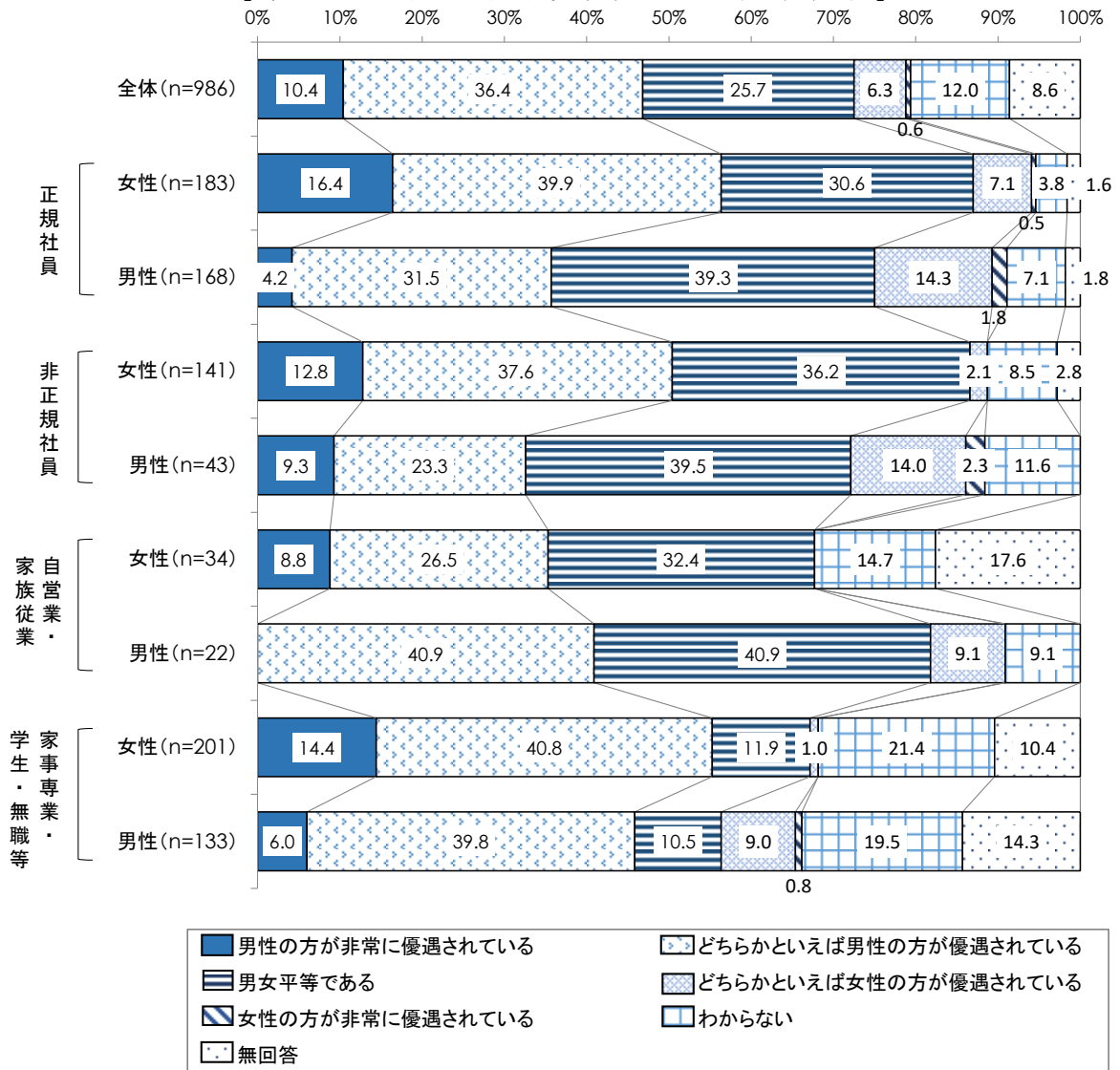
雇用形態別・性別にみると、非正規社員の男性、自営業・家族従業の女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。



【 前回比較・性別にみた男女平等について (イ 職場で) 】

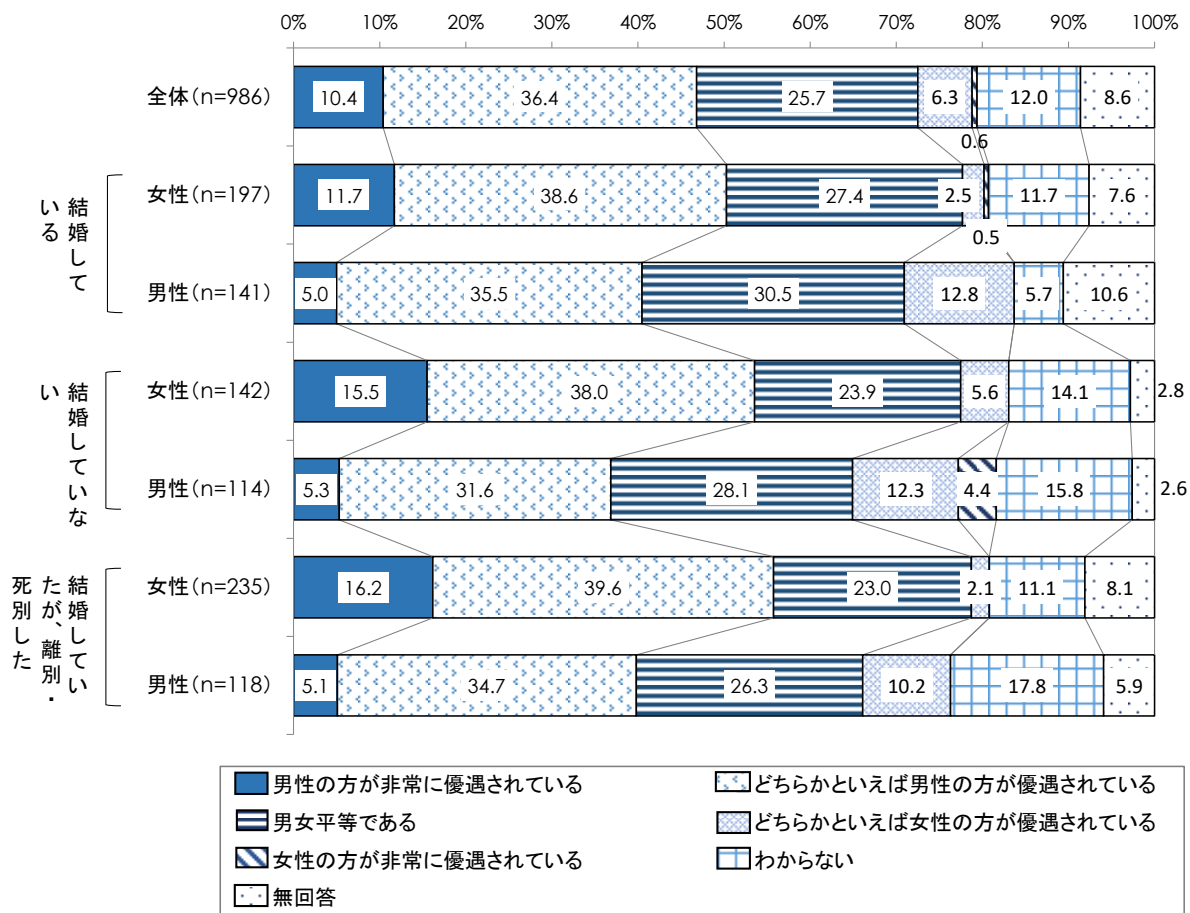


【 雇用形態別・性別にみた男女平等について (イ 職場で) 】



婚姻状況別・性別にみると、すべての婚姻状況別・性別で『男性優遇』の割合が『女性優遇』の割合に比べて高くなっています。

【婚姻状況別・性別にみた男女平等について（イ 職場で）】



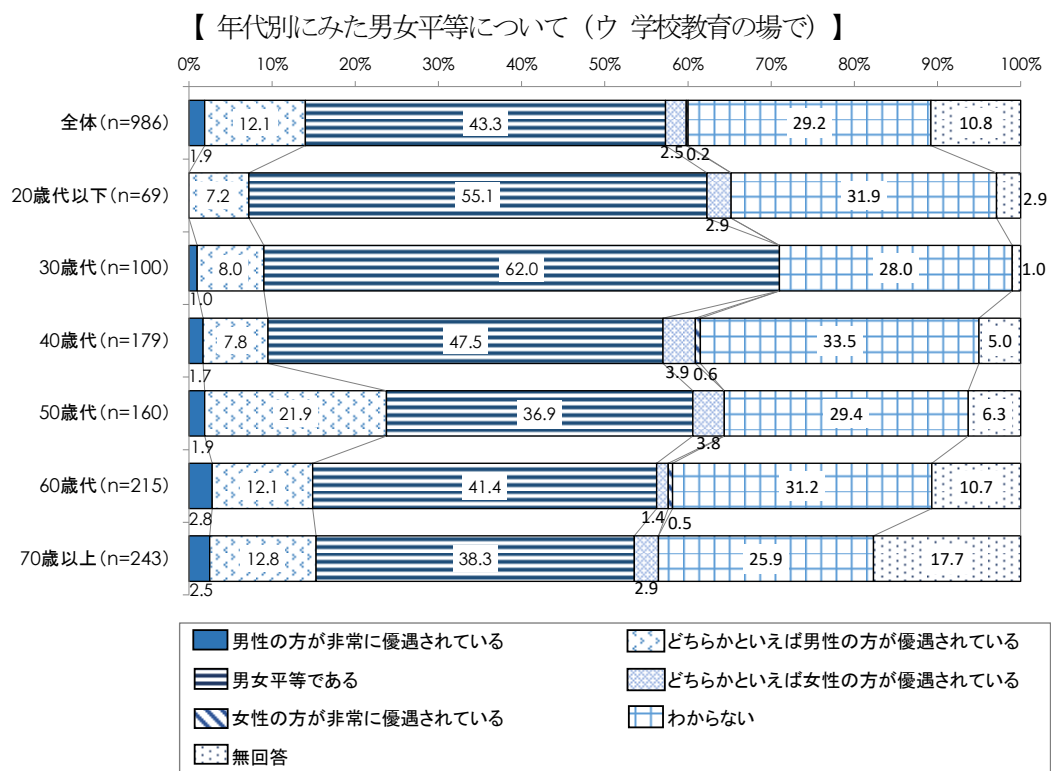
ウ 学校教育の場で

学校教育の場での男女平等についてみると、「男女平等である」43.3%の割合が最も高く、次いで「わからない」29.2%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」12.1%の順となっています。

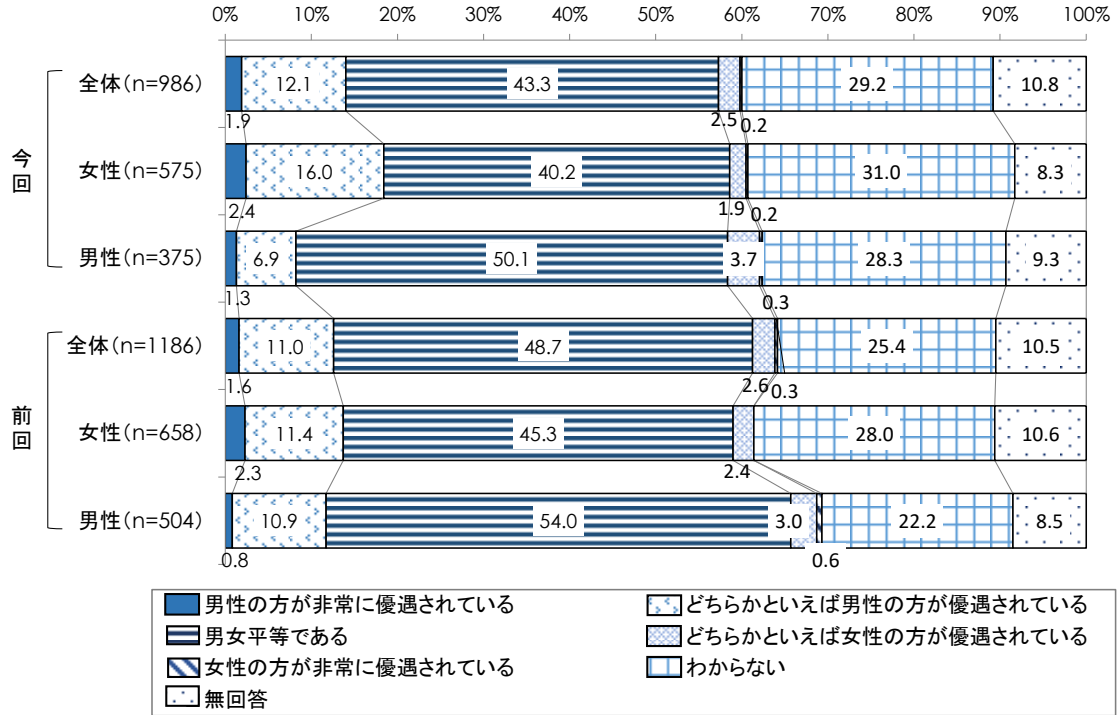
年代別にみると、他の年代と比べて50歳代は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高く、30歳代は「男女平等である」の割合が高くなっています。その他の年代は、年代が上がるにつれて『男女平等』の割合が低下しています。

前回調査を性別に比較すると、概ね同様の割合となっています。

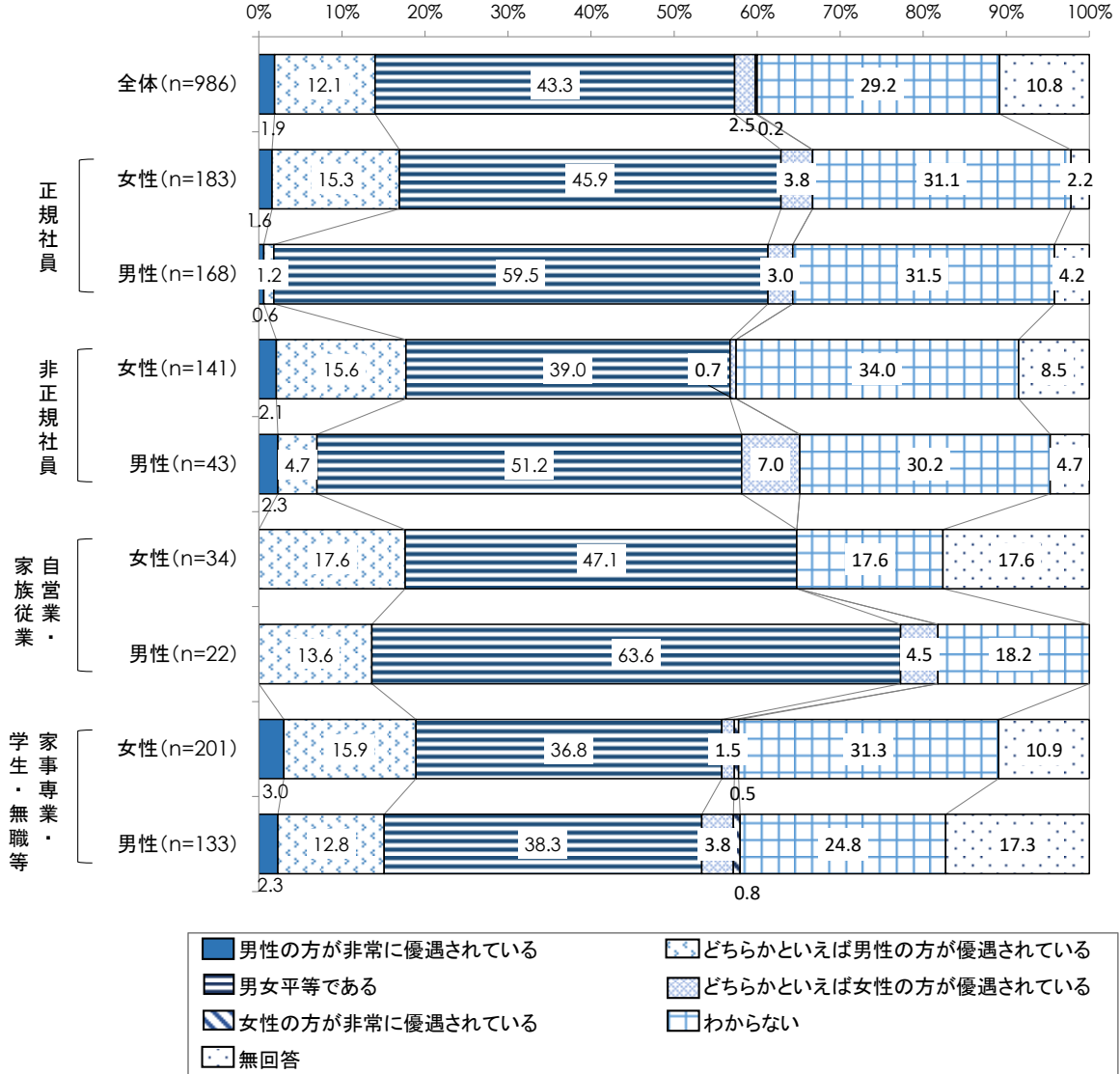
雇用形態別・性別にみると、自営業・家族従業の男性はその他の男性と比べて「男女平等である」の割合が若干高くなっています。



【 前回比較・性別にみた男女平等について (ウ 学校教育の場で) 】

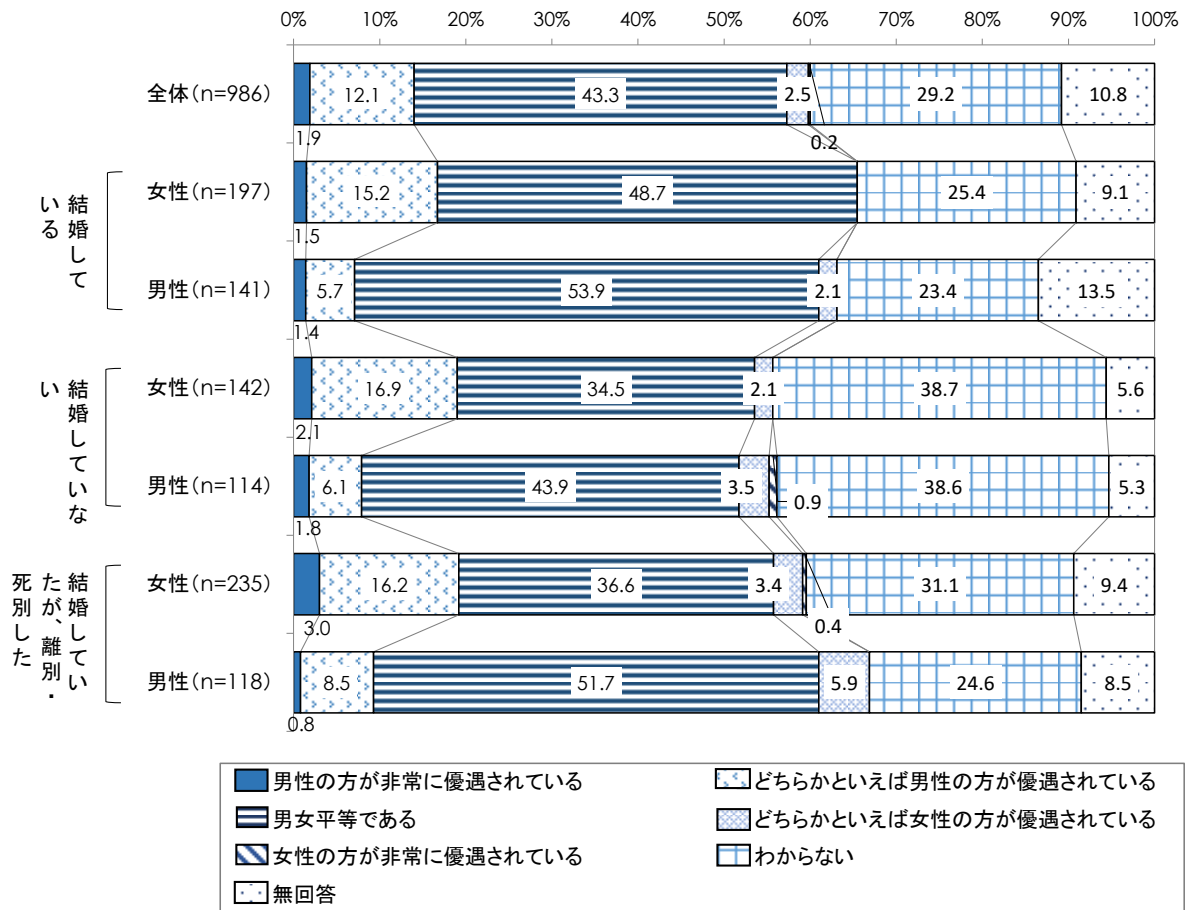


【 雇用形態別・性別にみた男女平等について (ウ 学校教育の場で) 】



婚姻状況別・性別にみると、すべての婚姻状況別・性別で「男女平等である」の割合が最も高くなっています。

【婚姻状況別・性別にみた男女平等について（ウ 学校教育の場で）】



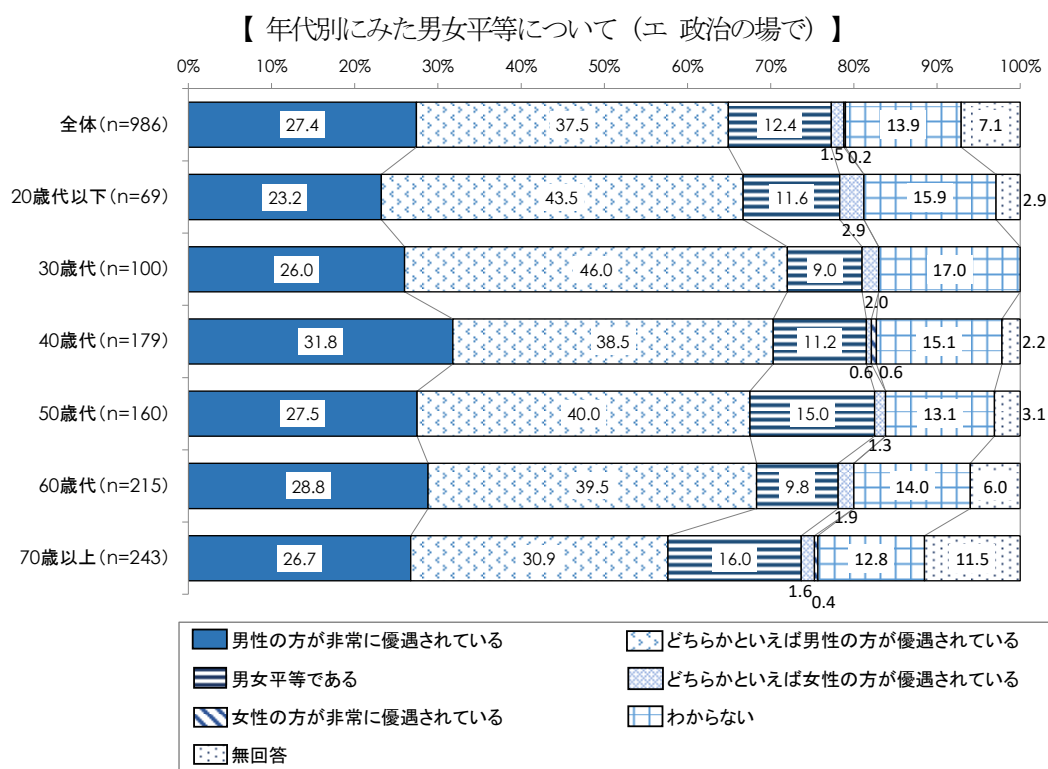
エ 政治の場で

政治の場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」37.5%の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」27.4%、「わからない」13.9%の順となっています。

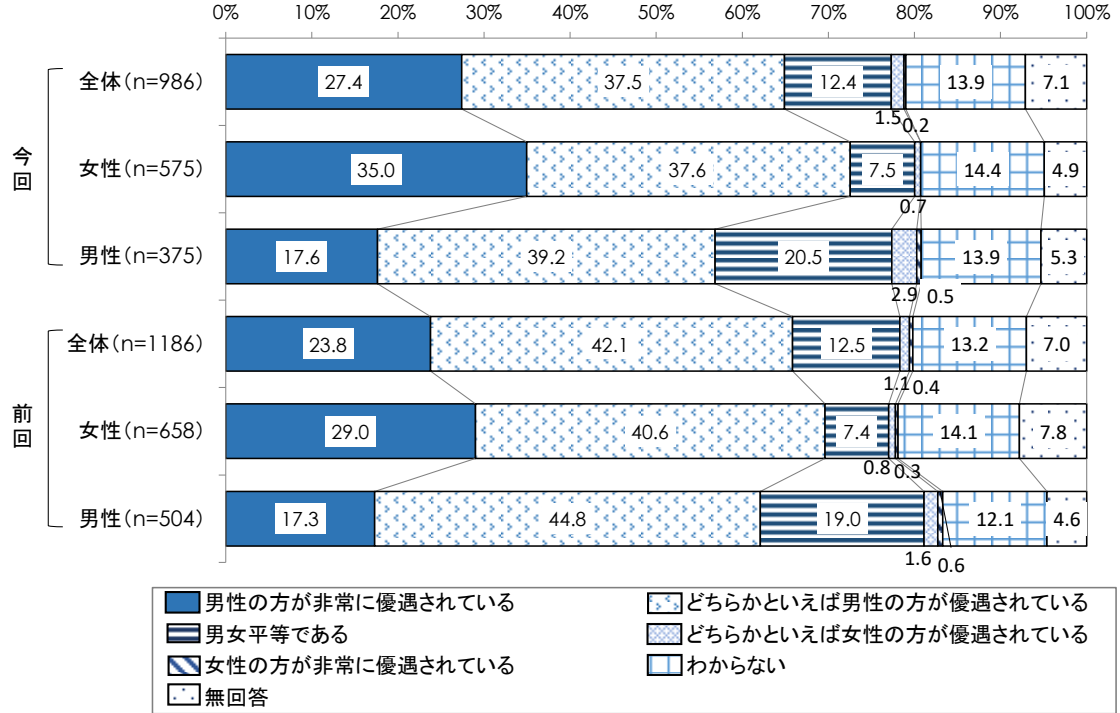
年代別にみると、どの年代においても『男性優遇』の割合が高くなっており、年代による差はあまりみられませんでした。

前回調査を性別に比較すると、概ね同様の割合となっています。

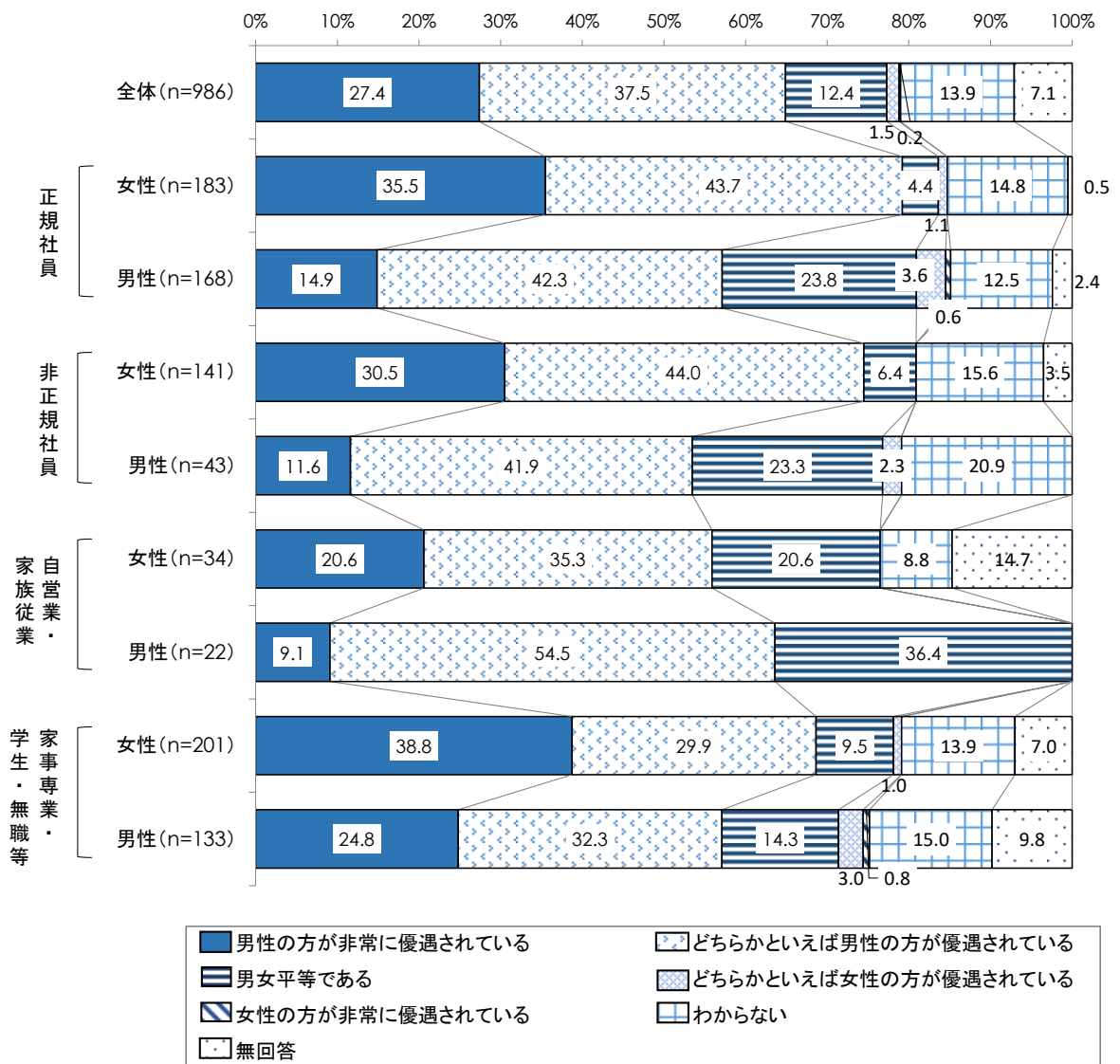
雇用形態別・性別にみると、家事専業・学生・無職等の男性はその他の男性と比べて「男性の方が非常に優遇されている」の割合が若干高くなっています。



【 前回比較・性別にみた男女平等について (エ 政治の場で) 】

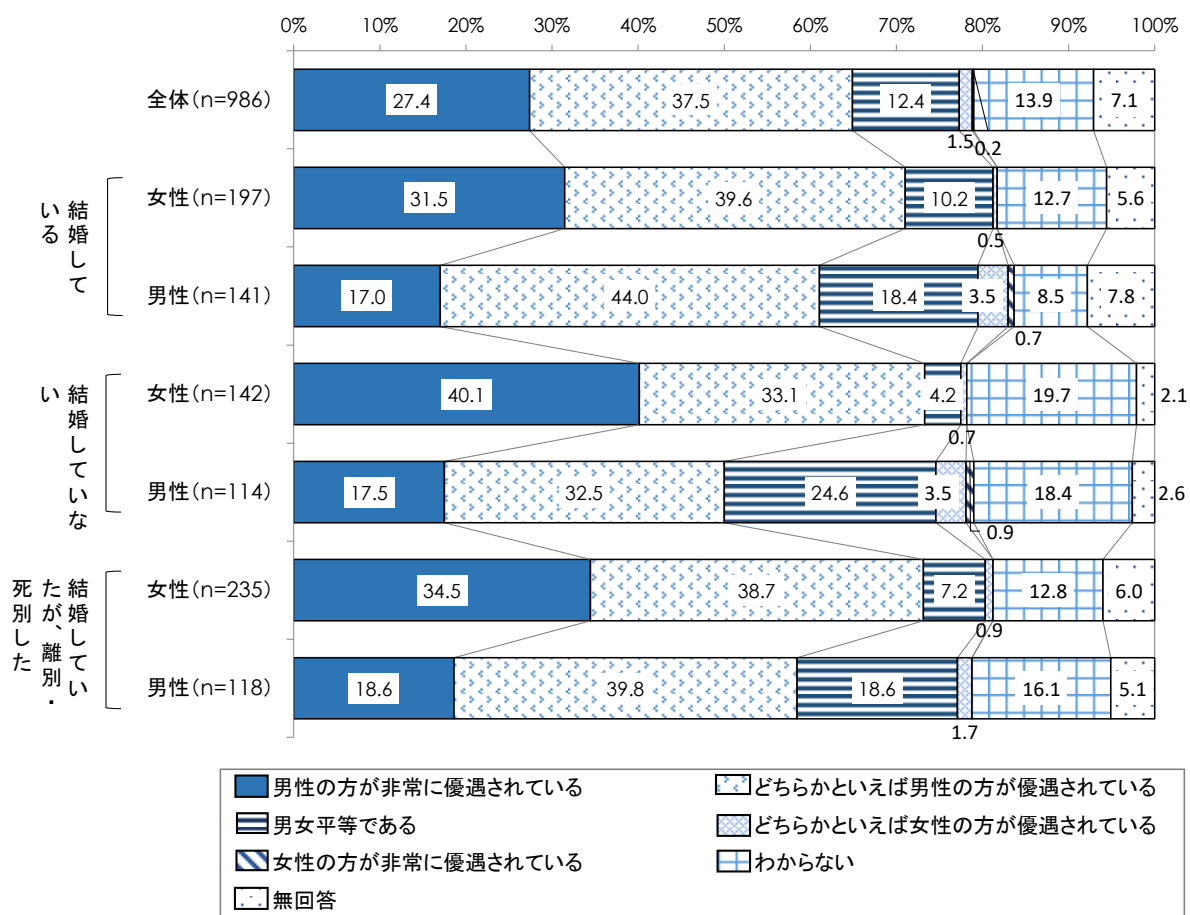


【 雇用形態別・性別にみた男女平等について (エ 政治の場で) 】



婚姻状況別・性別にみると、すべての婚姻状況別・性別で『男性優遇』の割合が半数を占めています。

【 婚姻状況別・性別にみた男女平等について (エ 政治の場で) 】



オ 法律や制度のうえで

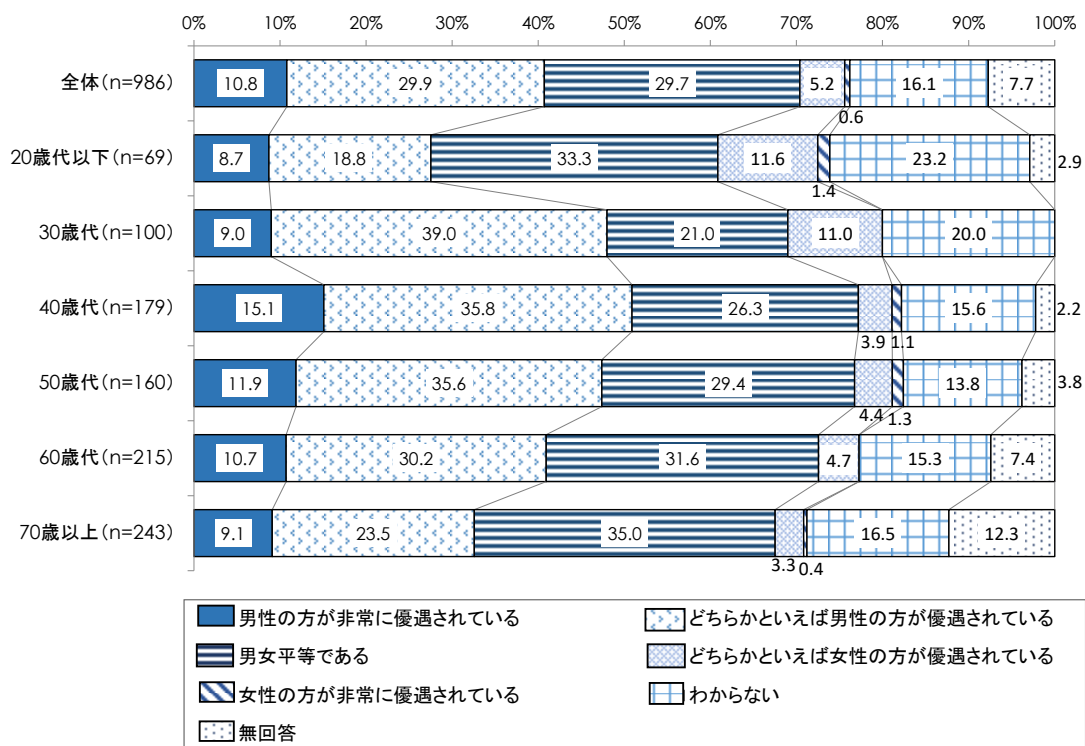
法律や制度のうえでの男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」29.9%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」29.7%、「わからない」16.1%の順となっています。

年代別にみると、『男性優遇』は40歳代、30歳代、50歳代の順で割合が高く、「男女平等である」は70歳以上、20歳代以下、60歳代の順で高くなっています。

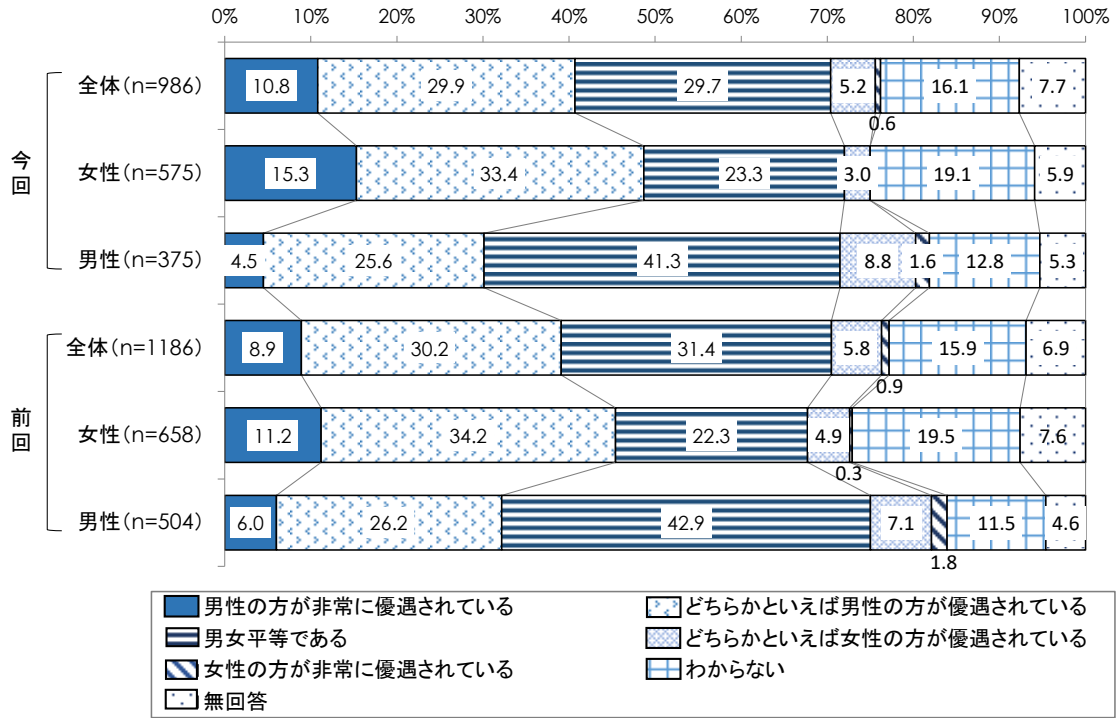
前回調査を性別に比較すると、概ね同様の割合となっています。

雇用形態別・性別にみると、家事専業・学生・無職等の男性はその他の男性と比べ「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

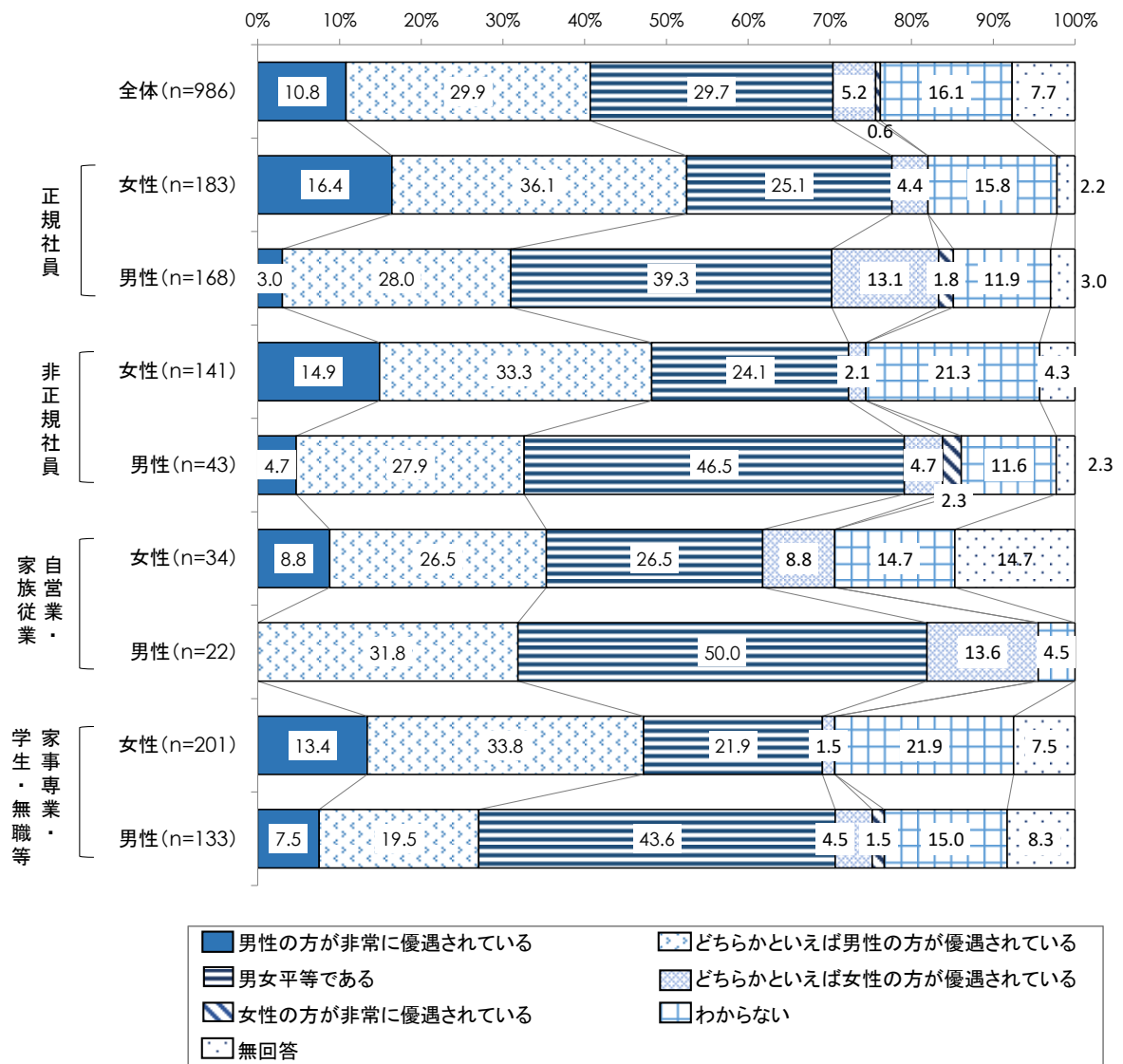
【年代別にみた男女平等について（オ 法律や制度のうえで）】



【 前回比較・性別にみた男女平等について（オ 法律や制度のうえで） 】

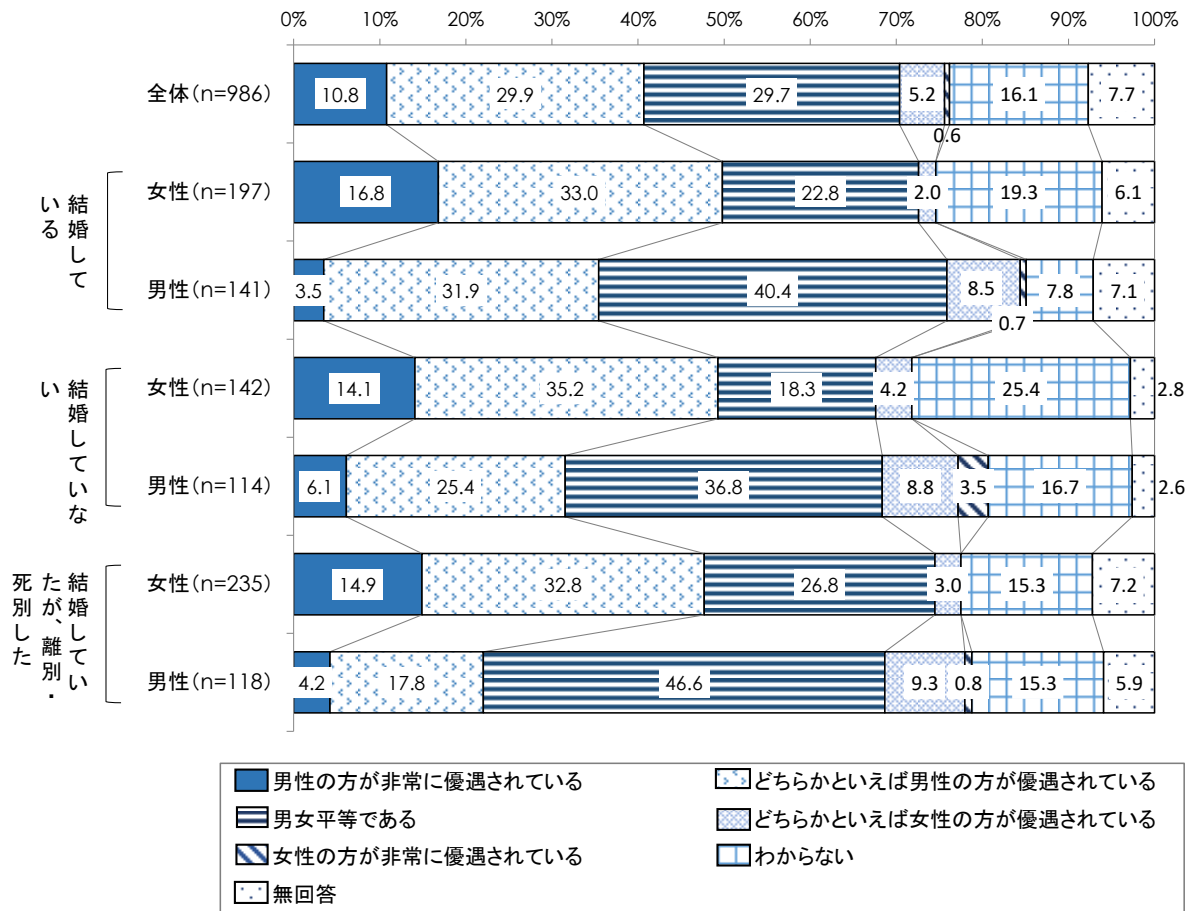


【 雇用形態別・性別にみた男女平等について（オ 法律や制度のうえで） 】



婚姻状況別・性別にみると、結婚していたが、離別・死別した男性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低く、「男女平等である」の割合が高くなっています。

【 婚姻状況別・性別にみた男女平等について（オ 法律や制度のうえで） 】



カ 社会通念・慣習・しきたりなどで

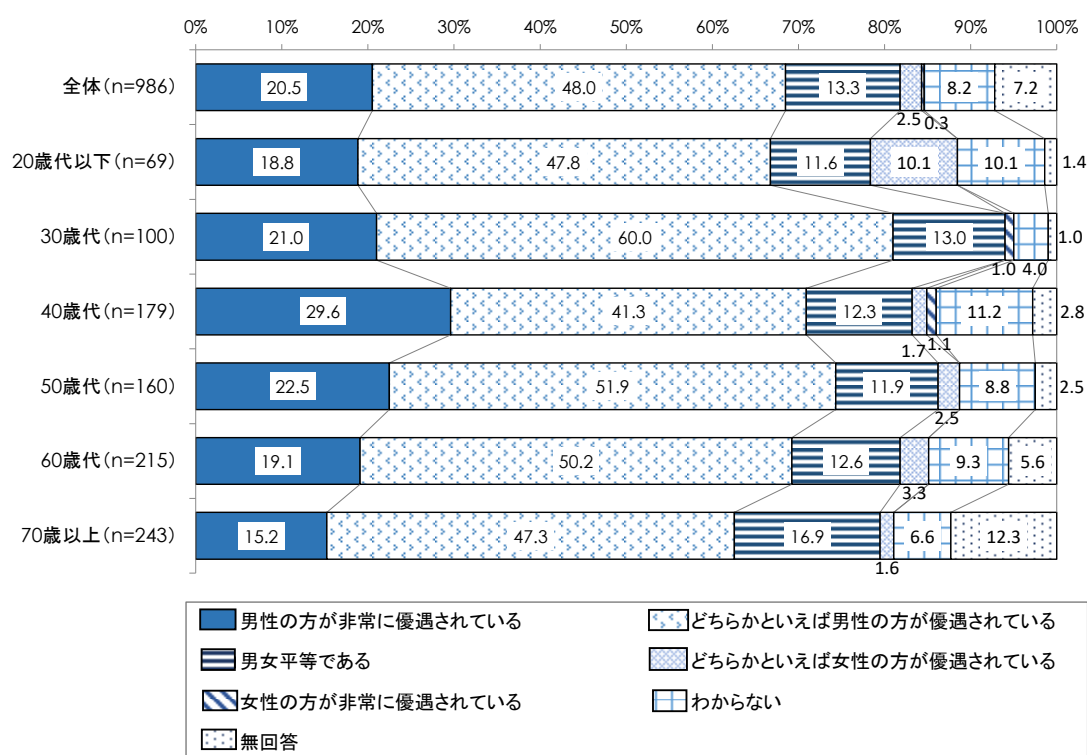
社会通念・慣習・しきたりなどでの男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」48.0%の割合が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」20.5%、「男女平等である」13.3%の順となっています。

年代別にみると、『男性優遇』は30歳代、50歳代、40歳代の順で割合が高くなっており、「男性の方が非常に優遇されている」は40歳代が最も高くなっています。

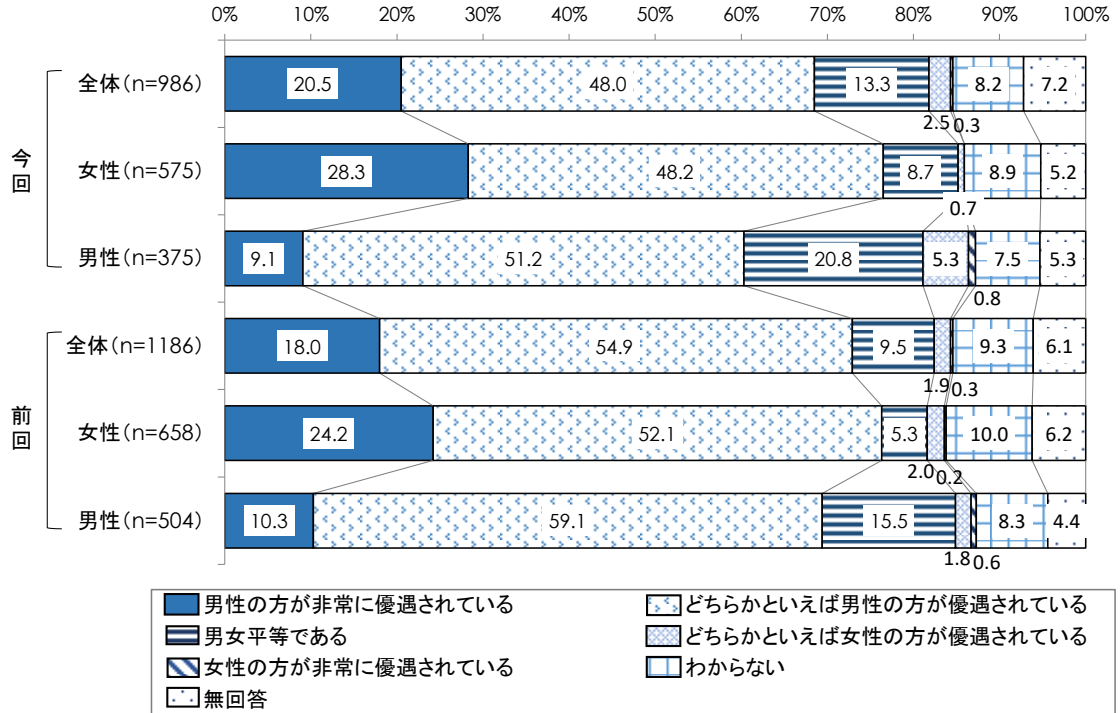
前回調査を性別に比較すると、概ね同様の割合となっています。

雇用形態別・性別にみると、自営業・家族従業の男性は他の男性に比べて「男女平等」の割合が高くなっています。

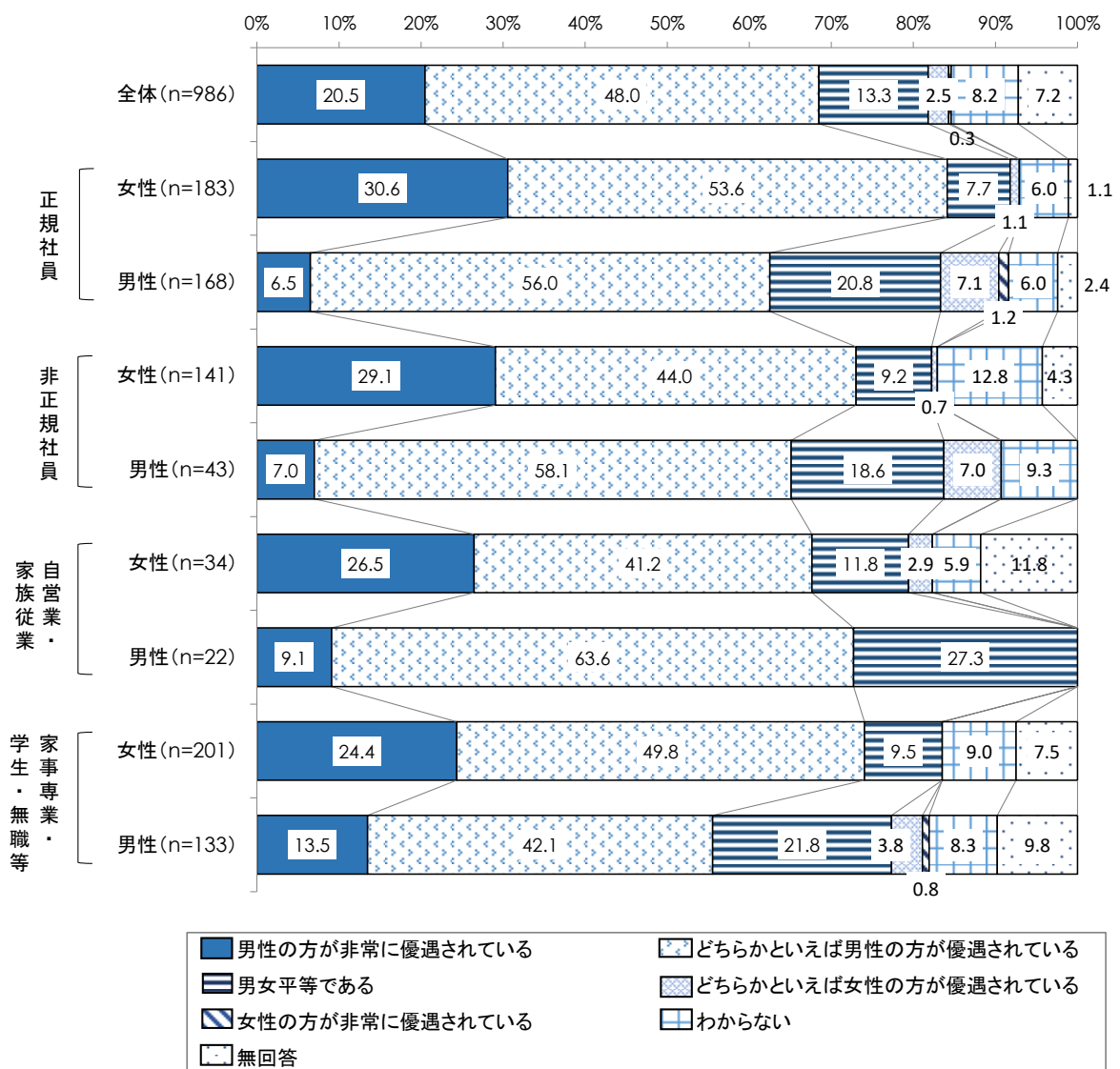
【年代別にみた男女平等について（カ 社会通念・慣習・しきたりなどで）】



【 前回比較・性別にみた男女平等について (カ 社会通念・慣習・しきたりなどで) 】

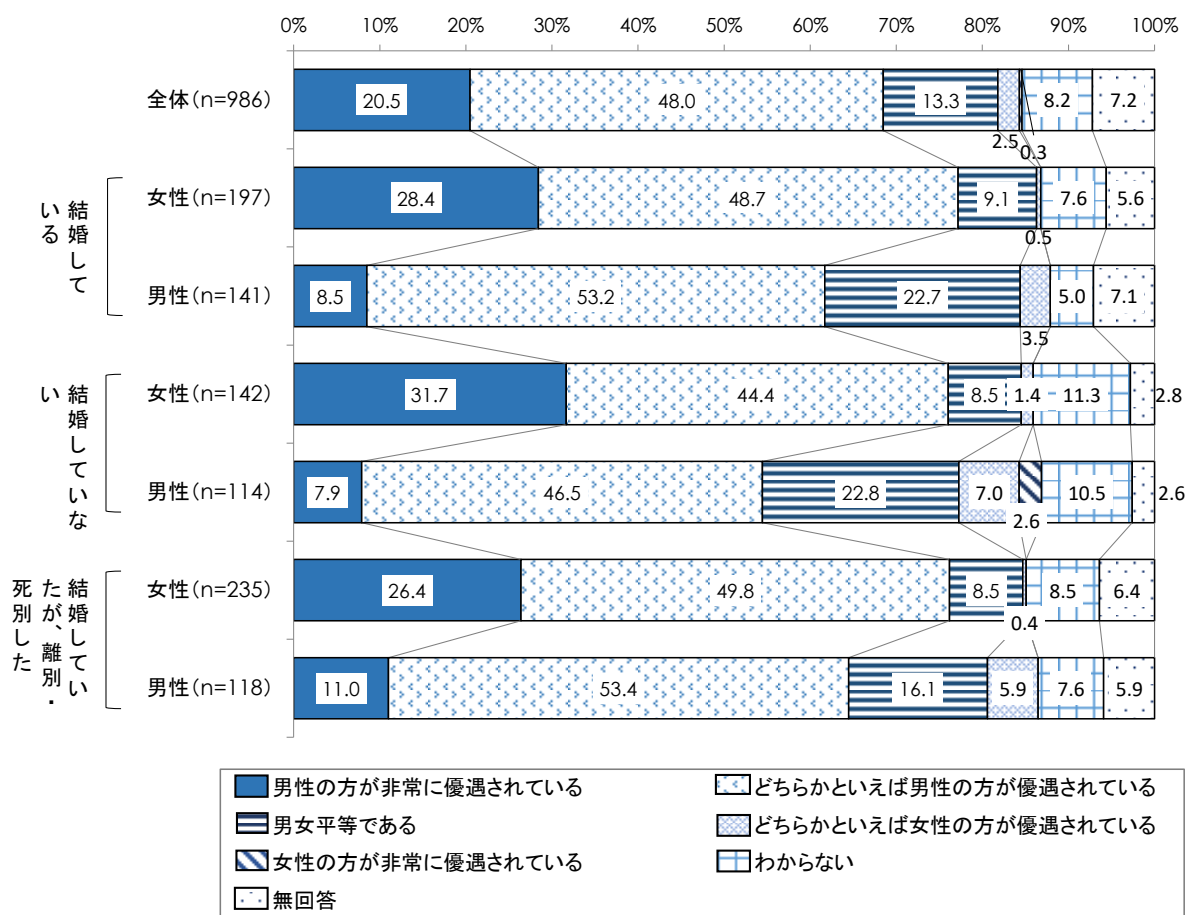


【 雇用形態別・性別にみた男女平等について (カ 社会通念・慣習・しきたりなどで) 】



婚姻状況別・性別にみると、すべての婚姻状況別・性別で『男性優遇』の割合が50%を超えています。

【婚姻状況別・性別にみた男女平等について（カ 社会通念・慣習・しきたりなどで）】



キ 自治会などの地域活動の場で

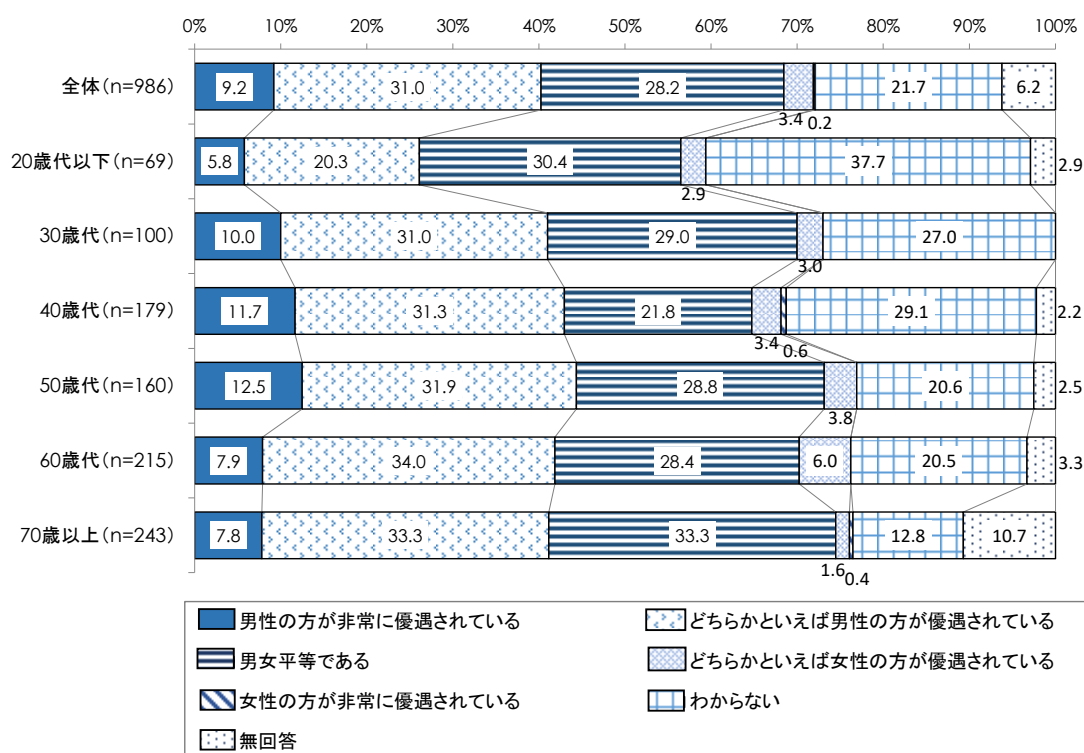
自治会などの地域活動の場での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」31.0%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」28.2%、「わからない」21.7%の順となっています。

年代別にみると、その他の年代と比べて20歳代以下は『男性優遇』の割合が低く、40歳代は「男女平等である」の割合が低くなっています。

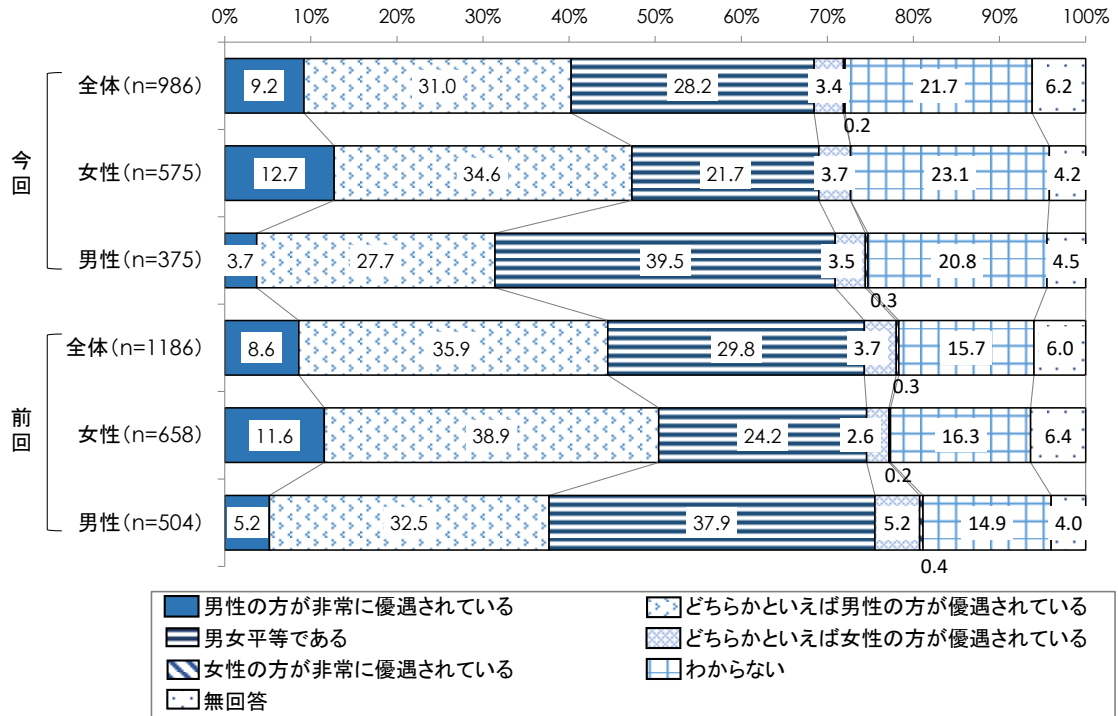
前回調査を性別で比較すると、概ね同様の割合となっています。

雇用形態別・性別にみると、自営業・家族従業の女性は、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が「男女平等である」よりも高くなっています。

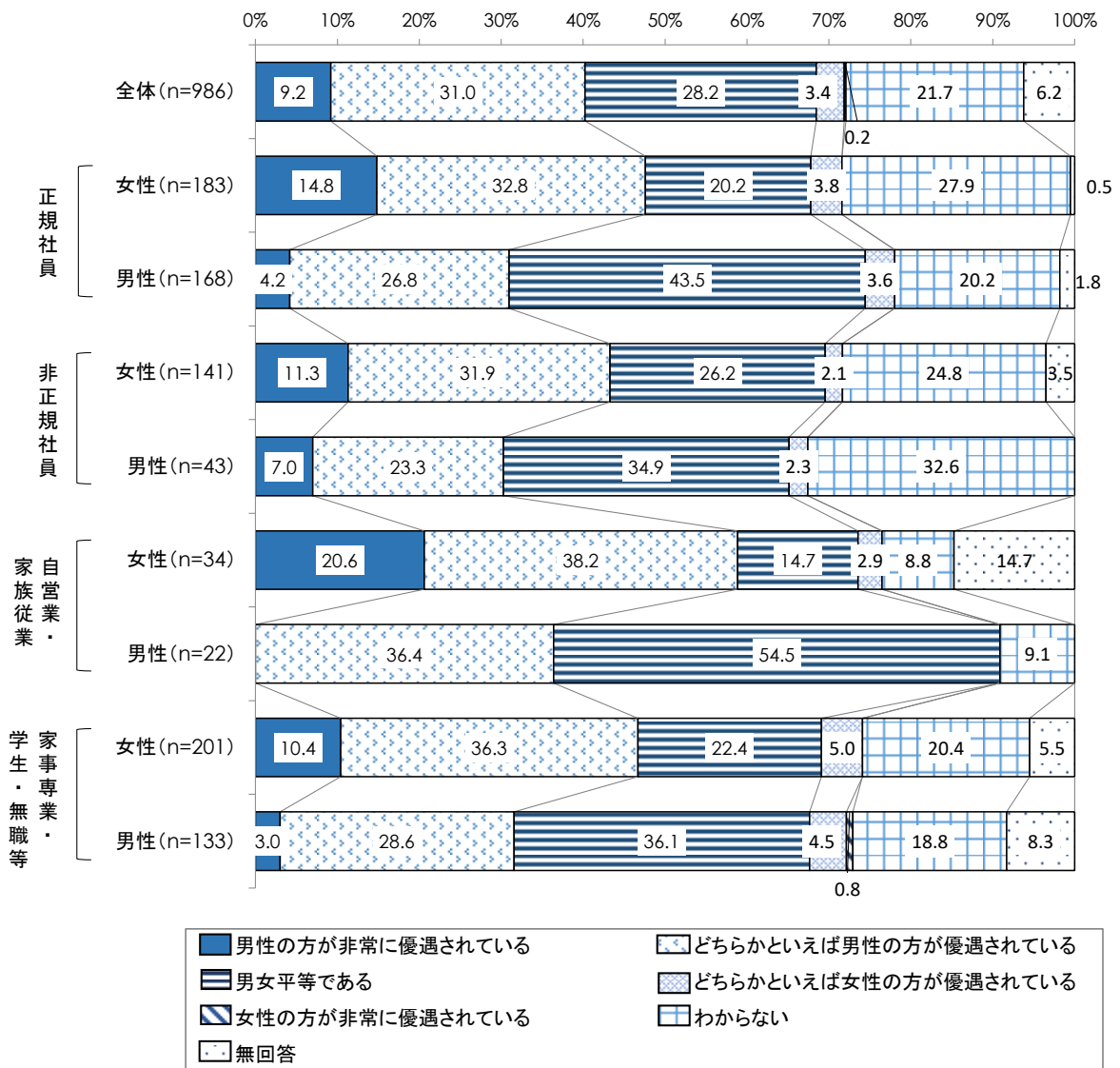
【年代別にみた男女平等について（キ 自治会などの地域活動の場で）】



【 前回比較・性別にみた男女平等について (キ 自治会などの地域活動の場で) 】

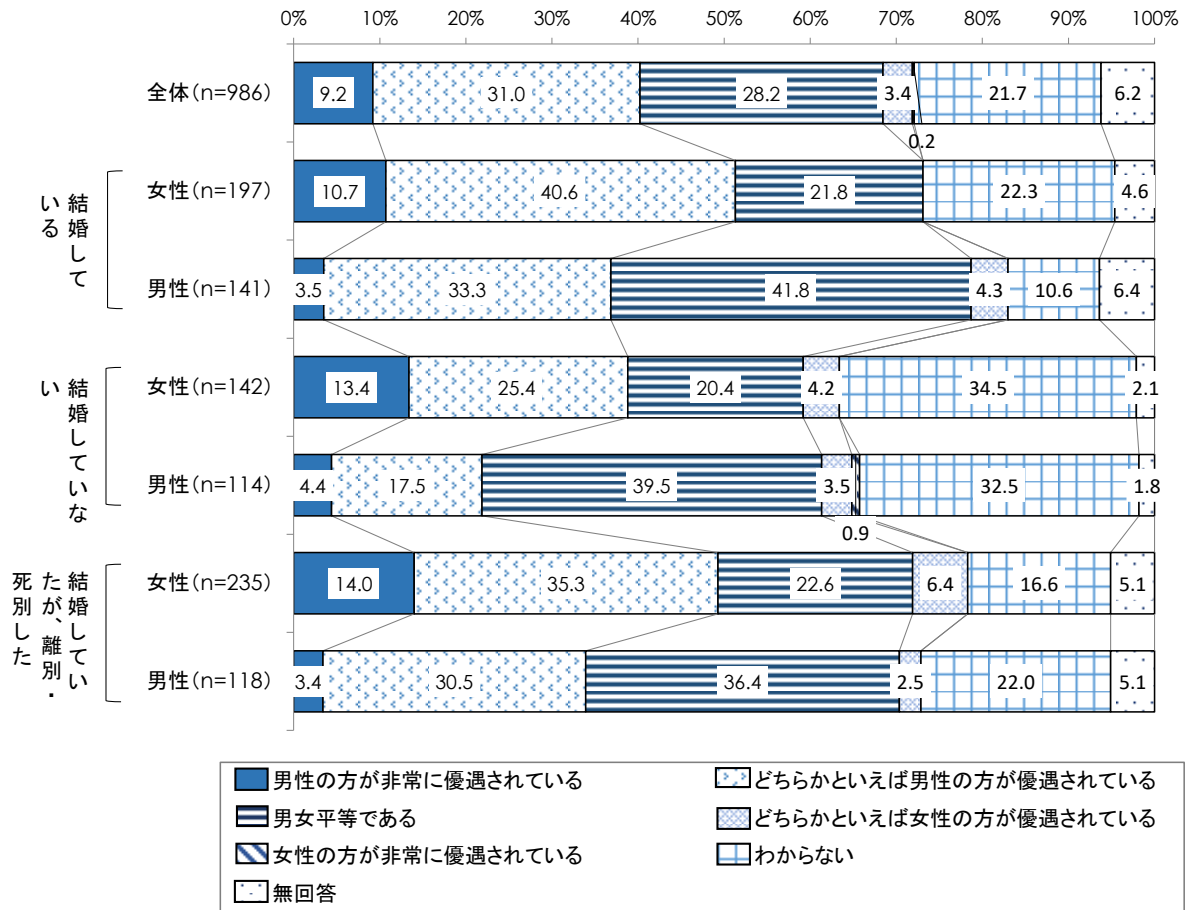


【 雇用形態別・性別にみた男女平等について (キ 自治会などの地域活動の場で) 】



婚姻状況別・性別にみると、結婚していない男性は他の男性と比べて「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

【 婚姻状況別・性別にみた男女平等について（キ 自治会などの地域活動の場で） 】



ク 社会全体で

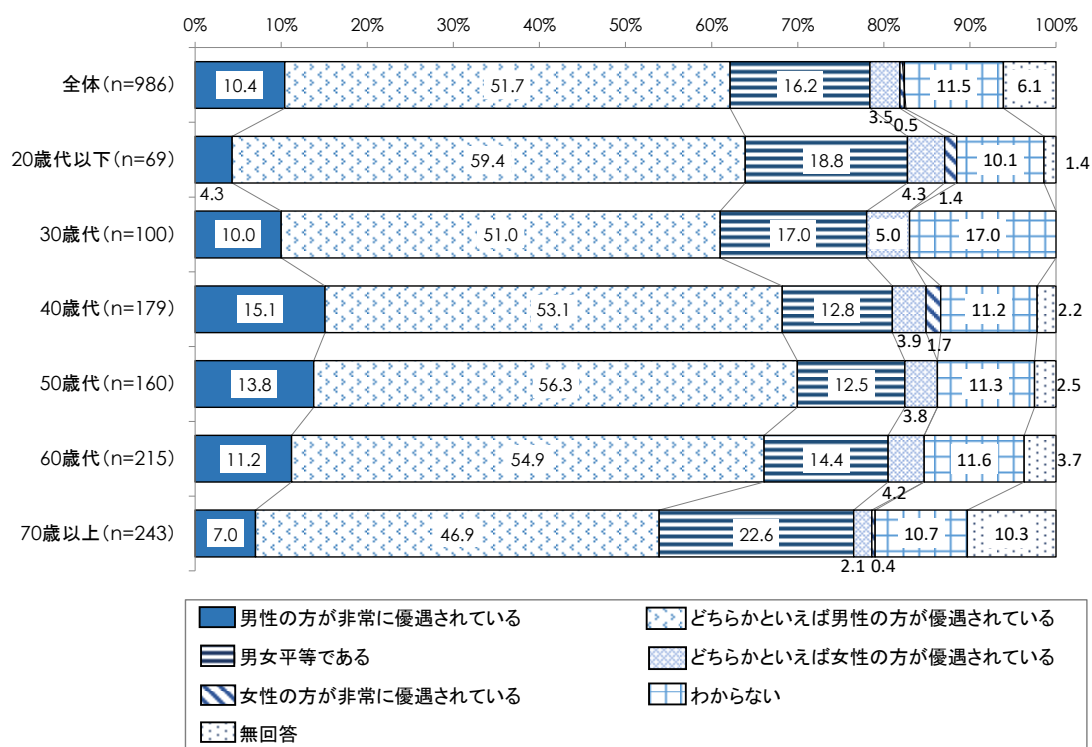
社会全体での男女平等についてみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」51.7%の割合が最も高く、次いで「男女平等である」16.2%、「わからない」11.5%の順となっています。

年代別にみると、20歳代以下は他の年代と比べて「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低く、70歳以上は「男女平等である」の割合が高くなっています。

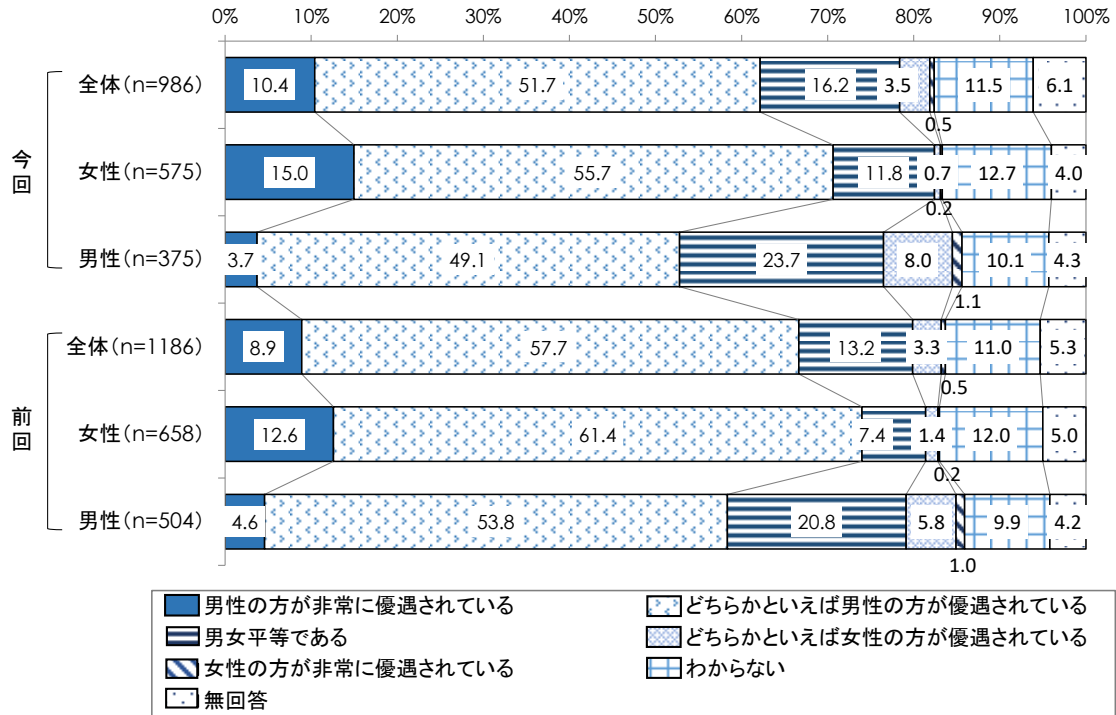
前回調査を性別で比較すると、概ね同様の割合となっています。

雇用形態別・性別にみると、自営業・家族従業の男性は「男女平等である」の割合が最も高くなっています。

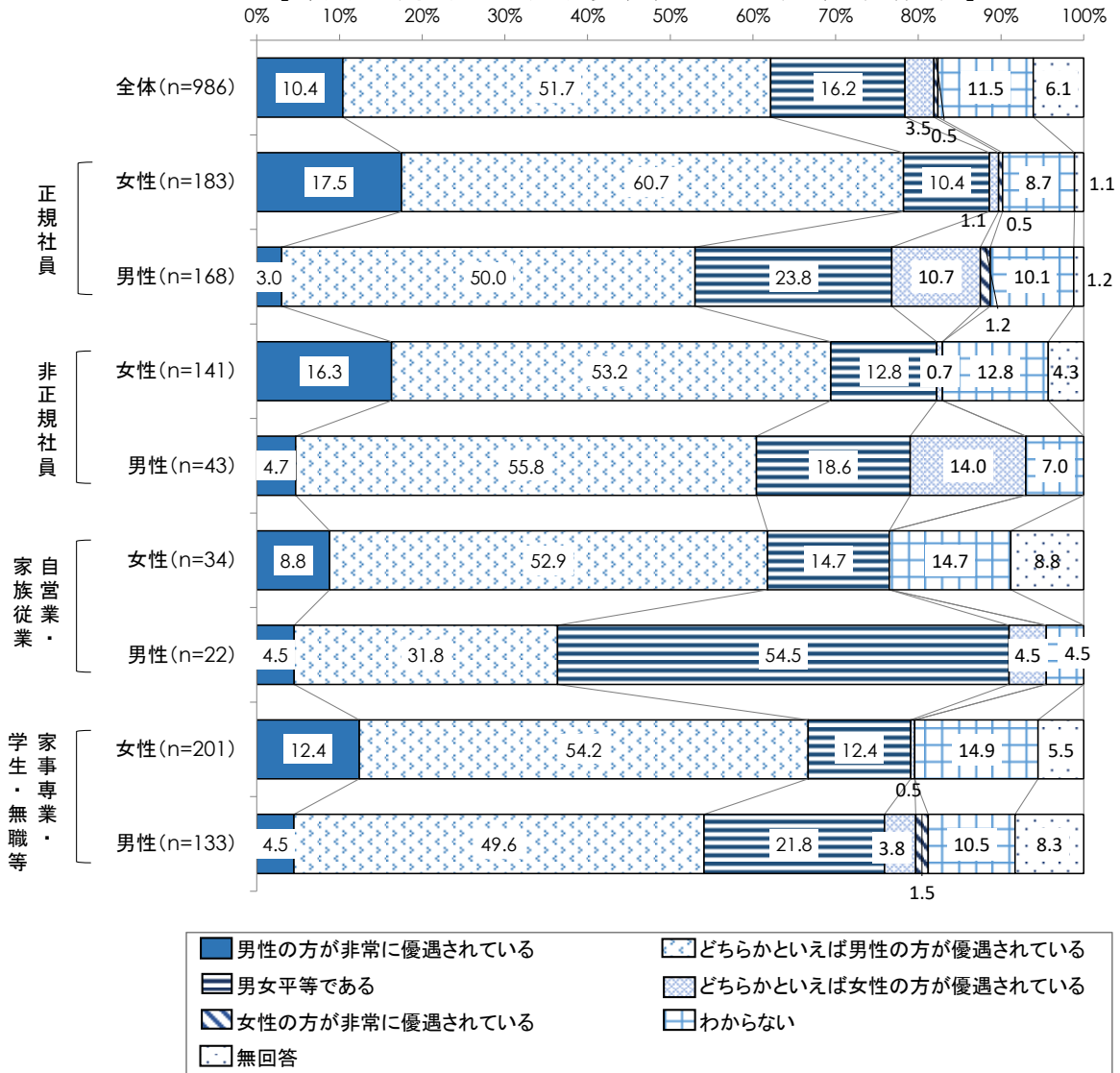
【年代別にみた男女平等について（ク 社会全体で）】



【 前回比較・性別にみた男女平等について (ク 社会全体で) 】

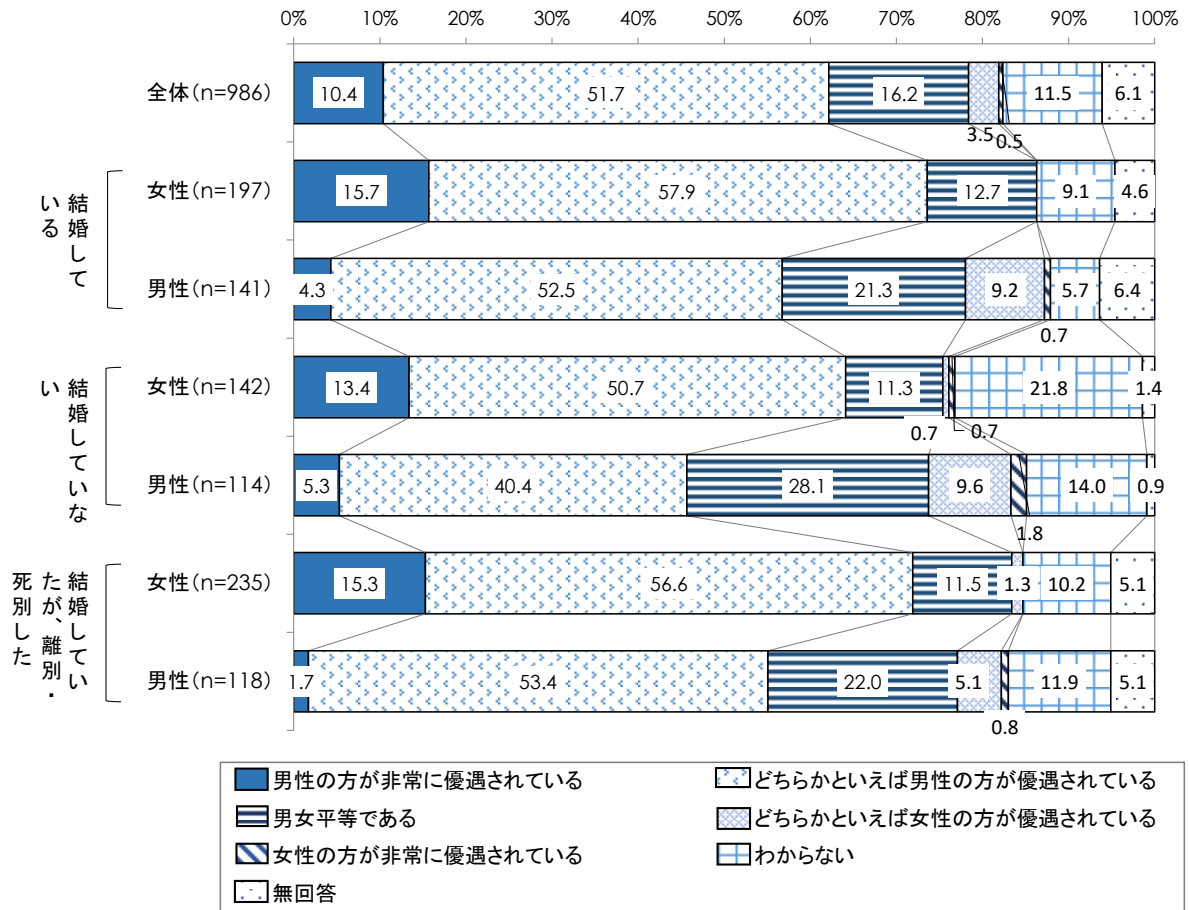


【 雇用形態別・性別にみた男女平等について (ク 社会全体で) 】



婚姻状況別・性別にみると、すべての婚姻状況別・性別で『男性優遇』の割合が『女性優遇』に比べて高くなっていますが、「結婚していない」男性では他より『男性優遇』の割合が低くなっています。

【 婚姻状況別・性別にみた男女平等について (ク 社会全体で) 】



3 職業、職場環境について

問 2. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

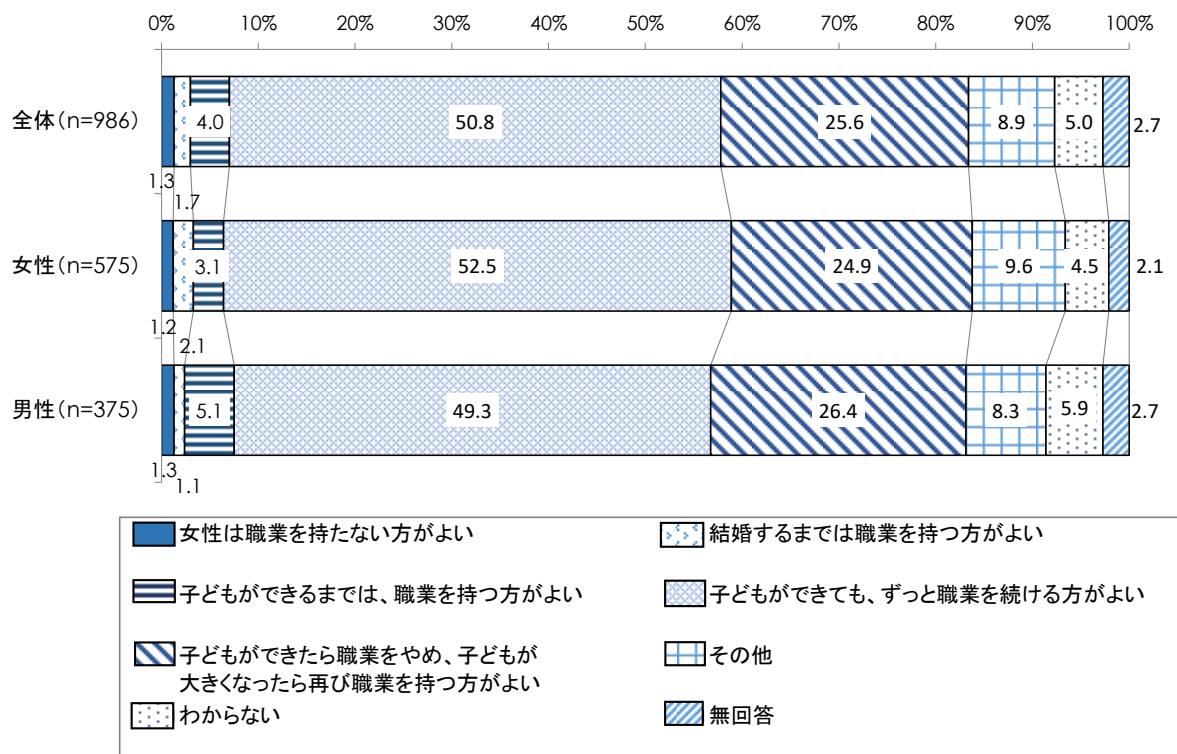
一般的に女性が職業を持つことについてみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」50.8%の割合が最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」25.6%の順となっており、「その他」としては「人それぞれ」、「個人の自由」、などの回答が多くなっています。

性別にみると、概ね同様の割合となっています。

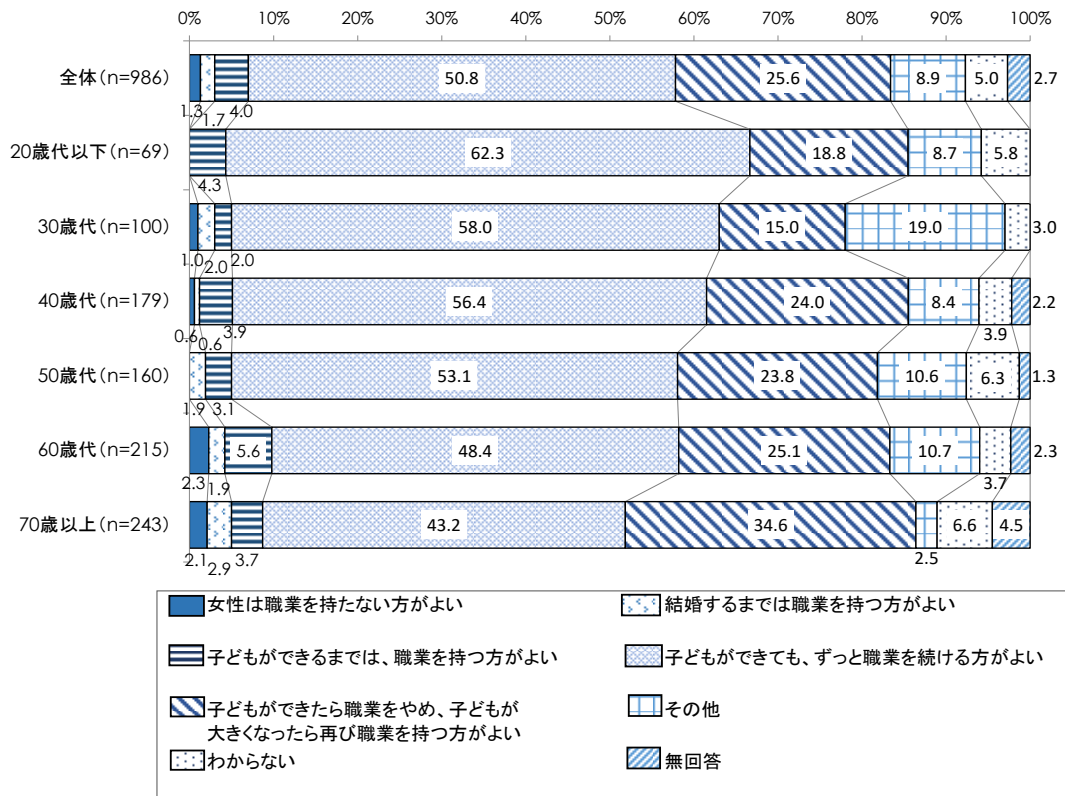
年代別にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は年代が高くなるにつれて低下し、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は70歳以上が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっており、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は低下しています。

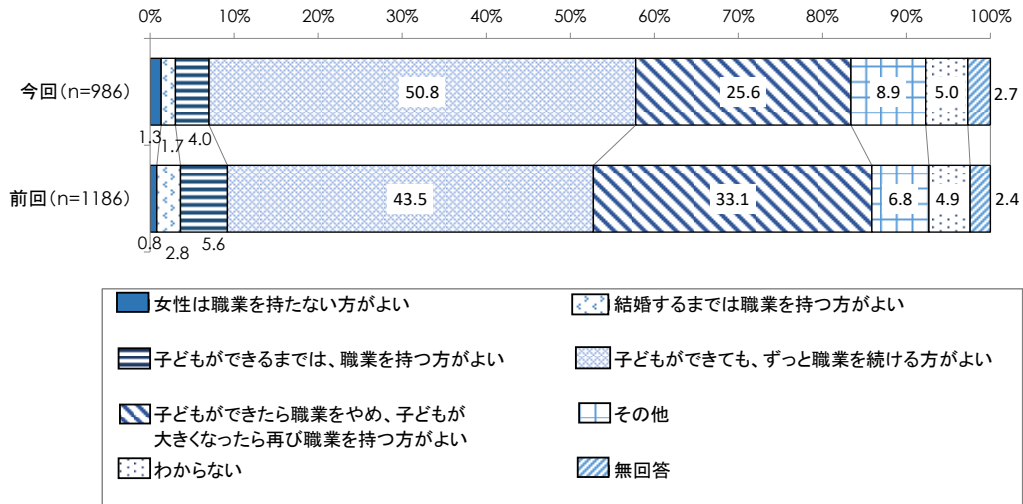
【性別にみた一般的に女性が職業を持つことについて】



【年代別にみた一般的に女性が職業を持つことについて】

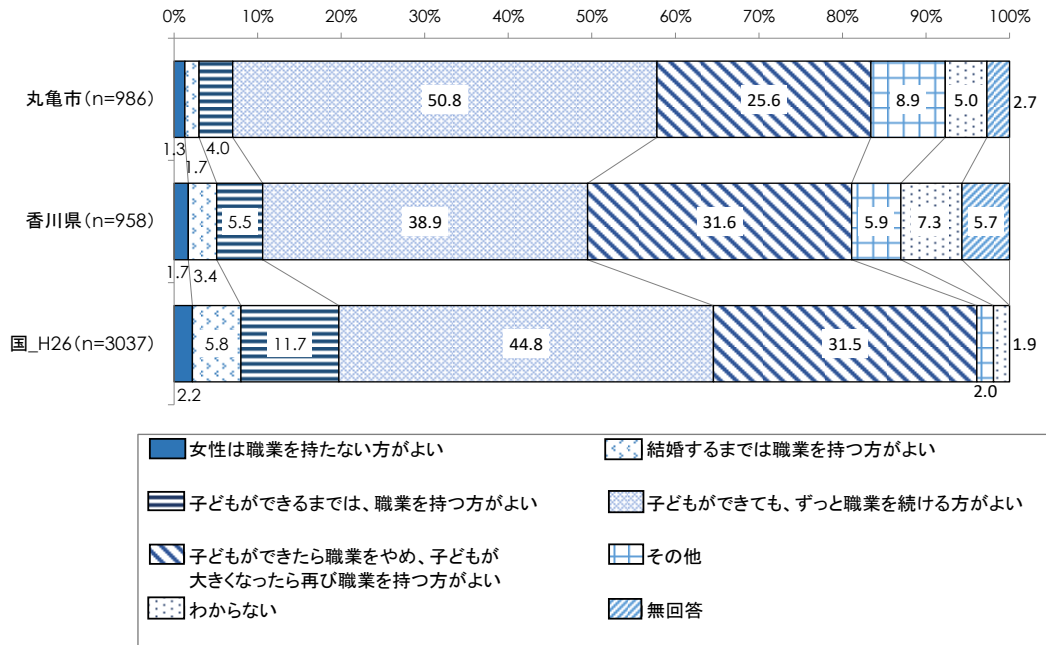


【前回調査と比較した一般的に女性が職業を持つことについて】



香川県及び国と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は県や国より高く、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は低くなっています。

【 香川県及び国と比較した一般的に女性が職業を持つことについて 】



問3. ≪就職している方、就職していた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問9へ
 育児休業の取得についてお聞かせください。(○は1つ)

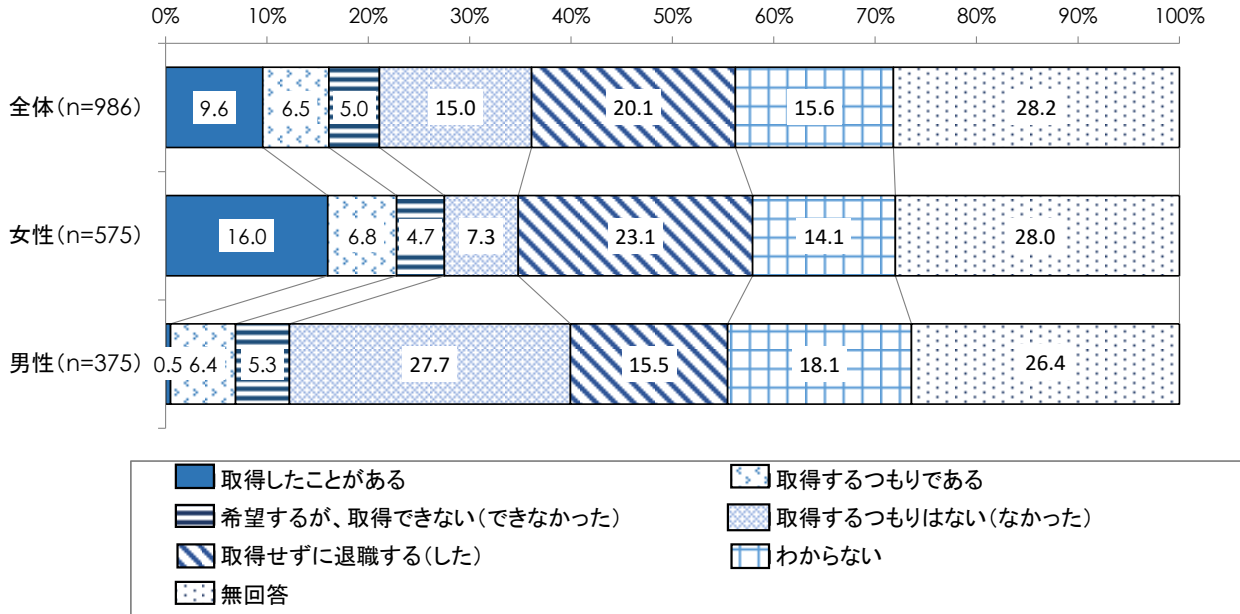
就職している方、就職していた方の育児休業の取得についてみると、「取得せずに退職する(した)」20.1%の割合が最も高く、次いで「わからない」15.6%、「取得するつもりはない(なかった)」15.0%の順となっており、「取得したことがある」は9.6%となっています。

性別にみると、「取得したことがある」は女性16.0%、男性0.5%と、女性の割合が男性より15.5ポイント高くなっており、「取得するつもりはない(なかった)」は男性27.7%、女性7.3%と、男性の割合が女性より20.4ポイント高くなっています。

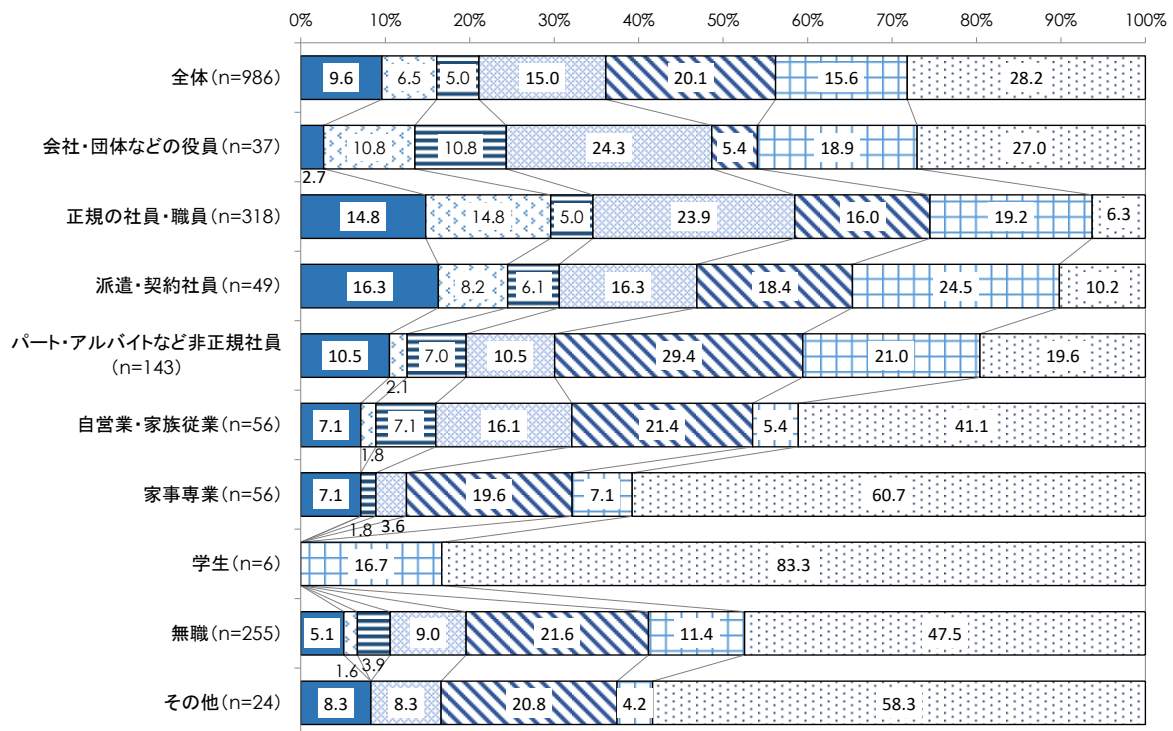
自身の職業別にみると、「取得したことがある」は派遣・契約社員の割合が最も高く、次いで正規の社員・職員、パート・アルバイトなど非正規社員の順となっています。また、「希望するが、取得できない(できなかった)」はパート・アルバイトなど非正規社員の割合が高くなっています。

配偶者の職業別にみると、「取得したことがある」は正規の社員・職員の割合が高く、次いで派遣・契約社員、自営業・家族従業の順となっています。また、「希望するが、取得できない(できなかった)」は派遣・契約社員の割合が最も高くなっています。

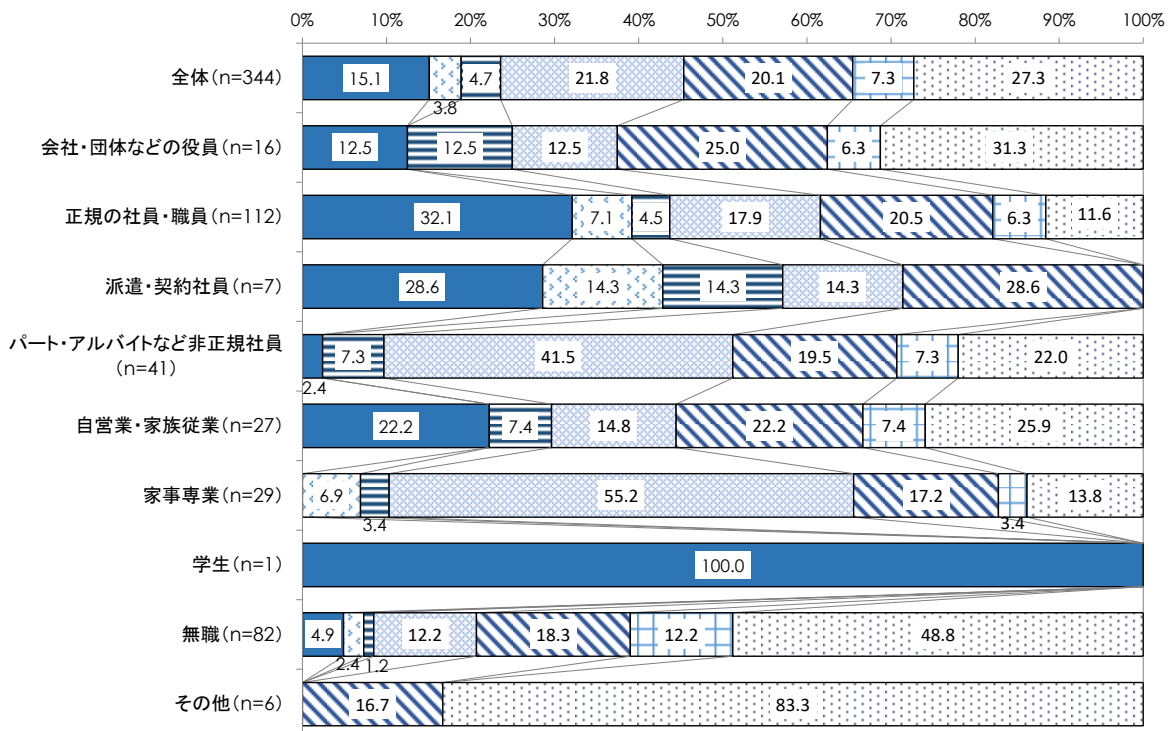
【性別にみた育児休業の取得について】



【自身の職業別にみた育児休業の取得について】



【配偶者の職業別にみた育児休業の取得について】



問 4. «問 3 で「希望するが、取得できない(できなかった)」、「取得するつもりはない(なかった)」、「取得せずに退職する(した)」と答えた方にうかがいます» →その他の方は問 5 へ
それはなぜですか。(〇は 1 つ)

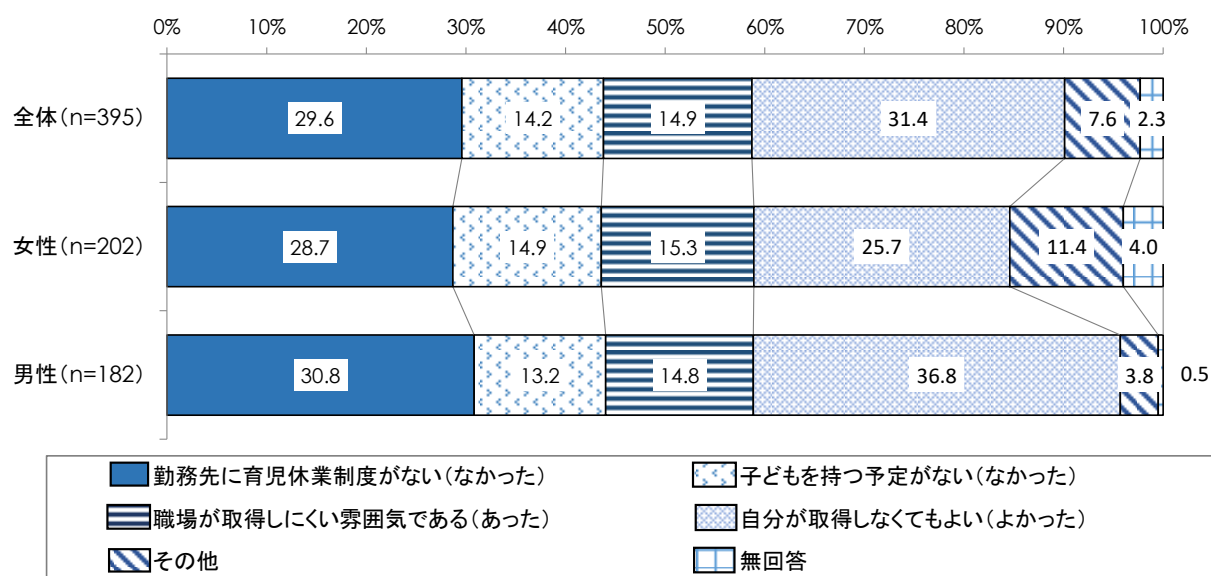
就職している方、就職していた方のうち、育児休業を取得しなかった方の理由をみると、「自分が取得しなくてもよい (よかった)」31.4%の割合が最も高く、次いで「勤務先に育児休業制度がない (なかった)」29.6%、「職場が取得しにくい雰囲気である (あった)」14.9%の順となっています。「その他」としては「子どもがいなかった」、「育児休業制度が始まってなかった」、「経済的な理由」などの回答がありました。

性別にみると「自分が取得しなくてもよい (よかった)」、「勤務先に育児休業制度がない (なかった)」は男性の割合が高くなっています。

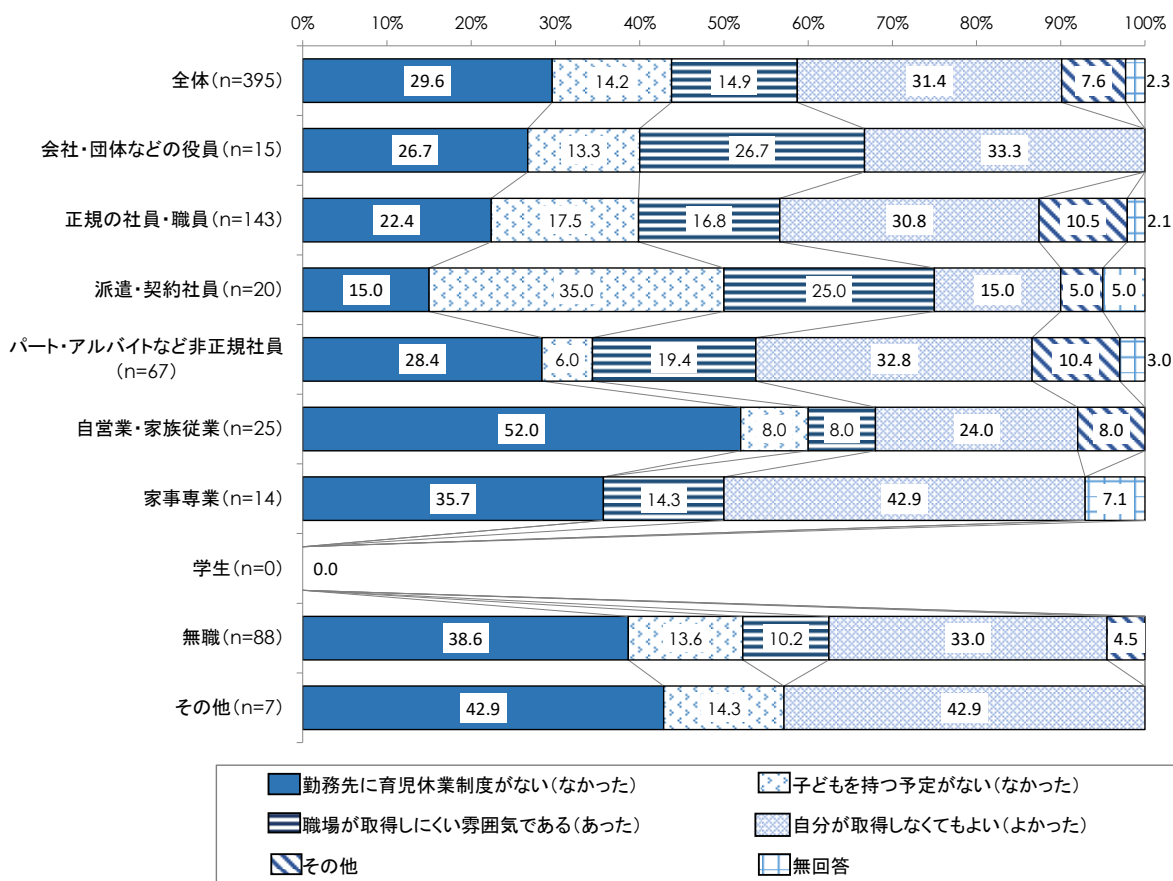
自身の職業別にみると、「勤務先に育児休業制度がない (なかった)」は自営業・家族従業の割合が最も高く、「自分が取得しなくてもよい (よかった)」は家事専業、その他の割合が最も高くなっています。

配偶者の職業別にみると、「勤務先に育児休業制度がない (なかった)」の割合は家事専業、自営業・家族従業、無職の順に高く、「自分が取得しなくてもよい (よかった)」はパート・アルバイトなど非正規社員、自営業・家族従業が同率で最も高い割合となっています。

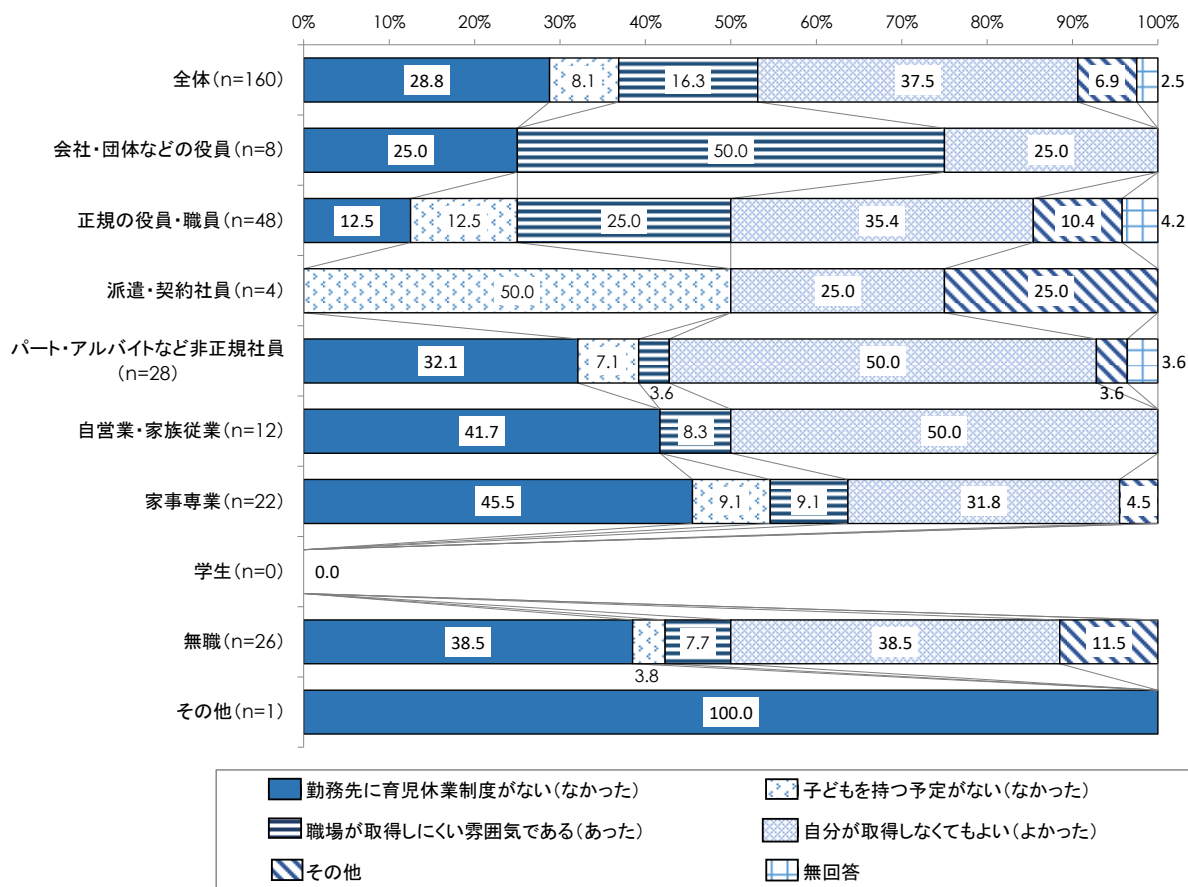
【 性別にみた育児休業を取得しなかった理由 】



【自身の職業別にみた育児休業を取得しなかった理由】



【自身の職業別にみた育児休業を取得しなかった理由】



問5. ≪就職している方、就職していた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問9へ
介護休業の取得についてお聞かせください。(○は1つ)

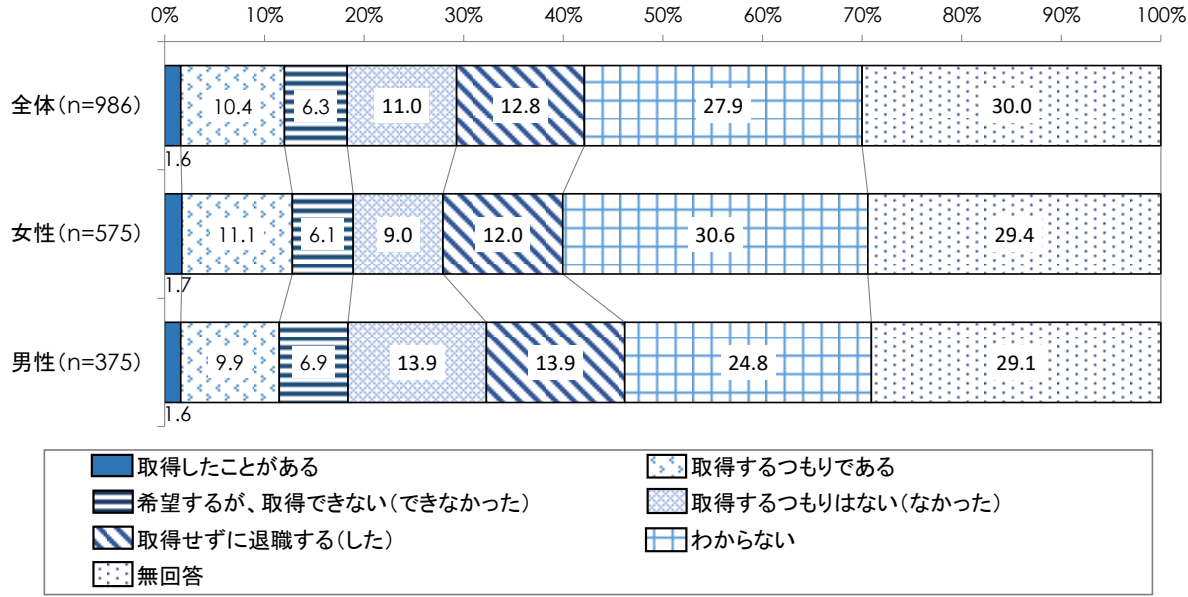
就職している方、就職していた方の介護休業の取得についてみると、「わからない」27.9%の割合が最も高く、次いで「取得せずに退職する(した)」12.8%、「取得するつもりはない(なかった)」11.0%の順となっています。

性別にみると、「取得するつもりである」は女性、「取得するつもりはない(なかった)」、「取得せずに退職する(した)」は男性の割合が高くなっています。

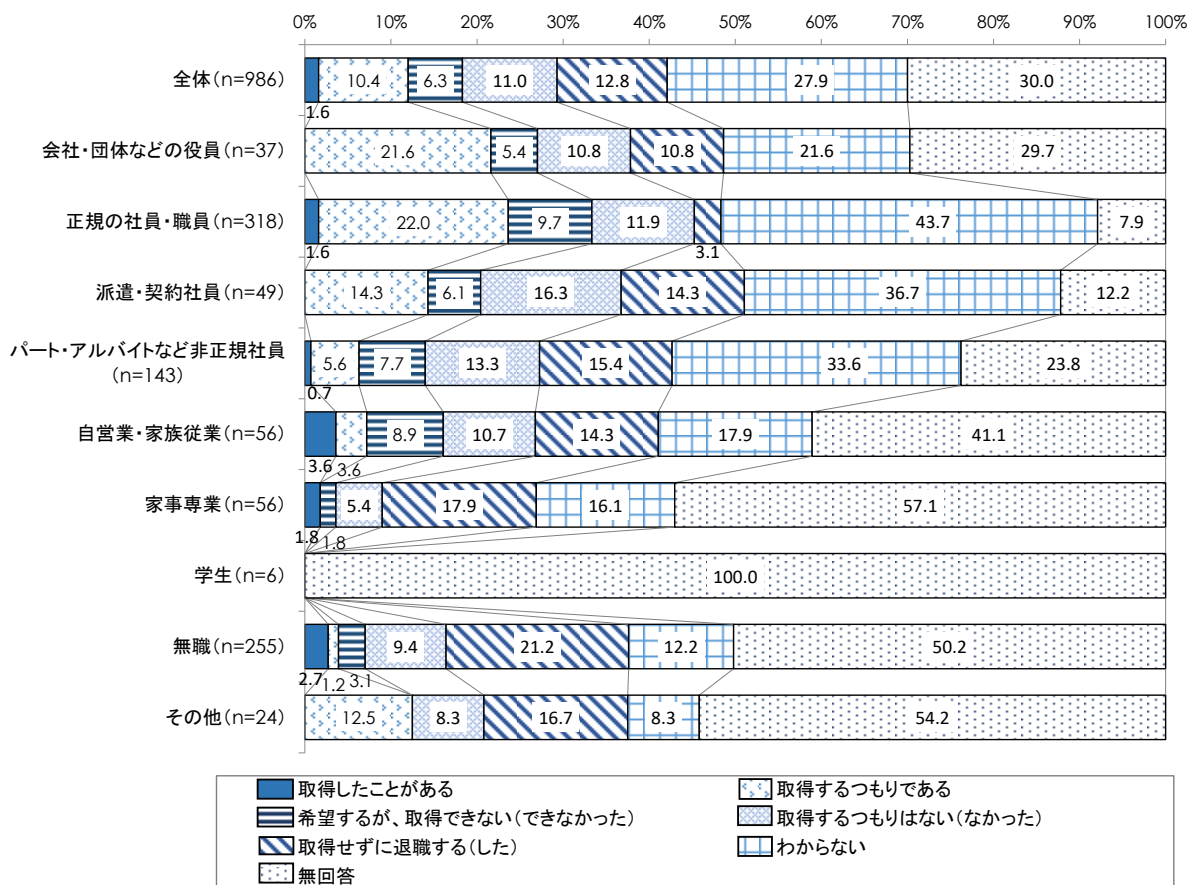
自身の職業別にみると、「取得するつもりである」は正規の社員・職員、会社・団体などの役員、派遣・契約社員の順に、「希望するが、取得できない(できなかつた)」は正規の社員・職員、自営業・家族従業、パート・アルバイトなど非正規社員の順に割合が高くなっています。

配偶者の職業別にみると、「取得するつもりである」は家事専業、「取得せずに退職する(した)」は会社・団体などの役員の割合が高くなっています。

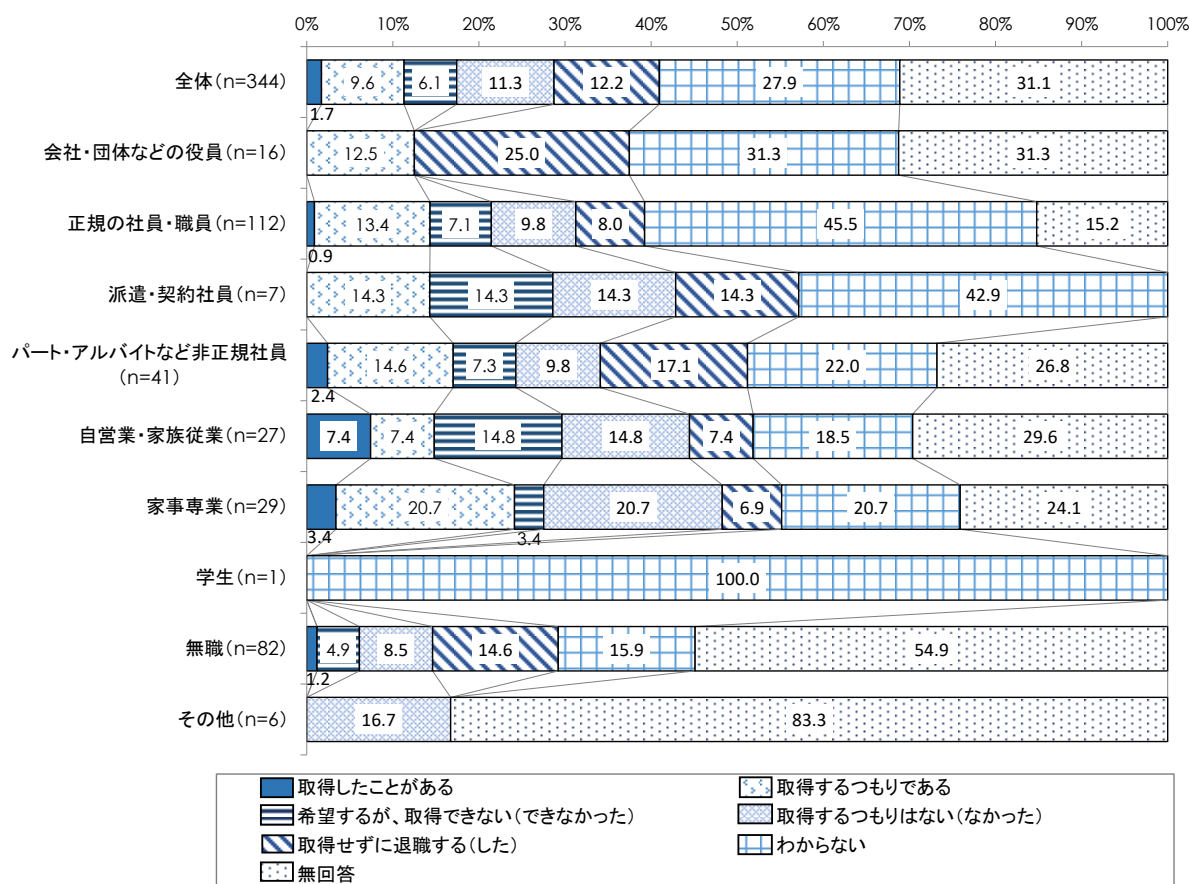
【性別にみた介護休業の取得について】



【自身の職業別にみた介護休業の取得について】



【配偶者の職業別こみた介護休業の取得について】



問 6. «問 5 で「希望するが、取得できない(できなかった)」、「取得するつもりはない(なかった)」、「取得せずに退職する(した)」と答えた方にかかっています» →そのほかの方は問 7 へそれはなぜですか。(〇は1つ)

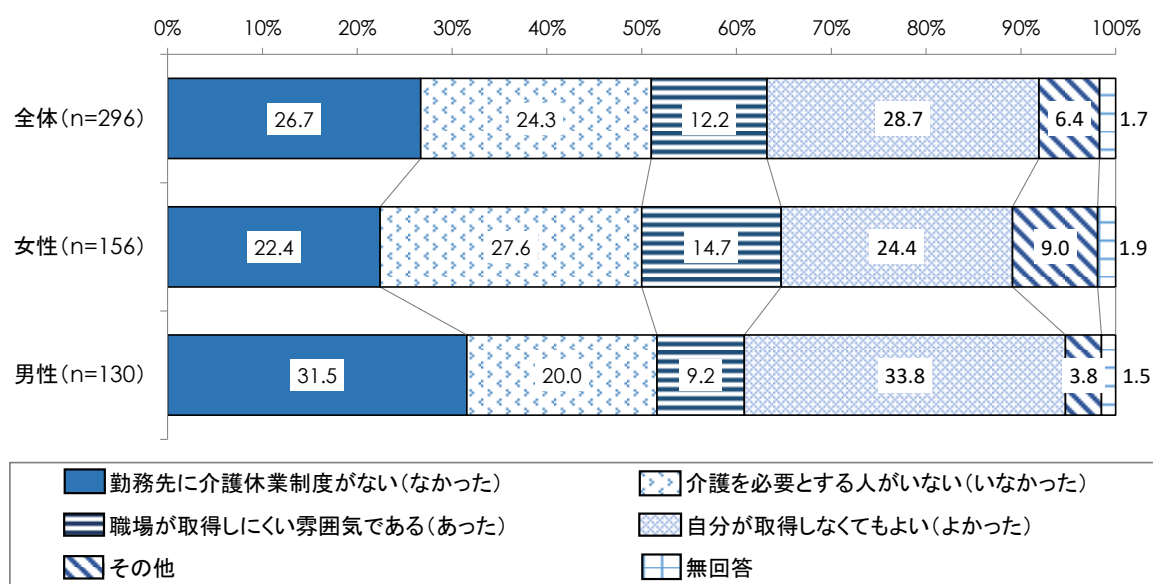
就職している方、就職していた方のうち、介護休業を取得しなかった理由をみると、「自分が取得しなくてもよい(よかった)」28.7%の割合が最も高く、次いで「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」26.7%、「介護を必要とする人がいない(いなかった)」24.3%、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」12.2%の順となっています。「その他」としては「仕事が回らなくなる」、「経済的な理由」などの回答がありました。

性別にみると、「自分が取得しなくてもよい(よかった)」、「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」は男性、「介護を必要とする人がいない(いなかった)」は女性の割合が高くなっています。

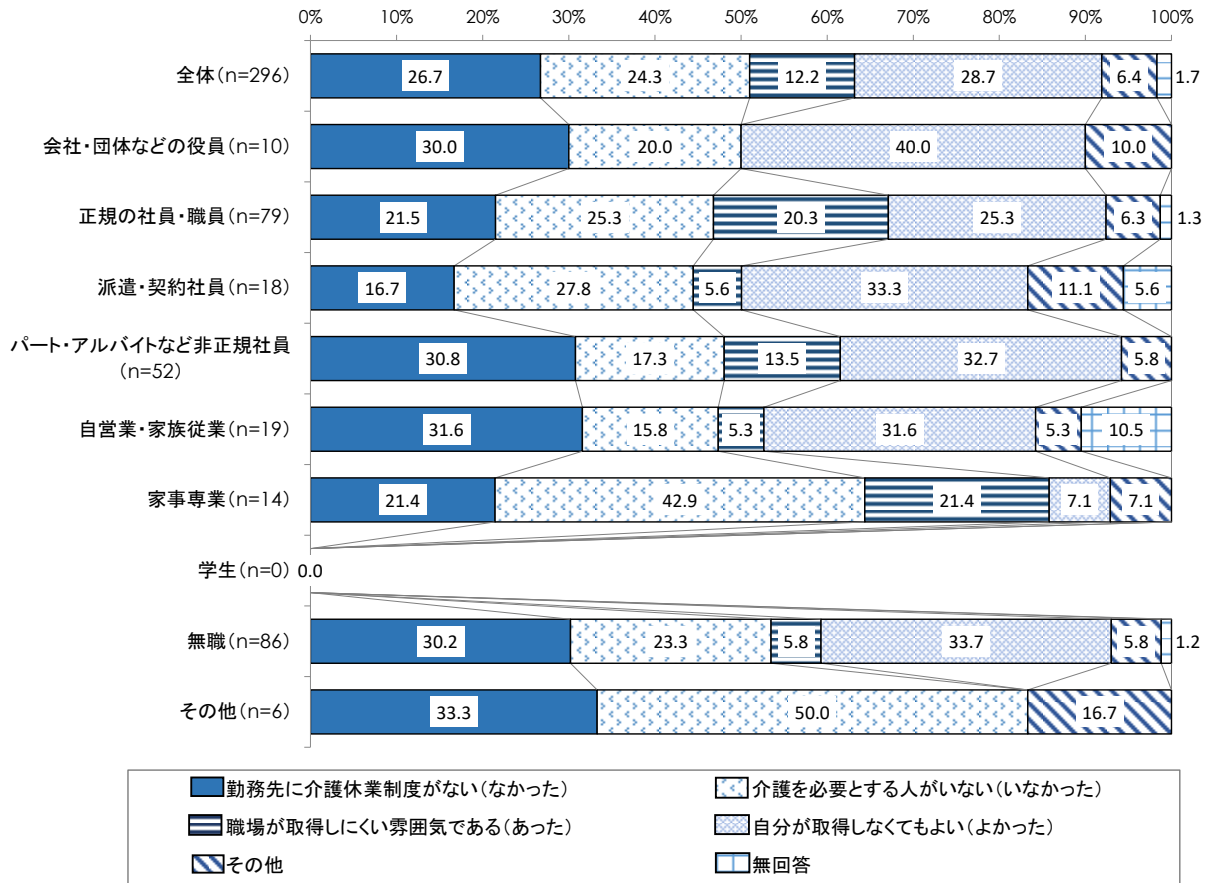
自身の職業別にみると、「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」の割合は自営業・家族従業、パート・アルバイトなど非正規社員、無職の順に高く、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」は家事専業、正規の社員・職員、パート・アルバイトなど非正規社員の順に高くなっています。

配偶者の職業別にみると、「勤務先に介護休業制度がない(なかった)」の割合は家事専業、無職、自営業・家族従業の順に高く、「職場が取得しにくい雰囲気である(あった)」は正規の社員・職員、自営業・家族従業、家事専業の割合が高くなっています。

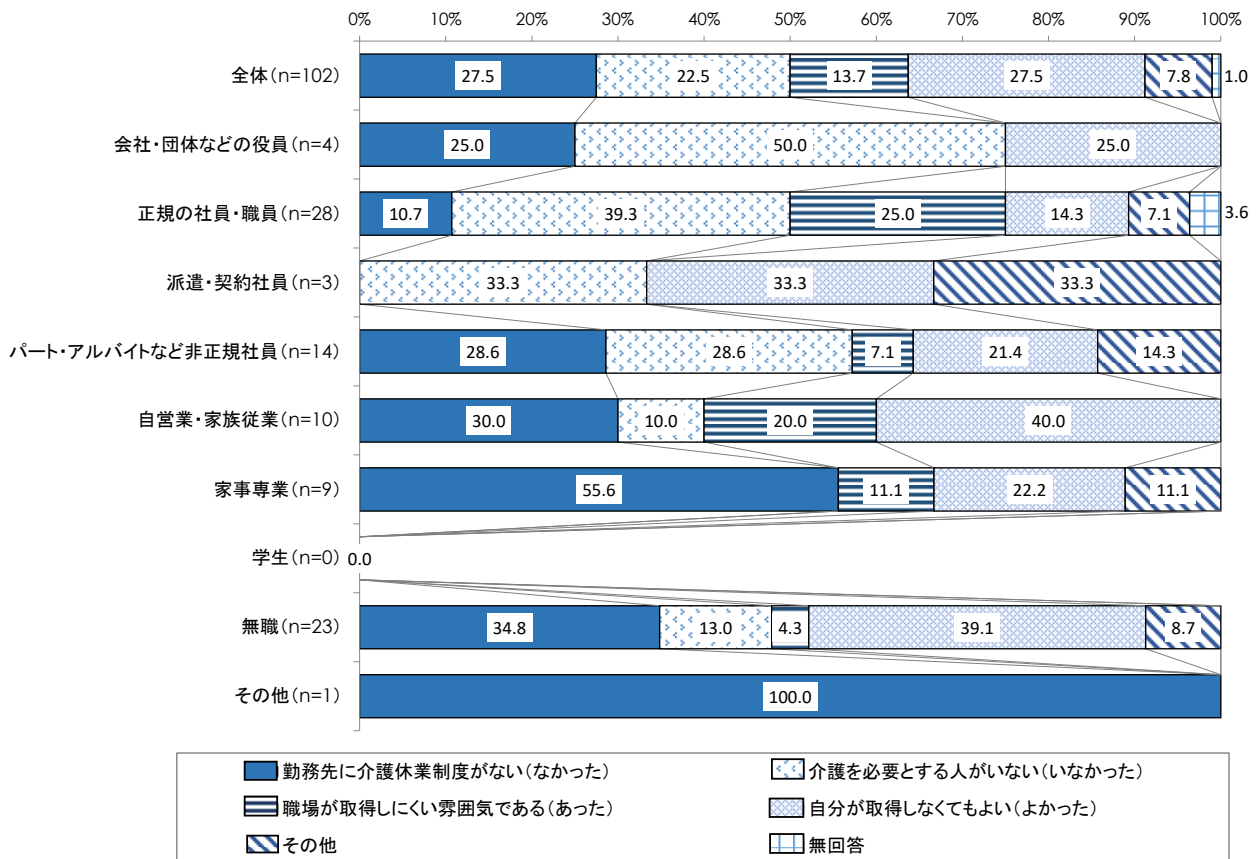
【性別にみた介護休業を取得しなかった理由について】



【自身の職業別にみた介護休業を取得しなかった理由について】



【配偶者の職業別にみた介護休業を取得しなかった理由について】



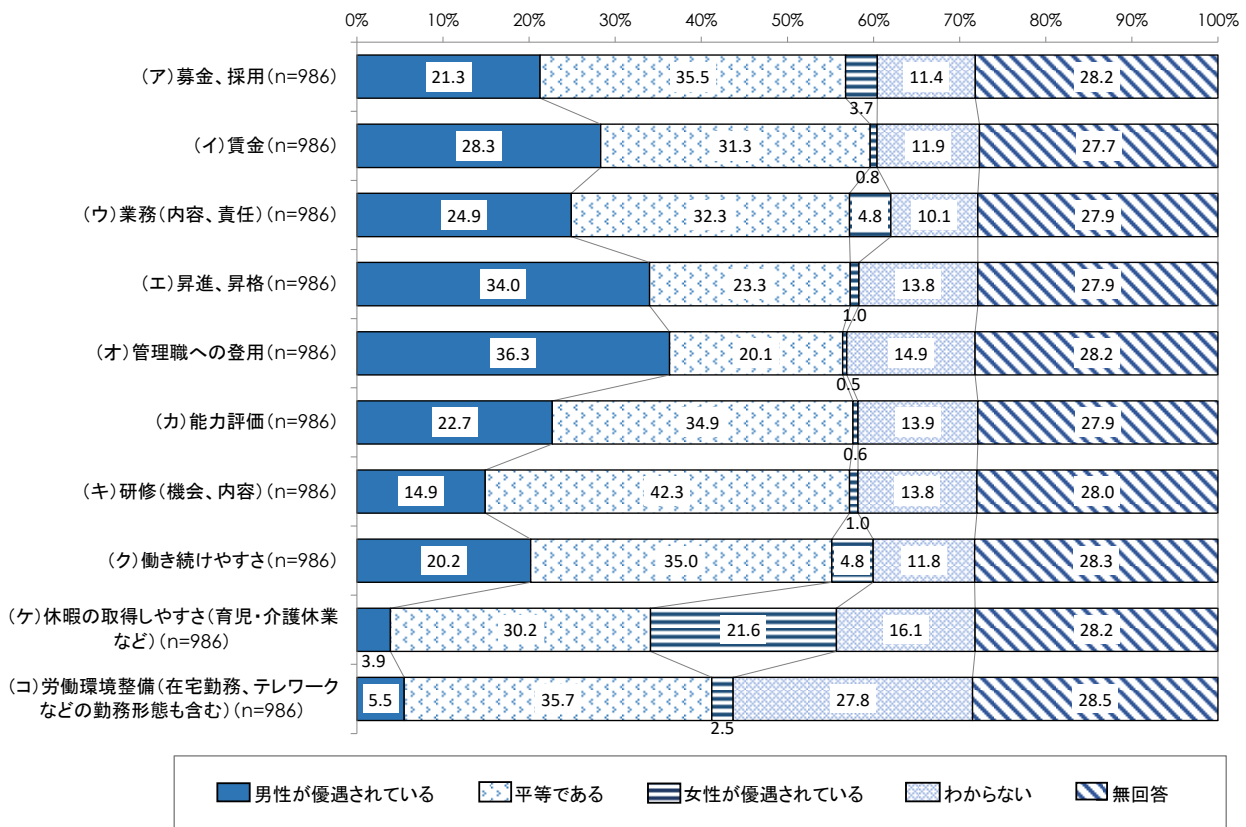
問7. ≪就職している方、就職していた方にうかがいます≫ →そのほかの方は問9へ

あなたの今の職場、あるいは元の職場では、次の(ア)から(コ)までの項目について、性別によって差がある(あった)と思いますか。(〇は各項目1つずつ)

【全体】

就職している方、就職していた方のうち、今の職場、あるいは元の職場で性別による差がある(あった)と思うことをみると、「男性が優遇されている」は「(オ) 管理職への登用」36.3%の割合が最も高く、次いで「(エ) 昇進、昇格」34.0%、「(イ) 賃金」28.3%の順で割合が高くなっています。「女性が優遇されている」は「(ケ) 休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など)」21.6%の割合が最も高くなっている反面、他の項目においてはいずれも5%未満と低くなっています。

【職場で性別による差がある(あった)と思うことについて】



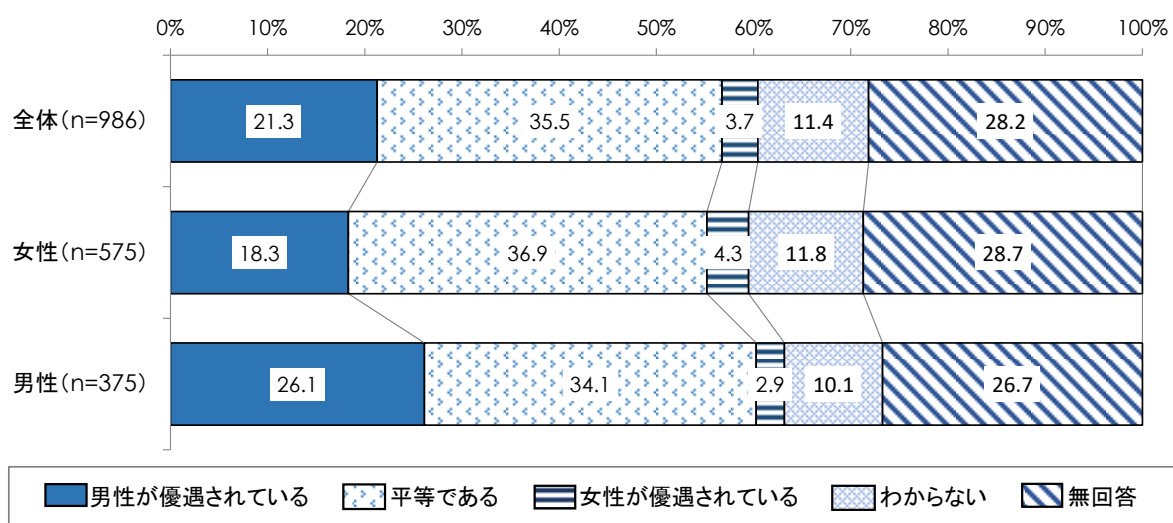
ア 募集、採用

募集、採用についてみると、「平等である」35.5%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」21.3%、「わからない」11.4%の順となっています。

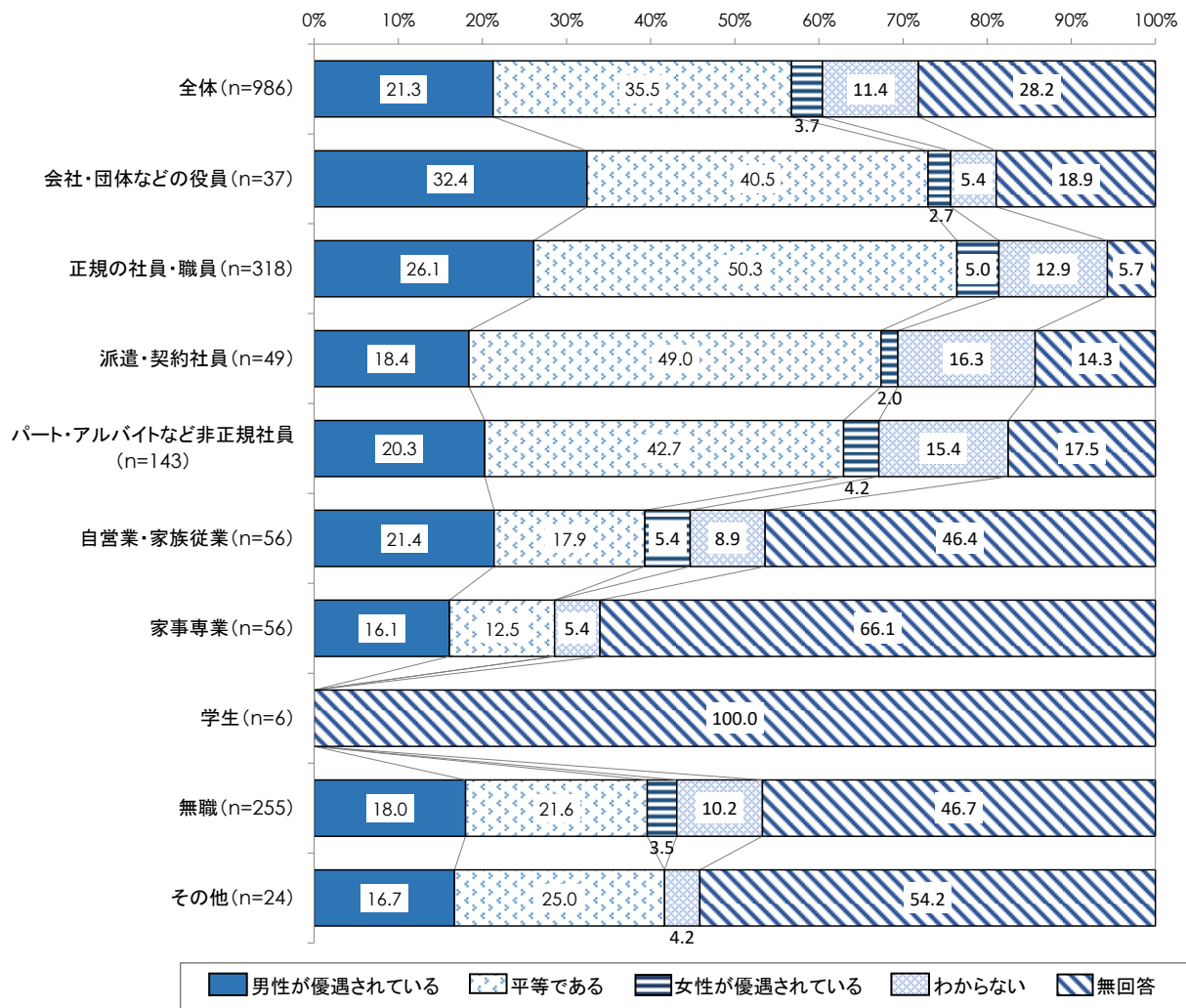
性別にみると、男性は女性より「男性が優遇されている」の割合が7.8ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、「男性が優遇されている」は会社・団体などの役員、正規の社員・職員、自営業・家族従業の順で高くなっています。

【性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ア 募金、採用)】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ア 募金、採用)】



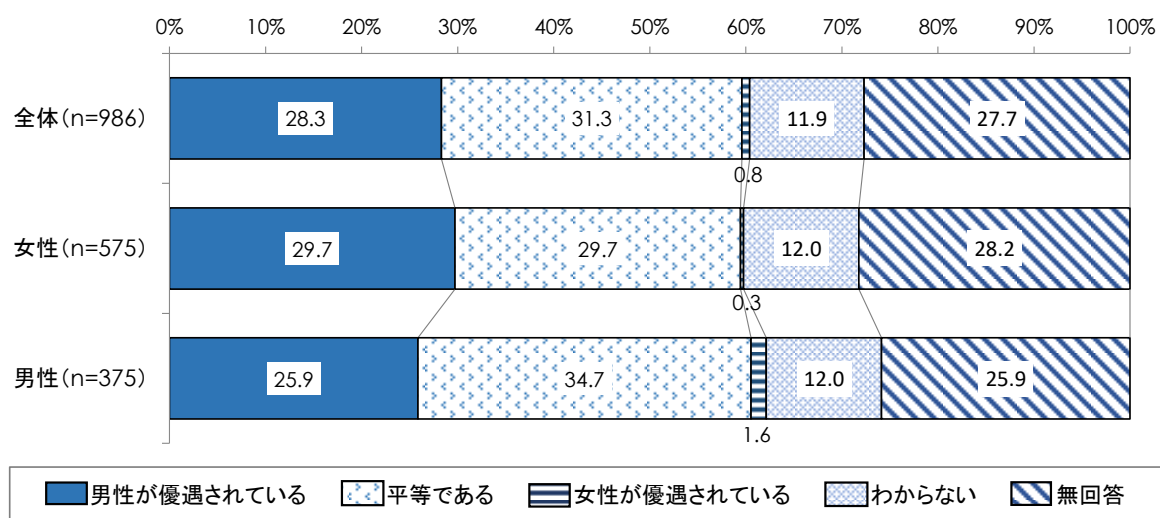
イ 賃金

賃金についてみると、「平等である」31.3%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」28.3%、「わからない」11.9%の順となっています。

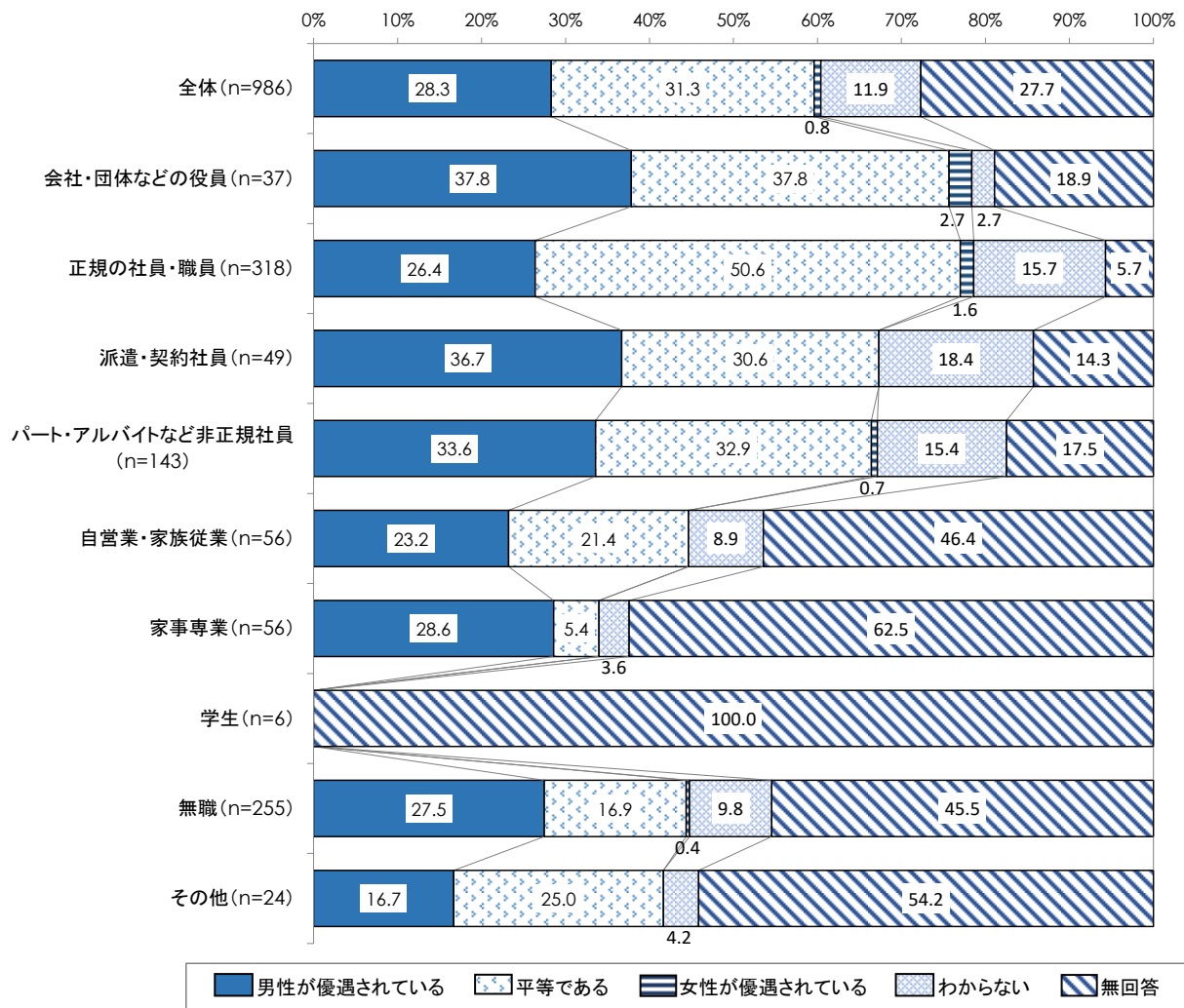
性別で見ると、男性は女性より「平等である」の割合が5ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、正規の社員・職員の割合で最も高いのは「平等である」となっており、会社・団体などの役員は「男性が優遇されている」「平等である」が同率となっています。その他の職業では、「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

【性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(イ 賃金)】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(イ 賃金)】



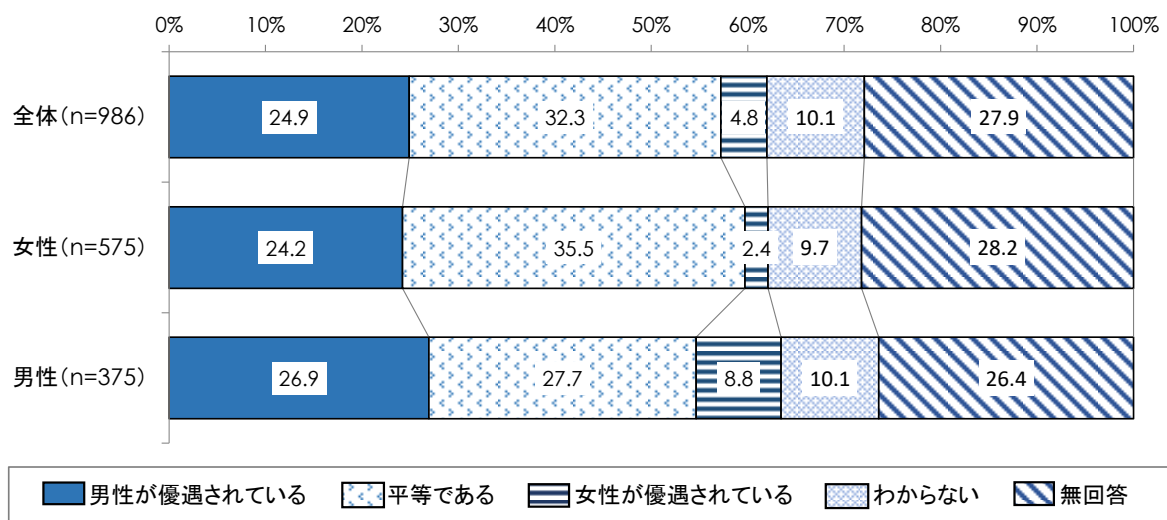
ウ 業務(内容、責任)

業務(内容、責任)についてみると、「平等である」32.3%「男性が優遇されている」24.9%の割合が最も高く、次いで「わからない」10.1%の順となっています。

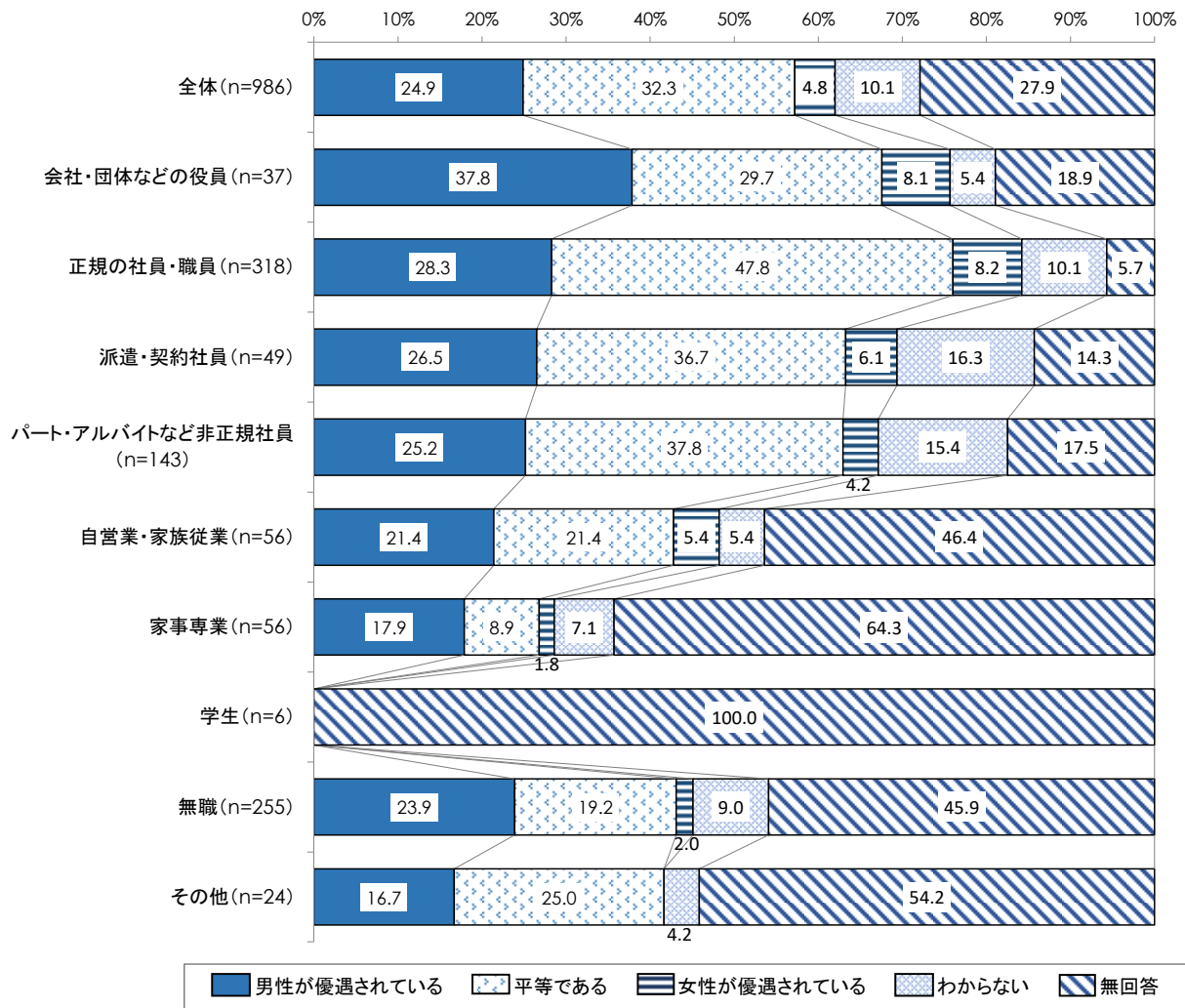
性別でみると、男性は女性より「平等である」の割合が7.8ポイント高くなっています

自身の職業別にみると、正規の社員・職員、派遣・契約社員、パート・アルバイトなど非正規社員では「平等である」、その他の職業では「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。自営業・家族従業は上記2項目がともに同じ割合となっています。

【性別にみた職場で性別による差がある(あった)と思うことについて(ウ 業務(内容、責任))】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ウ 業務(内容、責任))】



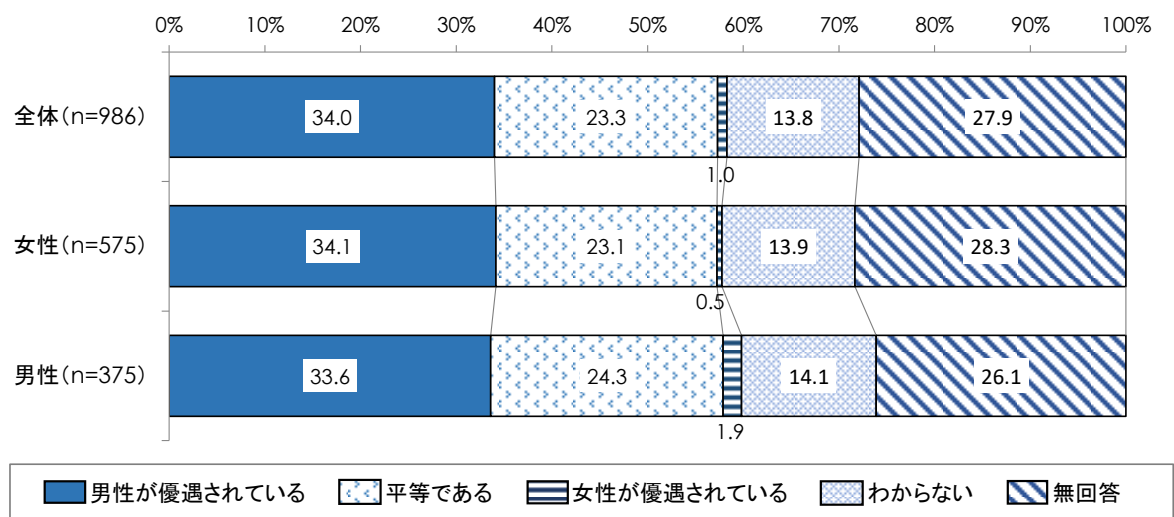
エ 昇進、昇格

昇進、昇格についてみると、「男性が優遇されている」34.0%の割合が最も高く、次いで「平等である」23.3%、「わからない」13.8%の順となっています。

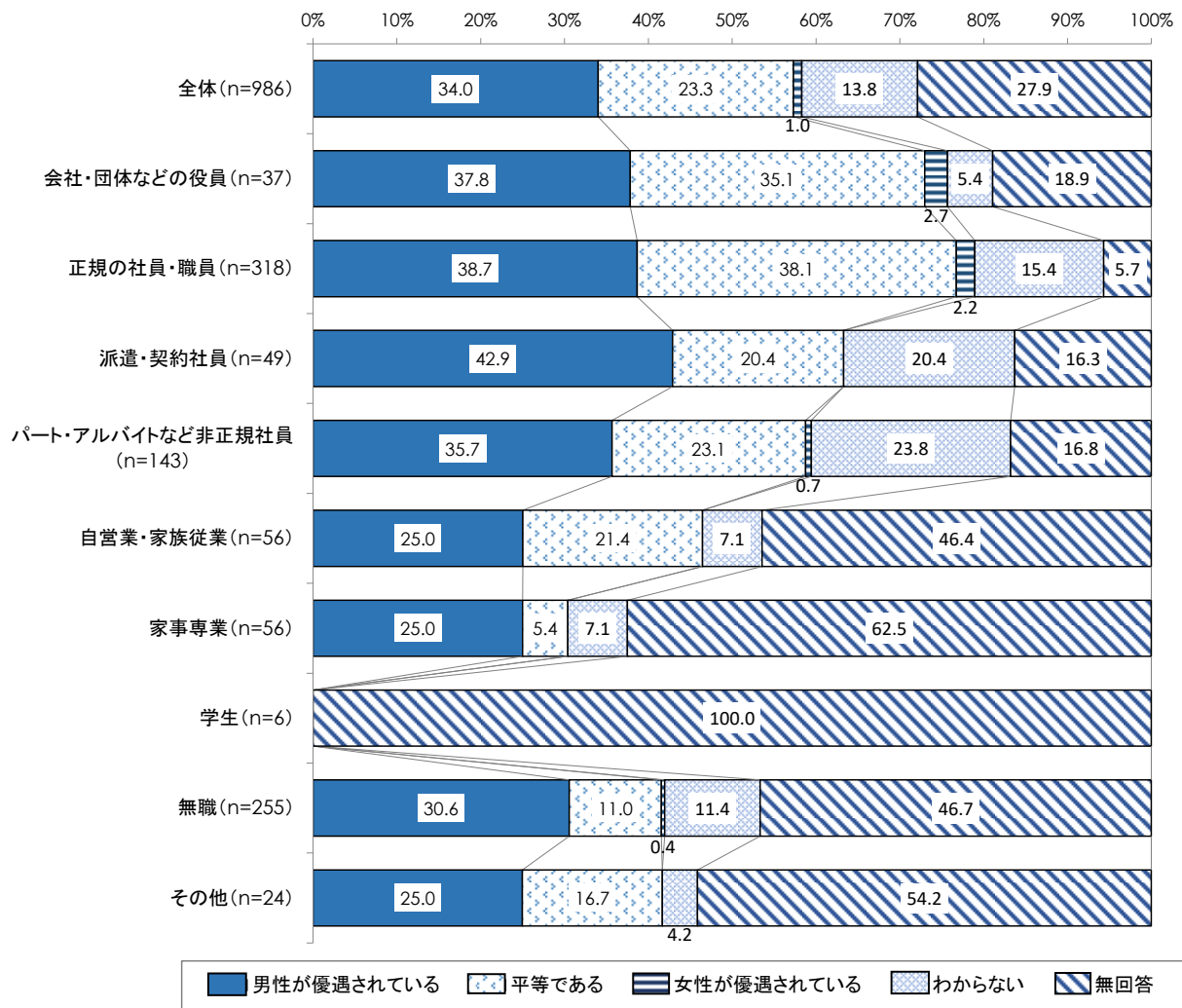
性別でみても、概ね同様の割合となっています。

自身の職業別にみると、すべての職業で「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっています。

【性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(エ 昇進、昇格)】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(エ 昇進、昇格)】



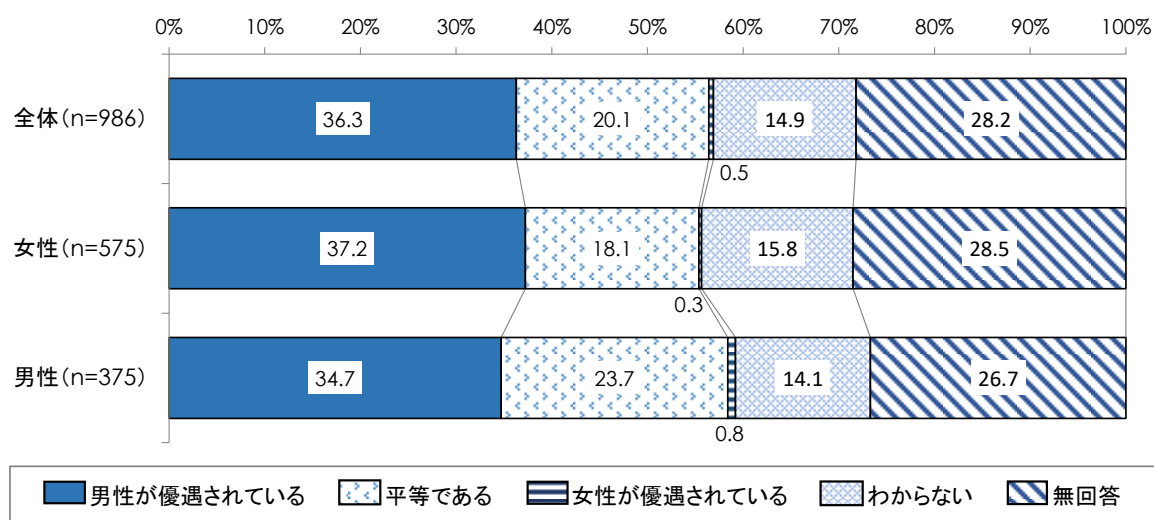
オ 管理職への登用

管理職への登用についてみると、「男性が優遇されている」36.3%の割合が最も高く、次いで「平等である」20.1%、「わからない」14.9%の順となっています。

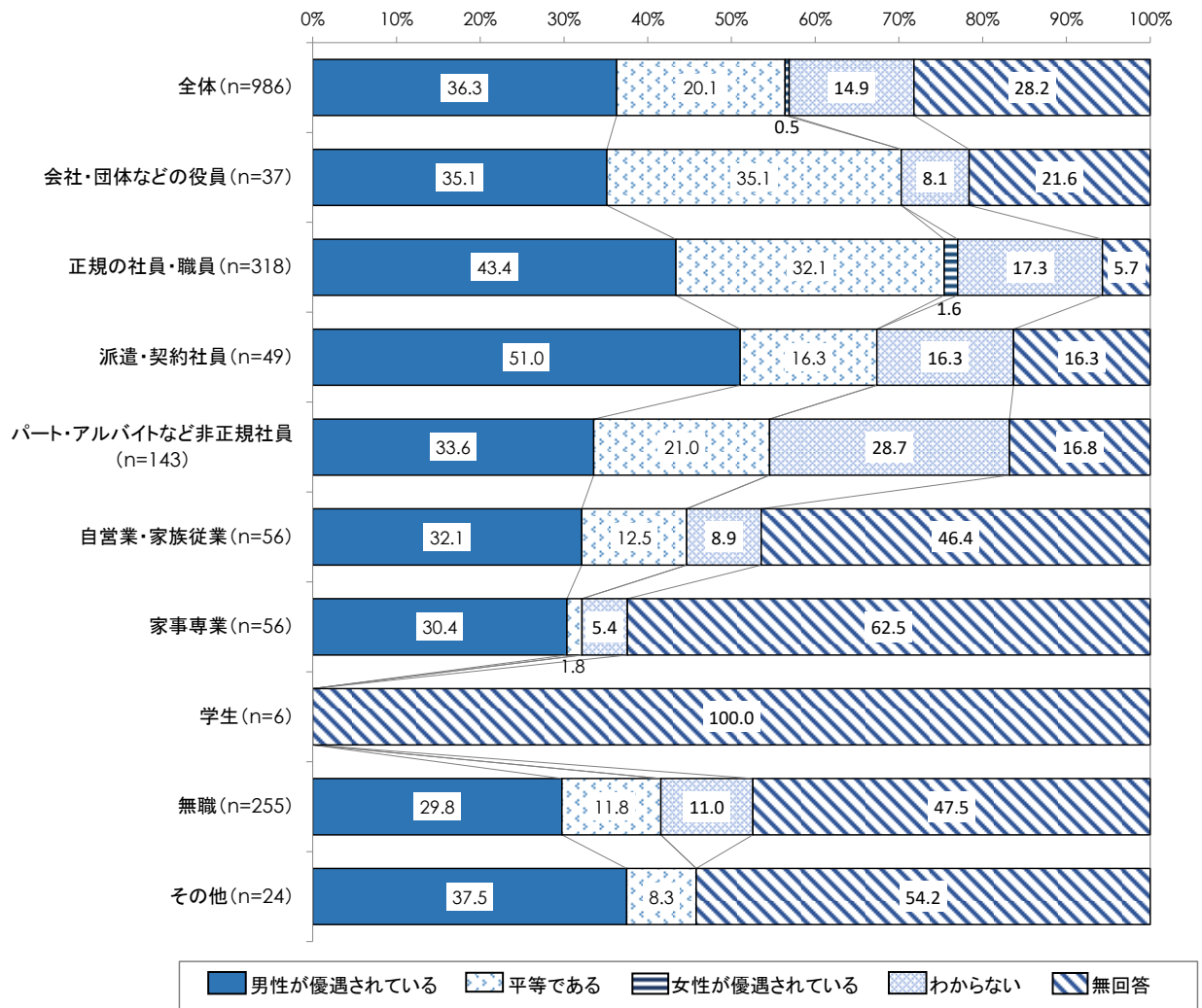
性別にみると、男性は女性より「平等である」の割合が5.6ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、すべての職業で「男性が優遇されている」の割合が最も高くなっていますが、会社・団体などの役員は「平等である」も同率となっています。

【性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(オ 管理職への登用)】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(オ 管理職への登用)】



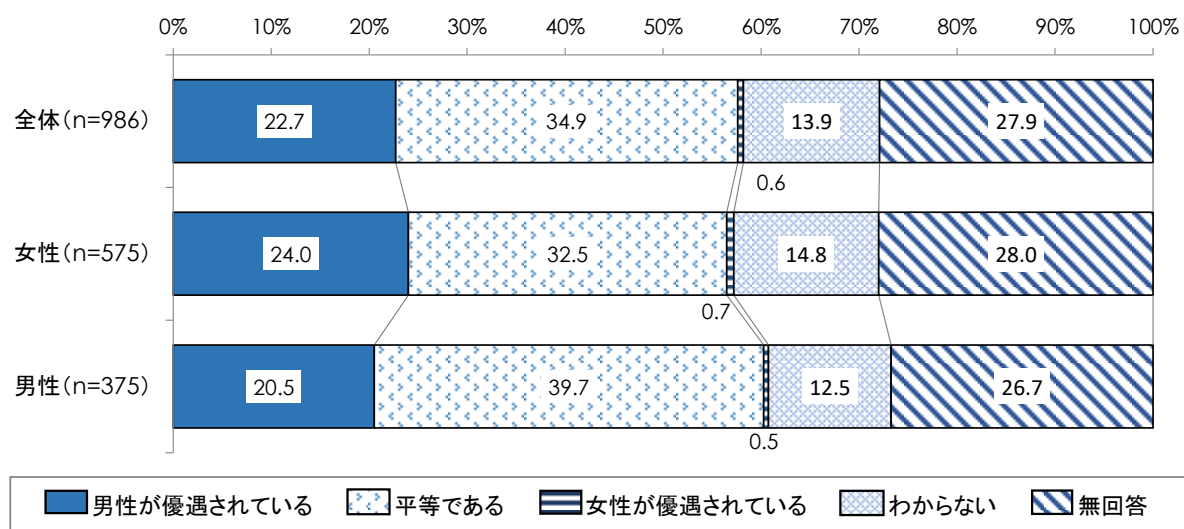
カ 能力評価

能力評価についてみると、「平等である」34.9%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」22.7%、「わからない」13.9%の順となっています。

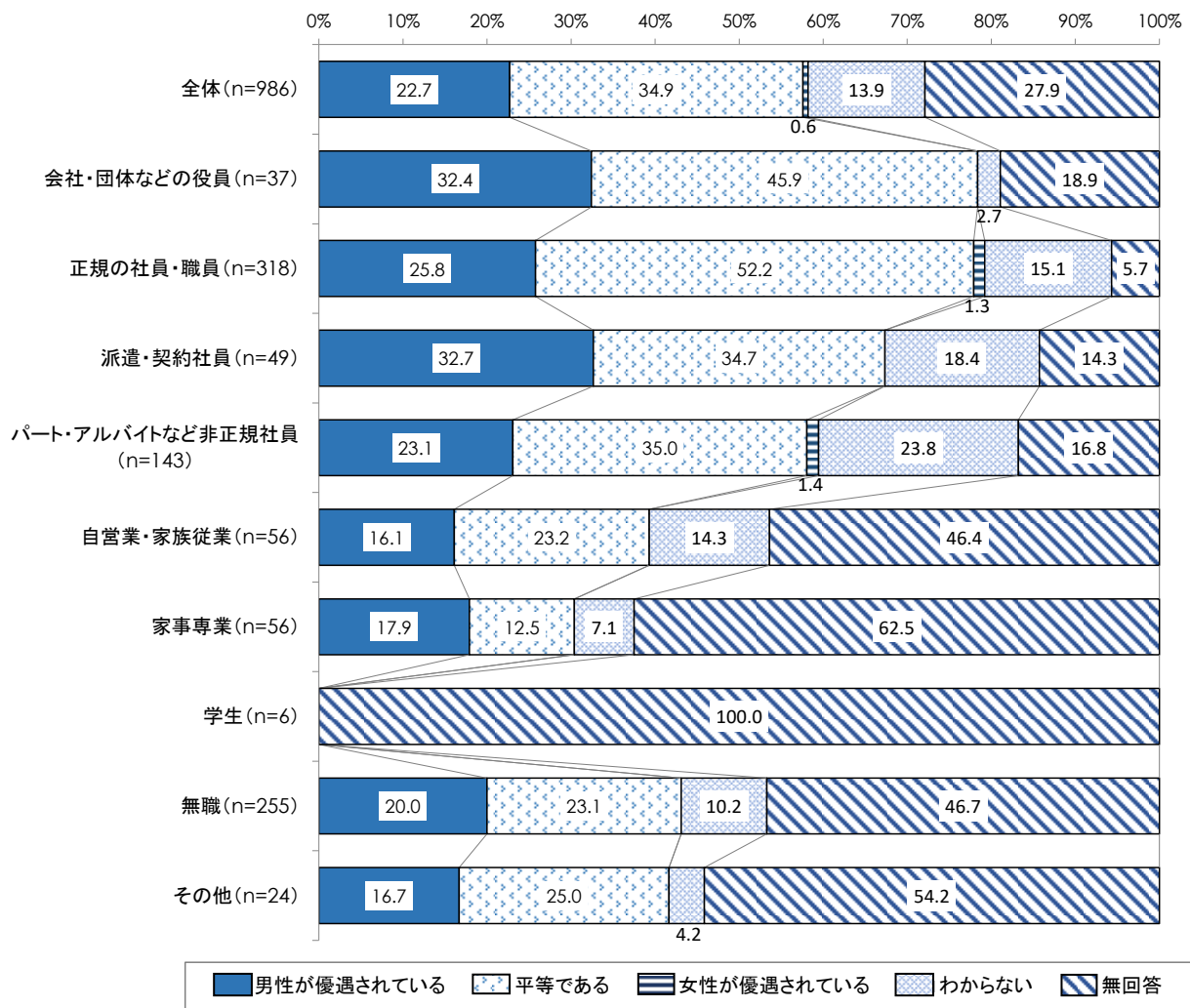
性別にみると、男性は女性より「平等である」の割合が7.2ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、「平等である」の割合は正規の社員・職員、会社・団体などの役員、パート・アルバイトなど非正規社員の順に高く、「男性が優遇されている」の割合は派遣・契約社員、会社・団体などの役員、正規の社員・職員の順に高くなっています。

【性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて（カ 能力評価）】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(カ 能力評価)】



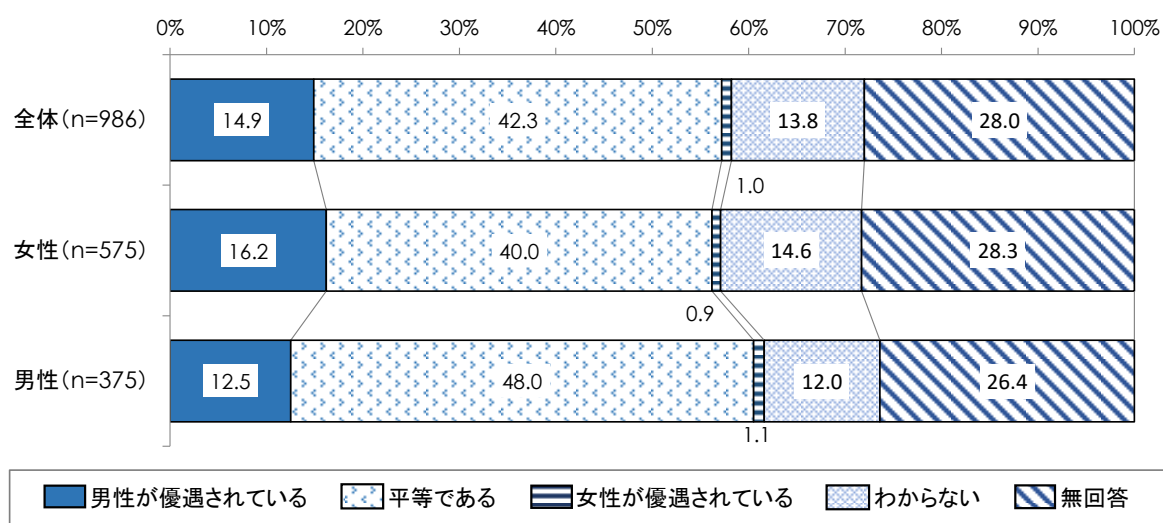
キ 研修(機会、内容)

職場での研修(機会、内容)についてみると、「平等である」42.3%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」14.9%、「わからない」13.8%の順となっています。

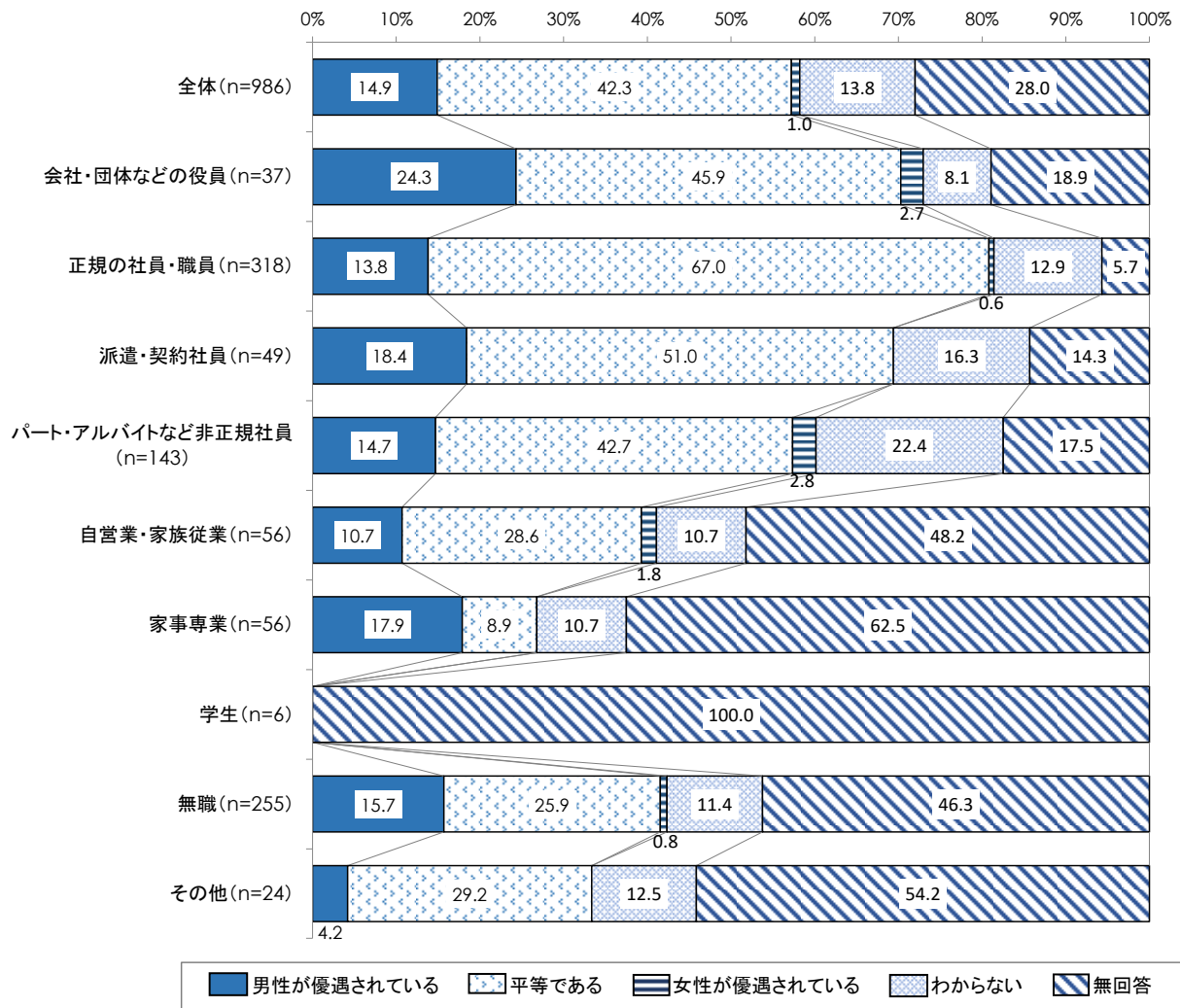
性別にみると、男性は女性より「平等である」の割合が8ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、家事専業を除くすべての職業で「平等である」の割合が最も高くなっており、特に正規の社員・職員、派遣・契約社員では50%を超えています。

【性別にみた職場で性別による差がある(あった)と思うことについて(キ 研修(機会、内容))】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて
（キ 研修(機会、内容)】



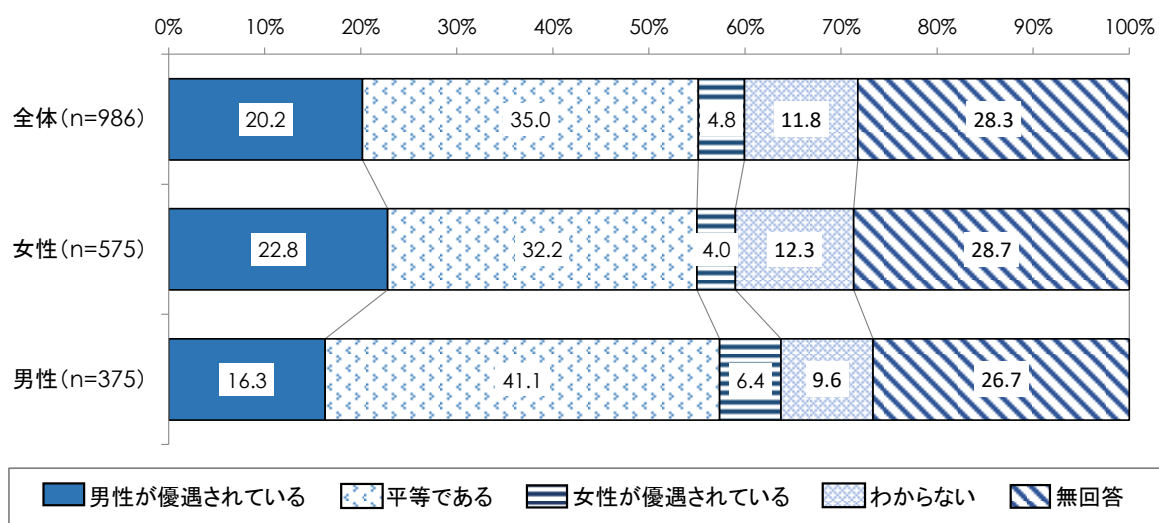
ク 働き続けやすさ

働き続けやすさについてみると、「平等である」35.0%の割合が最も高く、次いで「男性が優遇されている」20.2%、「わからない」11.8%の順となっています。

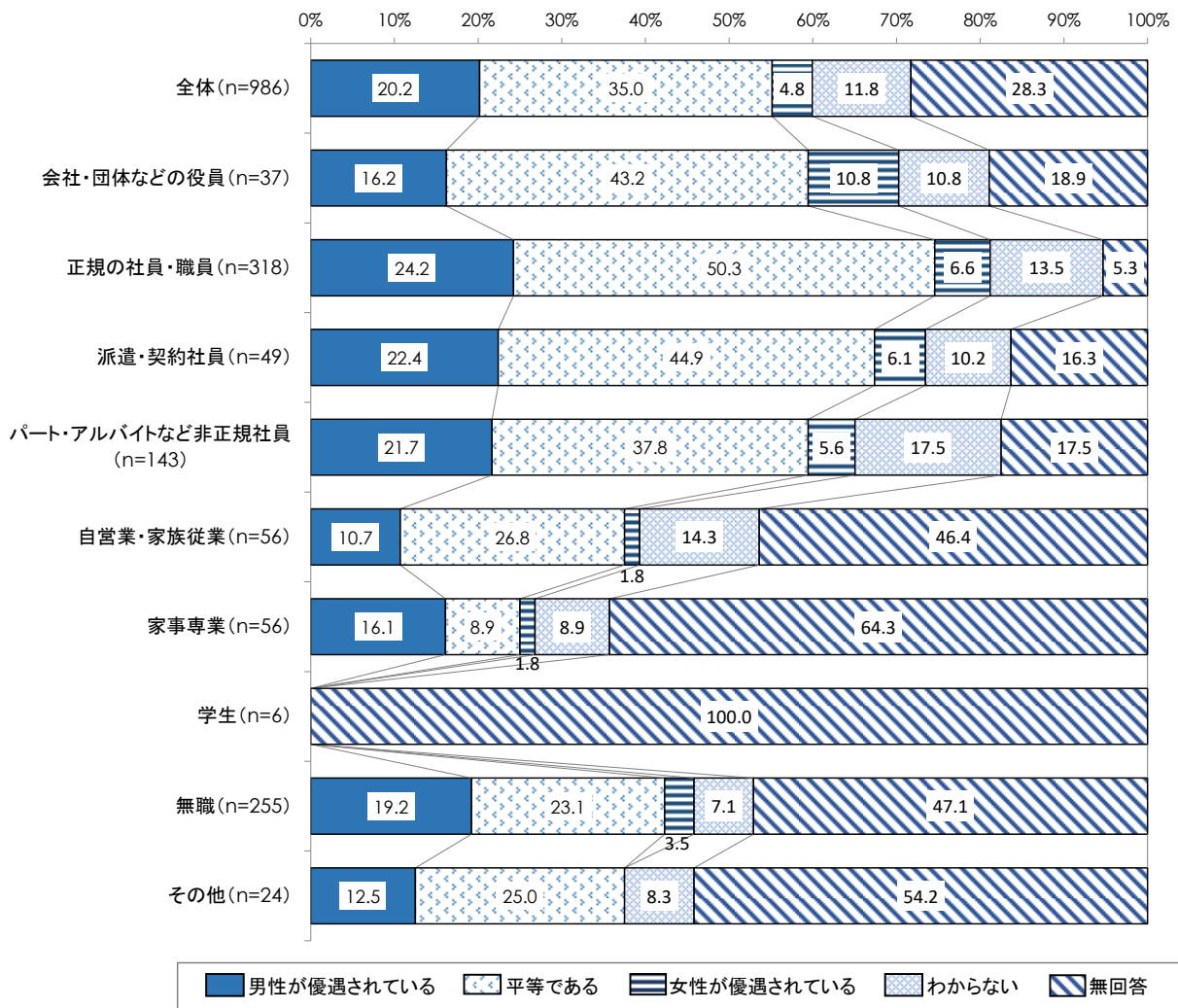
性別にみると、男性は女性より「平等である」の割合が8.9ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、家事専業を除くすべての職業で「平等である」の割合が最も高くなっており、特に正規の社員・職員では50.3%を占めています。

【性別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ク 働き続けやすさ)】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて(ク 働き続けやすさ)】



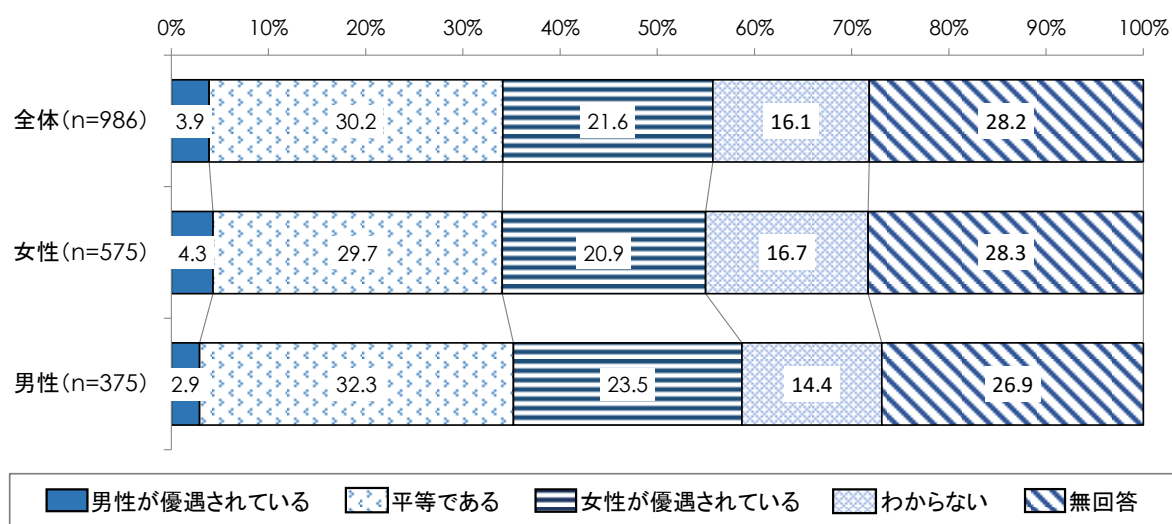
ケ 休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など)

職場での休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など)についてみると、「平等である」30.2%の割合が最も高く、次いで「女性が優遇されている」21.6%、「わからない」16.1%の順となっています。

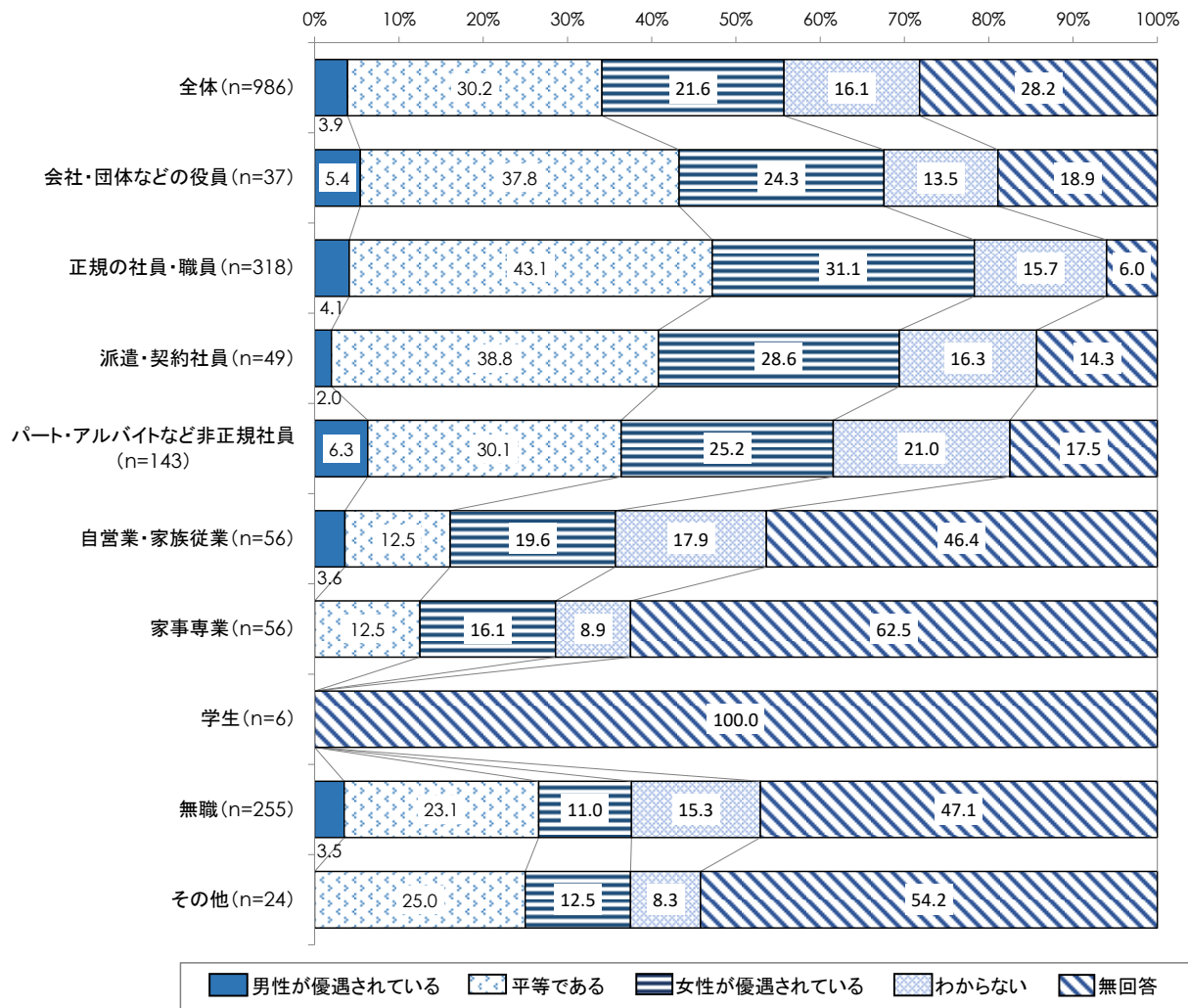
性別にみると、概ね同様の割合となっています。

自身の職業別にみると、自営業・家族従業、家事専業では「女性が優遇されている」の割合が最も高く、その他の職業では「平等である」の割合が最も高くなっています。

【性別にみた職場で性別による差がある(あった)と思うことについて
(ケ 休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など))】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて
（ケ 休暇の取得しやすさ(育児・介護休業など)）】



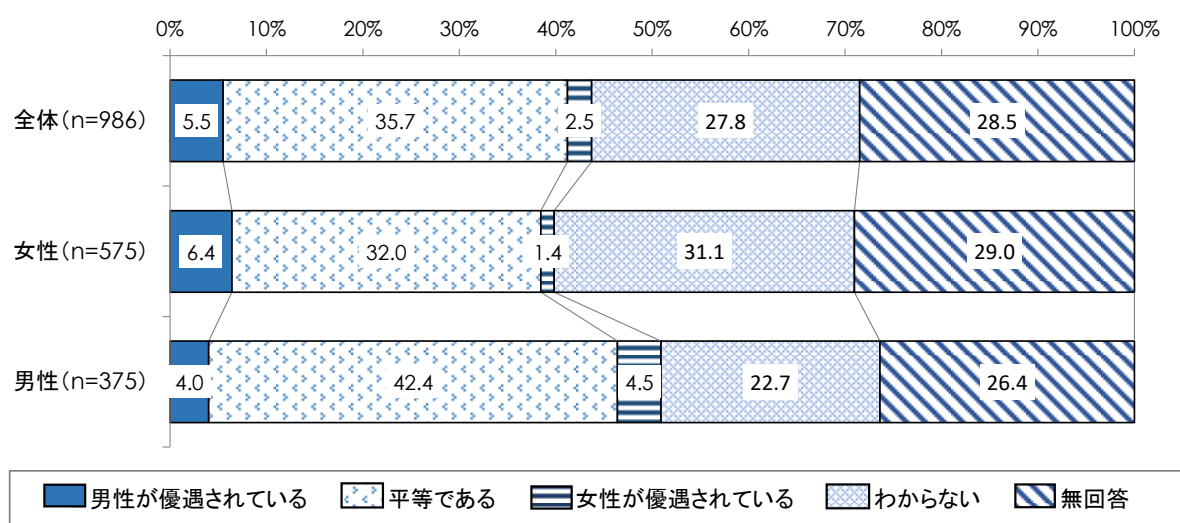
コ 労働環境整備(在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む)

労働環境整備(在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む)についてみると、「平等である」35.7%の割合が最も高く、次いで「わからない」27.8%、「男性が優遇されている」5.5%の順となっています。

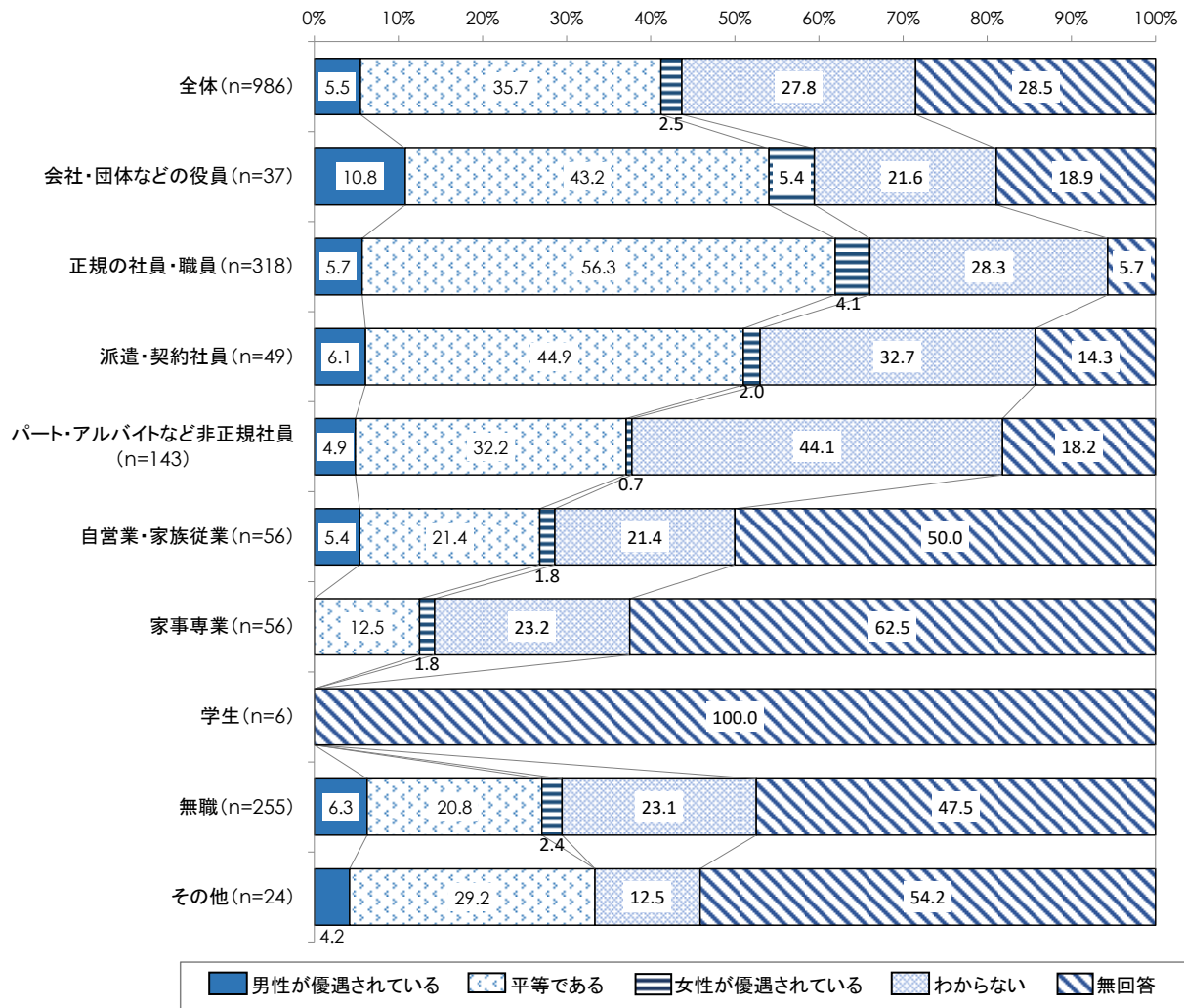
性別にみると、男性は女性より「平等である」の割合が10.4ポイント高くなっています。

自身の職業別にみると、「平等である」の割合は正規の社員・職員、派遣・契約社員、会社・団体などの役員の順に高くなっています。「男性が優遇されている」では、会社・団体などの役員の割合が最も高くなっています。

【性別にみた職場で性別による差がある(あった)と思うことについて
(コ 労働環境整備(在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む))】



【自身の職業別にみた職場で性別による差がある（あった）と思うことについて
 (コ 労働環境整備(在宅勤務、テレワークなどの勤務形態も含む))】



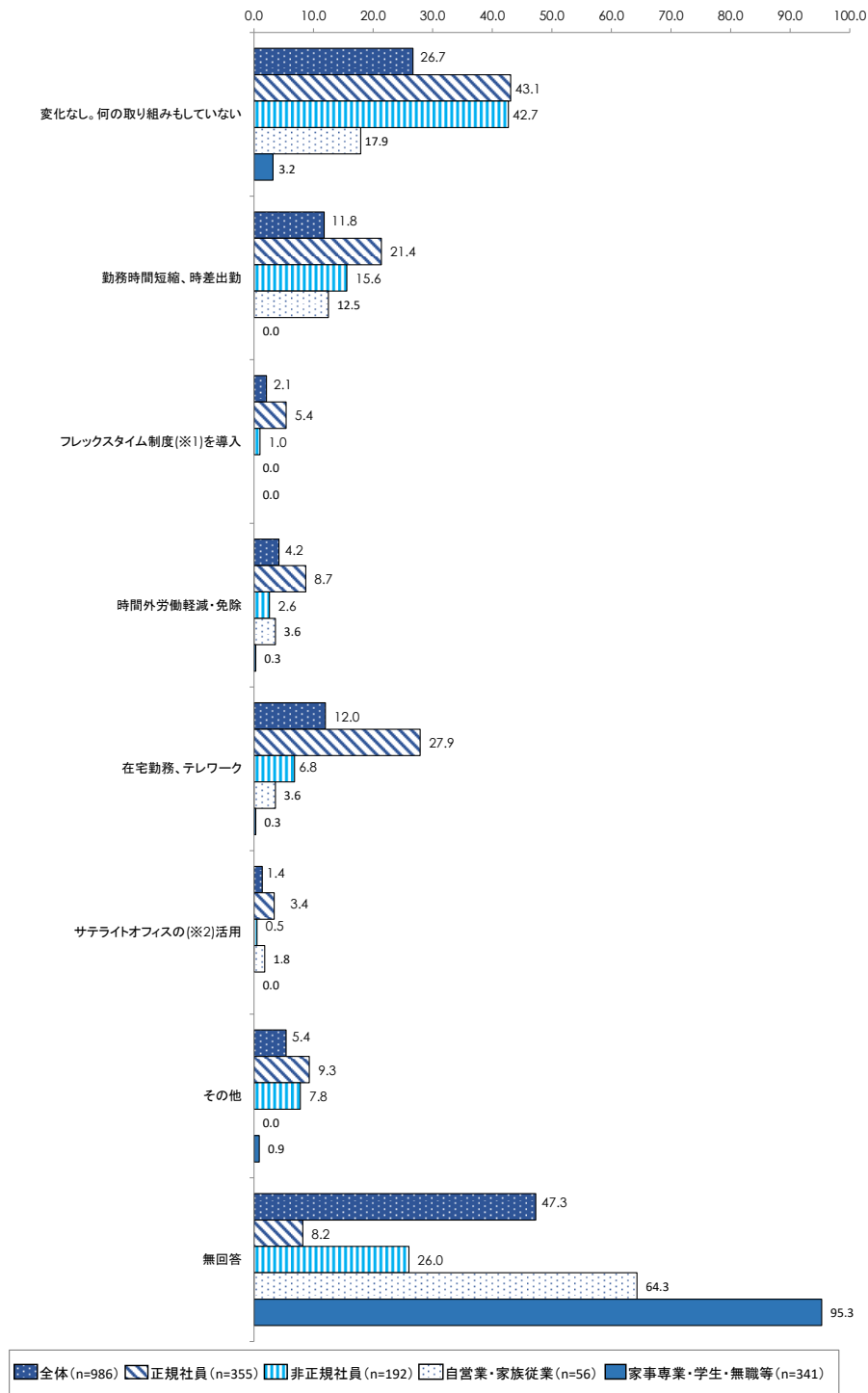
問 8. <<就職している方にうかがいます>> →そのほかの方は問 9 へ

今回の新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響で、あなたの職場の働き方改革は進んだと感じますか。また、どのような取り組みをされていますか(されましたか)。(変化なし。何の取り組みもしていない以外はあてはまるものすべてに○を)

新型コロナウイルスの影響での、職場の働き方改革の変化をみると、「変化なし。何の取り組みもしていない」26.7%の割合が最も高く、次いで「在宅勤務、テレワーク」12.0%、「勤務時間短縮、時差出勤」11.8%の順となっています。「その他」としては「感染症予防対策の徹底」、「Web 会議」、「休業」などの回答がありました。

雇用形態別にみると、正規社員は「在宅勤務、テレワーク」の割合が、全体と比べ15.9ポイント高くなっています。

【 雇用形態別にみた自身の職場の働き方改革について 】



※1 フレックスタイム制度とは、労働時間だけを決めて、始業時刻と終業時刻を自分の意志で自由に選択できる制度をいいます。

※2 サテライトオフィスとは、通勤による混雑を避け、会社（本拠）で行う業務と同等の仕事ができるように情報・通信設備を備え、かつ勤務者の自宅により近い、または混雑が少ない経路で通勤できる場所に立地したオフィスのことをいいます。

問9. <<全員にうかがいます>>

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

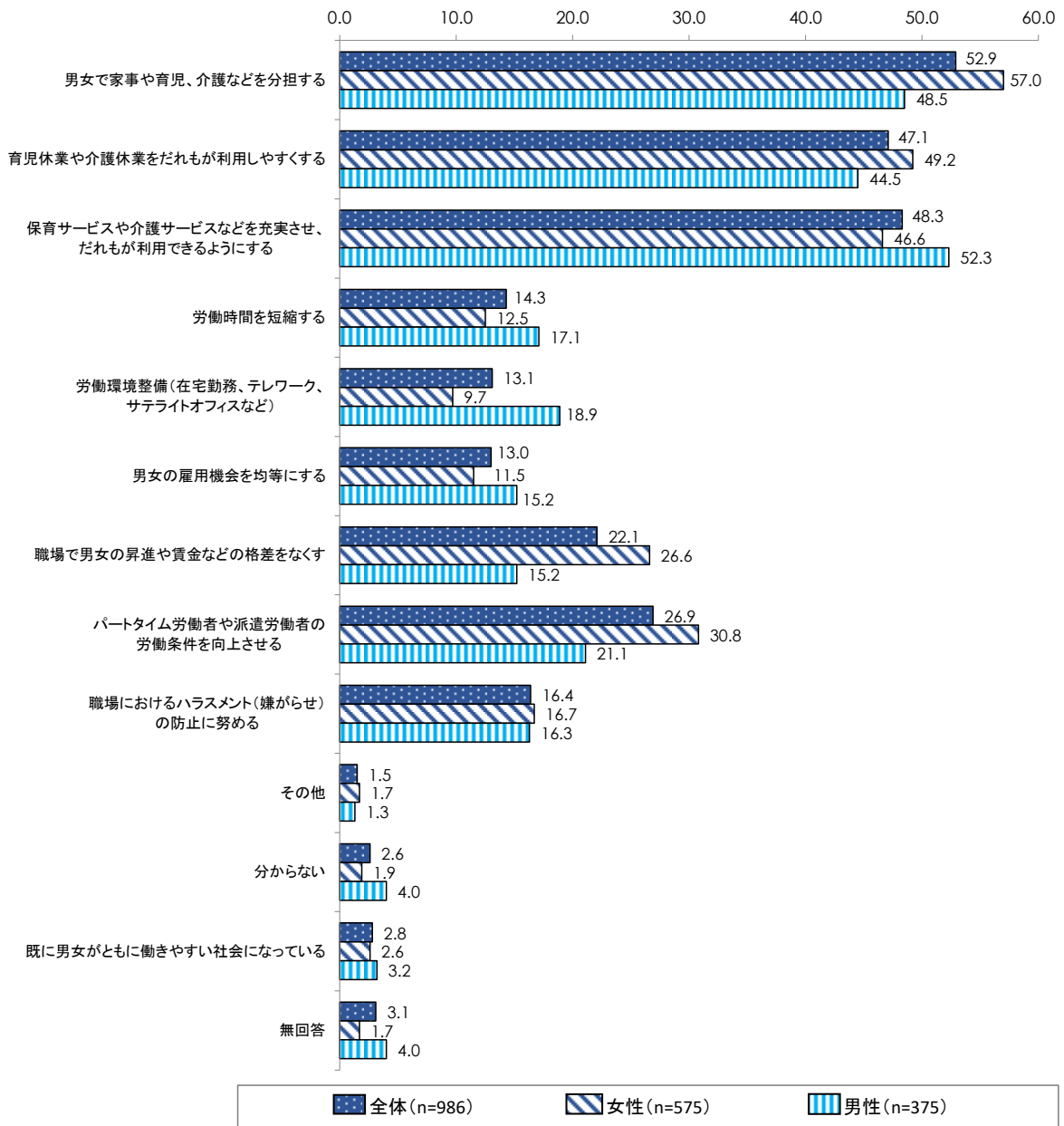
(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについてみると、「男女で家事や育児、介護などを分担する」52.9%の割合が最も高く、次いで「保育サービスや介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする」48.3%、「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」47.1%の順となっています。「その他」としては「男女平等であるという教育」、「男女関係なく自由に働き方を決める仕組み」などの回答がありました。

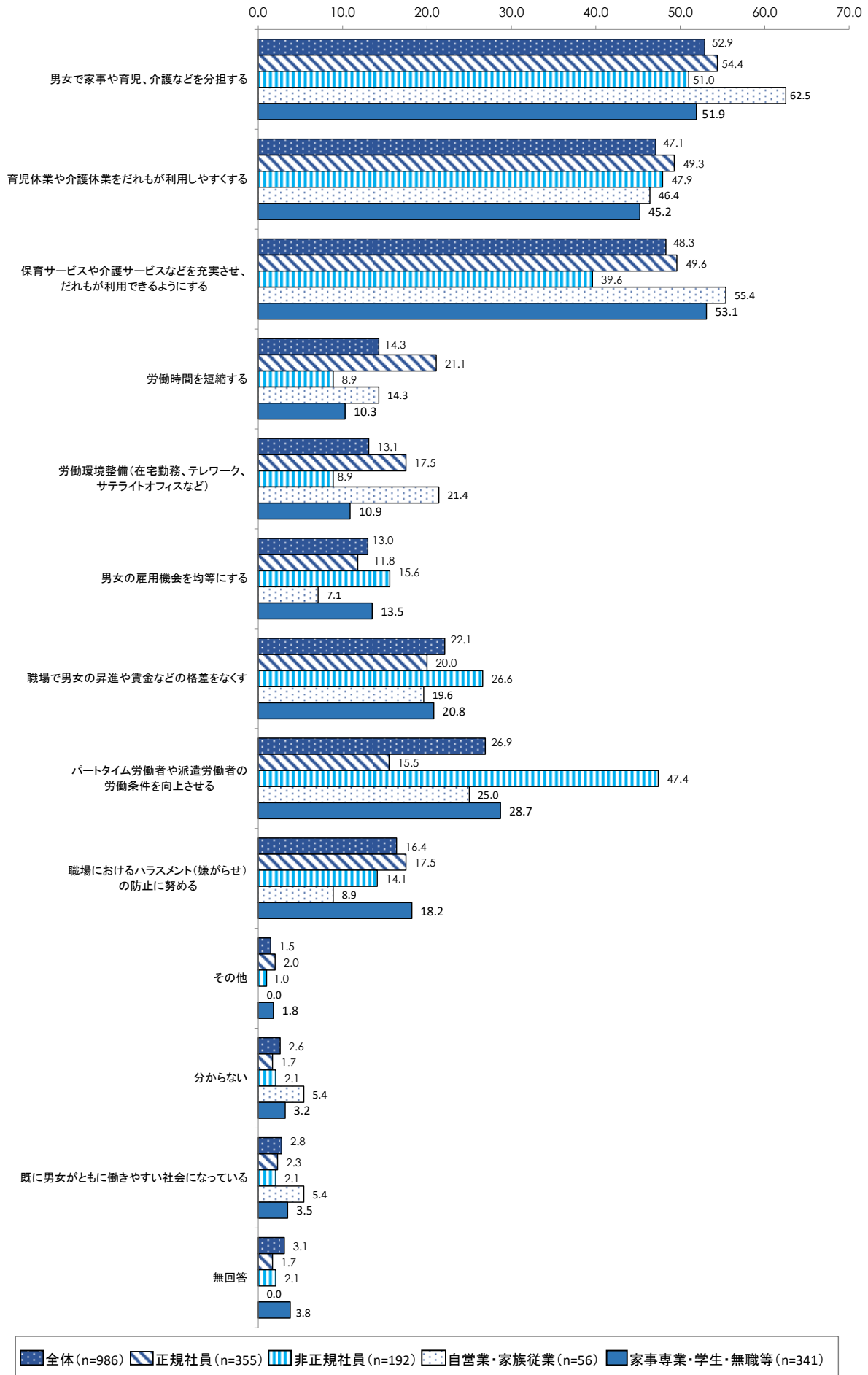
性別にみると、男性は「保育サービスや介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする」の割合が最も高く、女性は「男女で家事や育児、介護などを分担する」の割合が最も高くなっています。

雇用形態別にみると、家事専業・学生・無職等では「保育サービスや介護サービスなどを充実させ、だれもが利用できるようにする」の割合が最も高く、その他の職業は「男女で家事や育児、介護などを分担する」の割合が最も高くなっています。また、非正規社員では「パートタイム労働者や派遣労働者の労働条件を向上させる」の割合も高くなっています。

【性別にみた男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについて】



【雇用形態別にみた男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについて】



4 家庭生活、地域活動と、仕事とのかかわりについて

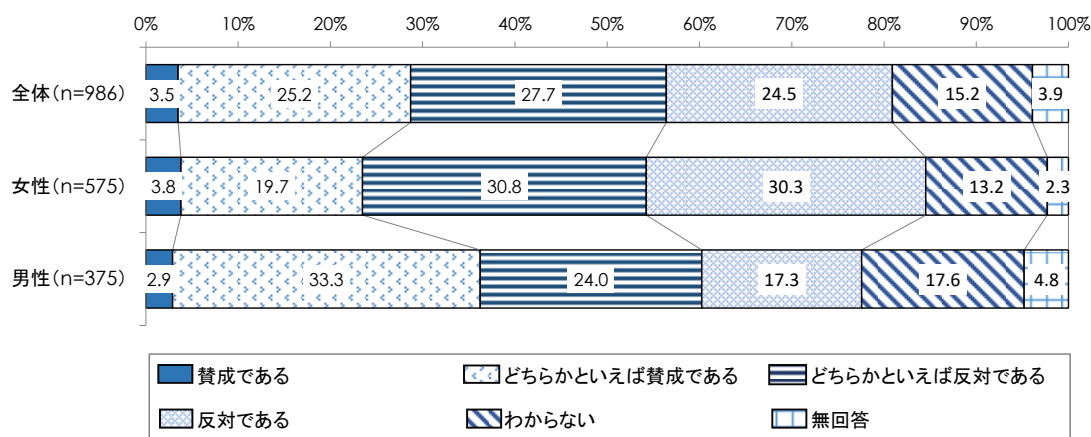
問 10. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてみると、「どちらかといえば反対である」27.7%の割合が最も高く、「どちらかといえば賛成である」25.2%、次いで「反対である」24.5%、「わからない」15.2%の順となっています。

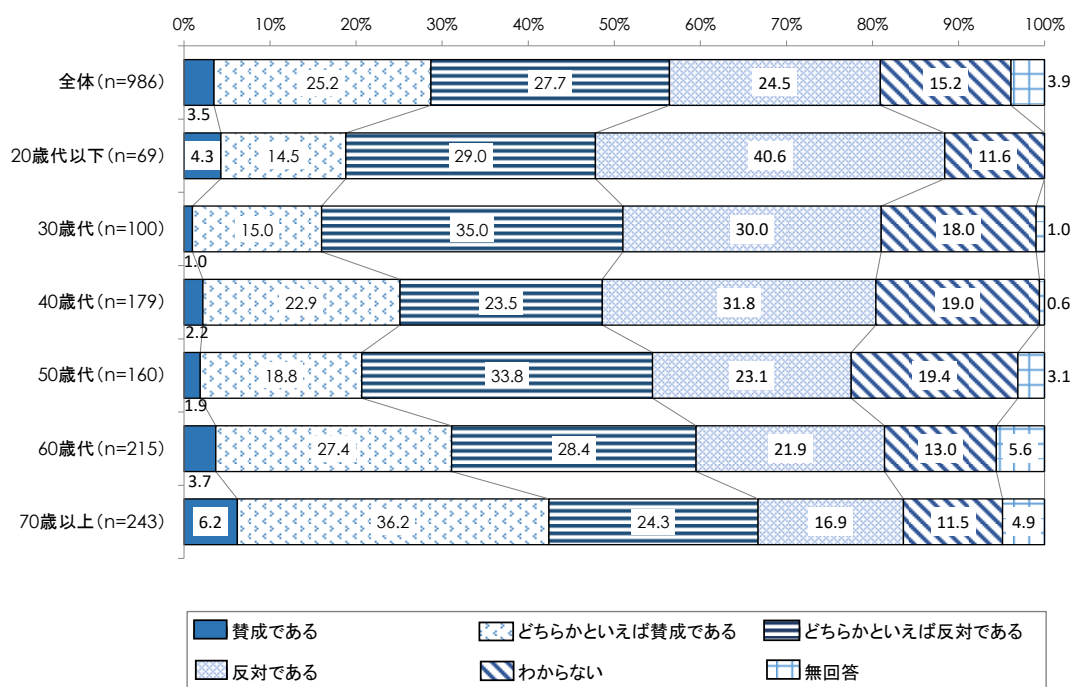
性別にみると、男性は女性より「どちらかといえば賛成である」の割合が13.6ポイント高く、女性は男性より「どちらかといえば反対である」の割合が6.6ポイント、「反対である」の割合が13ポイント高くなっています。

年代別にみると、「賛成である」「どちらかといえば賛成である」を合わせた『賛成』の割合は70歳以上、60歳代、40歳代の順に高く、「どちらかといえば反対である」「反対である」を合わせた『反対』の割合は20歳代以下、30歳代、50歳代の順に高くなっています。

【性別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】

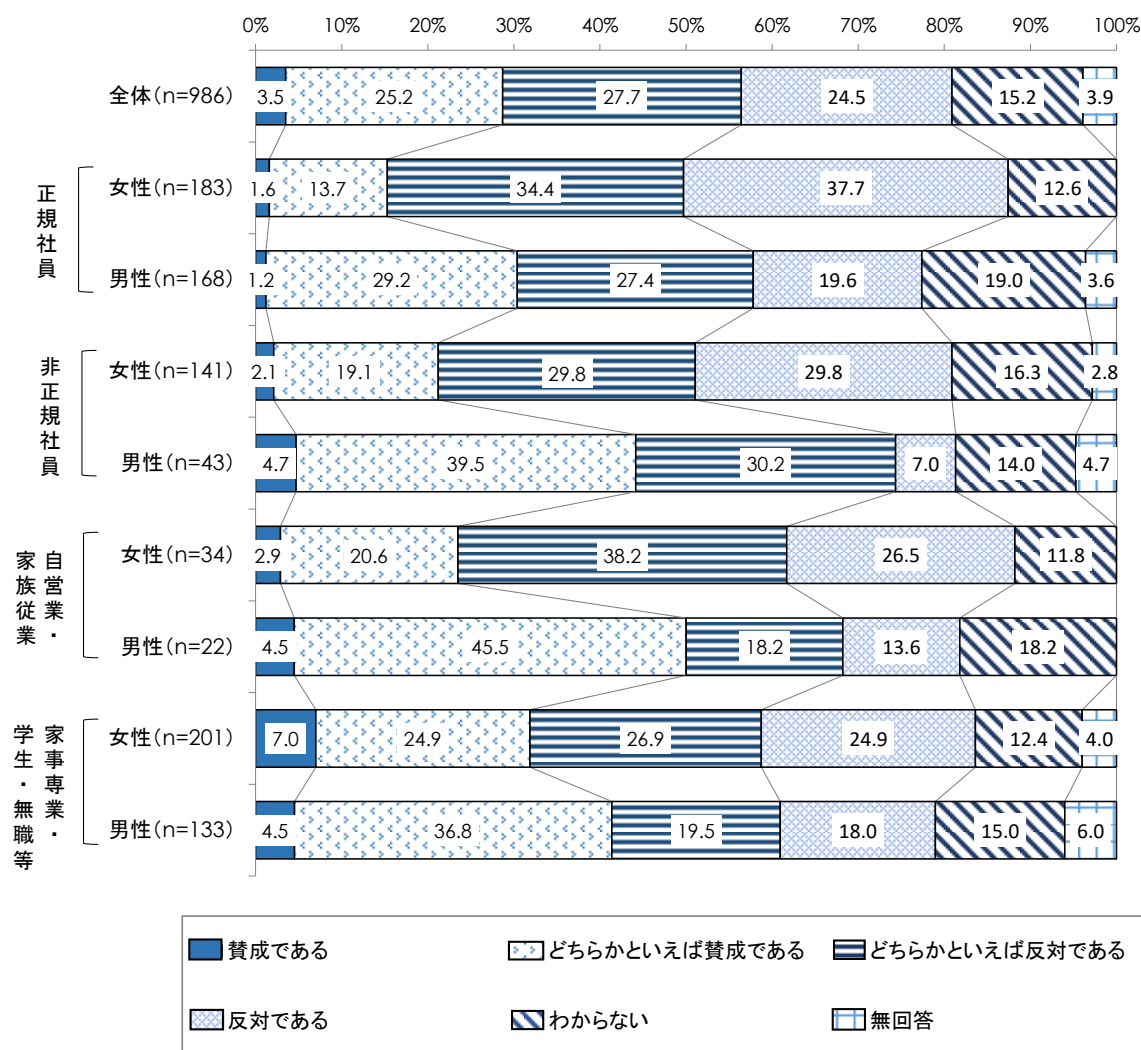


【年代別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



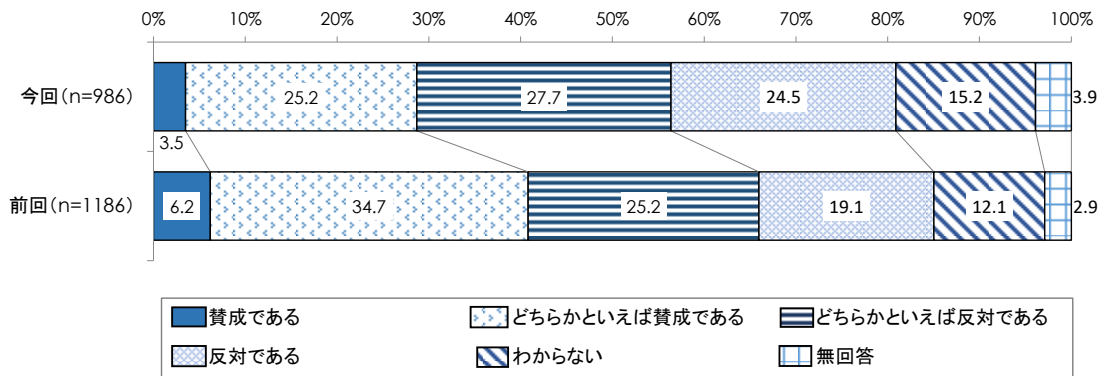
雇用形態別・性別にみると、正規社員の女性は他の女性と比べて『反対』の割合が高くなっています。非正規社員、家事専業・学生・無職等の男性は、正規社員の男性と比べて「どちらかといえば賛成である」の割合が高くなっていますが、その理由として、定年退職後である60歳以上の男性で、「どちらかといえば賛成である」を選択する方が多かったことがあげられます。

【雇用形態別・性別にみた「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について】



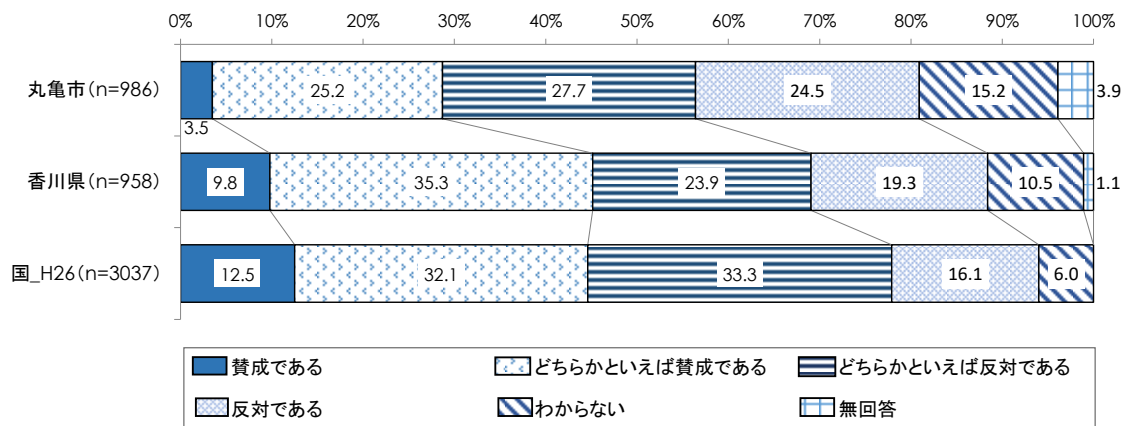
前回調査と比較すると、『賛成』の割合は12.2ポイント低下し、『反対』の割合は7.9ポイント高くなっています。

【 前回調査と比較した「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について 】



香川県及び国と比較すると、『賛成』の割合は香川県、国より約16ポイント低くなっています。

【 香川県・国と比較した「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について 】



問 11. あなたの家庭では、(ア)から(カ)までの家事などはどなたがされていますか(今回の新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前後でお伺いします)。また、あなたの理想ではどのようにしたいと思いますか。(1)(2)は結婚(事実婚も含みます)している方で該当する項目のみ、(3)はすべての方がお答えください。(〇は各項目1つずつ)

(1) コロナ影響前【1~2月頃】(結婚している方)

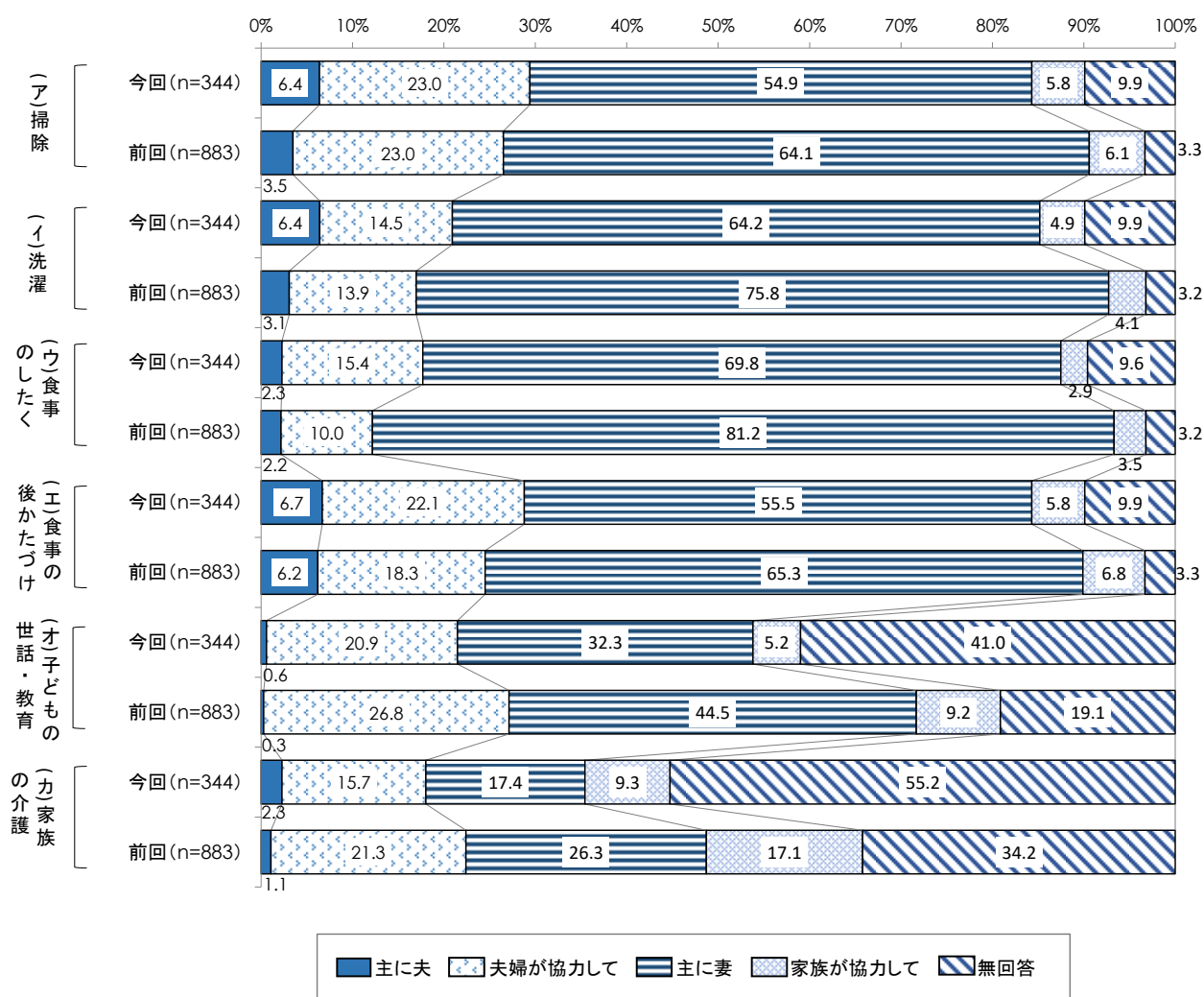
【全体】

結婚している方の家庭での家事などの役割分担についてみると、「主に夫」はすべての項目で10%未満となっており、「主に妻」は「(ウ) 食事のしたく」69.8%の割合が最も高く、次いで「(イ) 洗濯」64.2%、「(エ) 食事の後かたづけ」55.5%、「(ア) 掃除」54.9%の順となっています。

「夫婦が協力して」は「(ア) 掃除」23.0%の割合が最も高く、次いで「(エ) 食事の後かたづけ」22.1%、「(オ) 子どもの世話・教育」20.9%の順となっています。

前回調査と比較すると、すべての項目で「主に妻」の割合が低下しており、「(イ) 洗濯」、「(ウ) 食事のしたく」、「(エ) 食事の後かたづけ」は「夫婦が協力して」の割合が高くなっています。

【 コロナ影響前：前回調査と比較した家事などの役割分担について 】



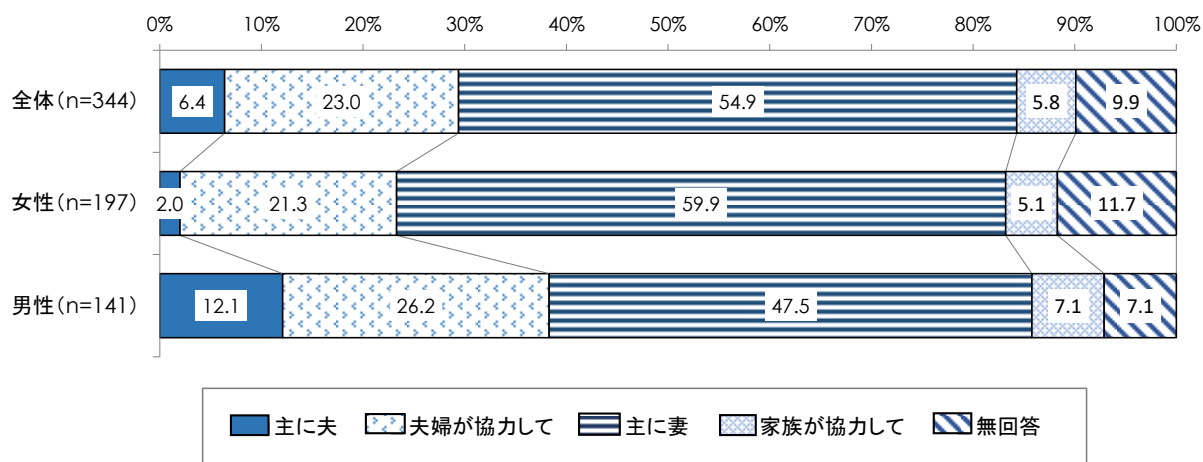
ア 掃除

掃除についてみると、「主に妻」54.9%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」23.0%、「主に夫」6.4%の順となっています。

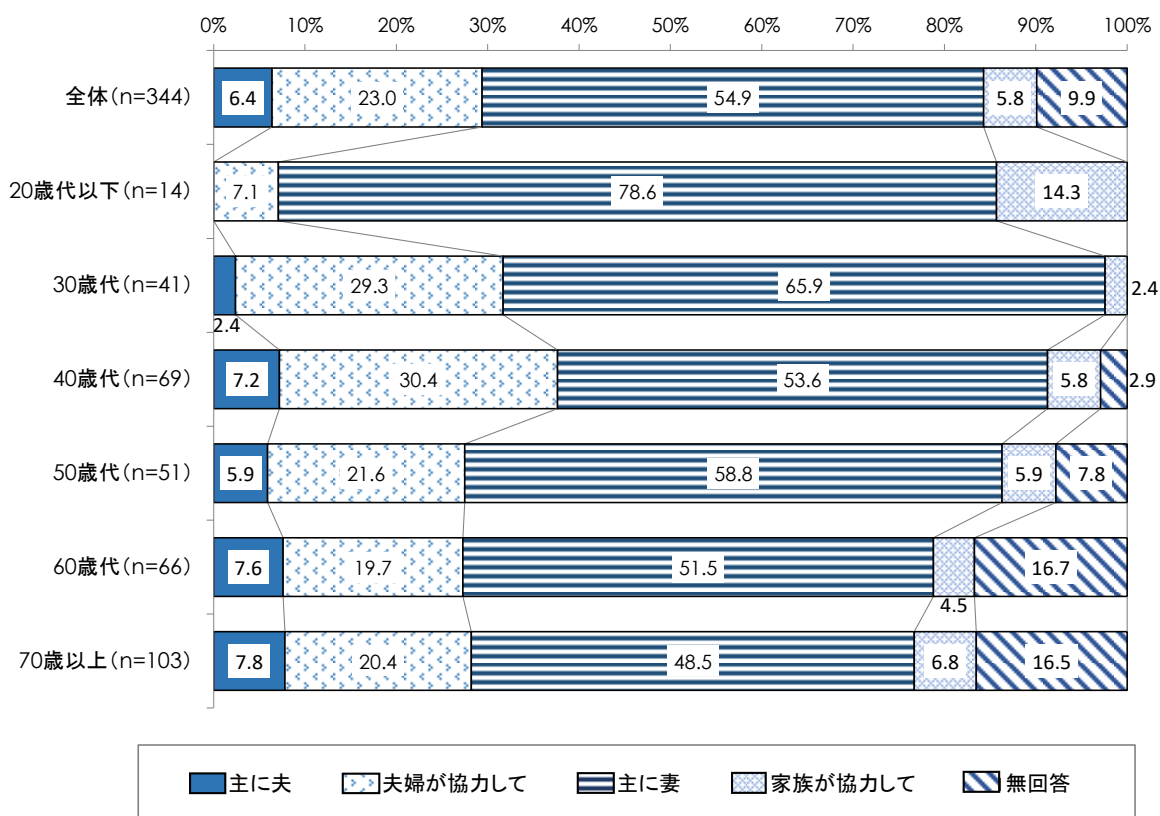
性別にみると、男性は女性より「主に夫」の割合が10.1ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合は70歳以上を除くすべての年代で50%を超えており、「夫婦が協力して」の割合は40歳代、30歳代、50歳代の順で高くなっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除) 】



【 コロナ影響前：年代別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除) 】



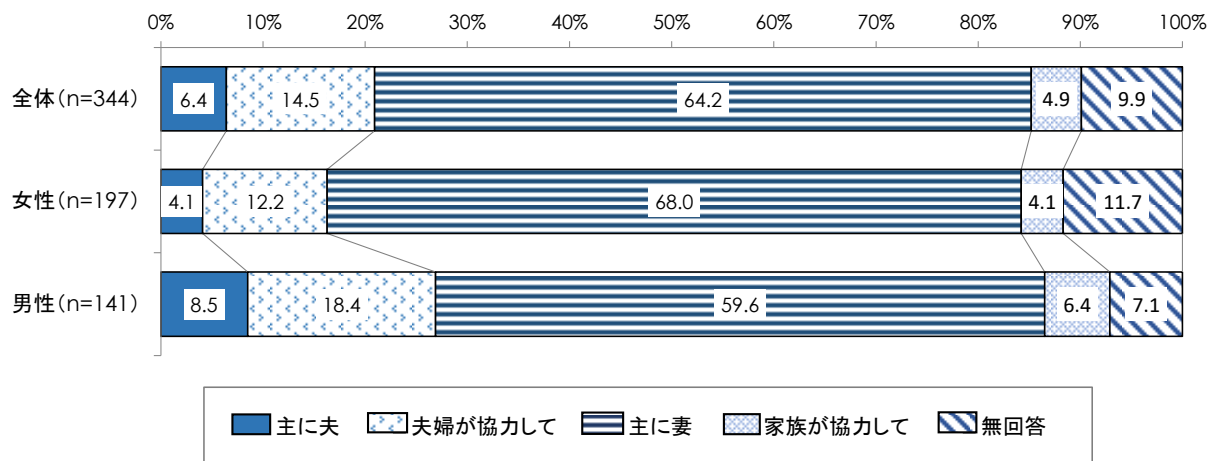
イ 洗濯

洗濯についてみると、「主に妻」64.2%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」14.5%、「主に夫」6.4%の順となっています。

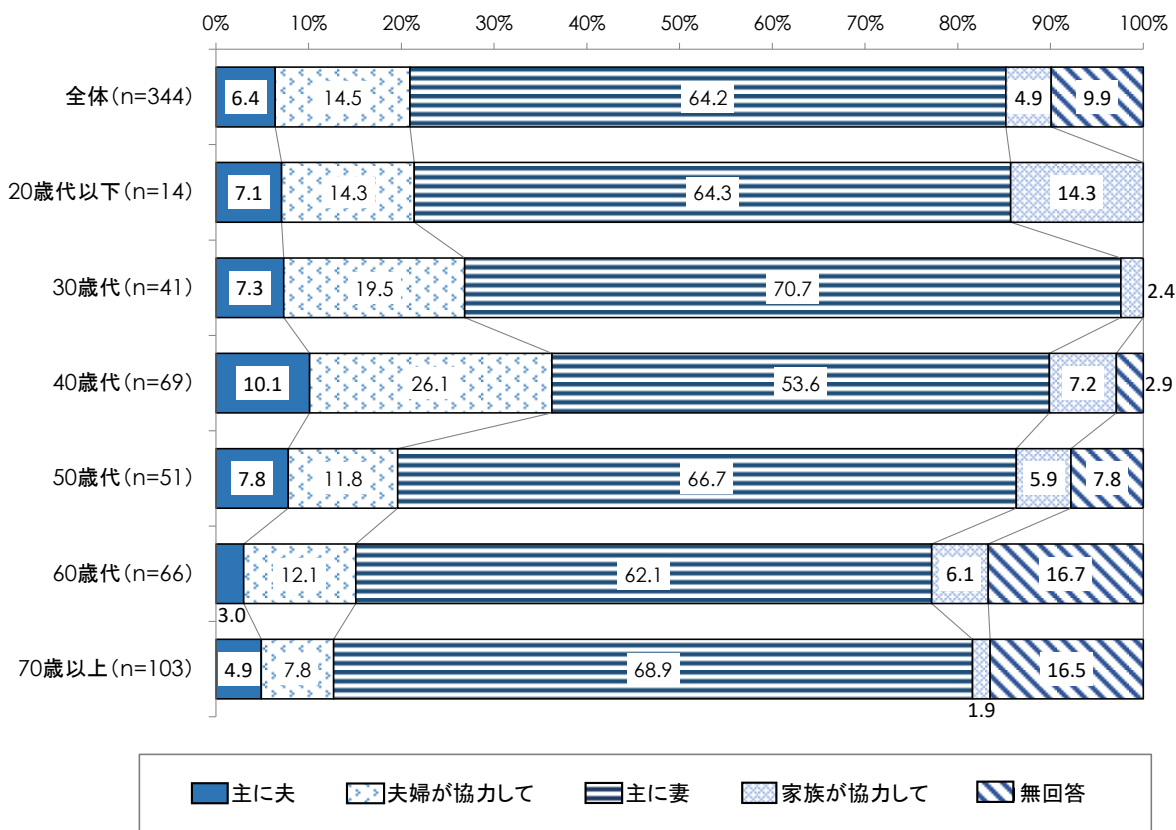
性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が8.4ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合はすべての年代で50%を超えており、「夫婦が協力して」の割合は40歳代、30歳代、20歳代以下の順で高くなっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯) 】



【 コロナ影響前：年代別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯) 】



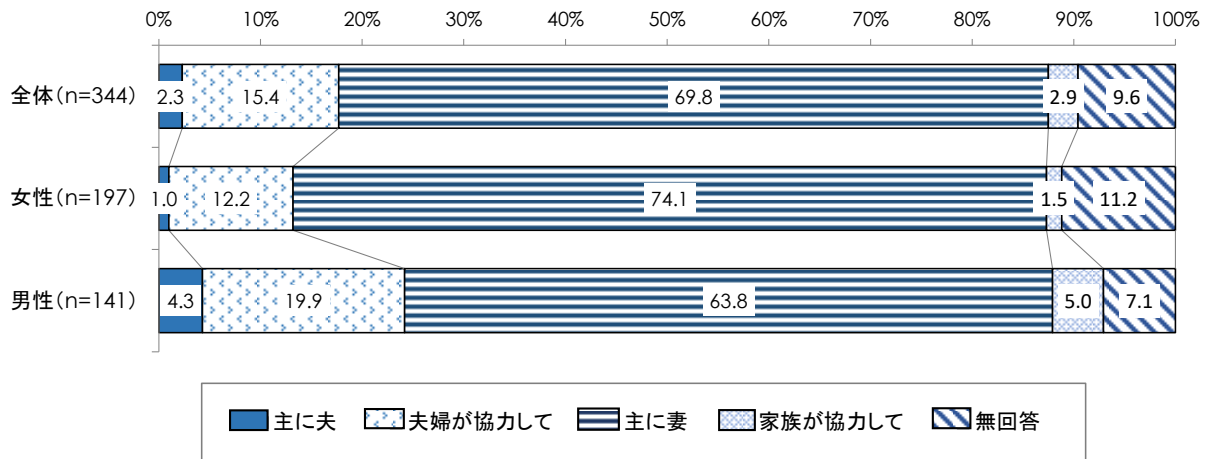
ウ 食事のしたく

食事のしたくについてみると、「主に妻」69.8%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」15.4%、「家族が協力して」2.9%の順となっています。

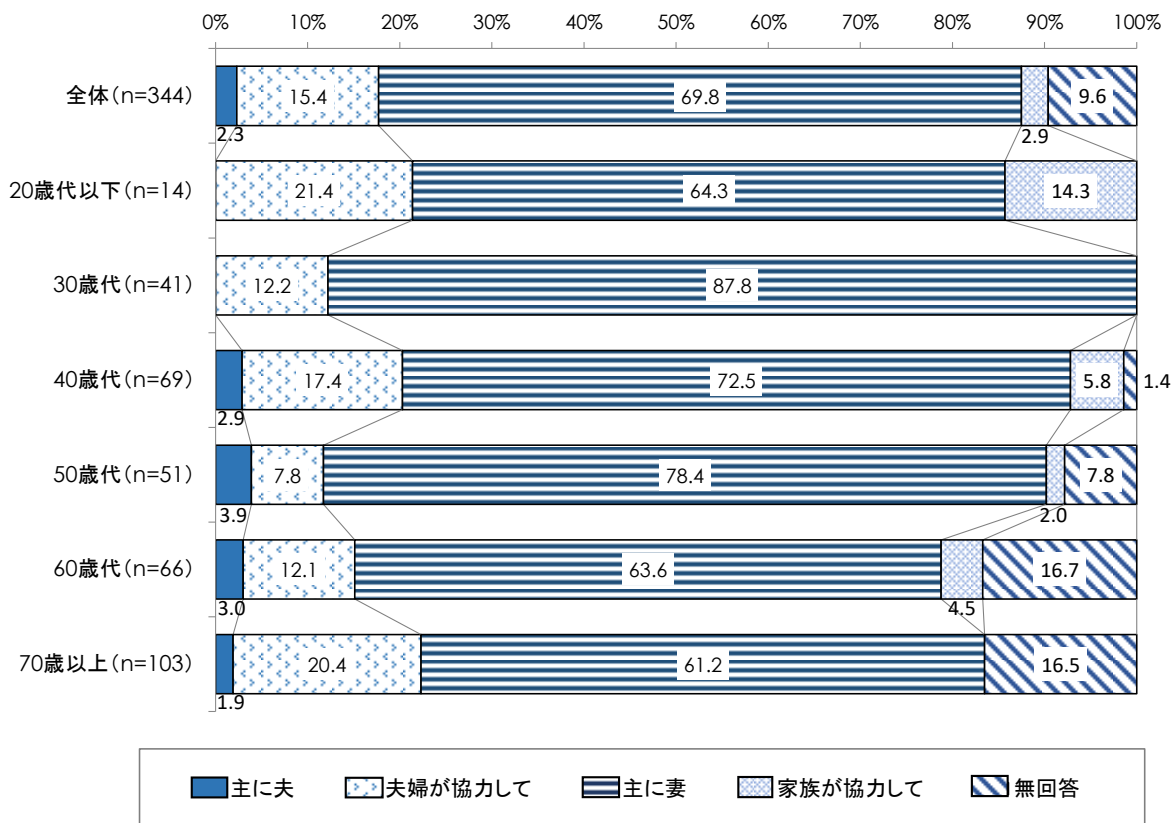
性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が10.3ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合はすべての年代で60%を超えており、「夫婦が協力して」の割合は20歳代以下、70歳以上、40歳代の順で高くなっています。

【コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事のしたく)】



【コロナ影響前：年代別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事のしたく)】



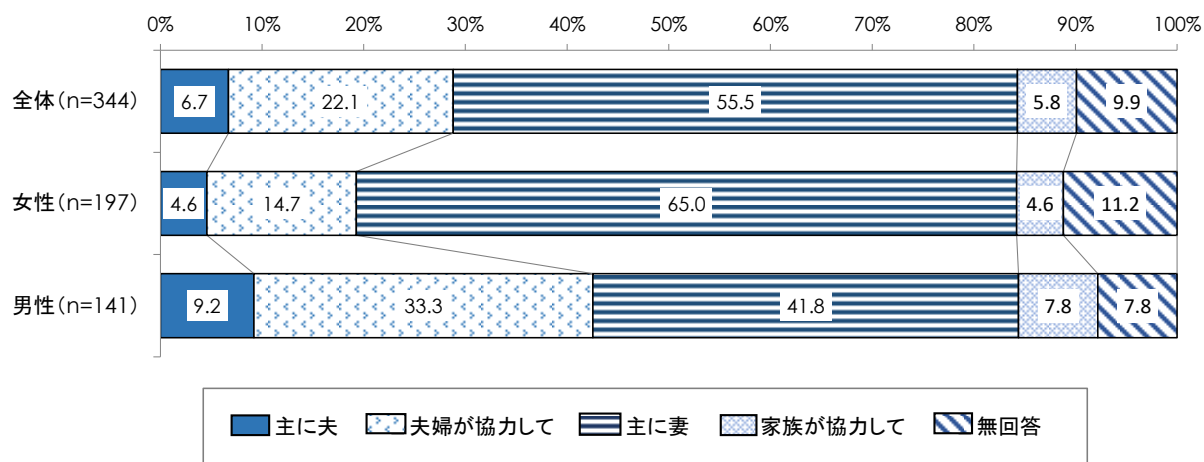
エ 食事の後かたづけ

食事の後かたづけについてみると、「主に妻」55.5%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」22.1%、「主に夫」6.7%の順となっています。

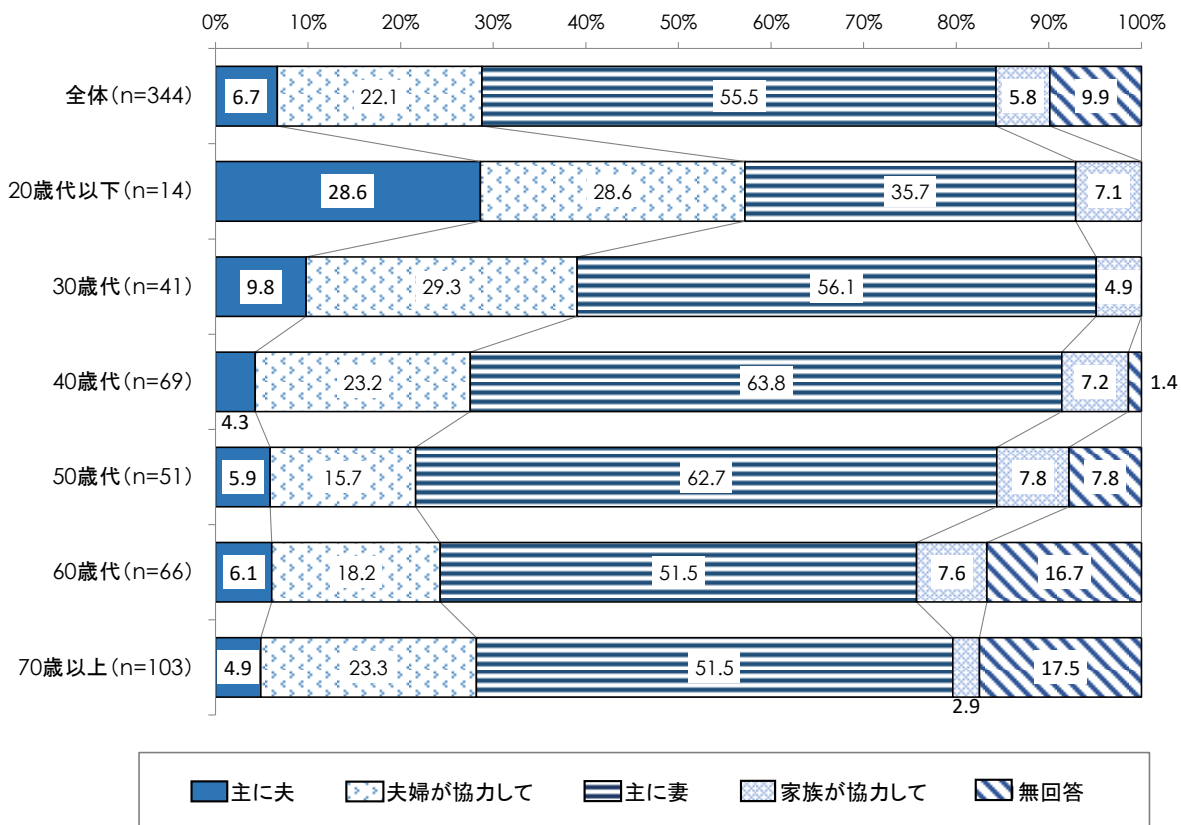
性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が23.2ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合は20歳代以下を除くすべての年代で50%を超えており、「夫婦が協力して」の割合は30歳代、20歳代以下、70歳以上の順で高くなっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後かたづけ) 】



【 コロナ影響前：年代別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後かたづけ) 】



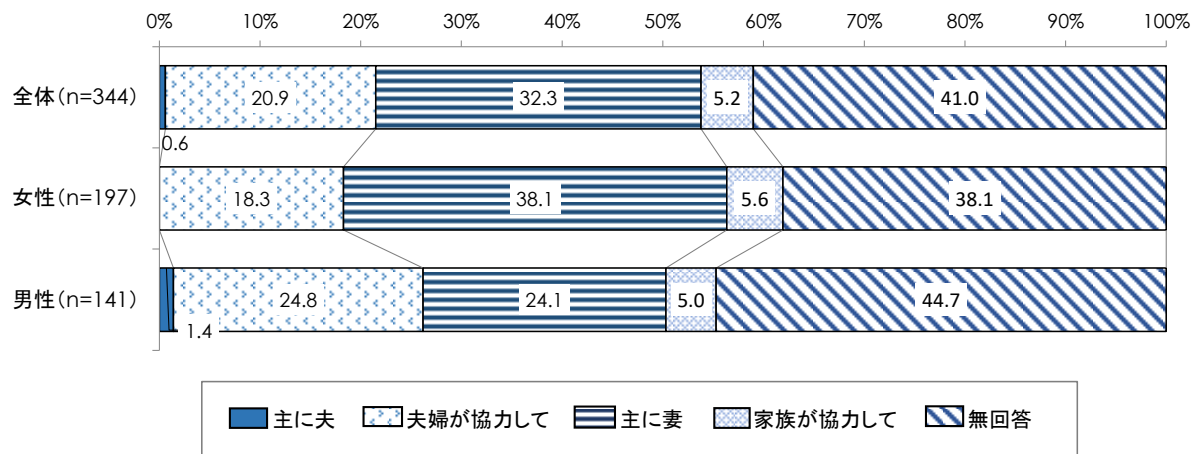
オ 子どもの世話・教育

子どもの世話・教育についてみると、「主に妻」32.3%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」20.9%、「家族が協力して」5.2%の順となっています。

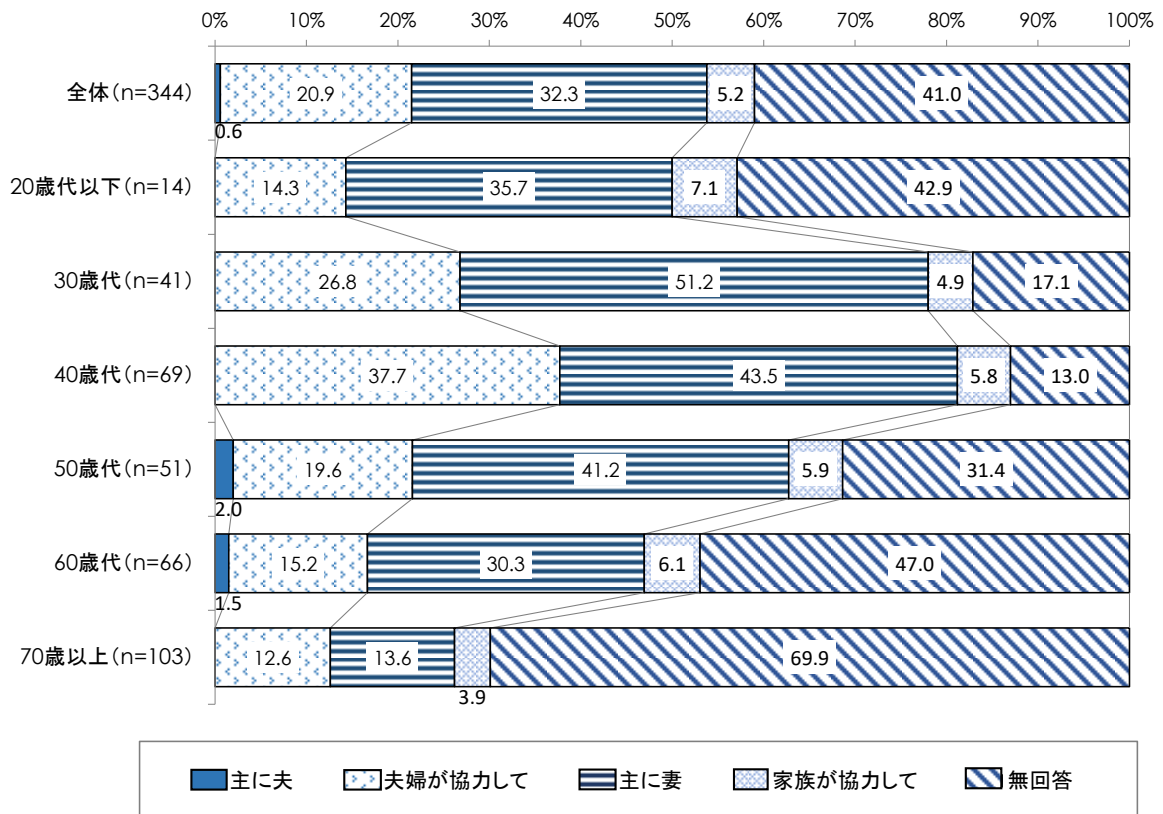
性別にみると、男性は「夫婦が協力して」、女性は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代以下を除くと年代が上がるにつれて「主に妻」の割合が低くなっており、「夫婦が協力して」の割合は40歳代、30歳代、50歳代の順で高くなっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育) 】



【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育) 】



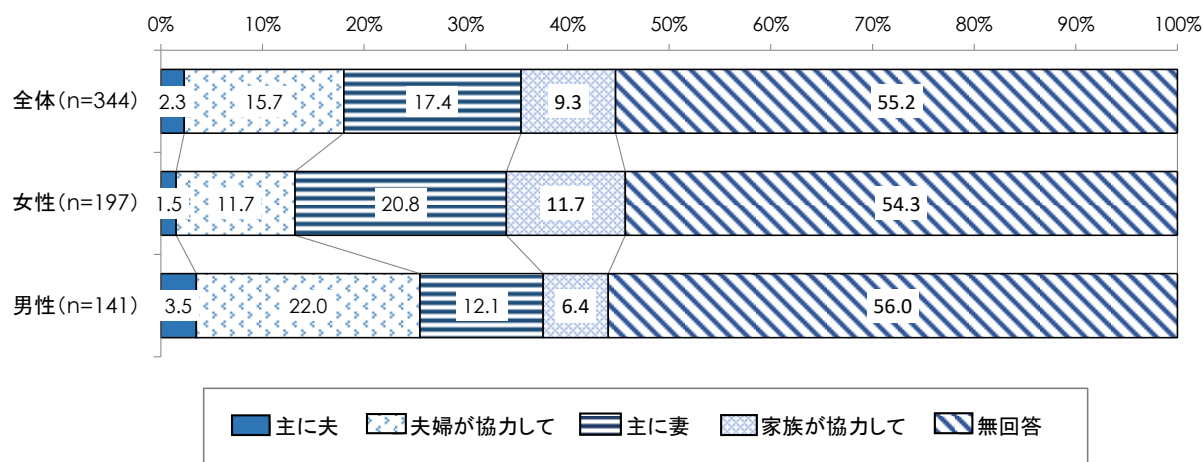
カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「主に妻」17.4%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」15.7%、「家族が協力して」9.3%の順となっています。

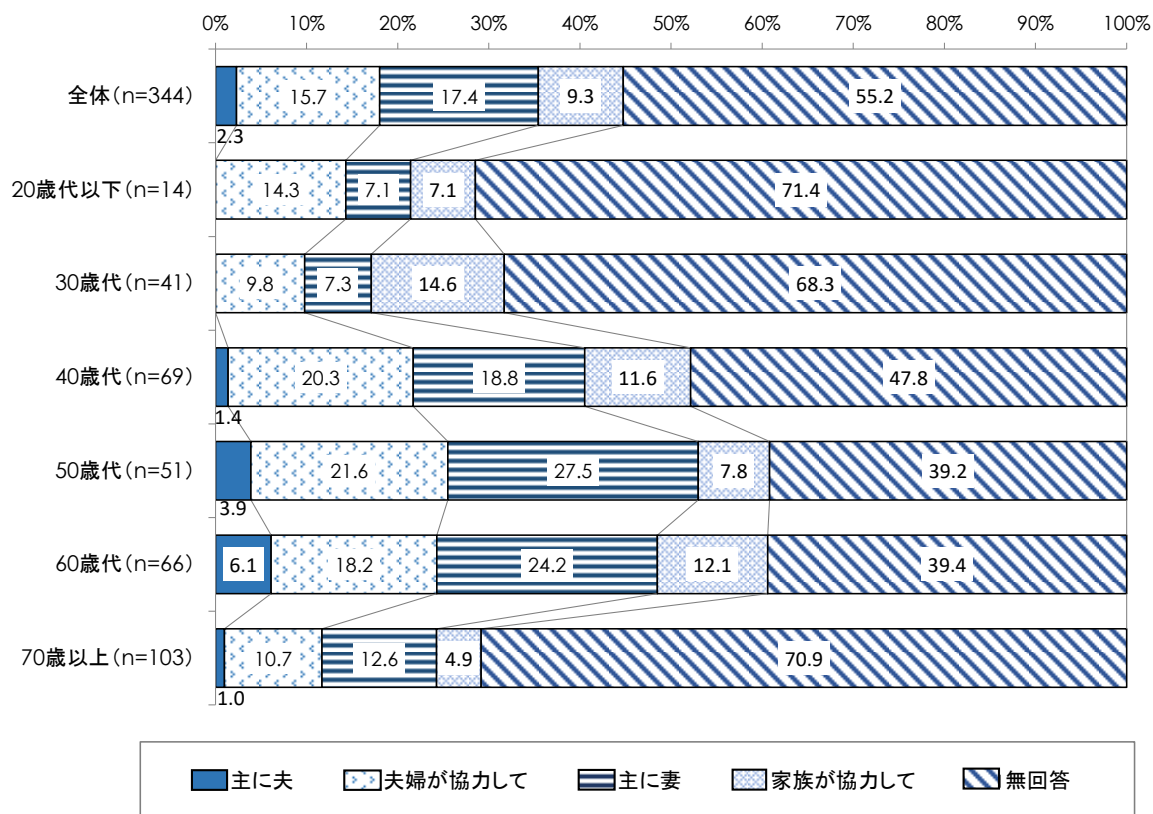
性別にみると、男性は「夫婦が協力して」、女性は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代以下、40歳代は「夫婦が協力して」、30歳代は「家族が協力して」、その他の年代は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 コロナ影響前：性別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護) 】



【 コロナ影響前：年代別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護) 】

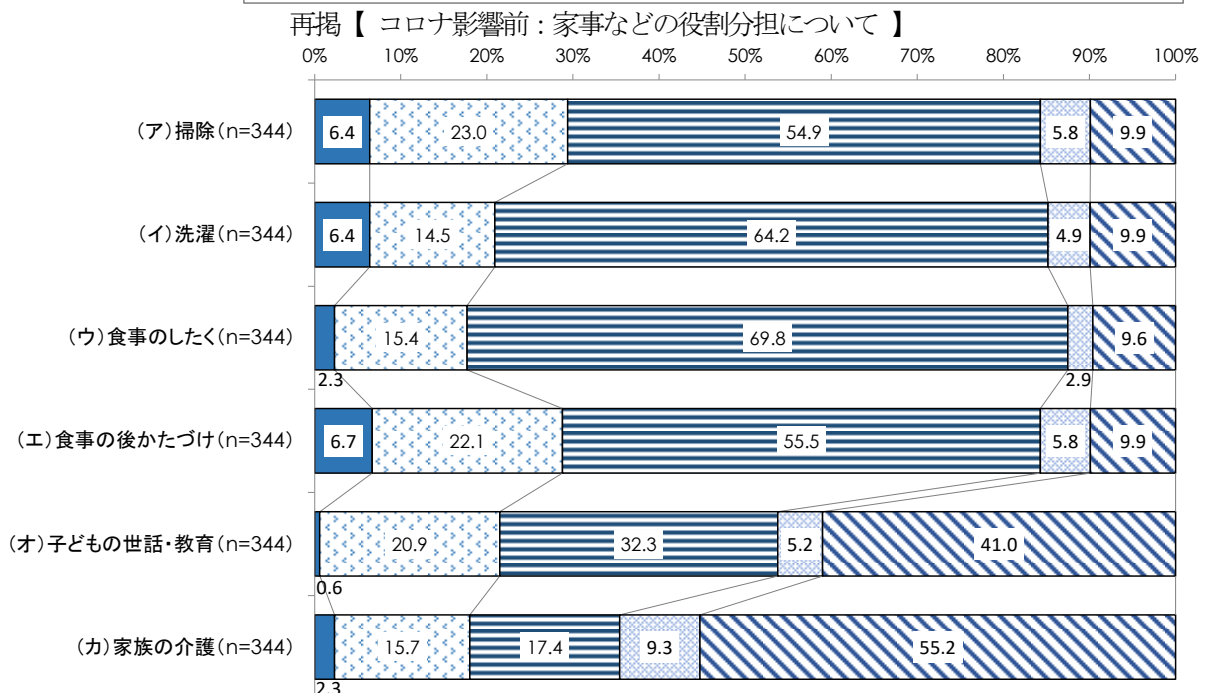
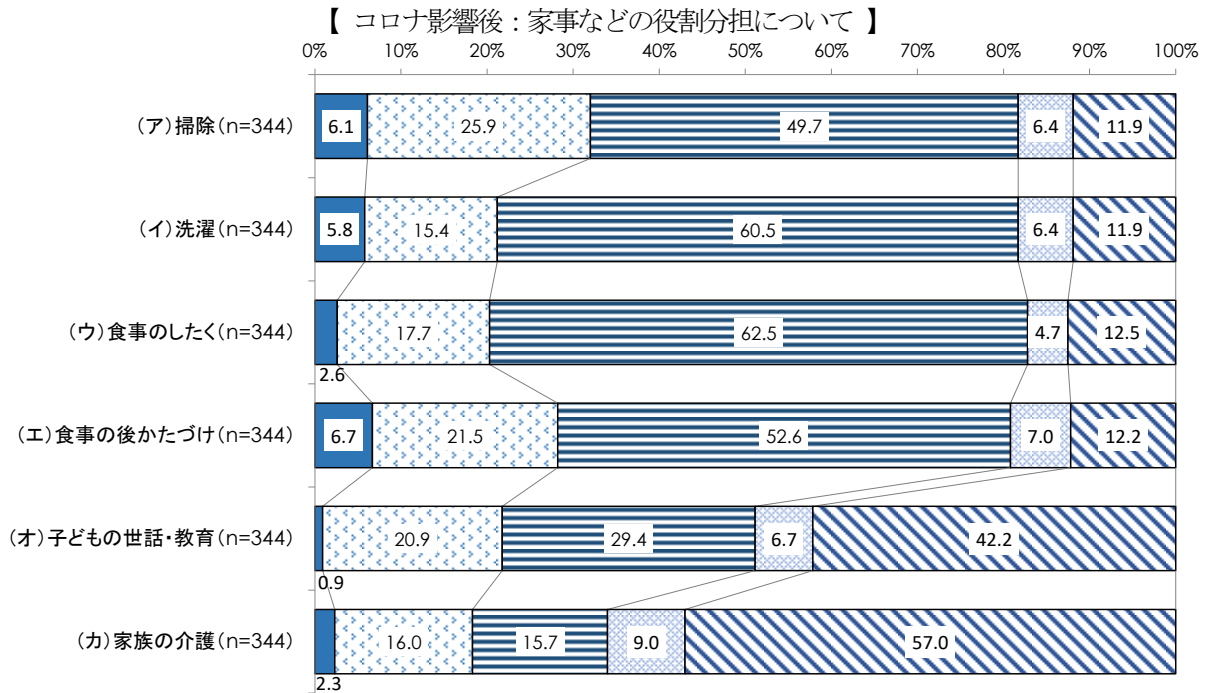


(2) コロナ影響後【4～5月頃】（結婚している方）

【全体】

結婚している方の家庭での家事などの役割分担についてみると、「主に夫」はすべての項目で10%未満となっており、「主に妻」は「(ウ) 食事のしたく」62.5%の割合が最も高く、次いで「(イ) 洗濯」60.5%、「(エ) 食事の後かたづけ」52.6%、「(ア) 掃除」49.7%の順となっています。

「夫婦が協力して」は「(ア) 掃除」25.9%の割合が最も高く、次いで「(エ) 食事の後かたづけ」21.5%、「(オ) 子どもの世話・教育」20.9%の順となっています。



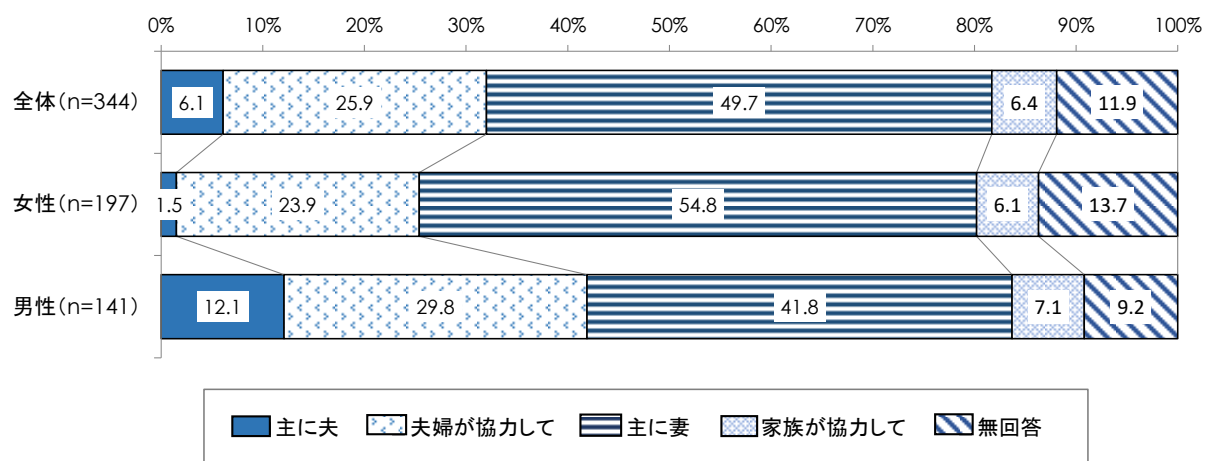
ア 掃除

掃除についてみると、「主に妻」49.7%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」25.9%、「家族が協力して」6.4%の順となっています。

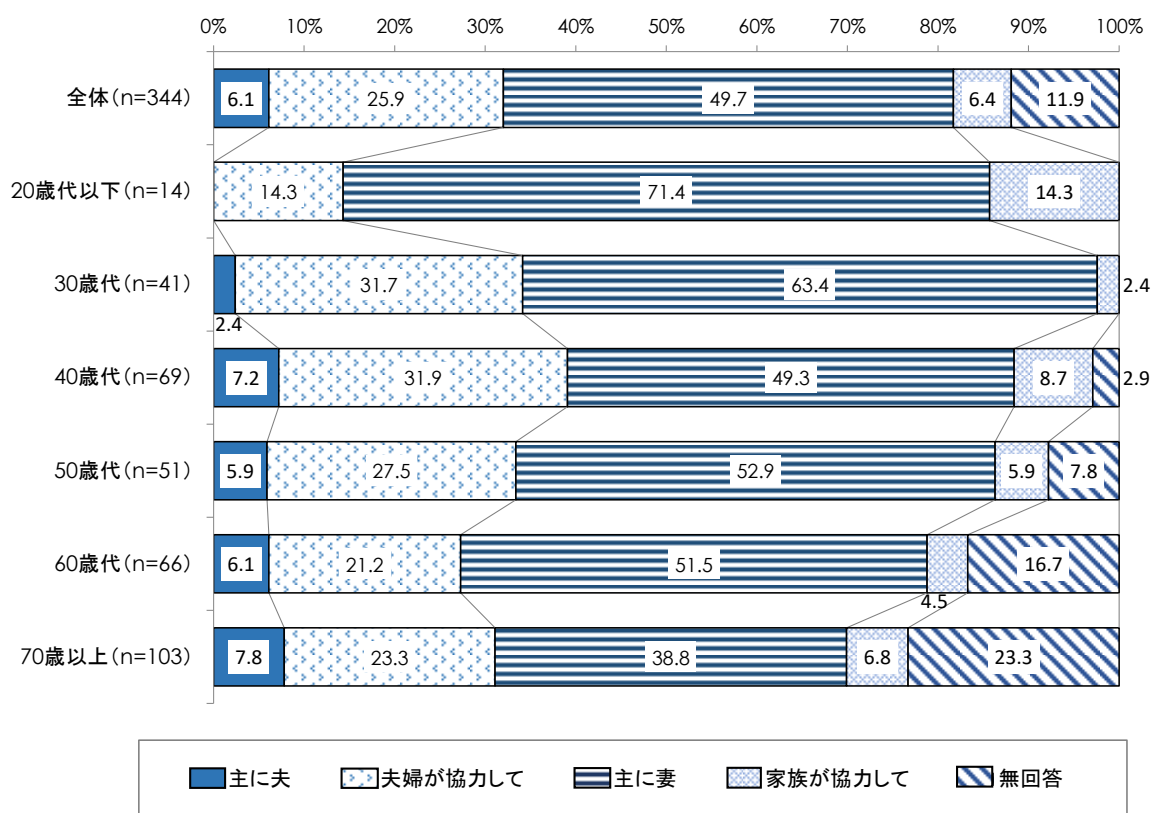
性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が13ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合はすべての年代で最も高く、「夫婦が協力して」の割合は40歳代、30歳代、50歳代の順で高くなっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除) 】



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除) 】



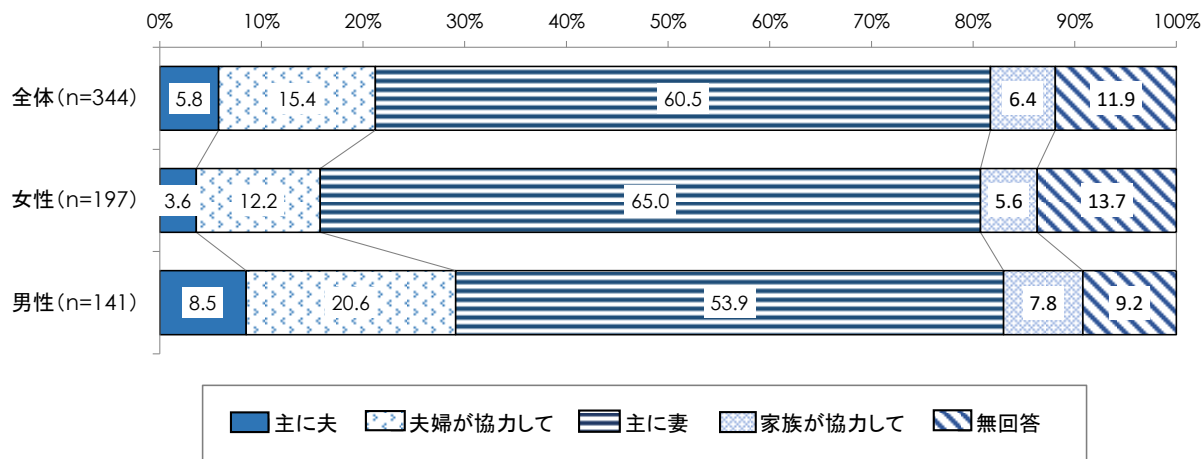
イ 洗濯

洗濯についてみると、「主に妻」60.5%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」15.4%、「家族が協力して」6.4%の順となっています。

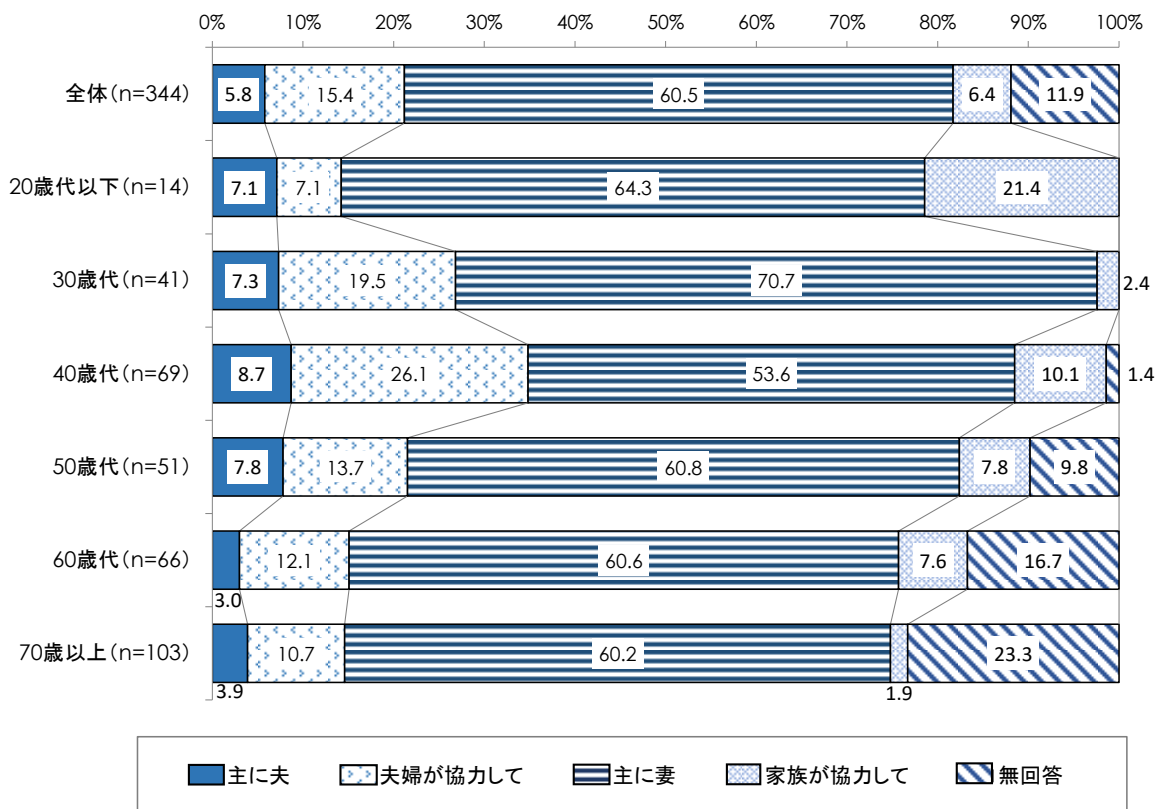
性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が11.1ポイント高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」の割合はすべての年代で50%を超えており、「夫婦が協力して」の割合は40歳代、30歳代、50歳代の順で高くなっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯) 】



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯) 】

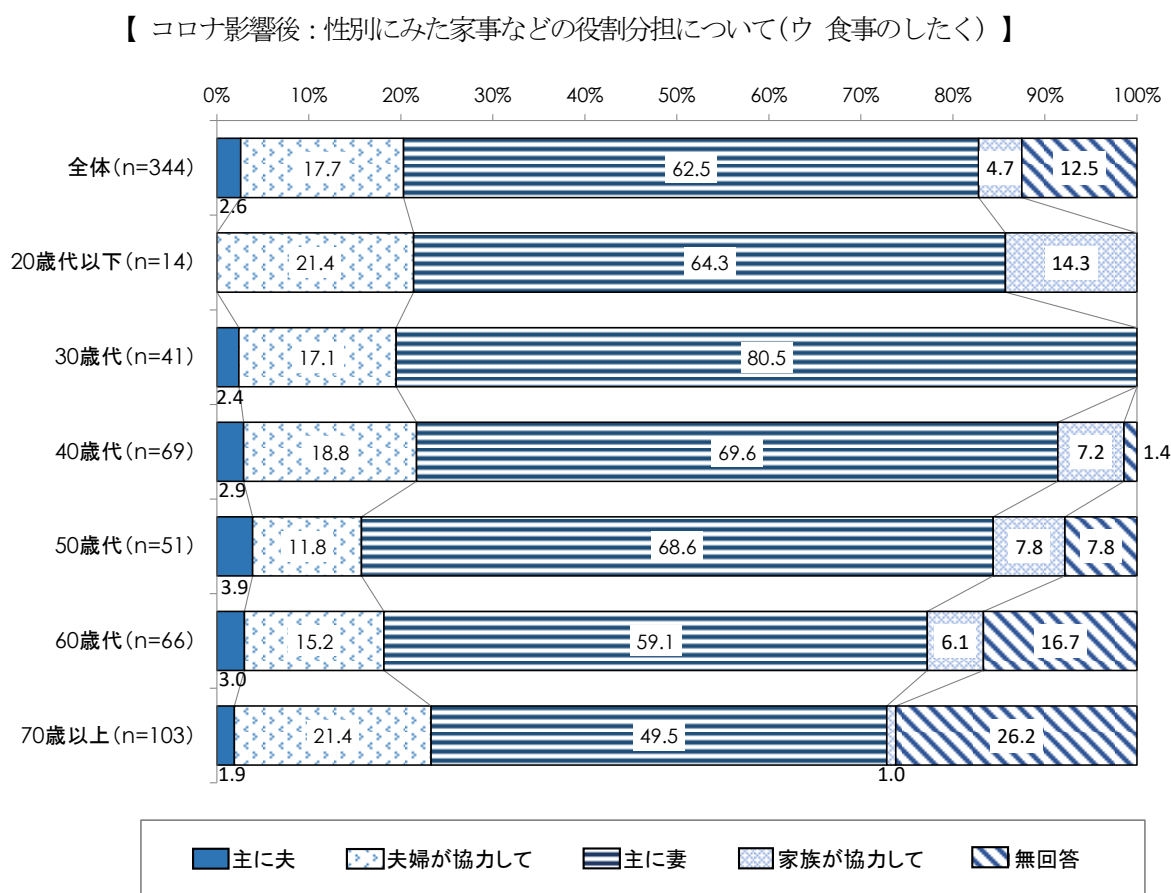
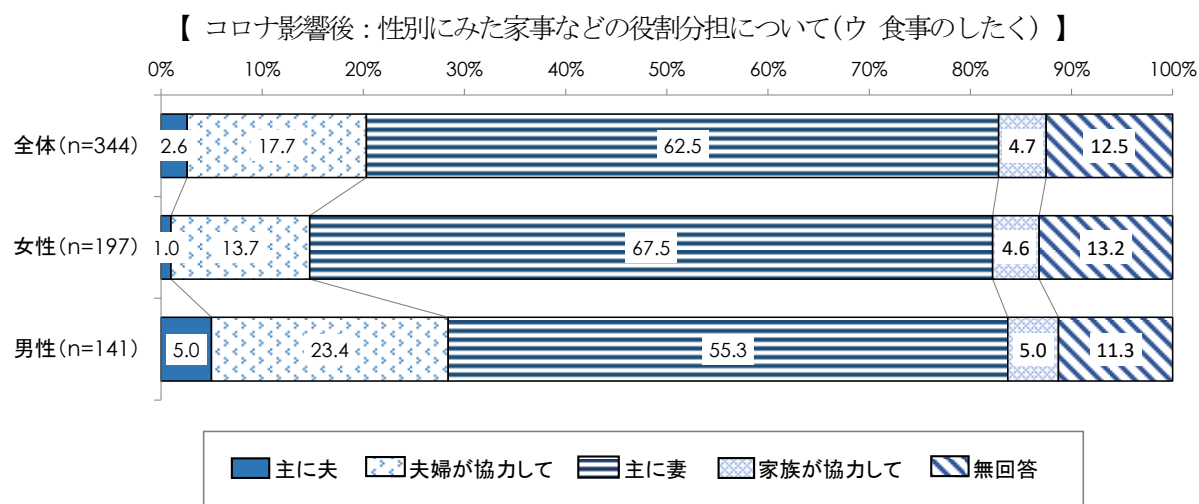


ウ 食事のしたく

食事のしたくについてみると、「主に妻」62.5%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」17.7%、「家族が協力して」4.7%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が12.2ポイント高くなっています。

年代別にみると、どの年代においても「主に妻」の割合が最も高くなっており、特に30歳代では80.5%を占めています。また、「夫婦が協力して」は20歳代以下と70歳以上が最も高い割合となっています。

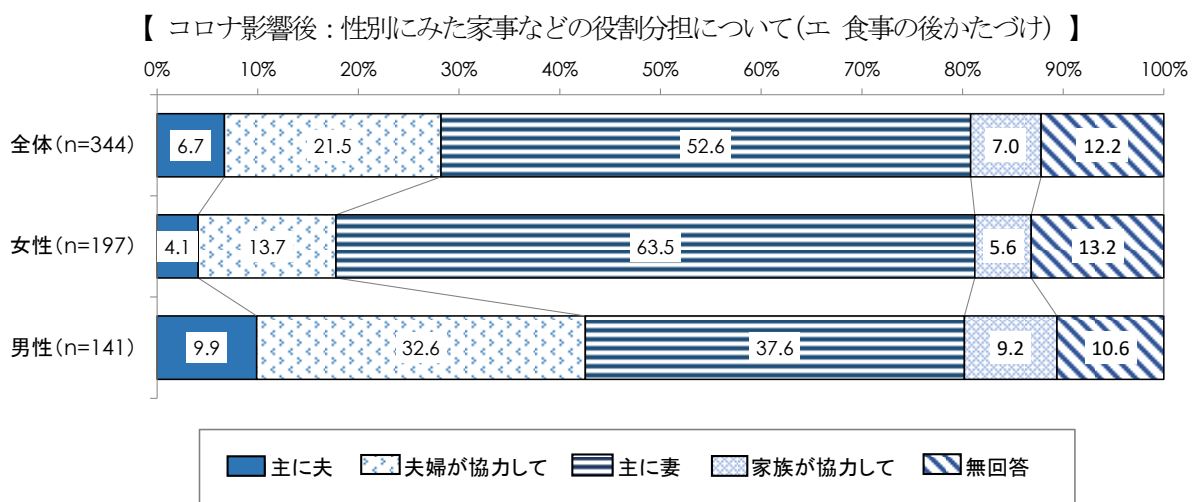


エ 食事の後かたづけ

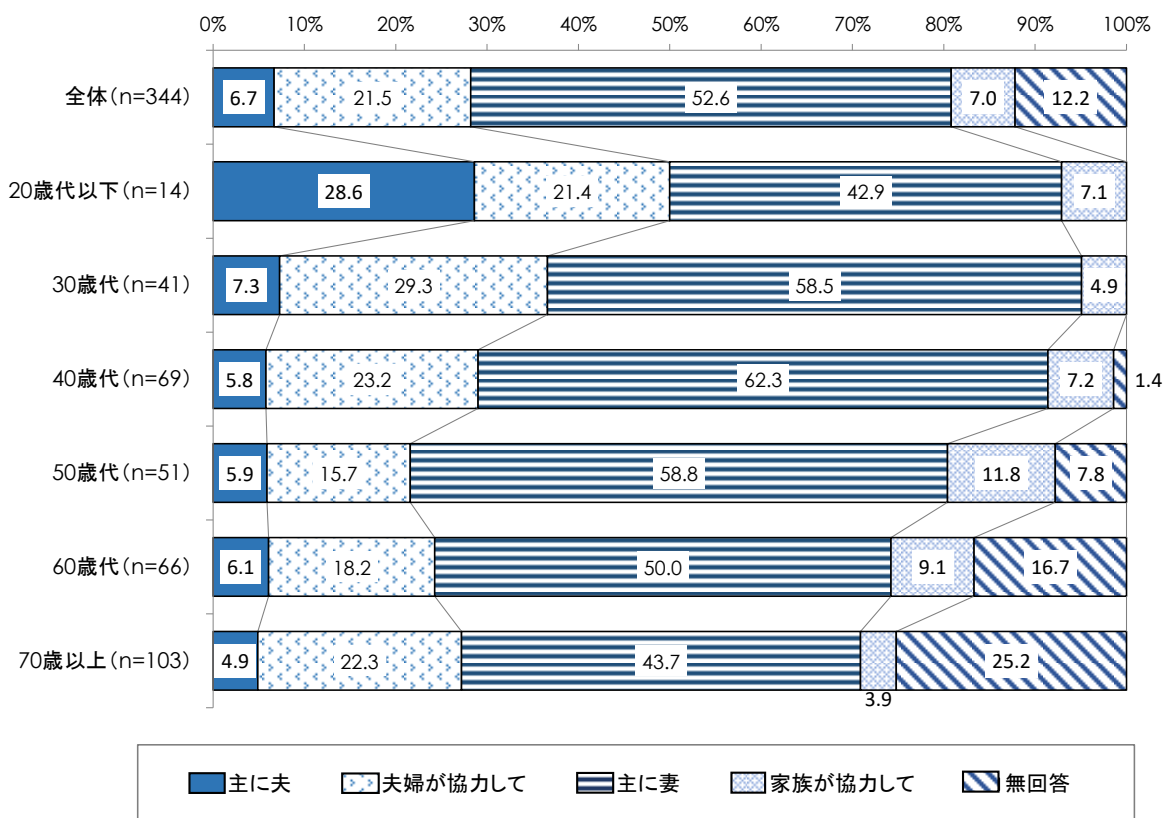
食事の後かたづけについてみると、「主に妻」52.6%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」21.5%、「家族が協力して」7.0%の順となっています。

性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」はすべての年代で最も割合が高く、「夫婦が協力して」の割合は30歳代、40歳代、70歳以上の順で高くなっています。



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後かたづけ) 】



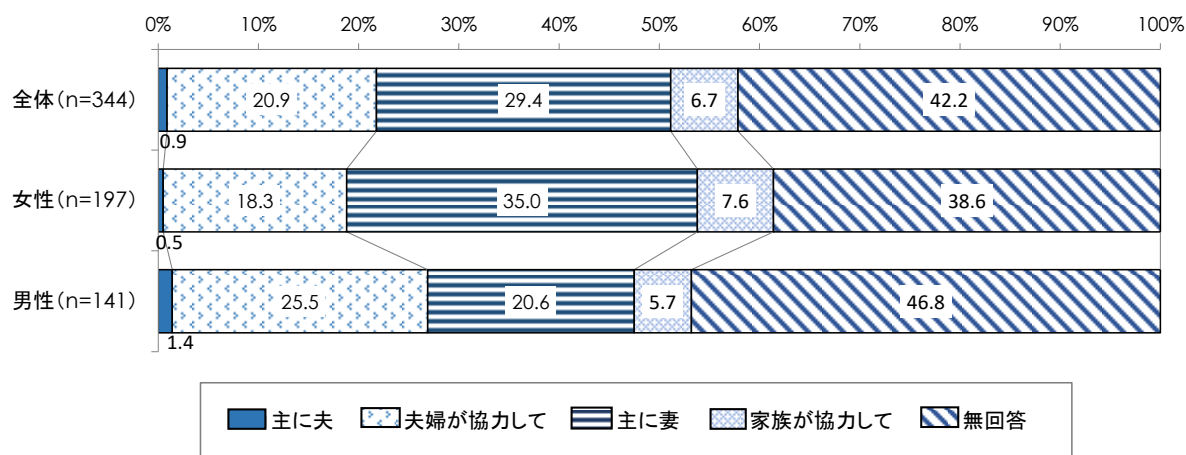
オ 子どもの世話・教育

子どもの世話・教育についてみると、「主に妻」29.4%の割合が最も高く、次いで「夫婦が協力して」20.9%、「家族が協力して」6.7%の順となっています。

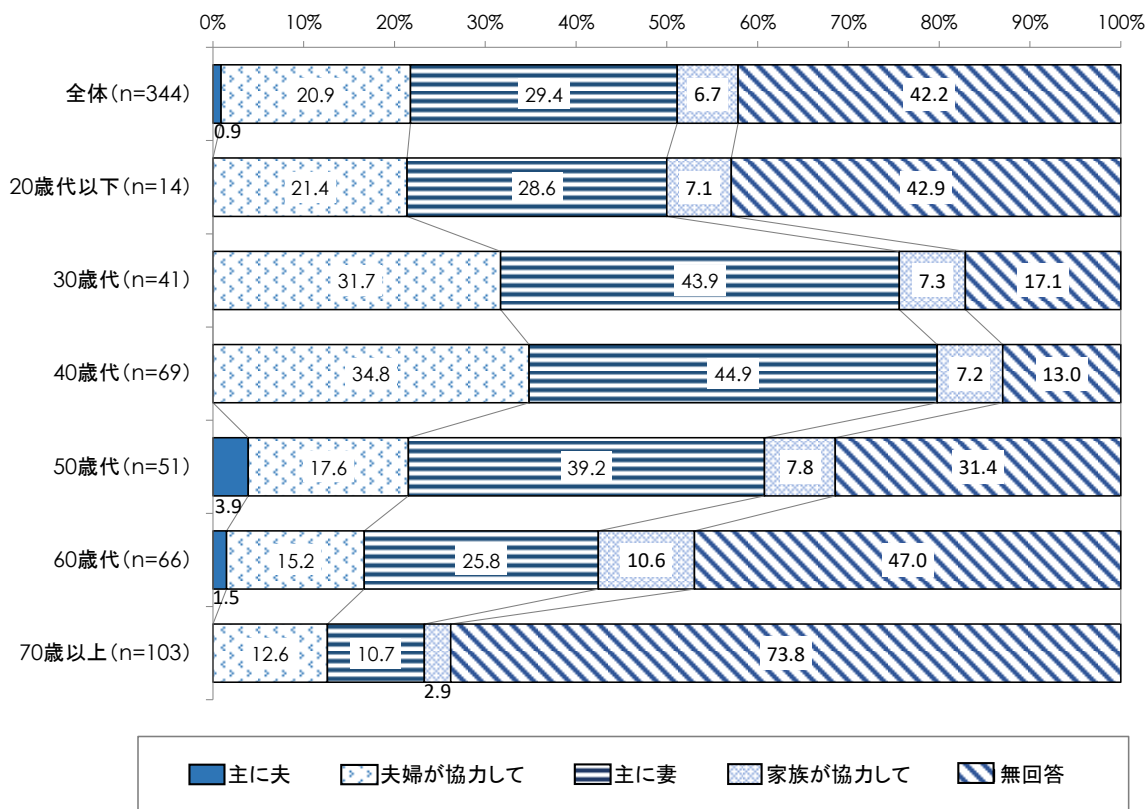
性別にみると、男性は「夫婦が協力して」、女性は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、「主に妻」は70歳以上を除くすべての年代で最も割合が高く、「夫婦が協力して」の割合は40歳代、30歳代、20歳代以下の順で高くなっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育) 】



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育) 】



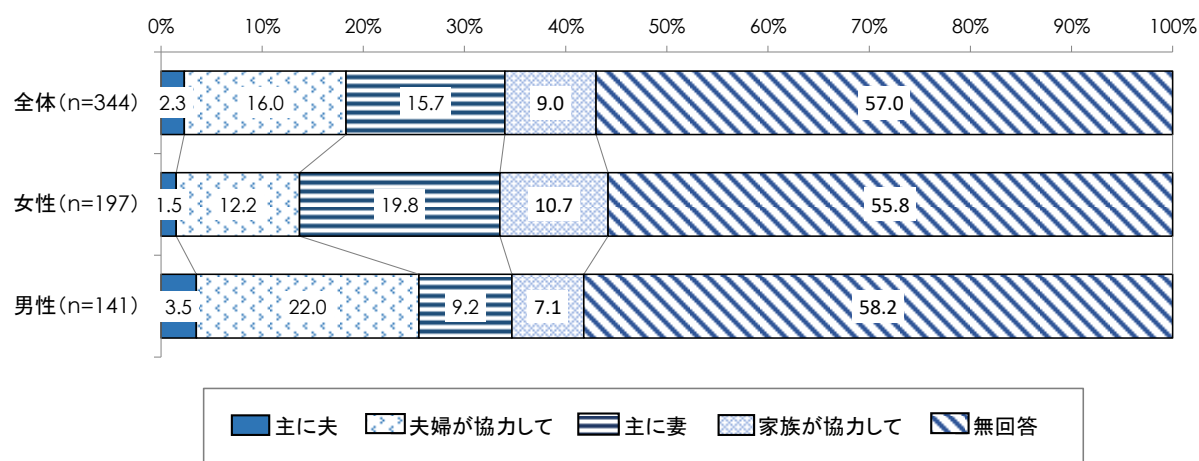
カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「夫婦が協力して」16.0%の割合が最も高く、次いで「主に妻」15.7%、「家族が協力して」9.0%の順となっています。

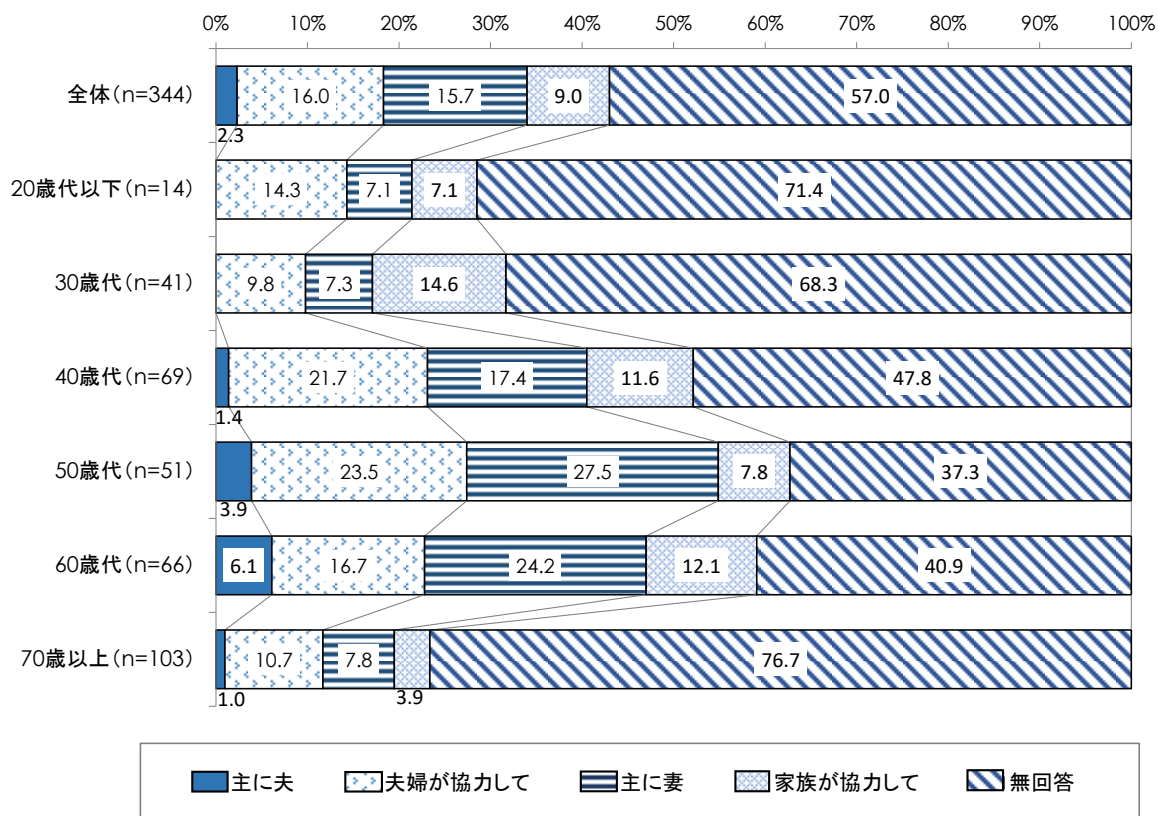
性別にみると、女性は「主に妻」、男性は「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代以下、40歳代、70歳以上は「夫婦が協力して」、30歳代は「家族が協力して」、50歳代、60歳代は「主に妻」の割合が高くなっています。

【 コロナ影響後：性別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護) 】



【 コロナ影響後：年代別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護) 】

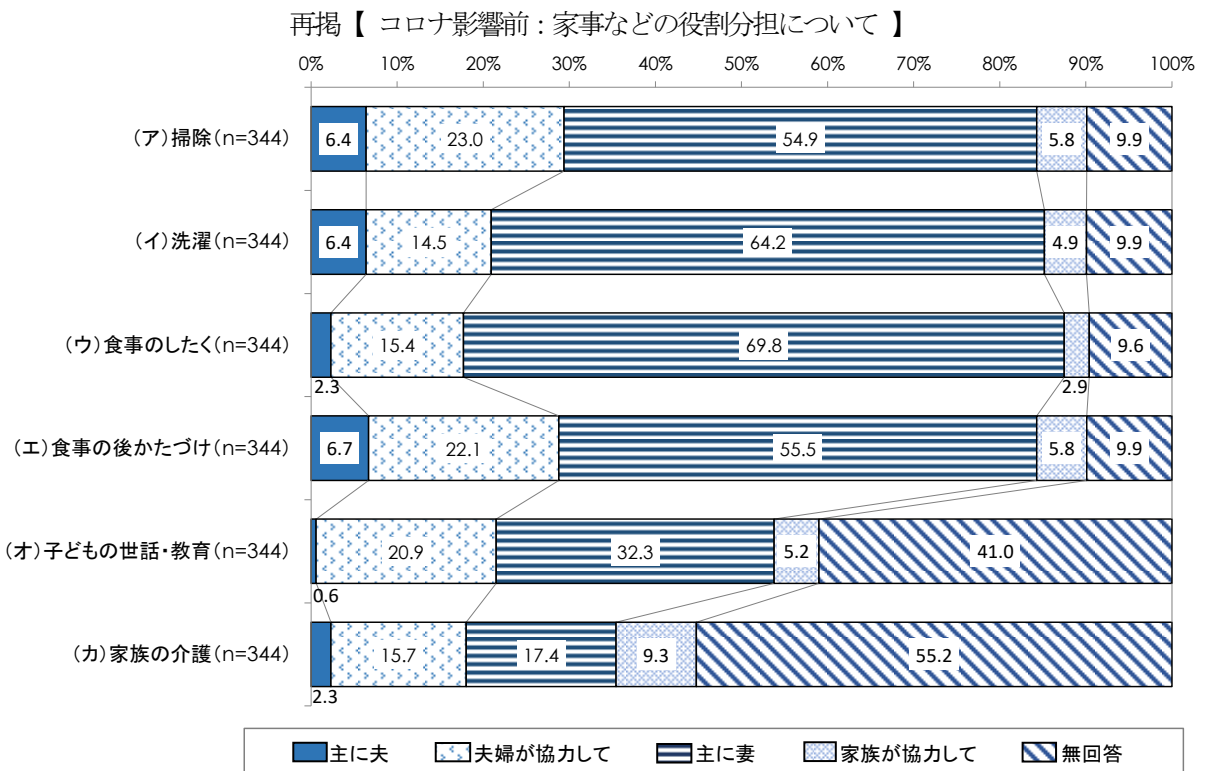
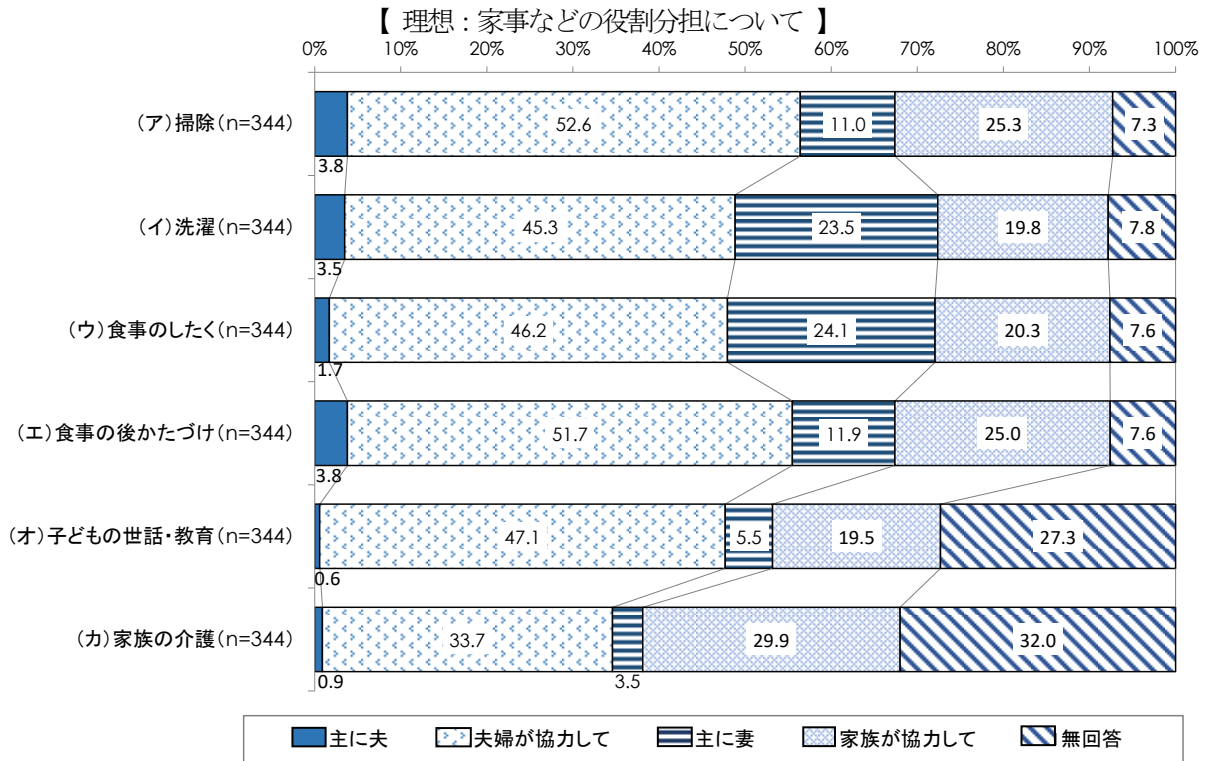


(3) 理想 (すべての方)

【全体】

家庭での家事などの役割分担の理想についてみると、「夫婦が協力して」では、「(ア) 掃除」52.6%の割合が最も高く、次いで「(エ) 食事の後かたづけ」51.7%、「(オ) 子どもの世話・教育」47.1%の順となっています。

すべての項目で夫婦や家族が協力して行うことを希望していますが、現実には「主に妻」が行っていることが多く、理想と現実との違いがみられます。



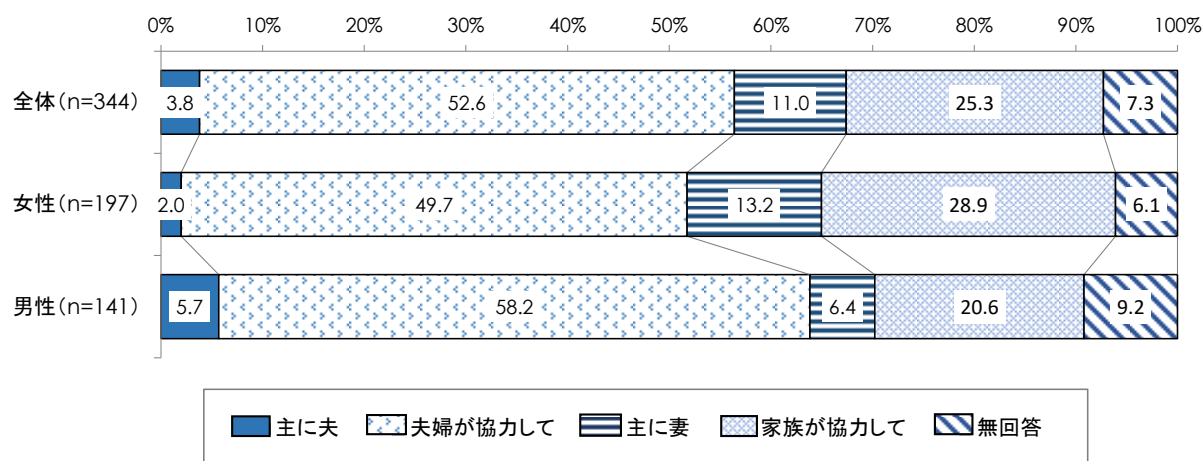
ア 掃除

掃除についてみると、「夫婦が協力して」52.6%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」25.3%、「主に妻」11.0%、「主に夫」3.8%の順となっています。

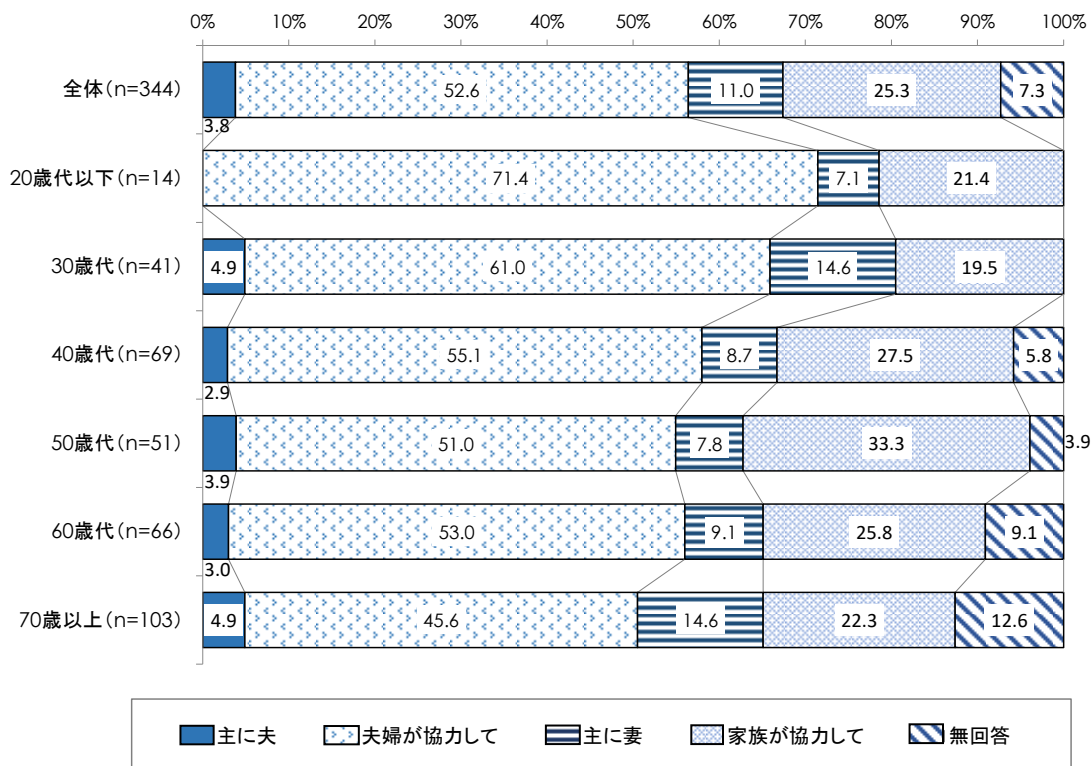
性別にみると、男性は女性より「夫婦が協力して」の割合が8.5ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：性別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除)】



【理想：年代別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除)】



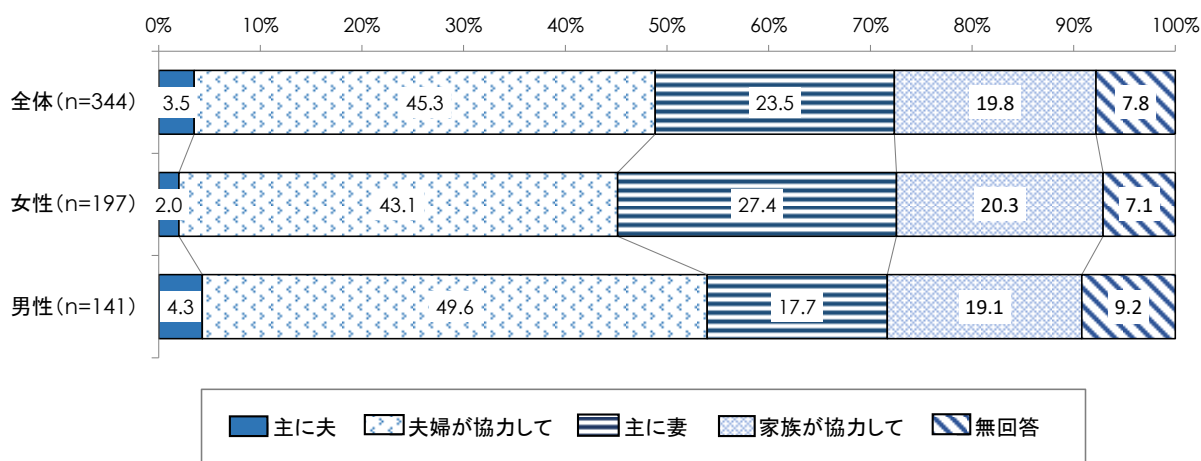
イ 洗濯

洗濯についてみると、「夫婦が協力して」45.3%の割合が最も高く、次いで「主に妻」23.5%、「家族が協力して」19.8%、「主に夫」3.5%の順となっています。

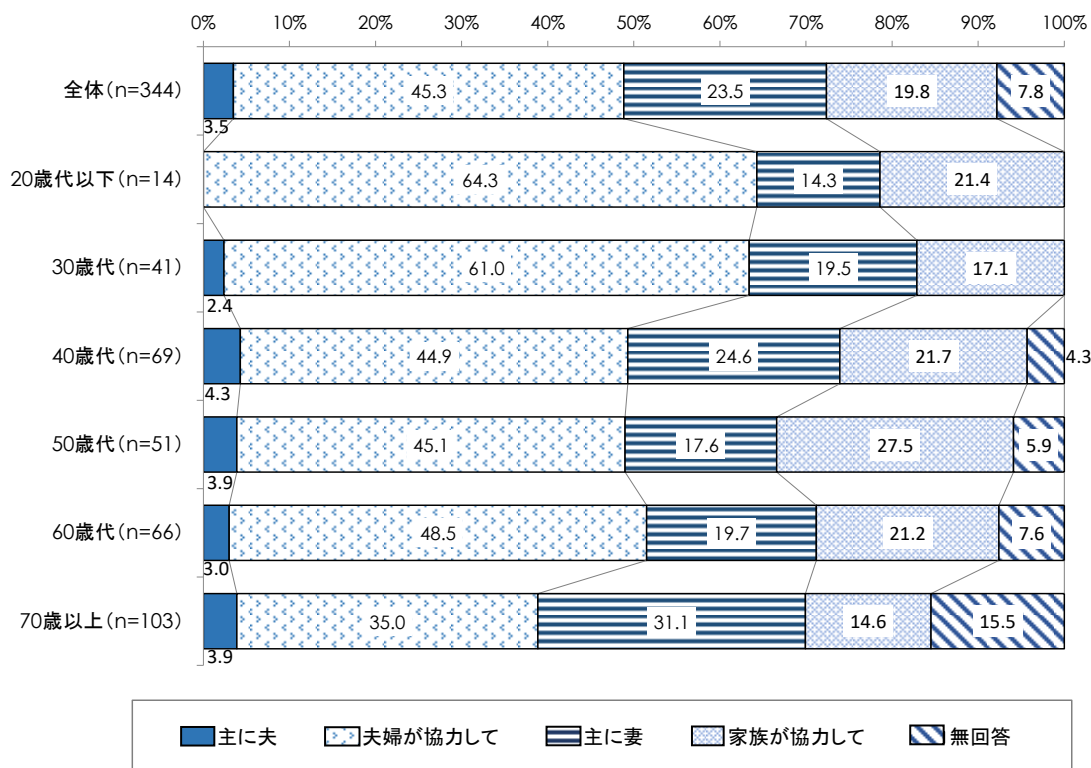
性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が9.7ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：性別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯)】



【理想：年代別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯)】



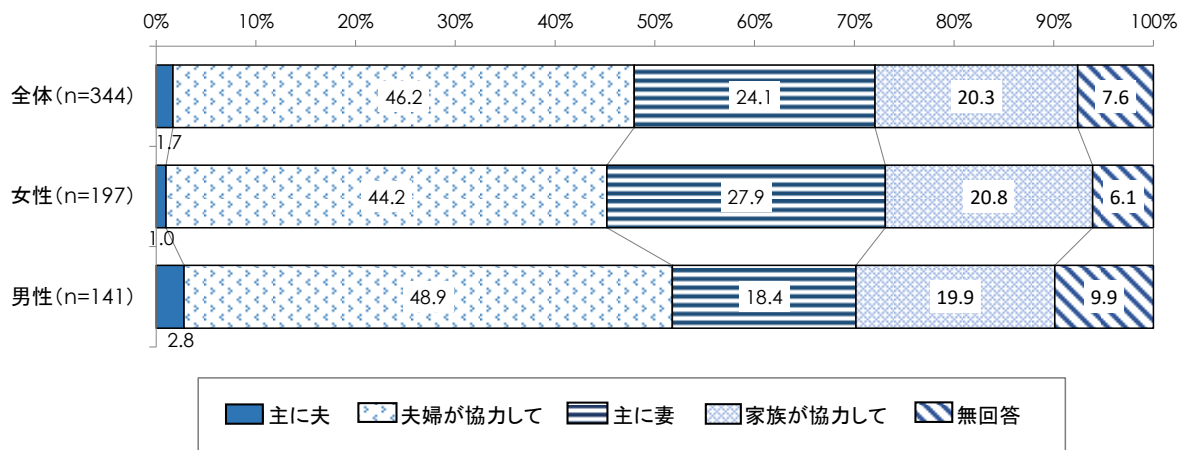
ウ 食事のしたく

食事のしたくについてみると、「夫婦が協力して」46.2%の割合が最も高く、次いで「主に妻」24.1%、「家族が協力して」20.3%、「主に夫」1.7%の順となっています。

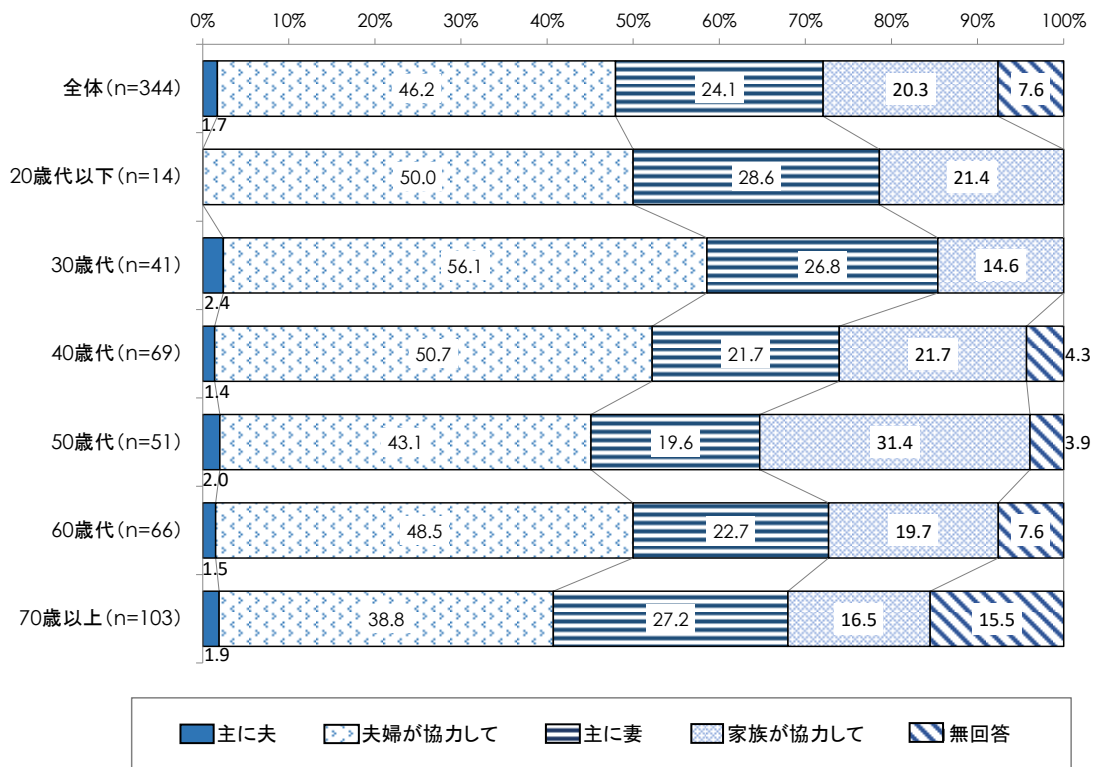
性別にみると、女性は男性より「主に妻」の割合が9.5ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：性別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事のしたく)】



【理想：年代別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事のしたく)】

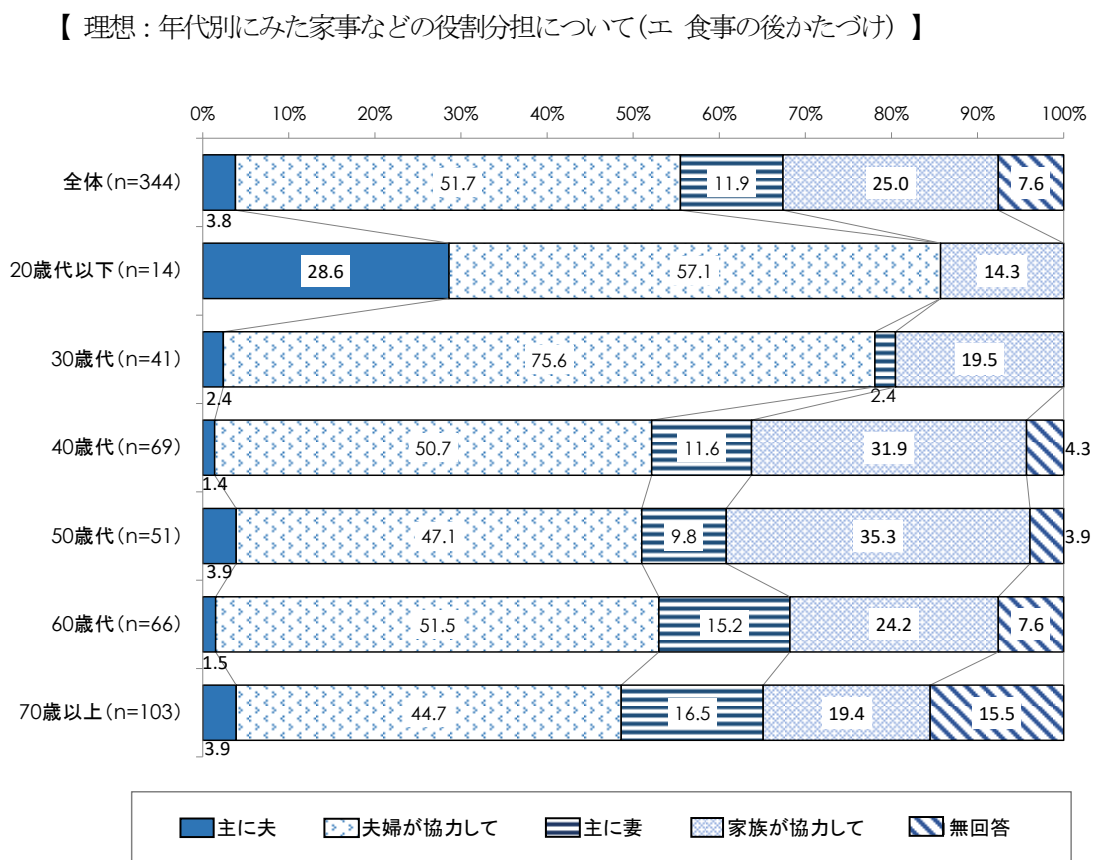
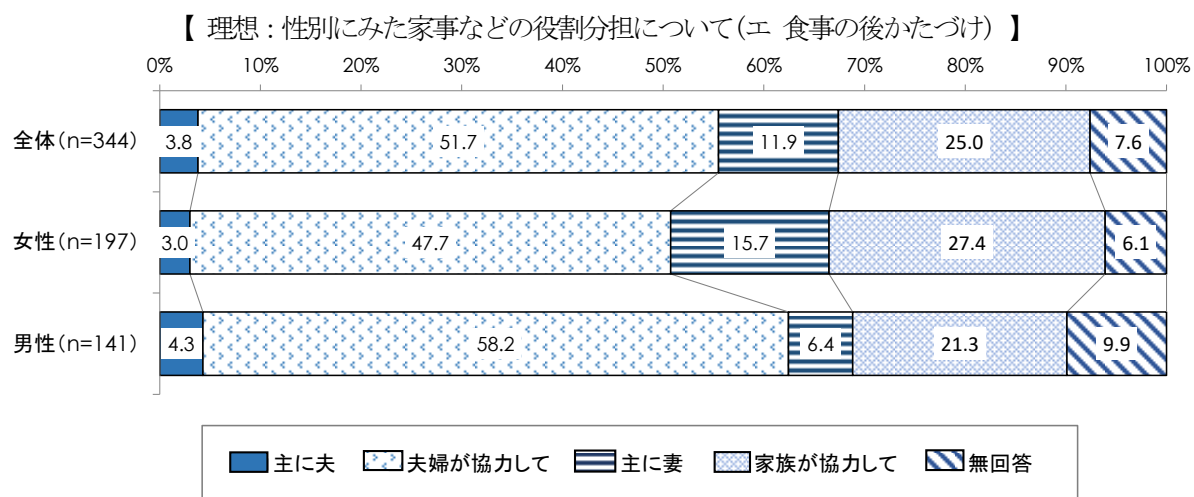


エ 食事の後かたづけ

食事の後かたづけについてみると、「夫婦が協力して」51.7%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」25.0%、「主に妻」11.9%、「主に夫」3.8%の順となっています。

性別にみると、男性は女性より「夫婦が協力して」の割合が10.5ポイント高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっており、特に30歳代は75.6%を占めています。



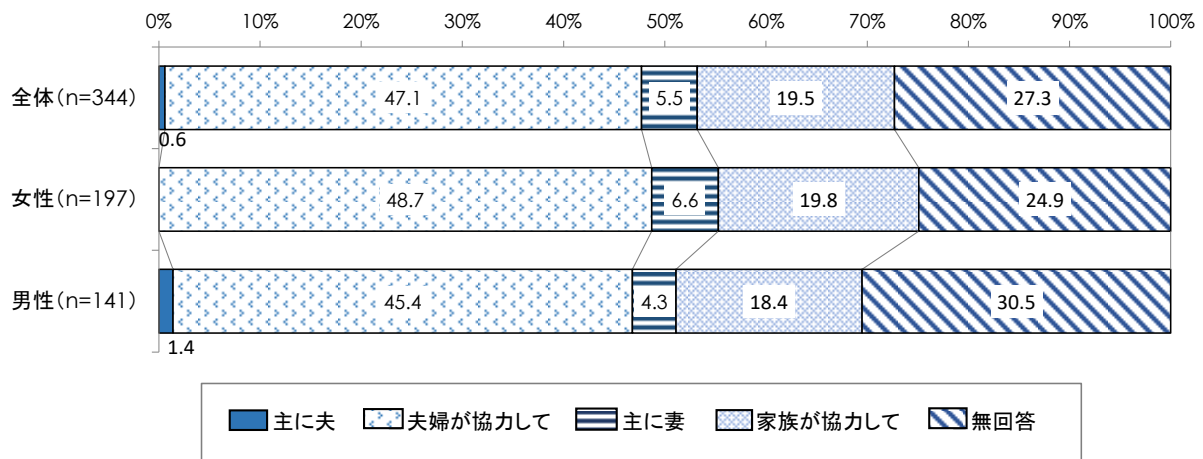
オ 子どもの世話・教育

子どもの世話・教育についてみると、「夫婦が協力して」47.1%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」19.5%、「主に妻」5.5%、「主に夫」0.6%の順となっています。

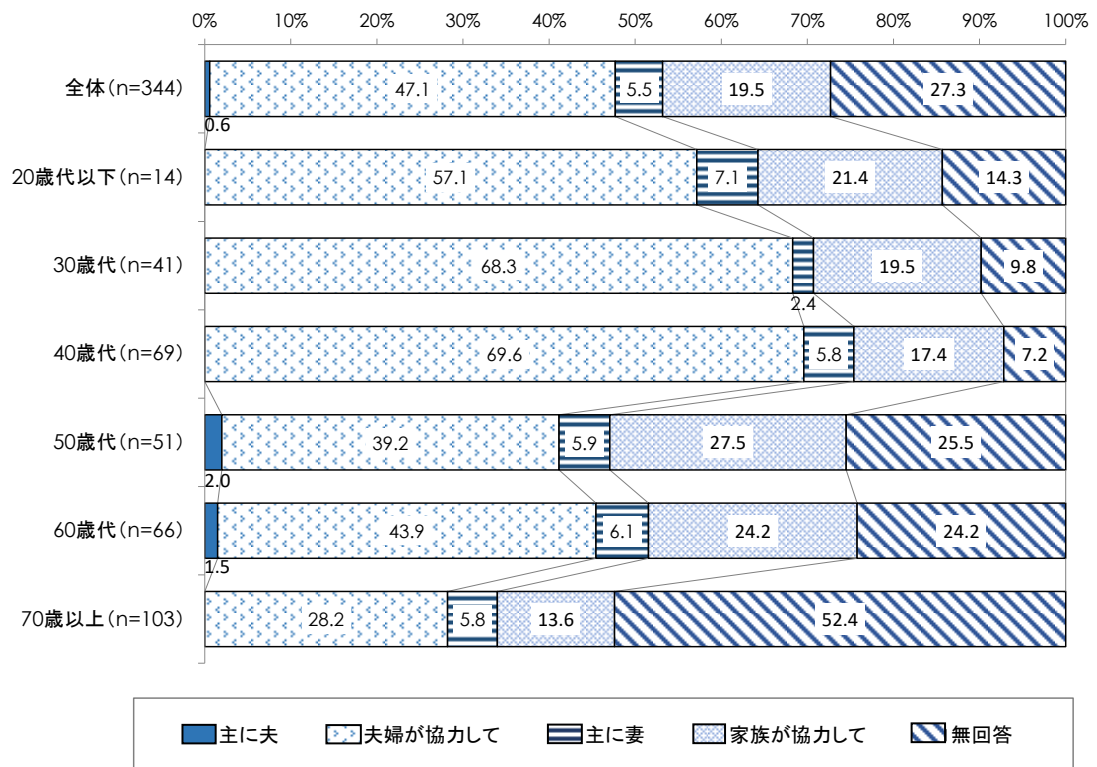
性別にみると、概ね同様の割合となっています。

年代別にみると、すべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっています。

【理想：性別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】



【理想：年代別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】



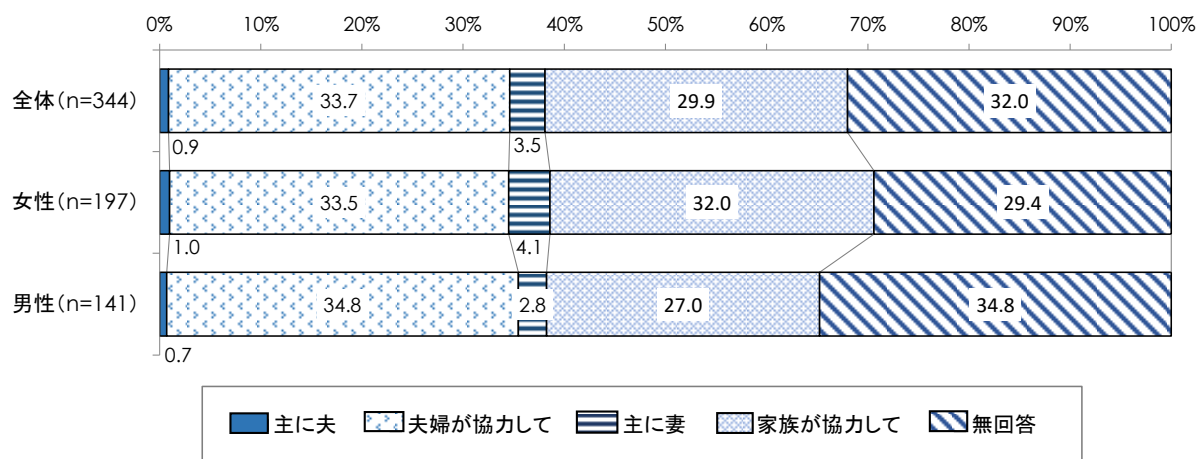
カ 家族の介護

家族の介護についてみると、「夫婦が協力して」33.7%の割合が最も高く、次いで「家族が協力して」29.9%、「主に妻」3.5%、「主に夫」0.9%の順となっています。

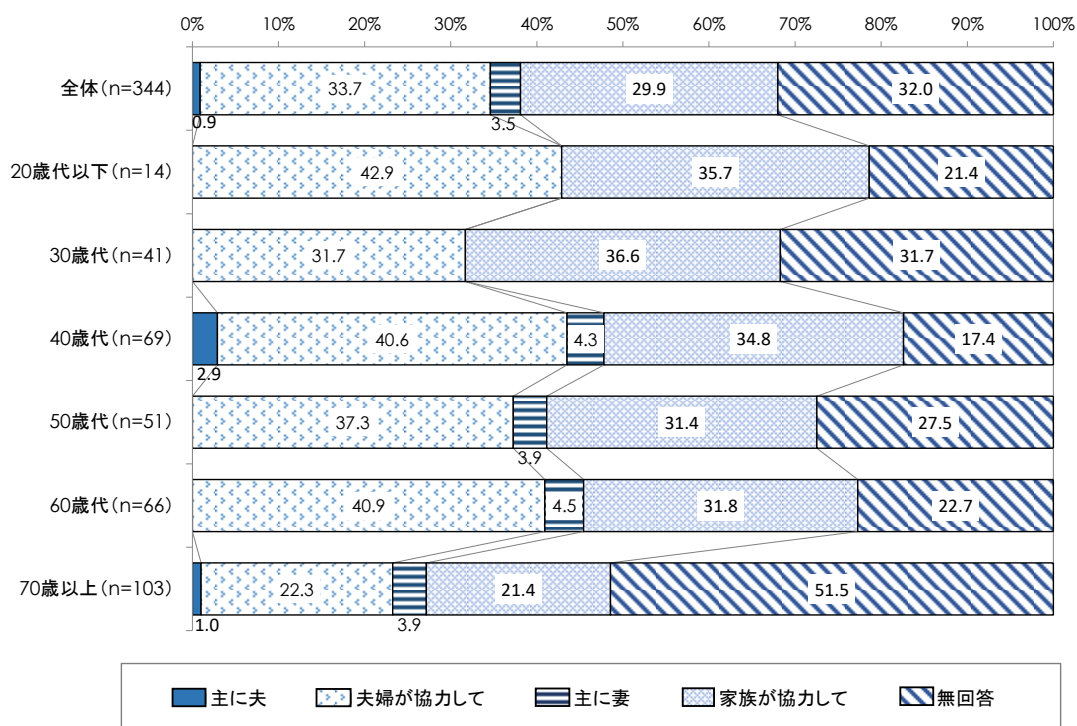
性別にみると、概ね同様の割合となっています。

年代別にみると、30歳代を除くすべての年代で「夫婦が協力して」の割合が最も高くなっており、特に20歳代以下、40歳代、60歳代は40%を超えています。

【理想：性別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】



【理想：年代別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】



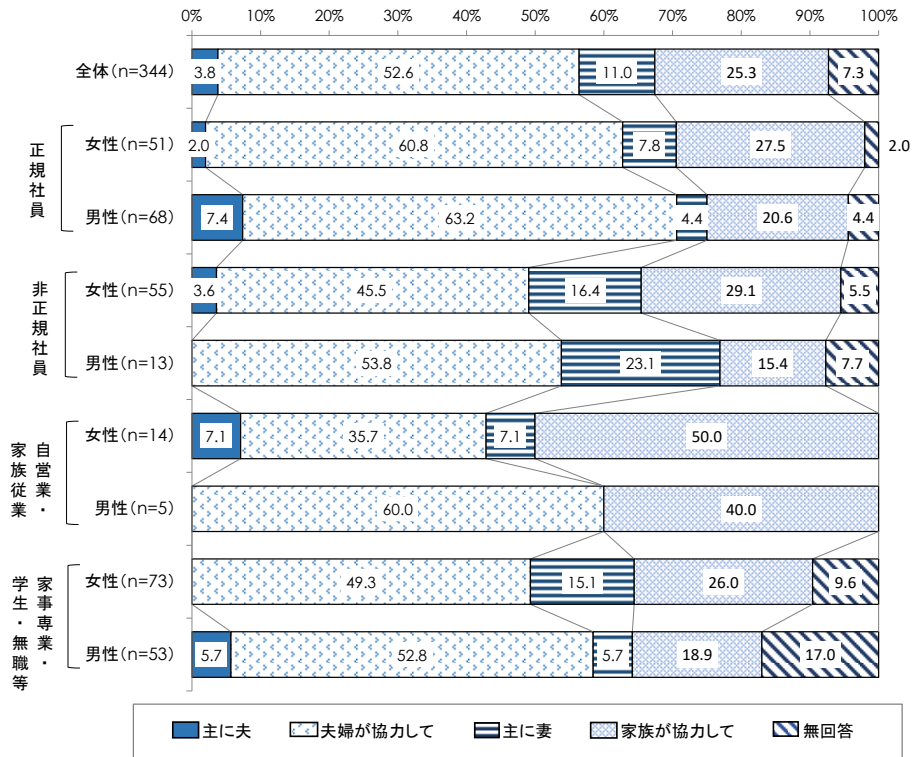
(4) 理想と現実 (コロナ影響前) の比較

ア 掃除

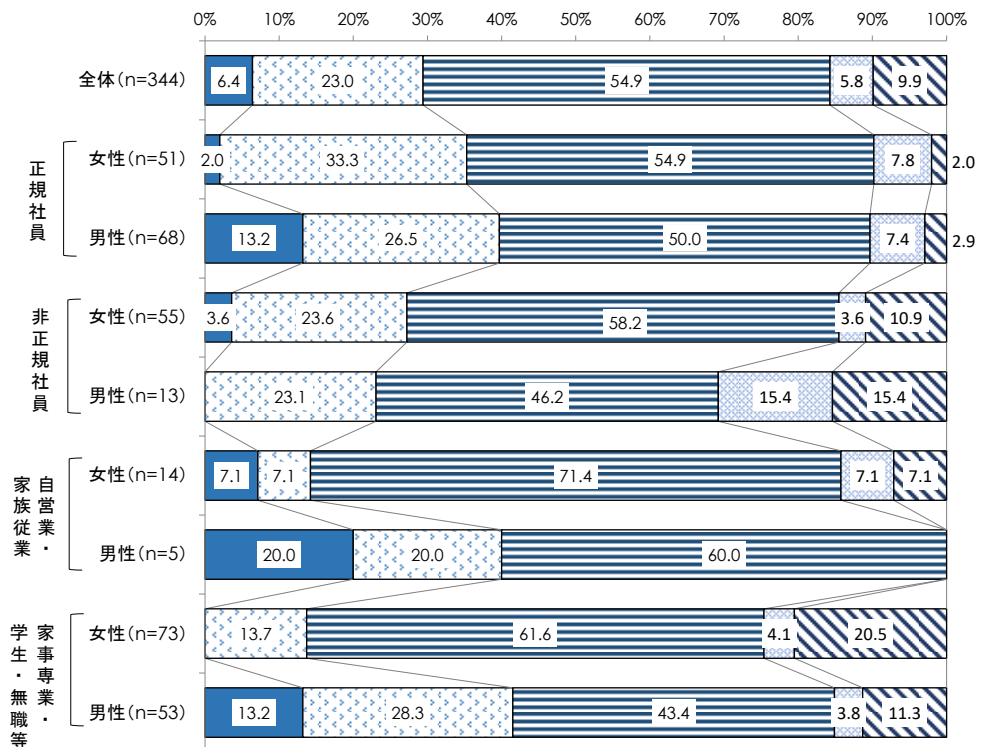
掃除についてみると、理想では自営業・家族従業の女性は「家族が協力して」、その他の方は「夫婦が協力して」の割合が最も高いのに対し、現実ではすべての雇用形態・性別で「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【 雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除) 】

理想



現実

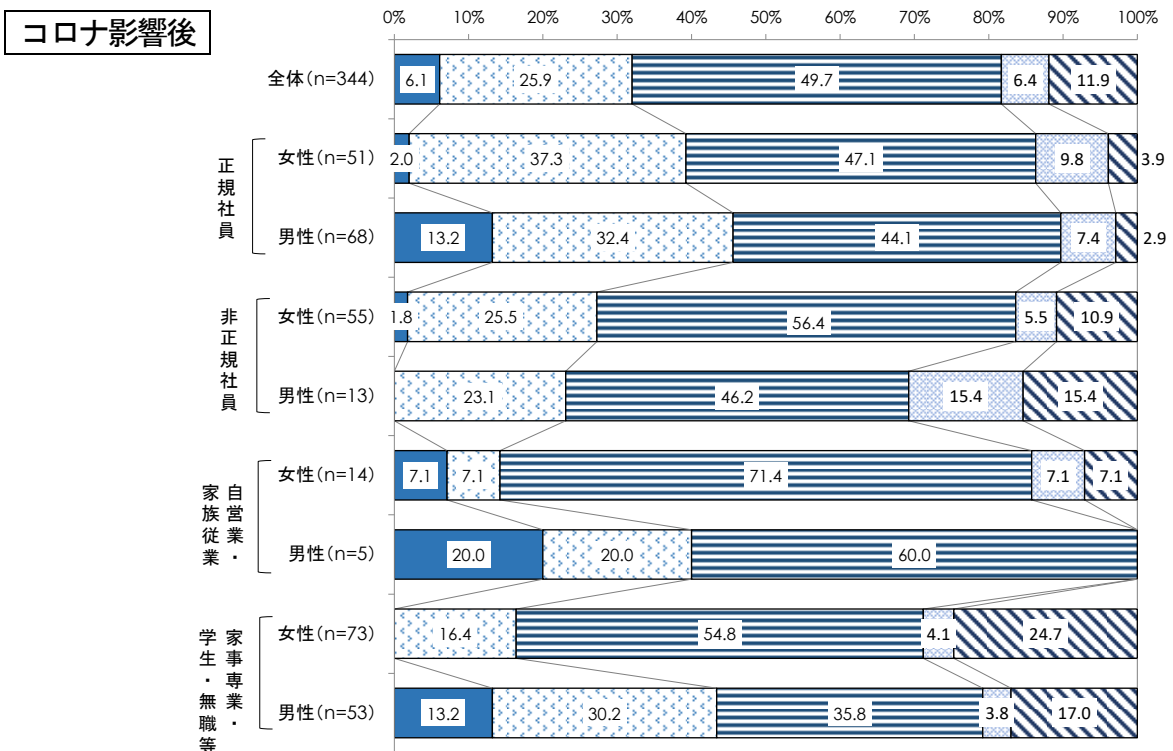
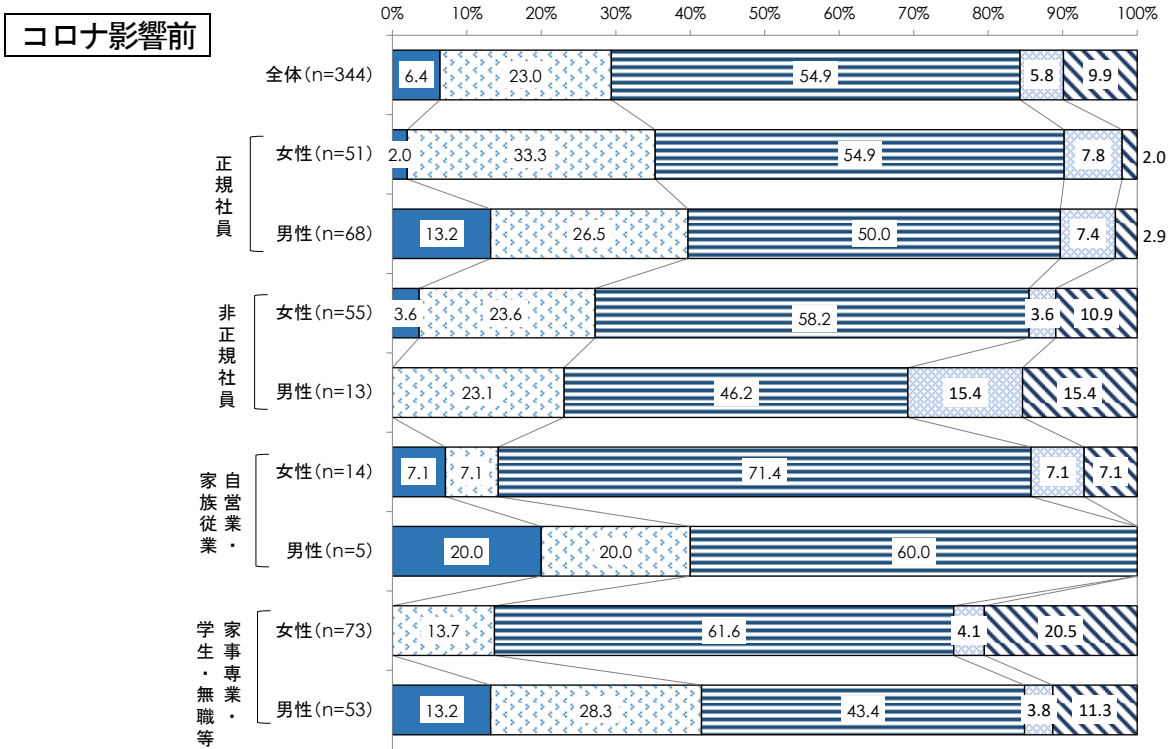


【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

ア 掃除

掃除についてコロナ影響前と影響後で比較すると、特に大きな差はありませんでした。

【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(ア 掃除)】

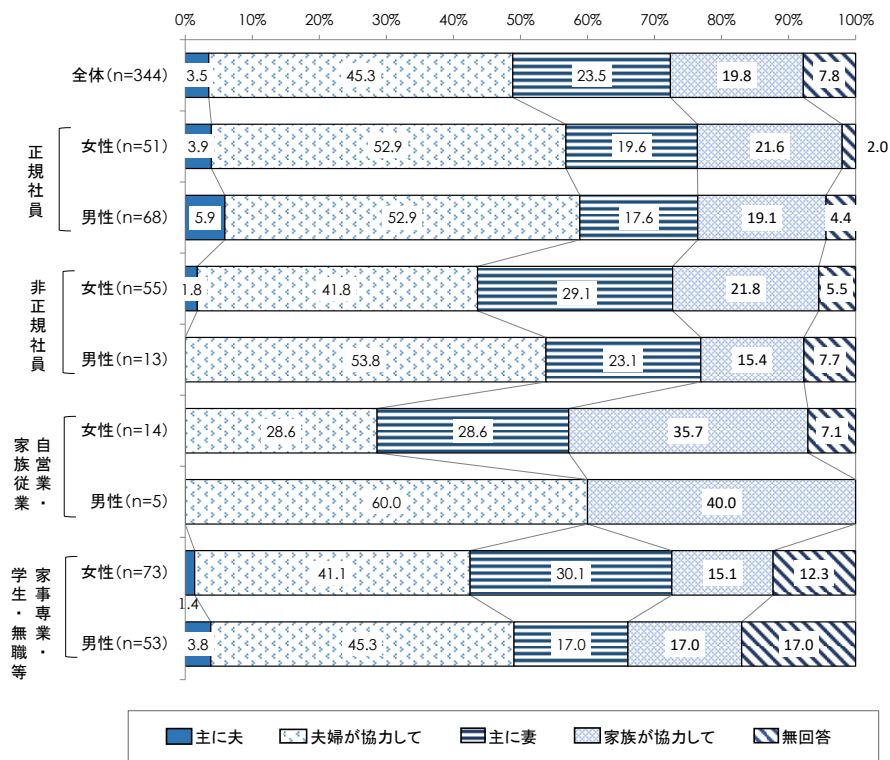


イ 洗濯

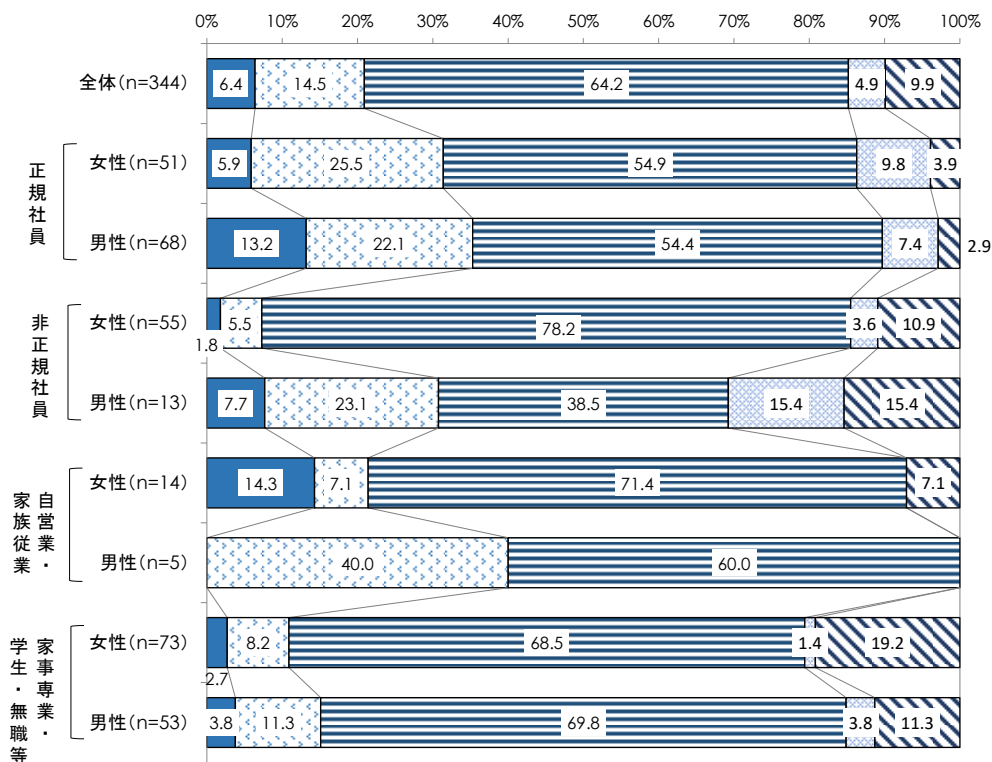
洗濯についてみると、理想では自営業・家族従業の女性は「家族が協力して」、その他の方は「夫婦が協力して」の割合が最も高いのに対し、現実ではすべての雇用形態・性別で「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯)】

理想



現実

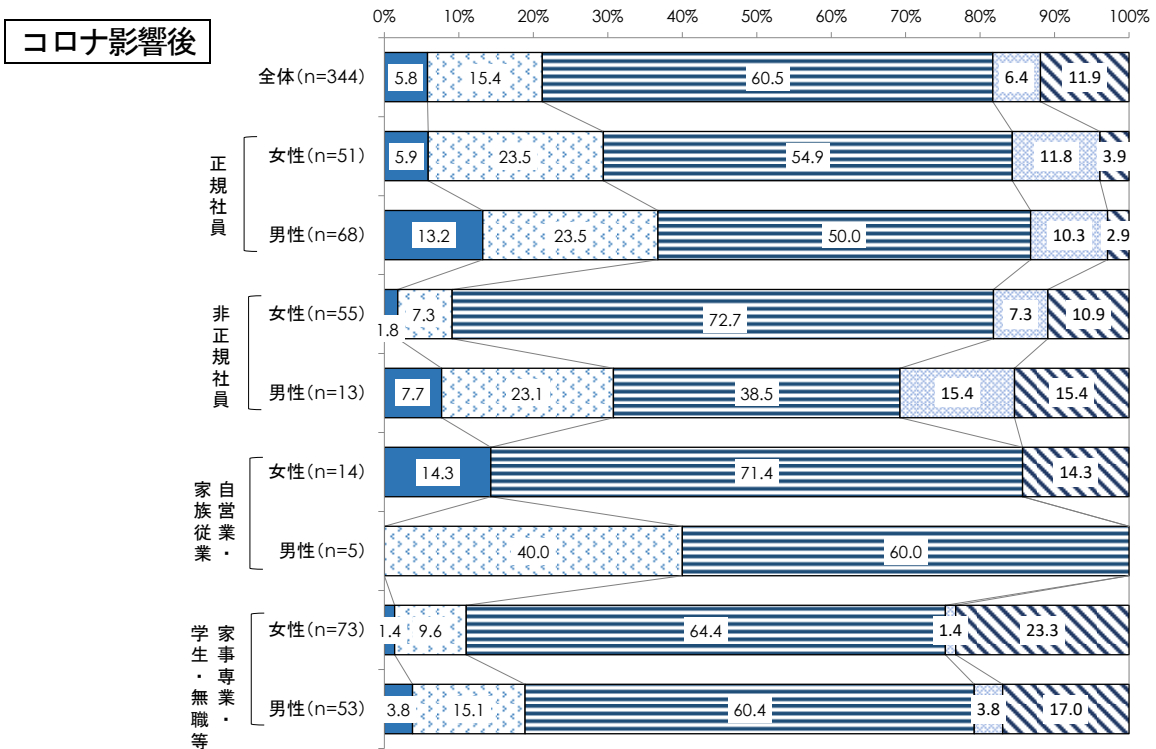
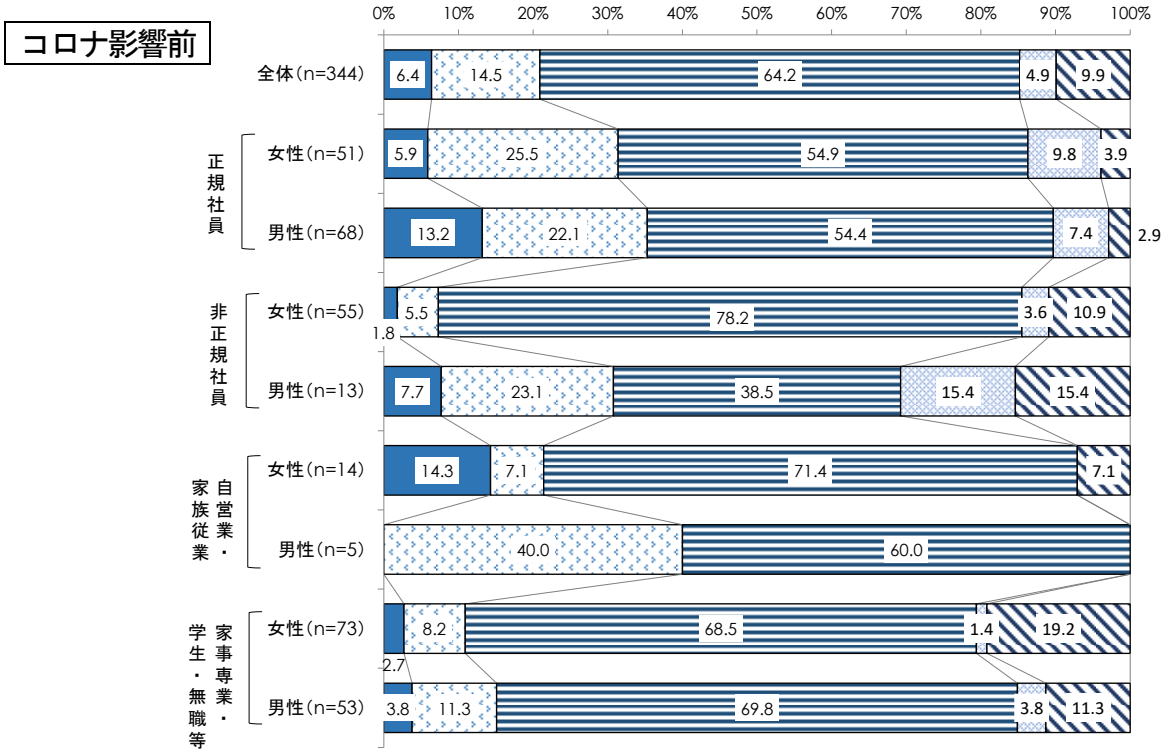


【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

イ 洗濯

洗濯についてコロナ影響前と影響後で比較すると、概ね同様の割合でした。

【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(イ 洗濯)】

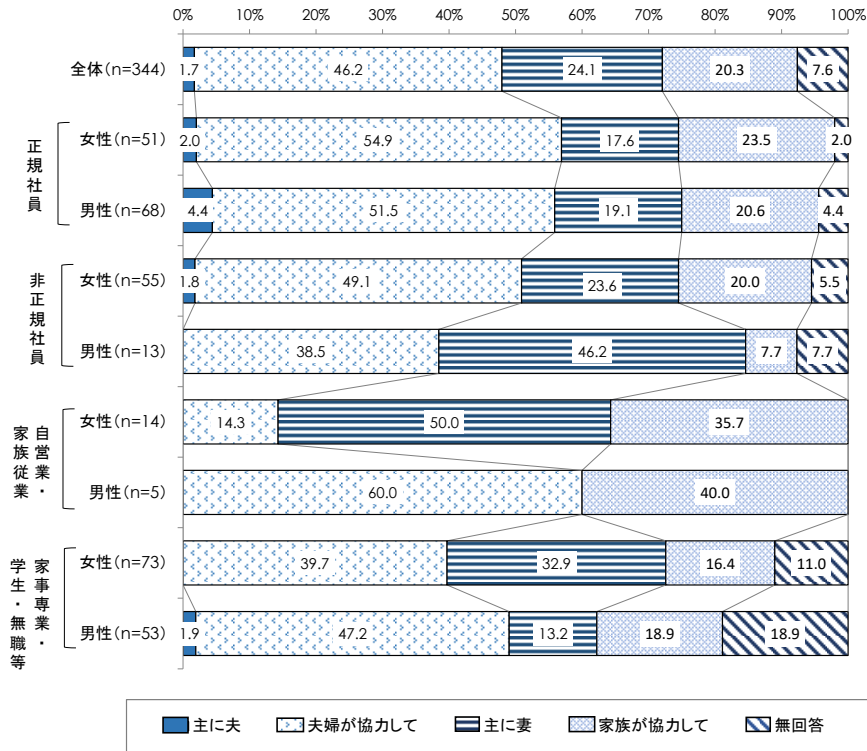


ウ 食事のしたく

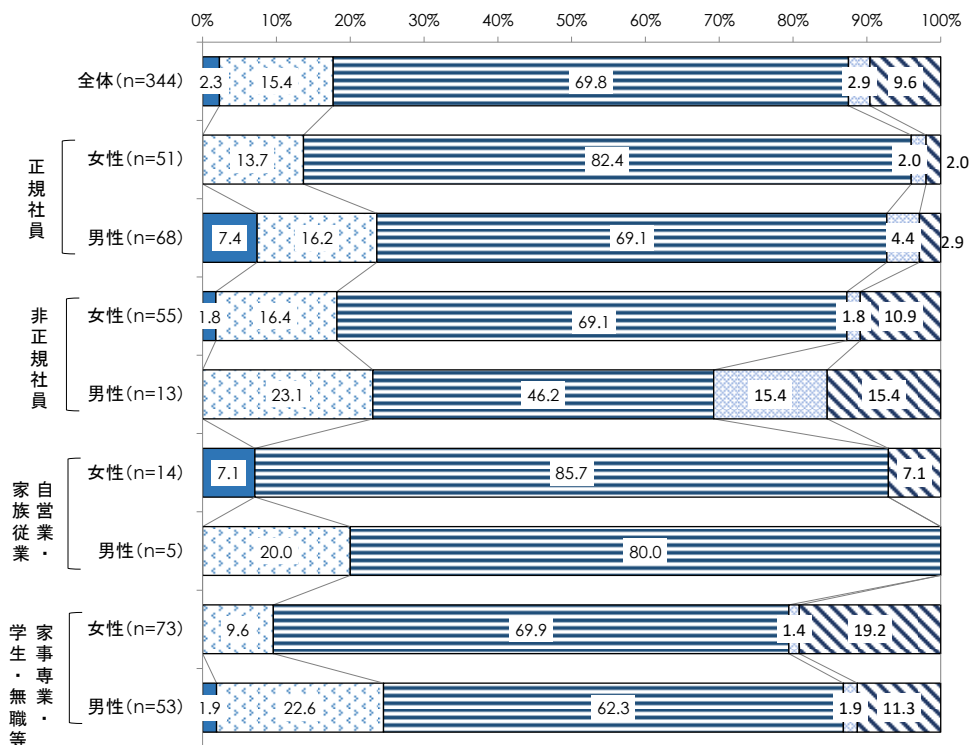
食事のしたくについてみると、理想では非正規社員の男性、自営業・家族従業の女性は「主に妻」、その他の方は「夫婦が協力して」の割合が最も高いのに対し、現実ではすべての雇用形態・性別で「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事のしたく)】

理想



現実

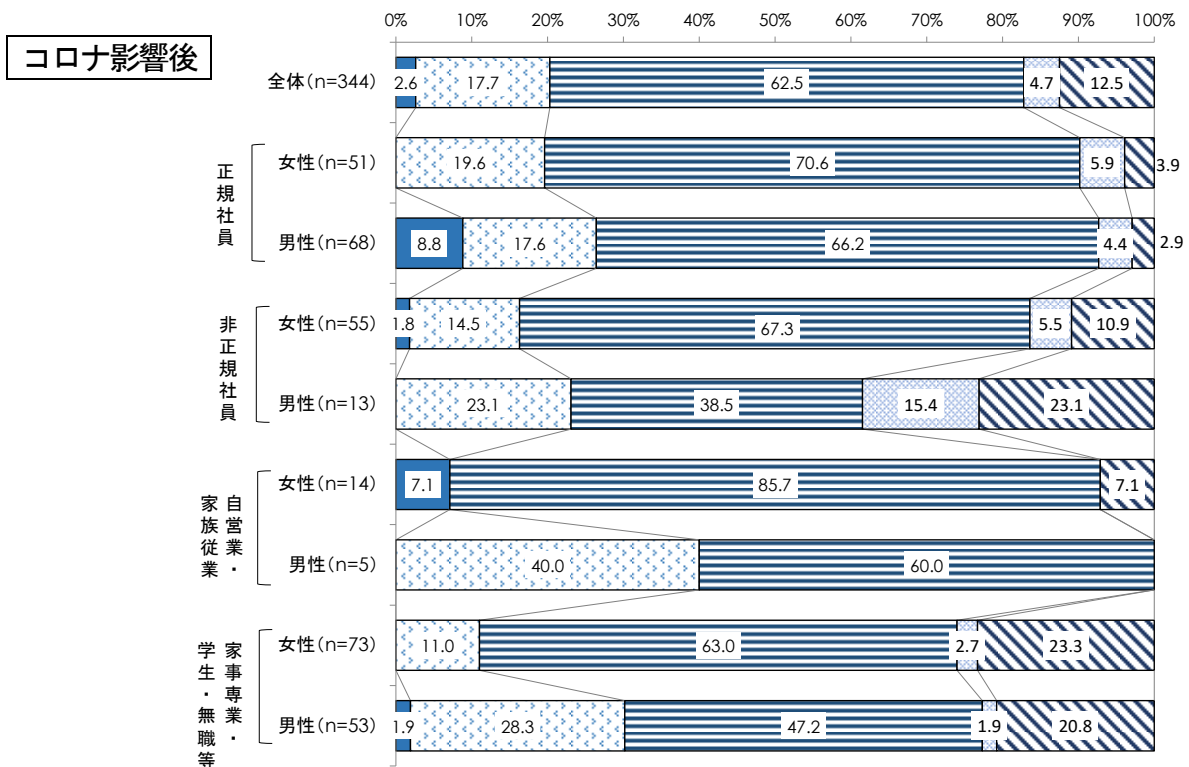
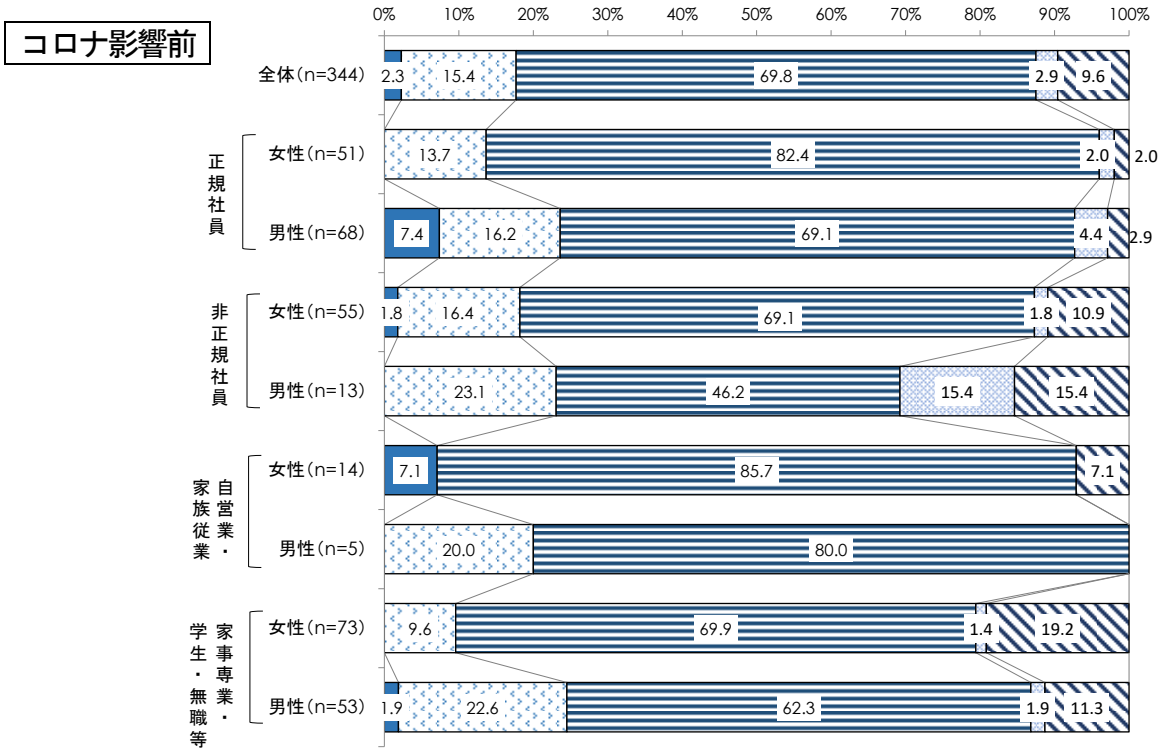


【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

ウ 食事のしたく

食事のしたくについてコロナ影響前と影響後で比較すると、概ね同様の割合でした。

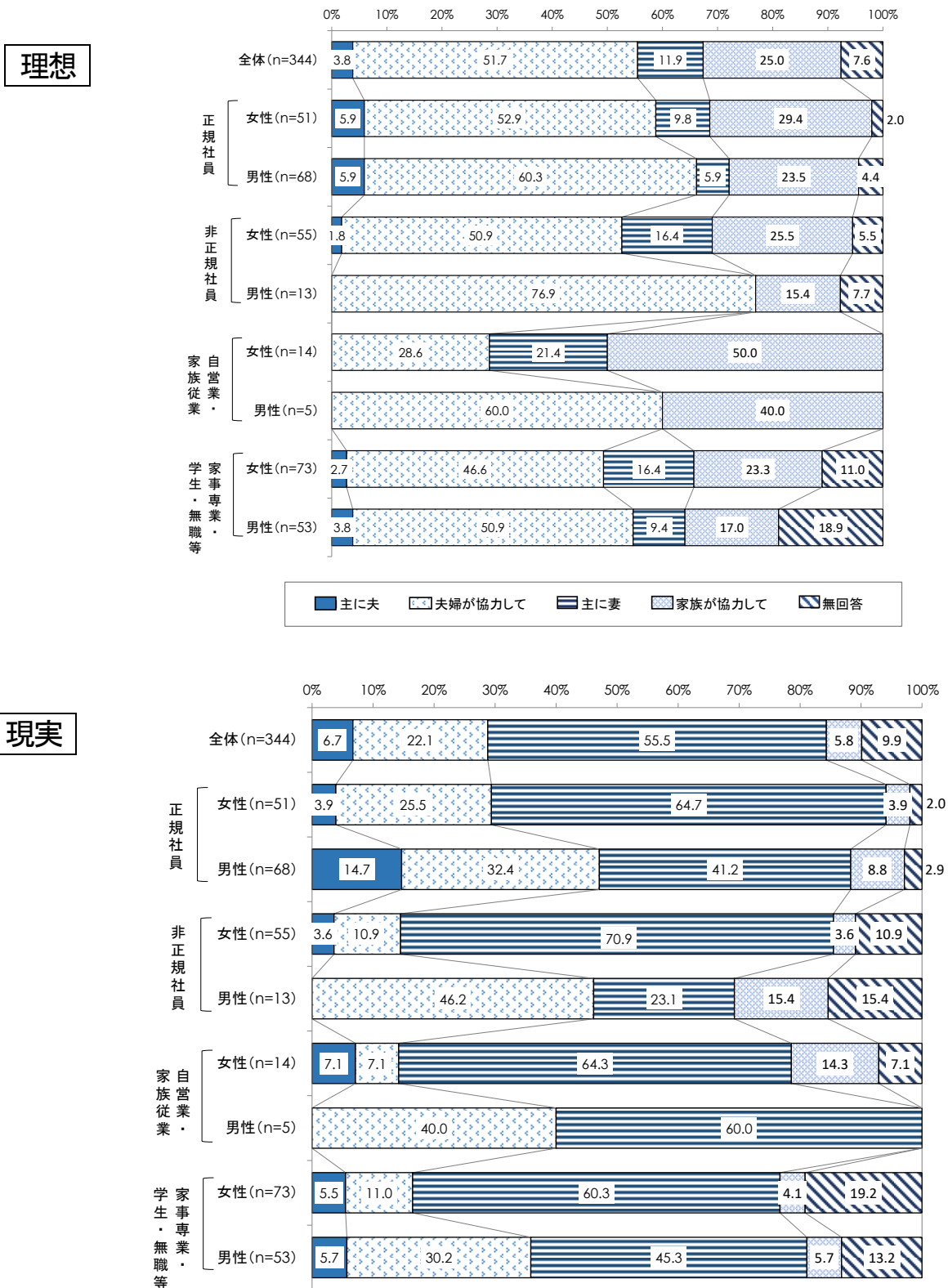
【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(ウ 食事のしたく)】



エ 食事の後かたづけ

食事の後かたづけについてみると、理想では自営業・家族従業の女性は「家族が協力して」、その他の方は「夫婦が協力して」の割合が最も高いのに対し、現実では非正規社員の男性を除くすべての雇用形態・性別で「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後かたづけ)】

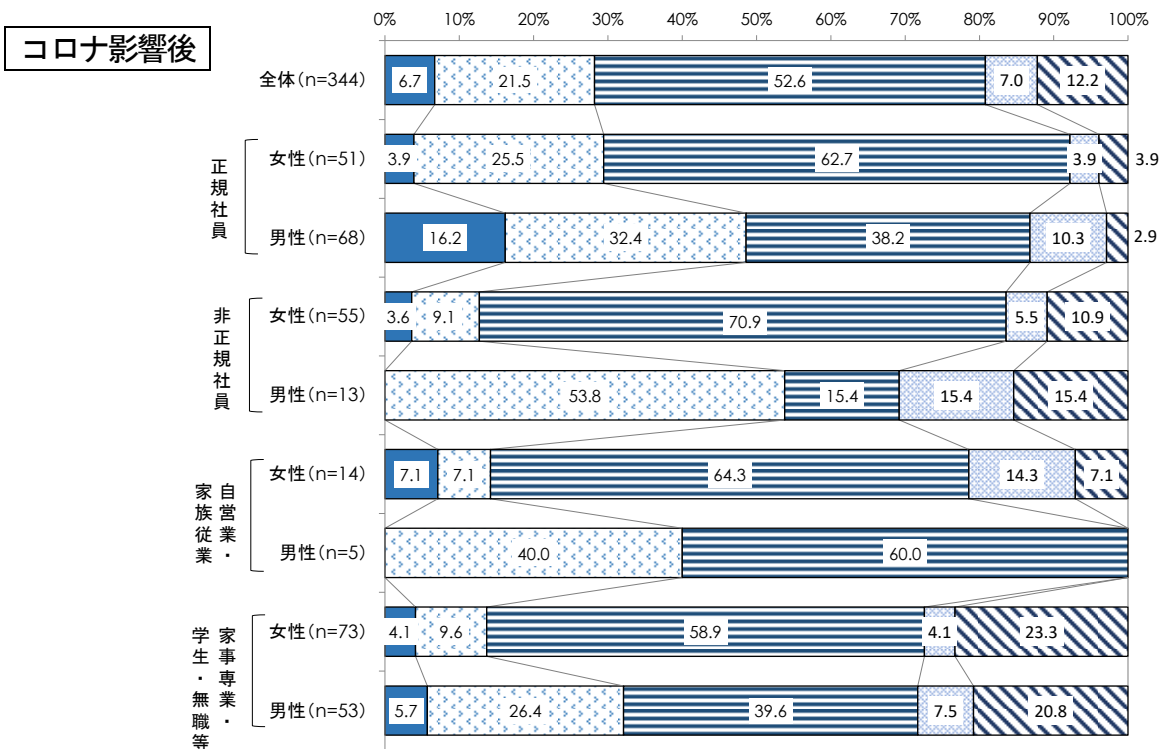
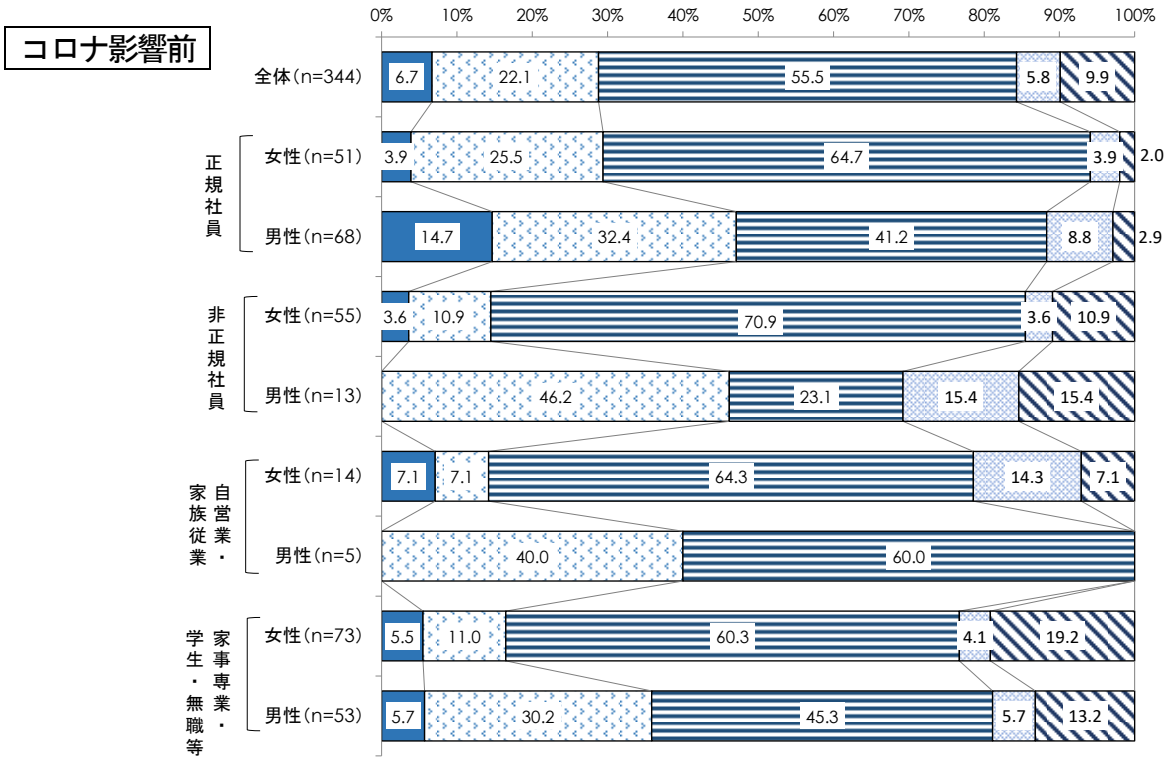


【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

エ 食事の後かたづけ

食事の後かたづけについてコロナ影響前と影響後と比較すると、概ね同様の割合でした。

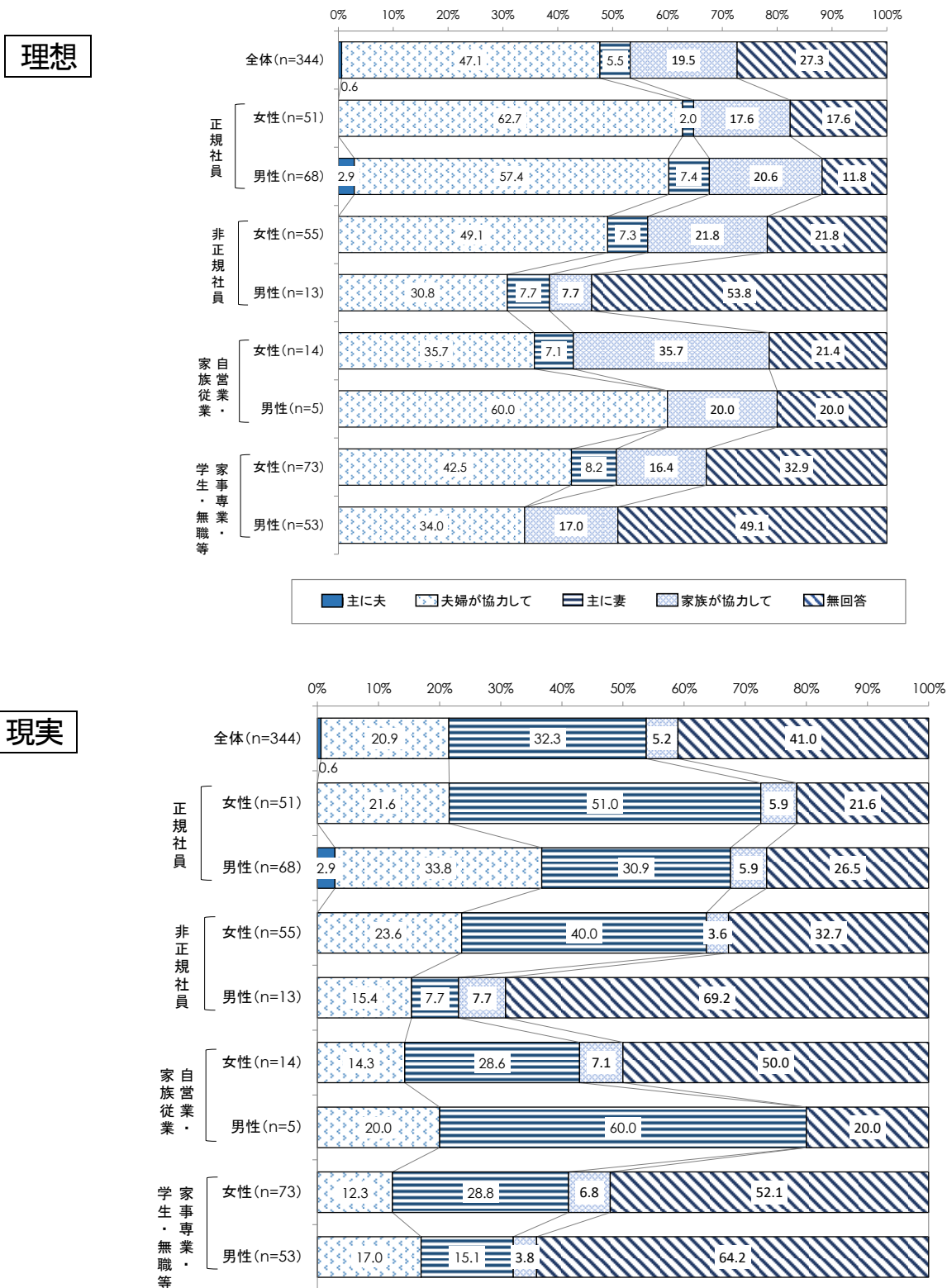
【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(エ 食事の後かたづけ)】



オ 子どもの世話・教育

子どもの世話・教育についてみると、理想ではすべての雇用形態・性別で「夫婦が協力して」の割合が最も高く、現実では正規社員、非正規社員、家事専業・学生・無職等の男性は「夫婦が協力して」、自営業・家族従業の男性、すべての雇用形態の女性は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】

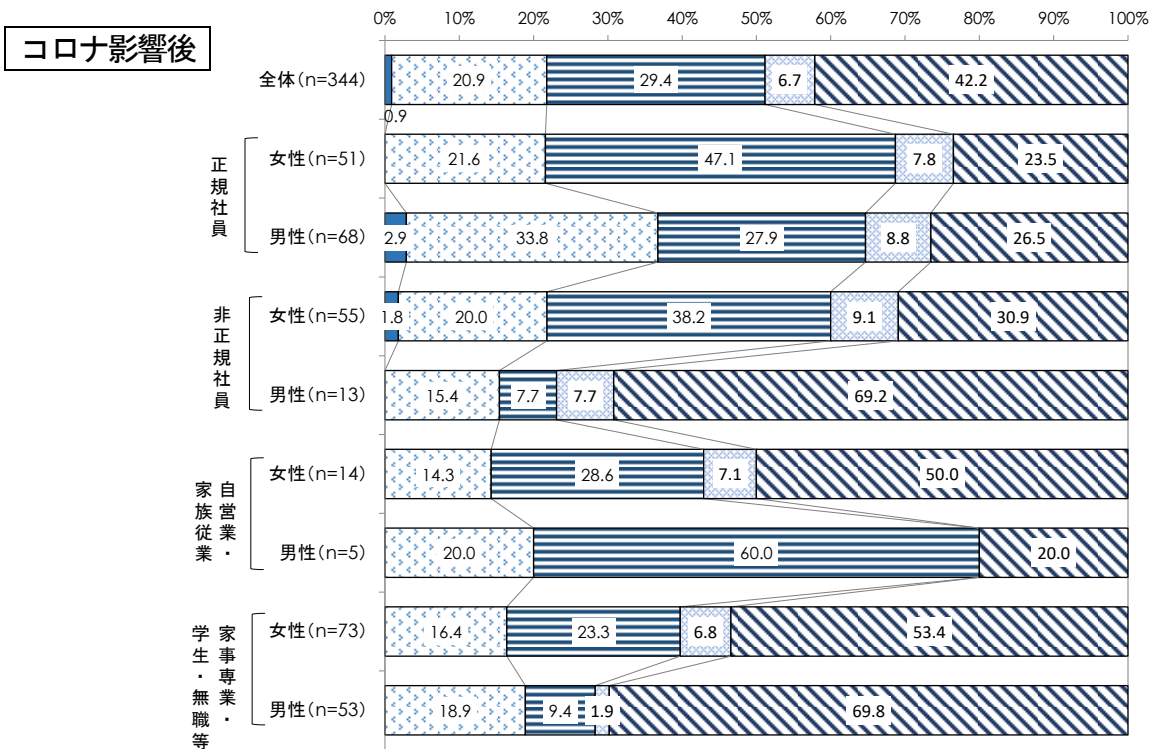
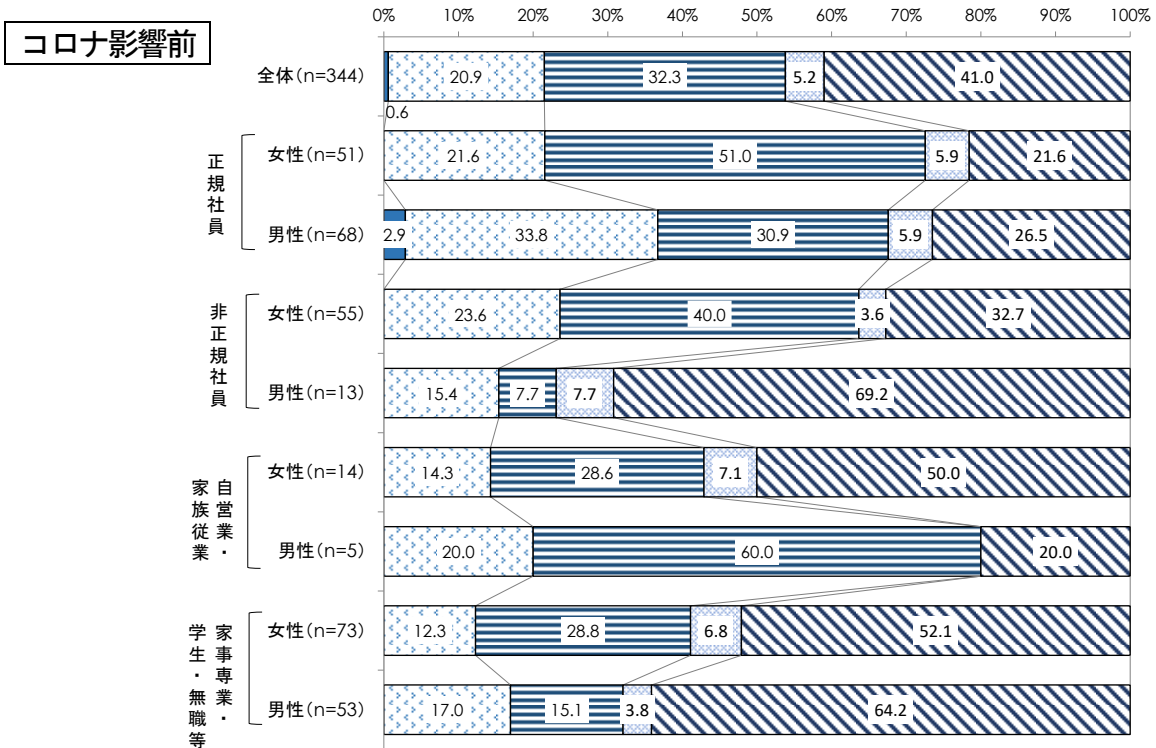


【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

オ 子どもの世話・教育

子どもの世話・教育についてコロナ影響前と影響後で比較すると、概ね同様の割合でした。

【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(オ 子どもの世話・教育)】

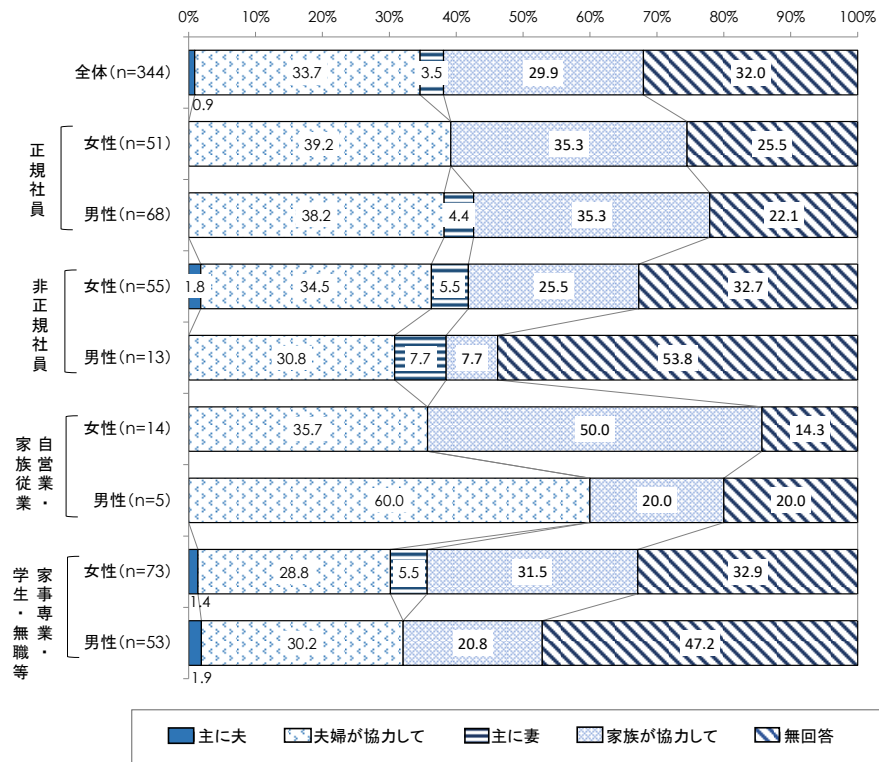


カ 家族の介護

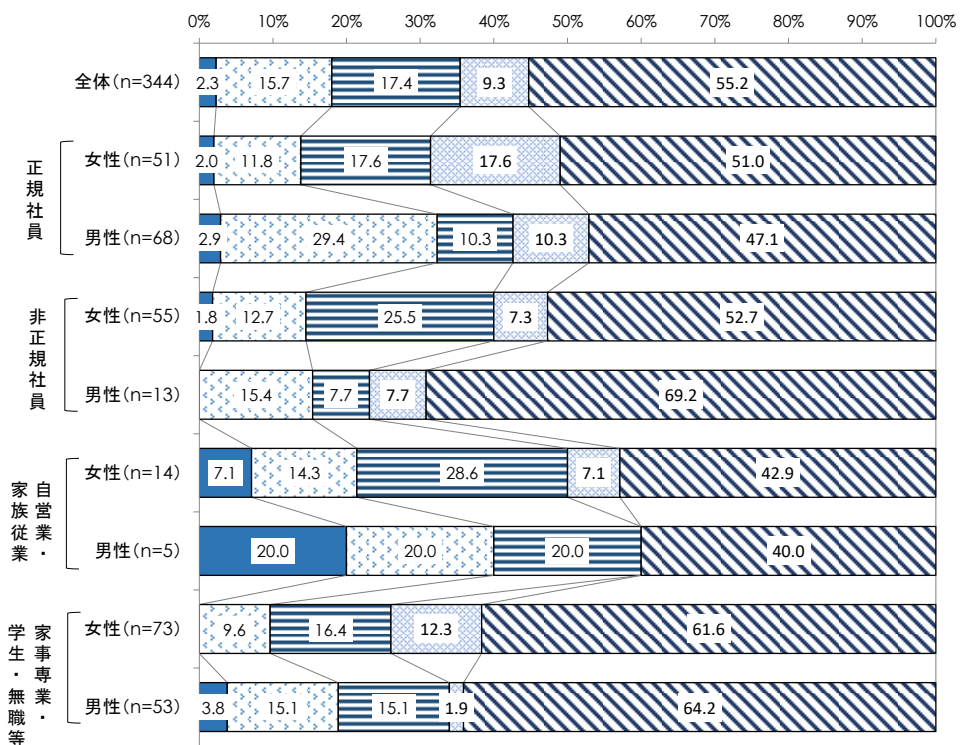
家族の介護についてみると、理想では自営業・家族従業の女性は「家族が協力して」、その他の方は「夫婦が協力して」の割合が最も高く、現実では正規社員、非正規社員、家事専業・学生・無職等の男性は「夫婦が協力して」、自営業・家族従業の男性、すべての雇用形態の女性は「主に妻」の割合が最も高くなっています。

【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】

理想



現実

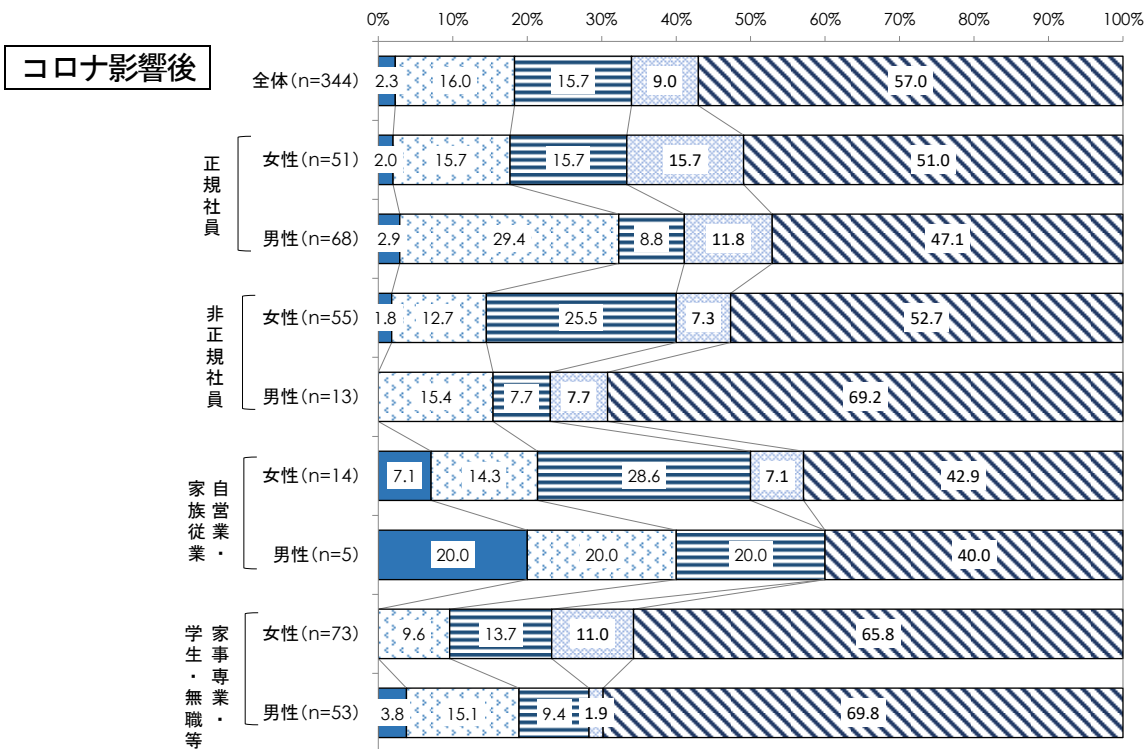
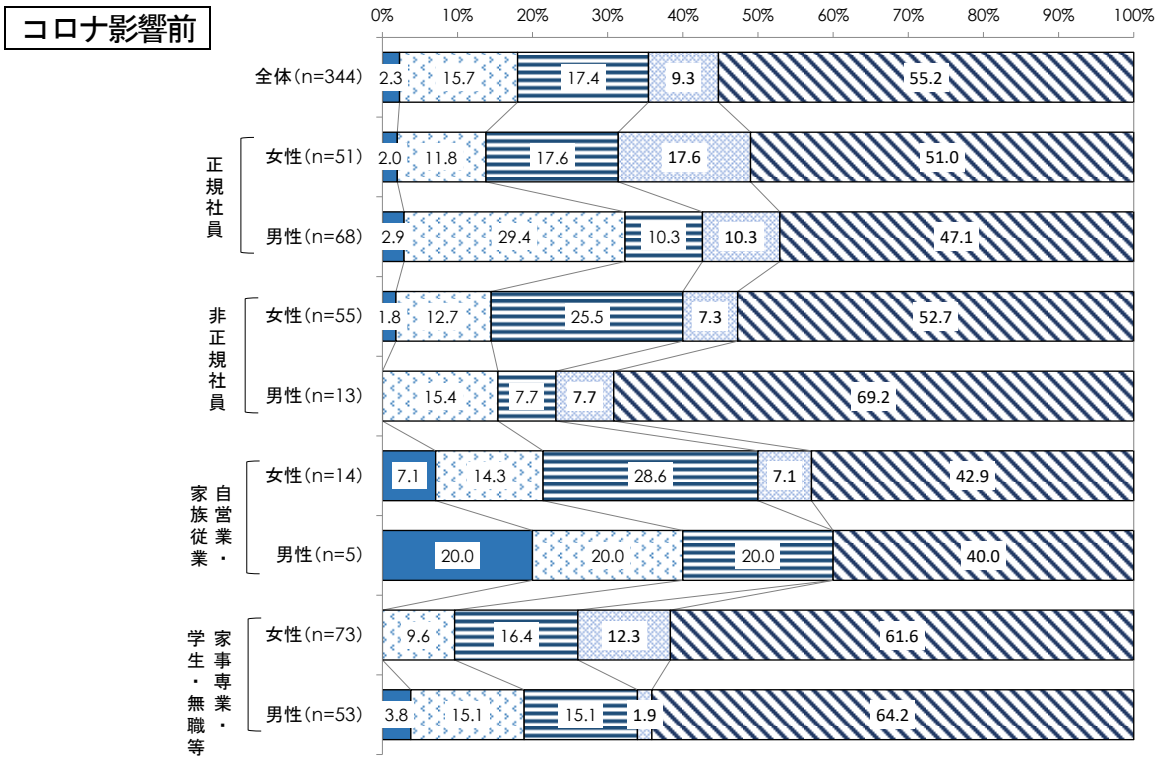


【参考：コロナ影響前・コロナ影響後】

カ 家族の介護

家族の介護についてコロナ影響前と影響後で比較すると、概ね同様の割合でした。

【雇用形態別・性別にみた家事などの役割分担について(カ 家族の介護)】



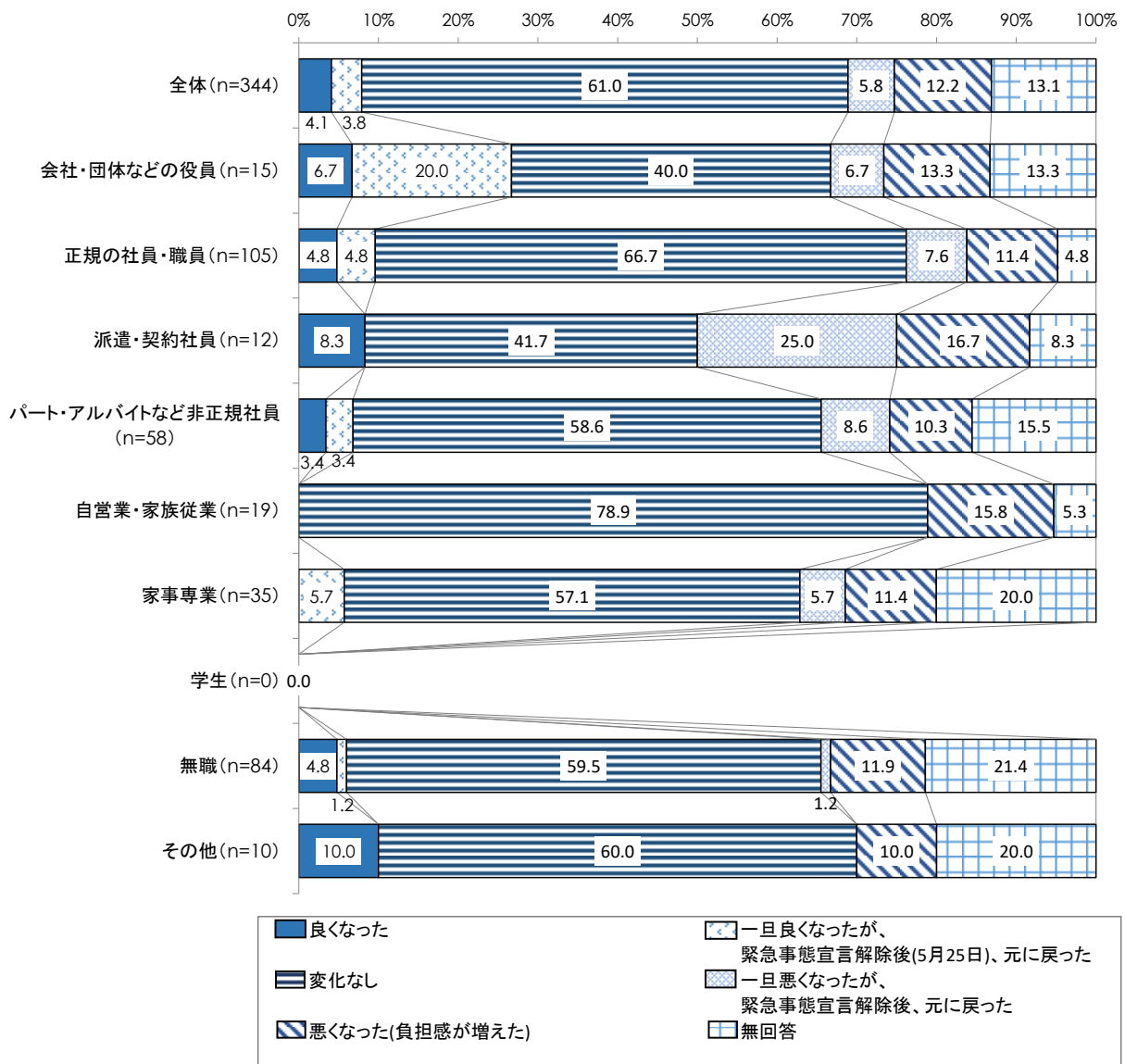
問 12. <<問11の(1)(2)に回答した方にうかがいます>> →そのほかの方は問13へ

新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前後において、あなたの生活はどう変化したと感じますか。(〇は1つ)

新型コロナウイルスの影響での生活の変化をみると、「変化なし」61.0%の割合が最も高く、次いで「悪くなった」12.2%、「一旦悪くなったが、緊急事態宣言解除後、元に戻った」5.8%、「良くなった」4.1%の順となっています。

自身の職業別にみると、「悪くなった」の割合は派遣・契約社員、自営業・家族従業、会社・団体などの役員の順に高くなっています。

【雇用形態別にみたコロナでの生活の変化について】



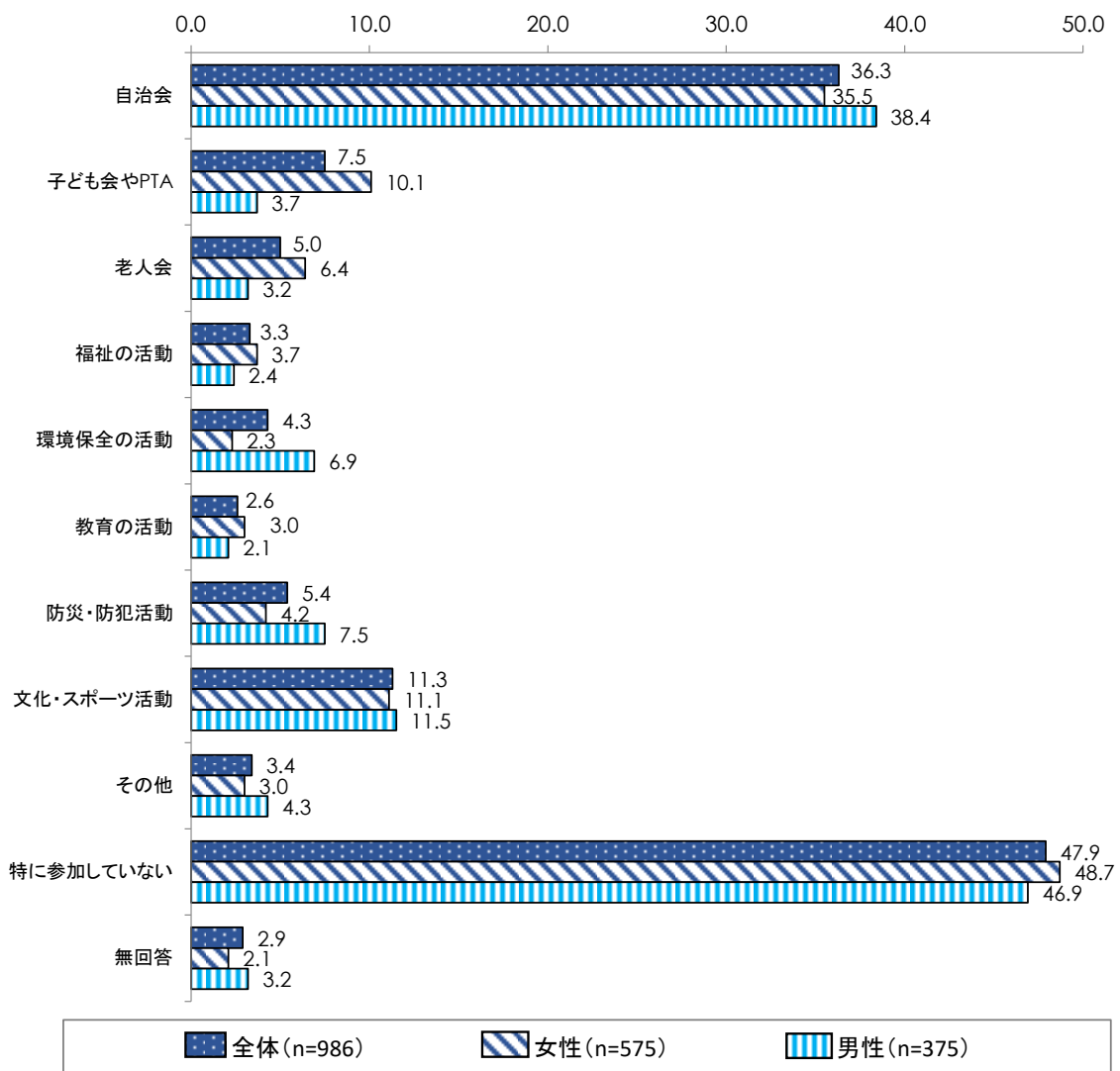
問 13. 地域活動や社会活動について、あなたが参加しているものは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

地域活動や社会活動への参加状況を見ると、「特に参加していない」47.9%の割合が最も高く、次いで「自治会」36.3%、「文化・スポーツ活動」11.3%、「子ども会やPTA」7.5%の順となっています。「その他」としては、「ボランティア活動」、「コミュニティ活動」などの回答が多くありました。

性別にみると、男性は女性より「環境保全の活動」の割合が高く、女性は男性より「子ども会やPTA」の割合が高くなっています。

【性別にみた地域活動や社会活動への参加状況について】



年代別にみると、20歳代以下～50歳代は「特に参加していない」、60歳以降は「自治会」の割合が最も高くなっています。

【年代別にみた地域活動や社会活動への参加状況について】

	自治体	子ども会やPTA	老人会	福祉の活動	環境保全の活動	教育の活動	防災・防犯活動	文化・スポーツ活動	その他	特に参加していない	無回答
全体 (n=986)	36.3	7.5	5.0	3.3	4.3	2.6	5.4	11.3	3.4	47.9	2.9
20歳代以下 (n=69)	8.7	2.9	0.0	0.0	1.4	4.3	0.0	10.1	2.9	76.8	0.0
30歳代 (n=100)	13.0	26.0	0.0	1.0	5.0	6.0	2.0	11.0	2.0	61.0	0.0
40歳代 (n=179)	15.1	19.6	0.0	1.7	1.1	3.4	1.7	6.7	2.8	59.2	1.7
50歳代 (n=160)	35.0	4.4	0.0	2.5	3.1	1.3	5.0	10.0	1.3	53.1	1.3
60歳代 (n=215)	48.8	1.4	4.7	4.2	4.7	1.9	7.4	10.7	4.7	42.8	1.9
70歳以上 (n=243)	58.8	0.0	16.0	5.8	6.6	1.6	9.5	16.5	5.3	28.4	6.2

単位：%

問 14. <<問 13 で「特に参加していない」と答えた方にかがいます>> →そのほかの方は問 15 へ
その主な理由は何ですか。(○は1つ)

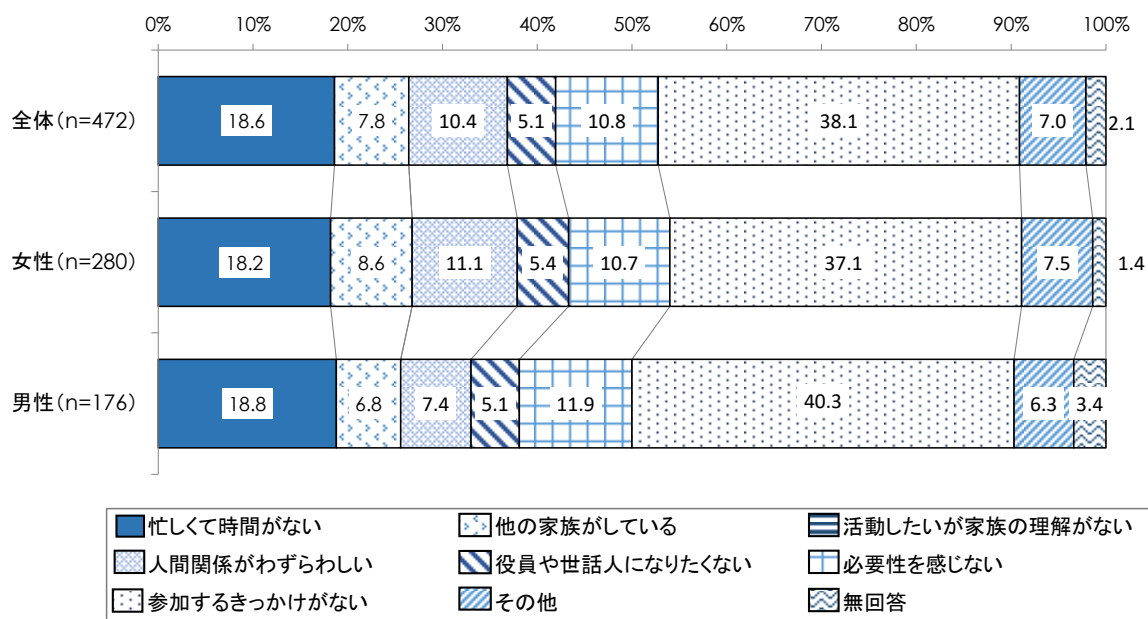
地域活動や社会活動に「特に参加していない」と答えた方の参加していない理由についてみると、「参加するきっかけがない」38.1%の割合が最も高く、次いで「忙しくて時間がない」18.6%、「必要性を感じない」10.8%、「人間関係がわずらわしい」10.4%の順となっています。「その他」としては、「自治会に入っていない」、「つきあいがいい」「病気のため」などの回答がありました。

性別にみると、男性は女性より「参加するきっかけがない」の割合が、女性は男性より「人間関係がわずらわしい」の割合が若干高くなっています。

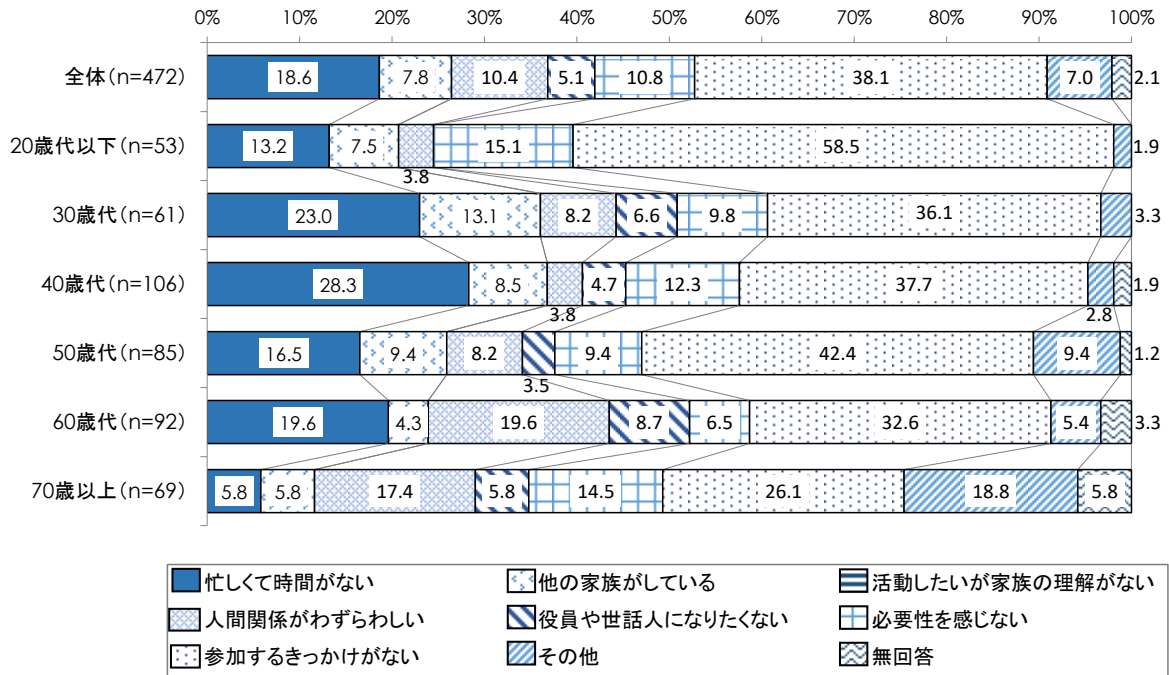
年代別にみると、すべての年代で「参加するきっかけがない」の割合が最も高くなっており、特に 20 歳代以下は 58.5%を占めています。

雇用形態別にみると、自営業・家族従業員は「忙しくて時間がない」の割合が最も高く、その他の雇用形態では「参加するきっかけがない」の割合が最も高くなっています。

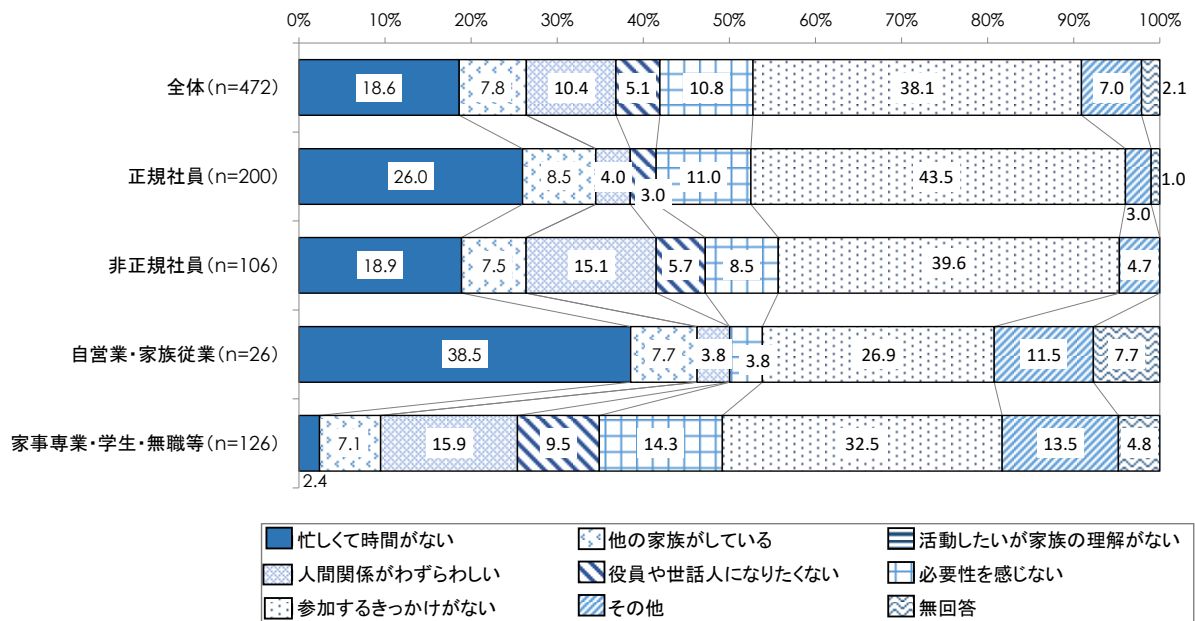
【性別にみた地域活動や社会活動に参加していない理由について】



【年代別にみた地域活動や社会活動に参加していない理由について】



【雇用形態別にみた地域活動や社会活動に参加していない理由について】



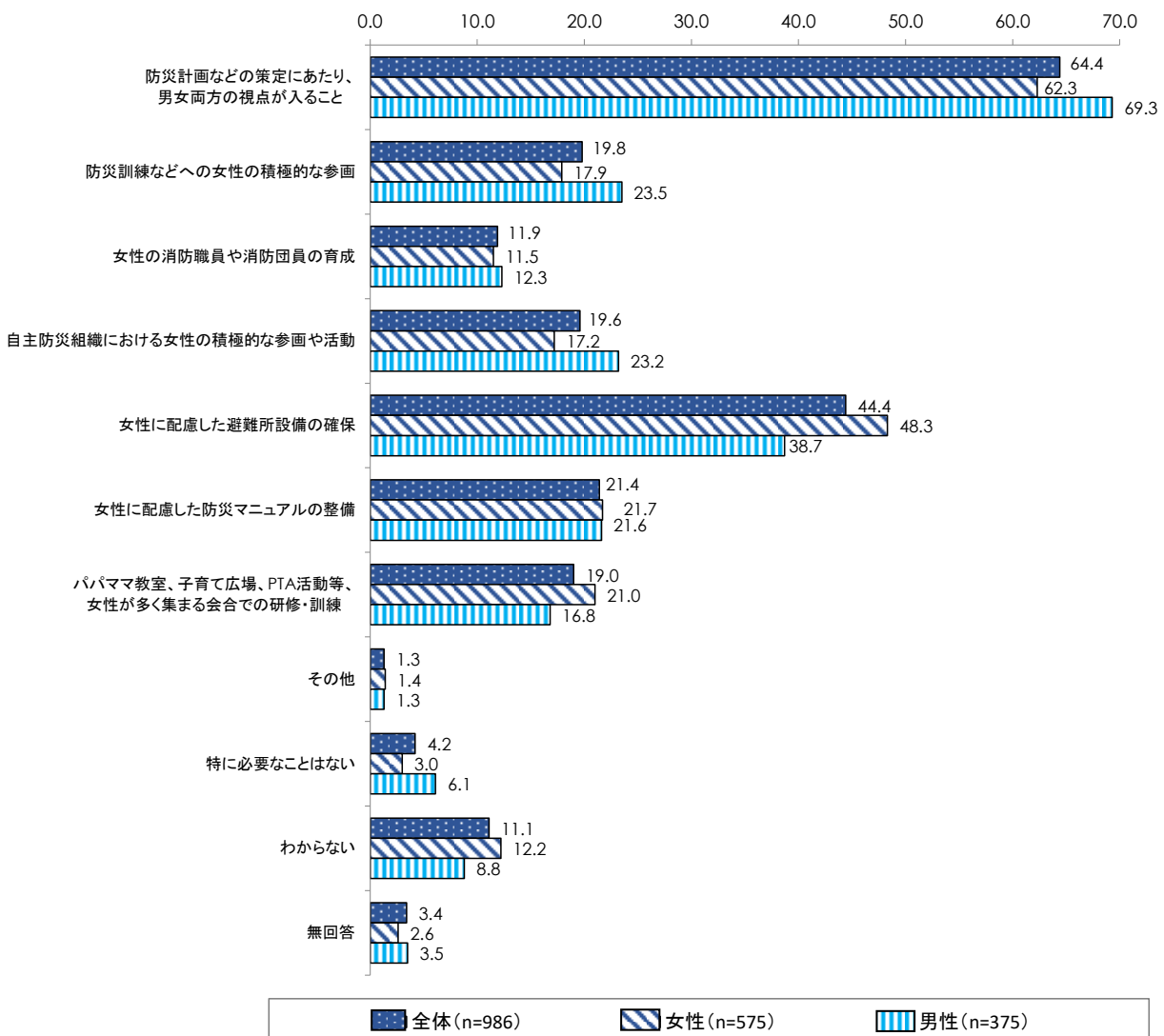
問 15. ≪全員にうかがいます≫

防災(災害復興も含みます)活動に関して、男女共同参画を推進していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

防災(災害復興も含みます)活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについてみると、「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」64.4%の割合が最も高く、次いで「女性に配慮した避難所設備の確保」44.4%、「女性に配慮した防災マニュアルの整備」21.4%、「防災訓練などへの女性の積極的な参画」19.8%の順となっています。「その他」としては、「女性が参加しやすい環境づくり」、「防災は性別に関係なく行うべき」などの回答がありました。

性別にみると、男性は女性より「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」、「自主防災組織における女性の積極的な参画や活動」、「防災訓練などへの女性の積極」の割合が高く、女性は男性より「女性に配慮した避難所設備の確保」、「パパママ教室、子育て広場、PTA活動等、女性が多く集まる会合での研修・訓練」の割合が高くなっています。

【性別にみた防災活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについて】



年代別にみても、すべての年代で「防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること」の割合が最も高く、60%を超えています。

【年代別にみた防災活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことについて】

	防災計画などの策定にあたり、男女両方の視点が入ること	防災訓練などへの女性の積極的な参画	女性の消防職員や消防団員の育成	自主防災組織における女性の積極的な参画や活動	女性に配慮した避難所設備の確保	女性に配慮した防災マニュアルの整備	ババママ教室、子育て広場、PTA活動等、女性が多く集まる会合での研修・訓練	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
全体 (n=986)	64.4	19.8	11.9	19.6	44.4	21.4	19.0	1.3	4.2	11.1	3.4
20歳代以下 (n=69)	62.3	23.2	14.5	11.6	43.5	14.5	34.8	1.4	5.8	7.2	2.9
30歳代 (n=100)	68.0	12.0	18.0	12.0	44.0	14.0	30.0	2.0	5.0	13.0	0.0
40歳代 (n=179)	63.1	12.3	12.3	16.8	45.3	27.9	18.4	1.1	3.9	13.4	2.2
50歳代 (n=160)	66.9	20.0	12.5	19.4	50.6	25.6	15.0	1.9	5.0	10.0	0.6
60歳代 (n=215)	66.5	20.5	9.8	25.1	44.7	19.1	19.1	0.5	2.8	9.8	3.3
70歳代以上 (n=243)	61.7	27.6	9.9	22.6	39.9	20.6	14.0	1.6	4.1	11.5	6.2

単位：%

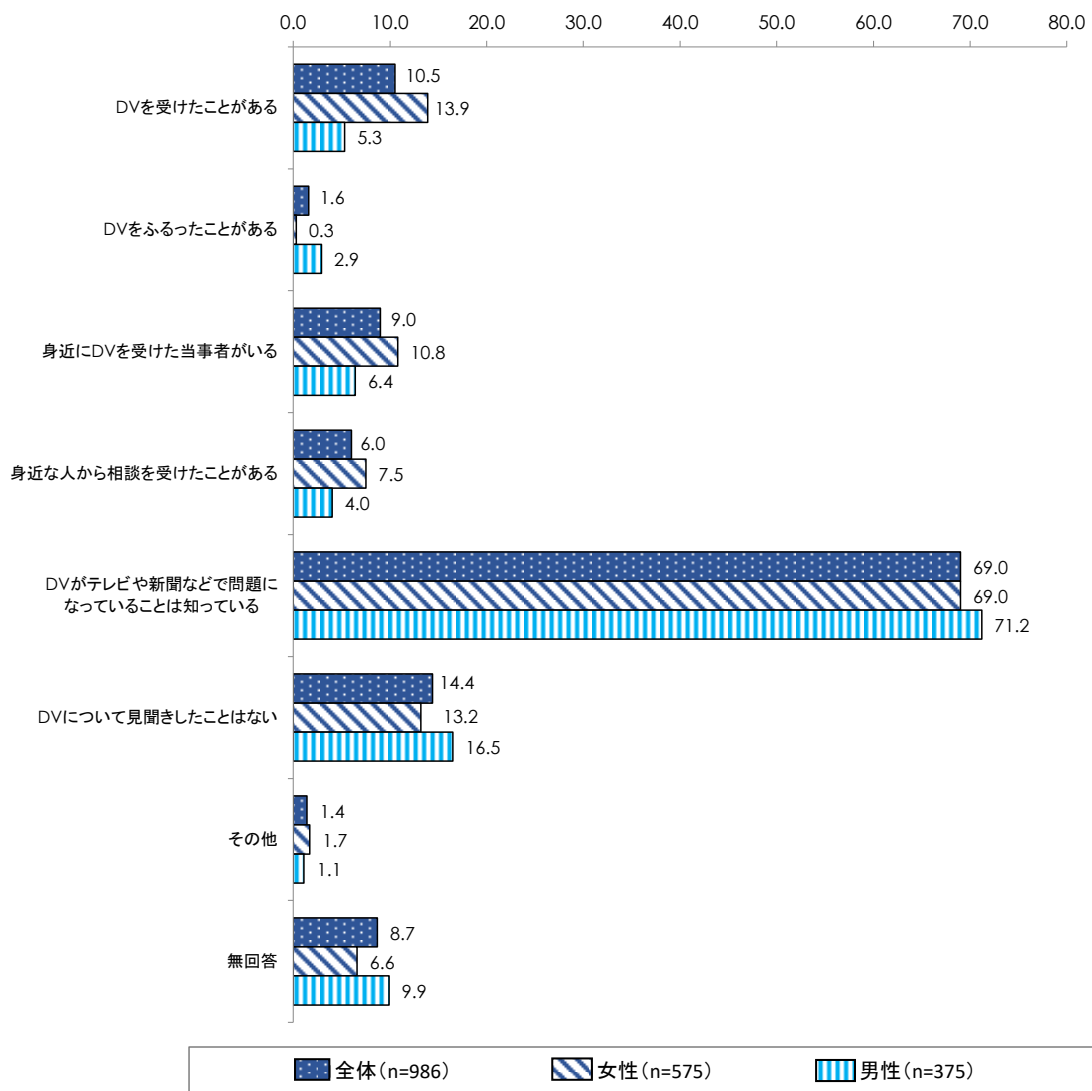
5 ドメスティック・バイオレンス(DV)について

問 16. あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)(※)を経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

DVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことについてみると、「DVがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」69.0%の割合が最も高く、次いで「DVについて見聞きしたことはない」14.4%、「DVを受けたことがある」10.5%、「身近にDVを受けた当事者がいる」9.0%の順となっています。「その他」としては、「DVまではいかないが、それに近い精神的暴力」、「言葉の暴力はある」などの回答がありました。

性別にみると、「DVを受けたことがある」では女性は13.9%、男性は5.3%となっています。

【性別にみたDVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて】



※ドメスティック・バイオレンス (DV) とは、配偶者や恋人などの親密な関係にあるパートナーから受ける暴力のことをいいます。

殴る、蹴るなどの身体的暴力のみならず、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力や社会的暴力など、広く意味します。

年代別にみても、すべての年代で「DVがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合が最も高く、60%を超えています。

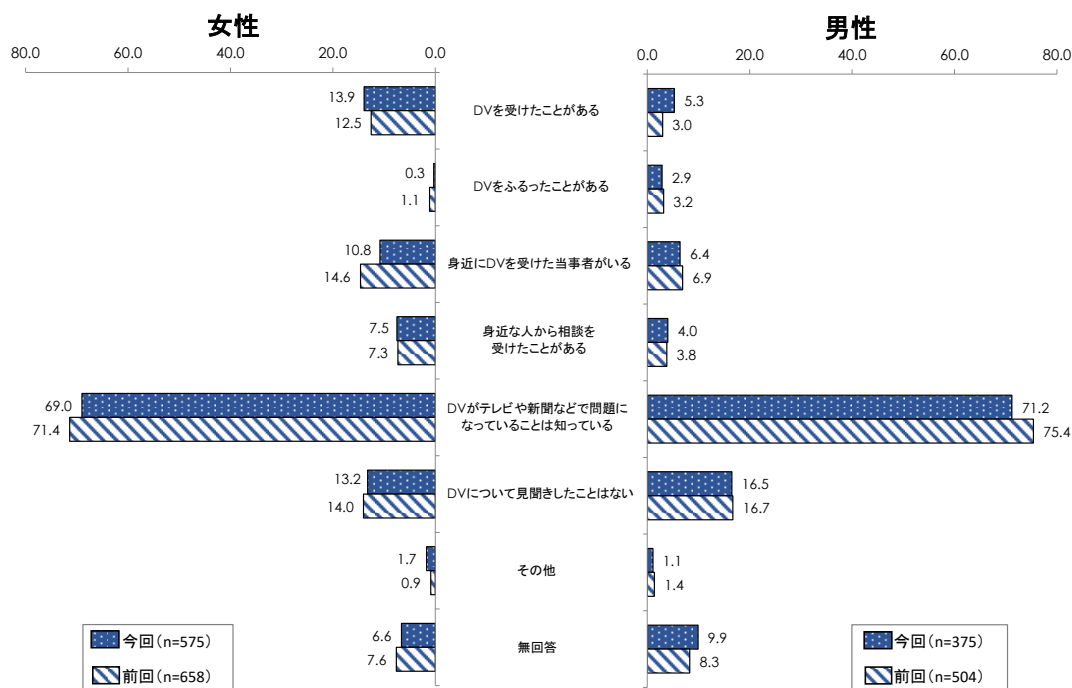
【年代別にみたDVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて】

	DVを受けたことがある	DVをふるったことがある	身近にDVを受けた当事者がいる	身近な人から相談を受けたことがある	DVがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている	DVについて見聞きしたことはない	その他	無回答
全体 (n=986)	10.5	1.6	9.0	6.0	69.0	14.4	1.4	8.7
20歳代以下 (n=69)	5.8	0.0	11.6	4.3	76.8	21.7	1.4	1.4
30歳代 (n=100)	9.0	1.0	16.0	14.0	75.0	8.0	0.0	4.0
40歳代 (n=179)	17.3	2.8	11.2	7.8	67.0	11.7	1.7	5.0
50歳代 (n=160)	13.1	0.0	11.3	5.0	70.0	10.0	2.5	4.4
60歳代 (n=215)	11.6	1.4	6.0	4.7	68.8	17.2	0.9	8.4
70歳代以上 (n=243)	4.9	2.5	5.3	4.1	67.1	17.3	1.6	16.5

単位：%

前回調査を性別に比較すると、男性・女性ともに「DVを受けたことがある」の割合は高く、「DVがテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」の割合は低くなっています。また、女性は「身近にDVを受けた当事者がいる」の割合も前回調査より低くなっています。

【前回比較・性別にみたDVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことについて】



問 17. ≪問 16 で「DV を受けたことがある」「DV をふるったことがある」「身近に DV を受けた当事者がいる」「身近な人から相談を受けたことがある」と答えた方にうかがいます≫

→そのほかの方は問 18 へ

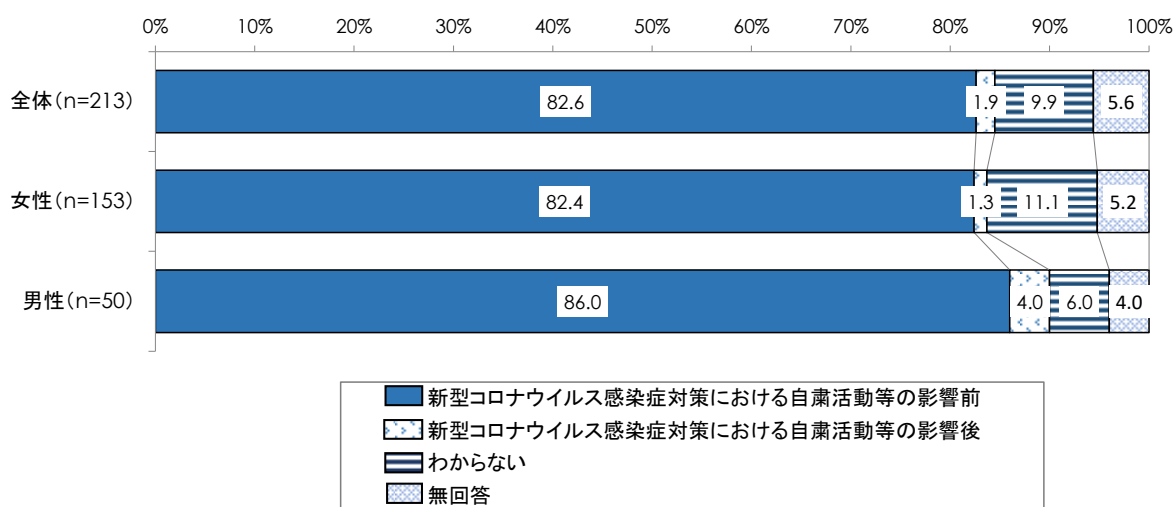
それはいつですか。(○は1つ)

DVを受けたこと、ふるったことがある方、身近にDVを受けた当事者がいる、相談を受けたことがある方の、その時期をみると、「新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前」82.6%の割合が最も高くなっています。一方で、「新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響後」という回答はほとんどみられず（全体で4人）、今回の調査では新型コロナウイルスによるDV被害への影響はみられませんでした。

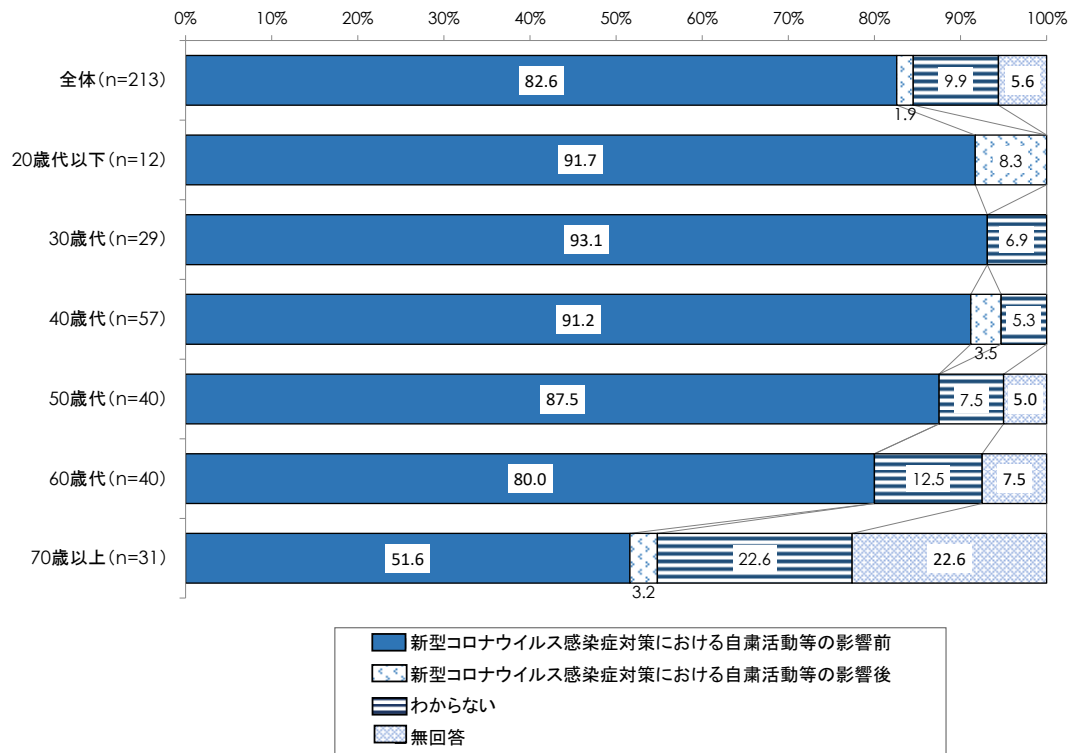
性別でも、概ね同様の割合となっています。

年代別にみると、70歳以上を除くすべての年代で「新型コロナウイルス感染症対策における自粛活動等の影響前」が80%を超えており、70歳以上でも51.6%を占めています。

【性別にみたDVを受けたこと、ふるったことがある方、身近にDVを受けた当事者がいる、相談を受けたことがある方の、その時期】



【年代別にみたDVを受けたこと、ふるったことがある方、身近にDVを受けた当事者がいる、相談を受けたことがある方の、その時期】

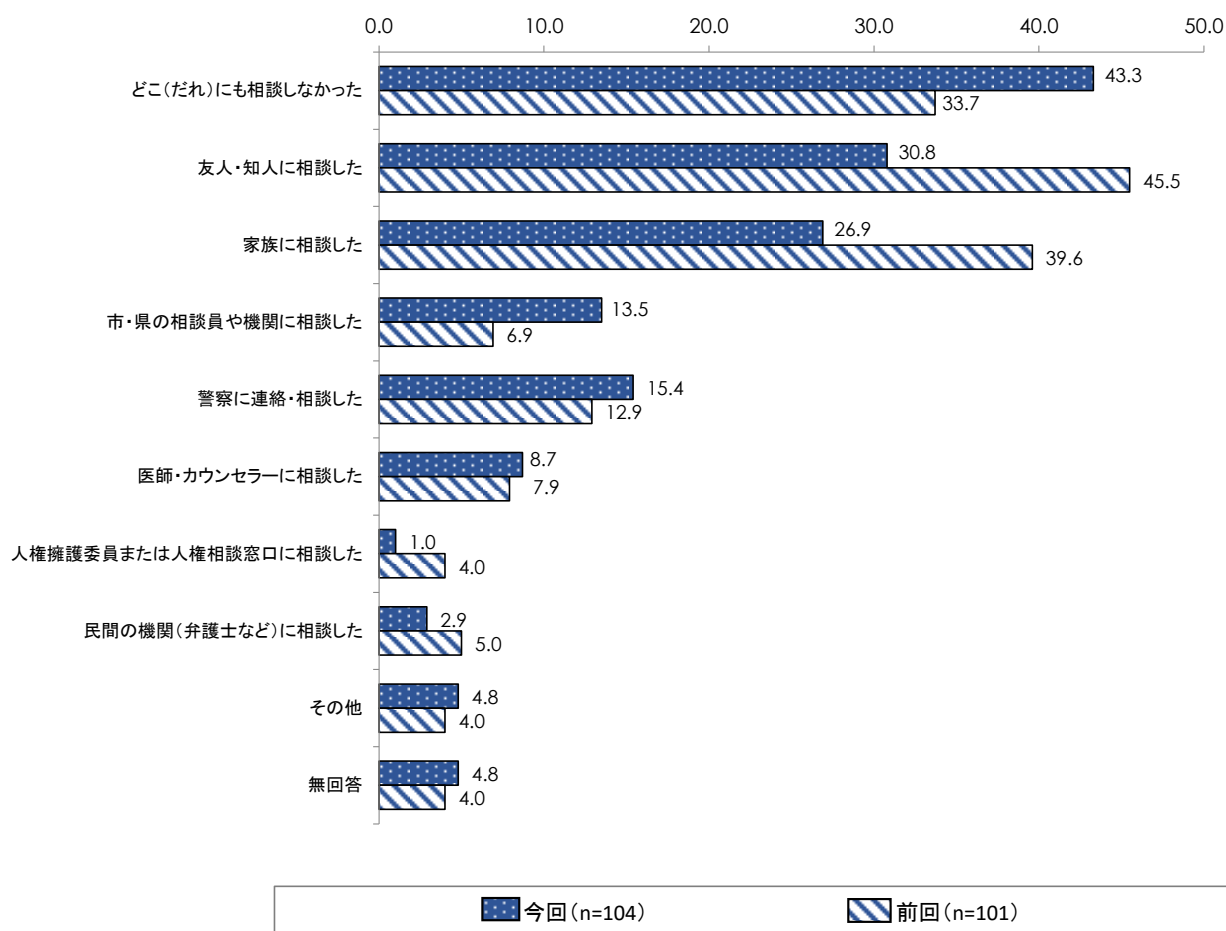


問 18. ≪問 16 で「DV を受けたことがある」と答えた方にかがいます≫ →そのほかの方は問 20 へ
 あなたは、そのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。
 (○はあてはまるものすべて)

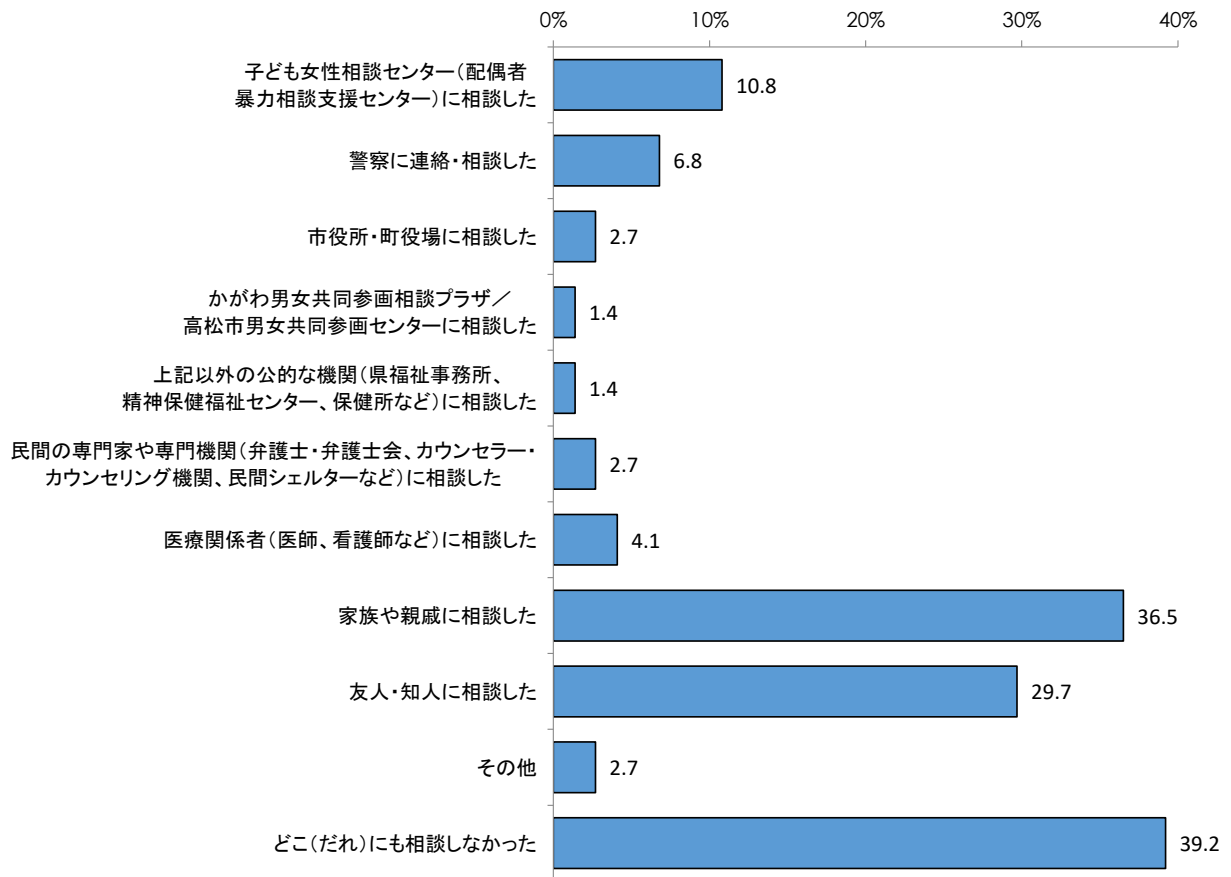
DVを受けたことのある方がDVのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかをみると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」43.3%の割合が最も高く、次いで「友人・知人に相談した」30.8%、「家族に相談した」26.9%、「警察に連絡・相談した」15.4%の順となっています。「その他」としては、「離婚した」、「笑い話にした」、「他のことは相談したが、DVについては言えなかった」などの回答がありました。

前回調査と比較すると、「どこ(だれ)にも相談しなかった」の割合は9.6ポイント高くなっており、「友人・知人に相談した」の割合は14.7ポイント、「家族に相談した」の割合は12.7ポイント低くなっています。

【 前回調査と比較したDVのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかについて 】

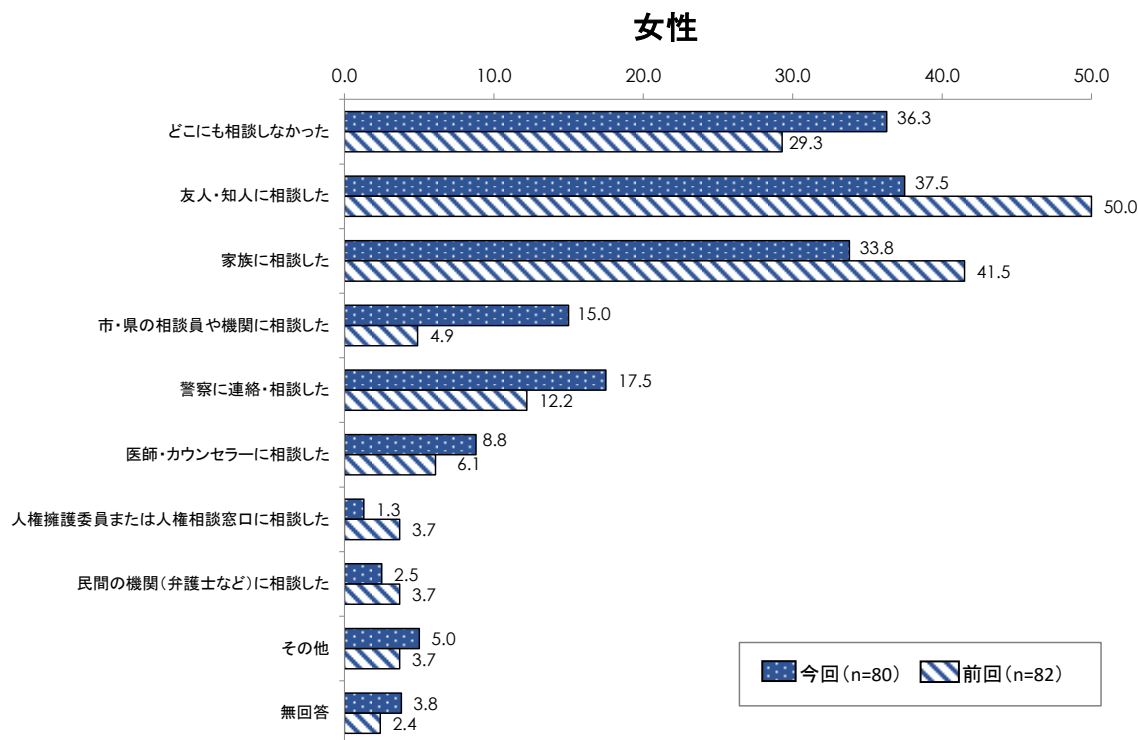


【参考：香川県調査】

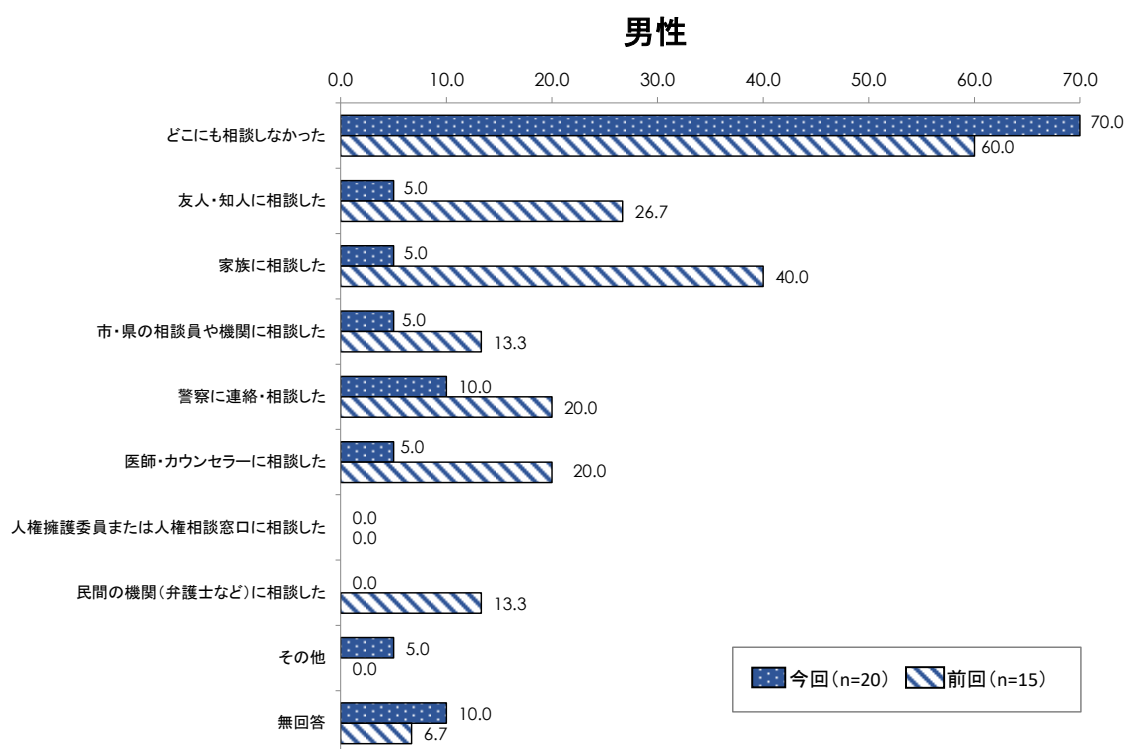


性別にみると、男性は女性より「どこ（だれ）にも相談しなかった」の割合が33.7ポイント高くなっています。

前回調査を性別にみると、男性は『相談した』のすべての項目の割合が低下しており、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が10ポイント高くなっています。女性は「市・県の相談員や機関に相談した」が10.1ポイント高くなっています。



【 前回比較・性別にみたDVのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしたことがあるかについて 】



問 19. ≪問 18 で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方にかがいます≫

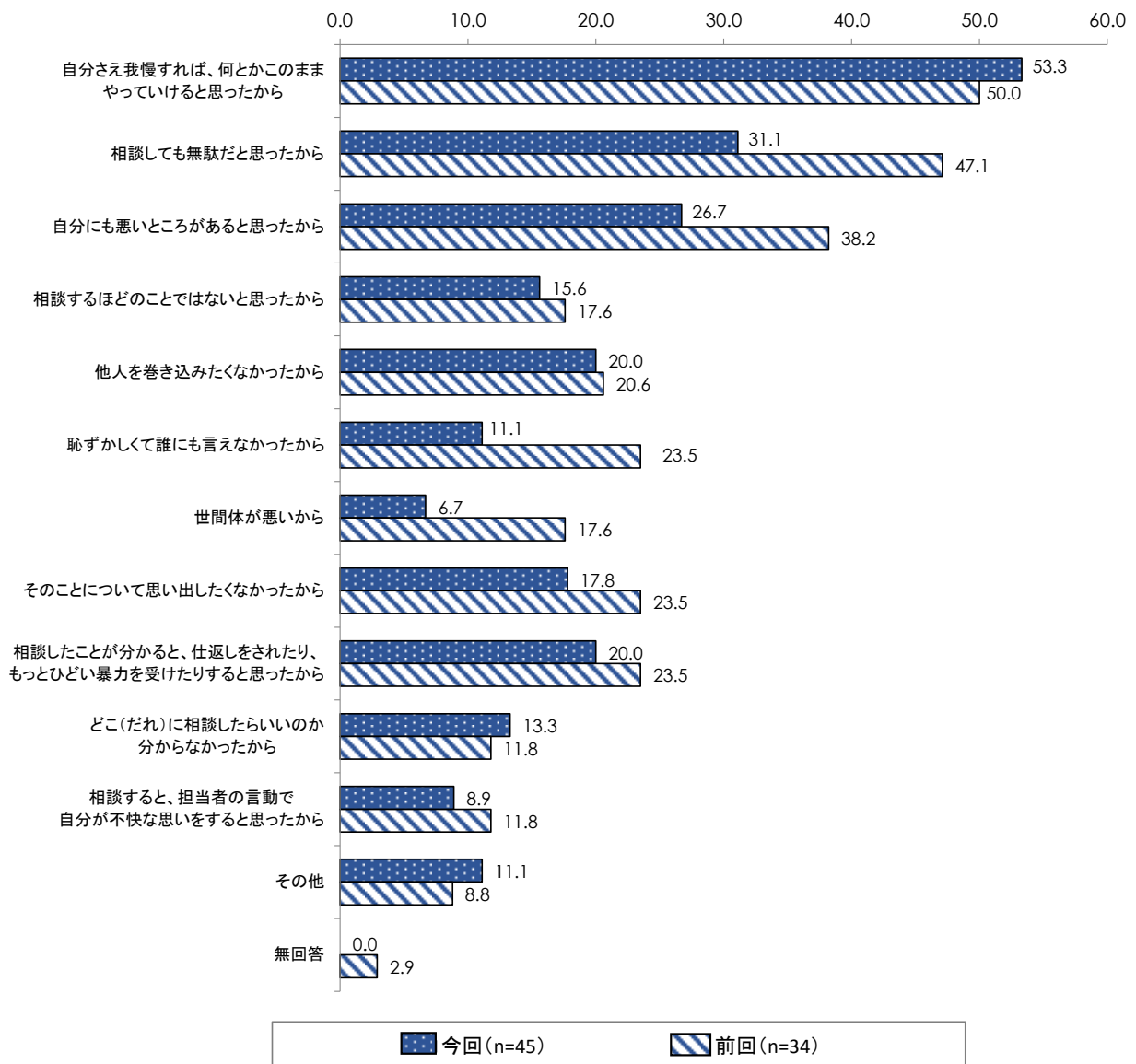
→そのほかの方は問 20 へ

相談しなかったのはなぜですか。(○はあてはまるものすべて)

DVを受けたことがある方のうち、DVのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしなかった理由をみると、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」53.3%の割合が最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」31.1%、「自分にも悪いところがあると思ったから」26.7%の順となっています。「その他」としては、「それが当たり前だと思われていた」、「離婚すると決めていた」などの回答がありました。

前回調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」、「世間体が悪いから」の割合は10ポイント以上減少しています。

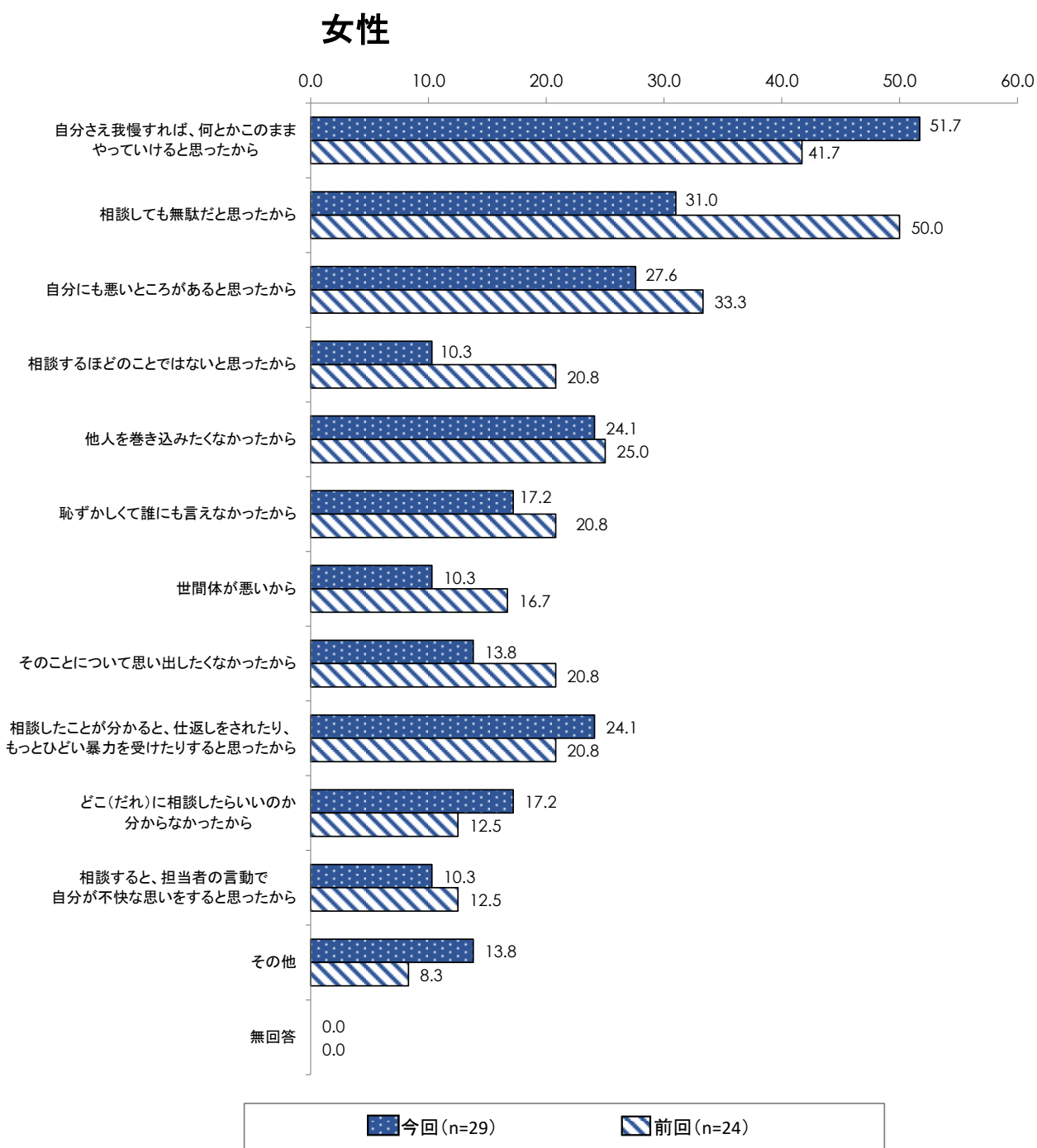
【前回調査と比較したDVのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしなかった理由について】



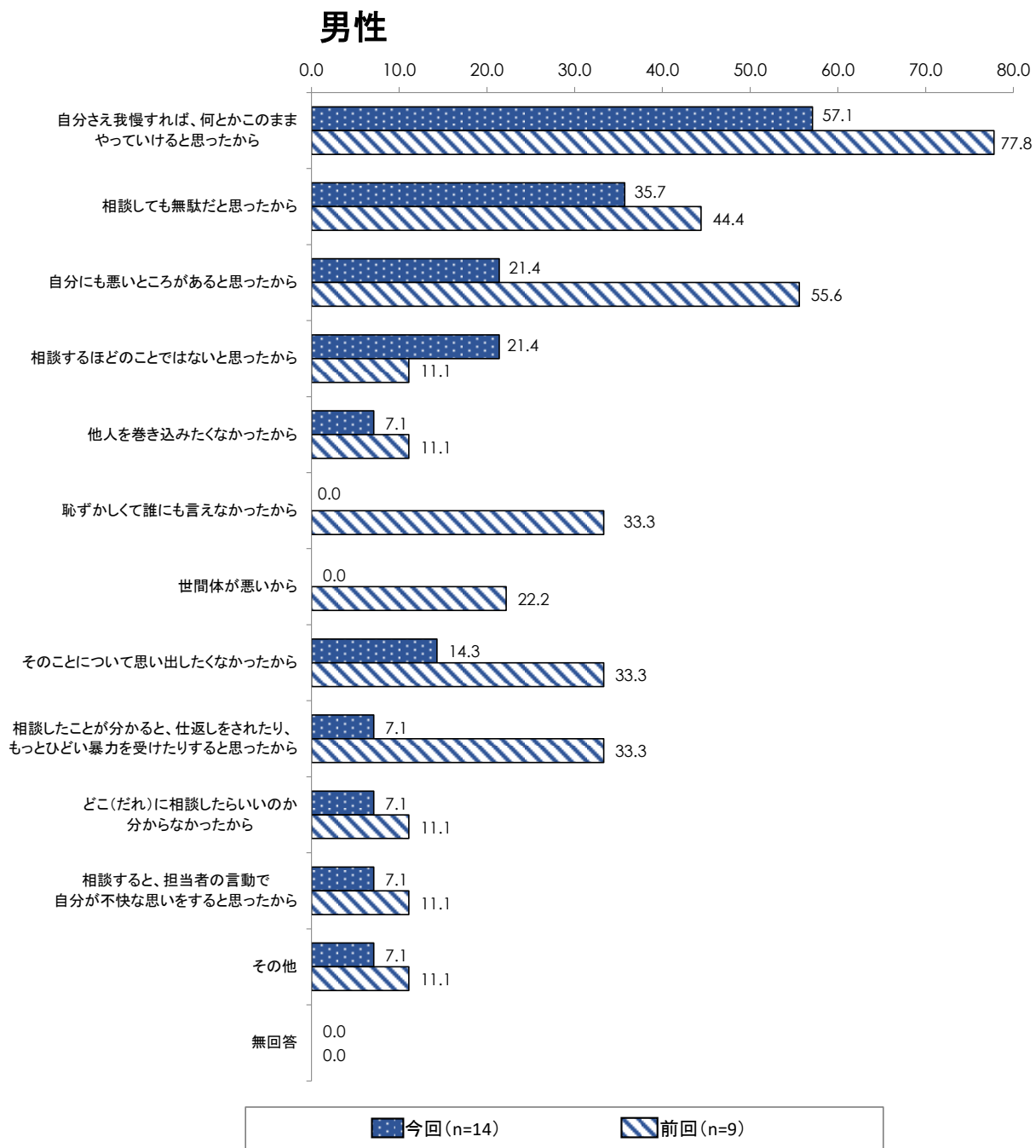
性別にみると、男性は女性より「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」は5.4ポイント、「相談しても無駄だと思ったから」は4.7ポイント、「相談するほどのことではないと思ったから」は11.1ポイント割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性・女性ともに「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」の割合が高くなっており、また、女性は「相談したことが分かって、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから」、「どこ（だれ）に相談したらいいのか分からなかったから」の割合も増加しています。

【前回比較・性別(女性)にみたDVのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしなかった理由について】



【前回比較・性別(男性)にみたDVのことをだれかに打ち明けたり、相談したりしなかった理由について】



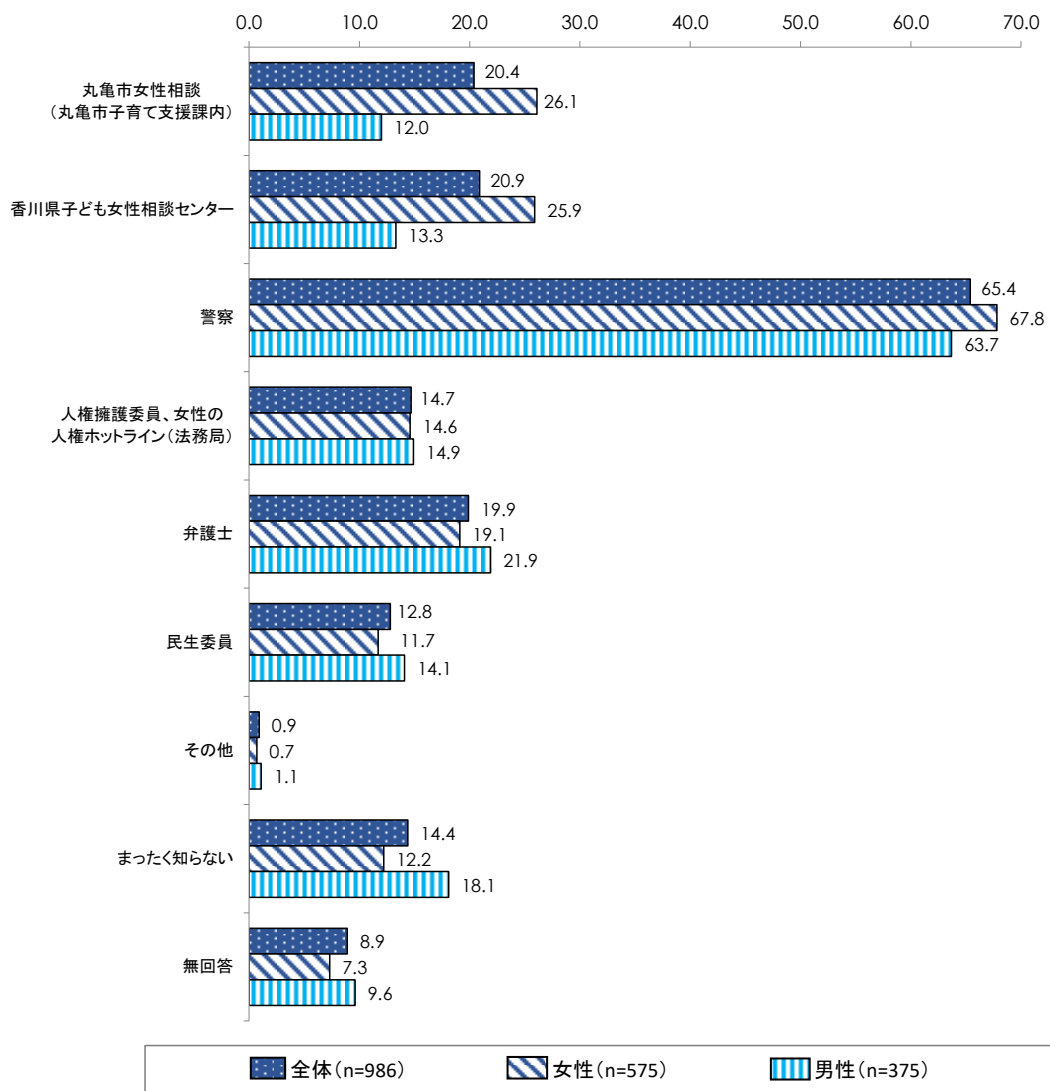
問 20. ≪全員にうかがいます≫

ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、あなたが知っているものを教えてください。(〇はあてはまるものすべて)

DVの被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものをみると、「警察」65.4%の割合が最も高く、次いで「香川県子ども女性相談センター」20.9%、「丸亀市女性相談（丸亀市子育て支援課内）」20.4%、「弁護士」19.9%の順となっています。「その他」としては、「高齢者支援課」、「社会福祉協議会」、「相談機関があることは知っているが、詳しいことはわからない」などの回答がありました。

性別にみると、女性は男性より「丸亀市女性相談（丸亀市子育て支援課内）」は14.1ポイント、「香川県子ども女性相談センター」は12.6ポイント、「警察」は4.1ポイント高くなっています。

【性別にみたDVの被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものについて】



年代別にみても、すべての年代で「警察」の割合が最も高くなっています。

【年代別にみたDVの被害に遭ったときなどに利用できる相談窓口のうち、知っているものについて】

	丸亀市女性 相談(丸亀市 子育て支援 課内)	香川県子ど も女性相談 センター	警察	人権擁護委 員、女性の 人権ホットラ イン(法務 局)	弁護士	民生委員	その他	まったく知ら ない	無回答
全体 (n=986)	20.4	20.9	65.4	14.7	19.9	12.8	0.9	14.4	8.9
20歳代以下 (n=69)	18.8	29.0	78.3	20.3	13.0	0.0	0.0	11.6	0.0
30歳代 (n=100)	16.0	22.0	77.0	11.0	23.0	1.0	1.0	17.0	2.0
40歳代 (n=179)	26.3	30.2	73.7	17.9	28.5	6.7	1.7	10.6	4.5
50歳代 (n=160)	27.5	28.8	65.6	15.0	21.9	12.5	1.3	14.4	3.8
60歳代 (n=215)	17.7	15.8	60.9	10.2	17.7	16.3	0.0	17.7	11.2
70歳代以上 (n=243)	16.5	10.7	56.0	15.6	15.6	23.0	0.8	14.4	16.9

単位：%

6 男女共同参画社会づくりについて

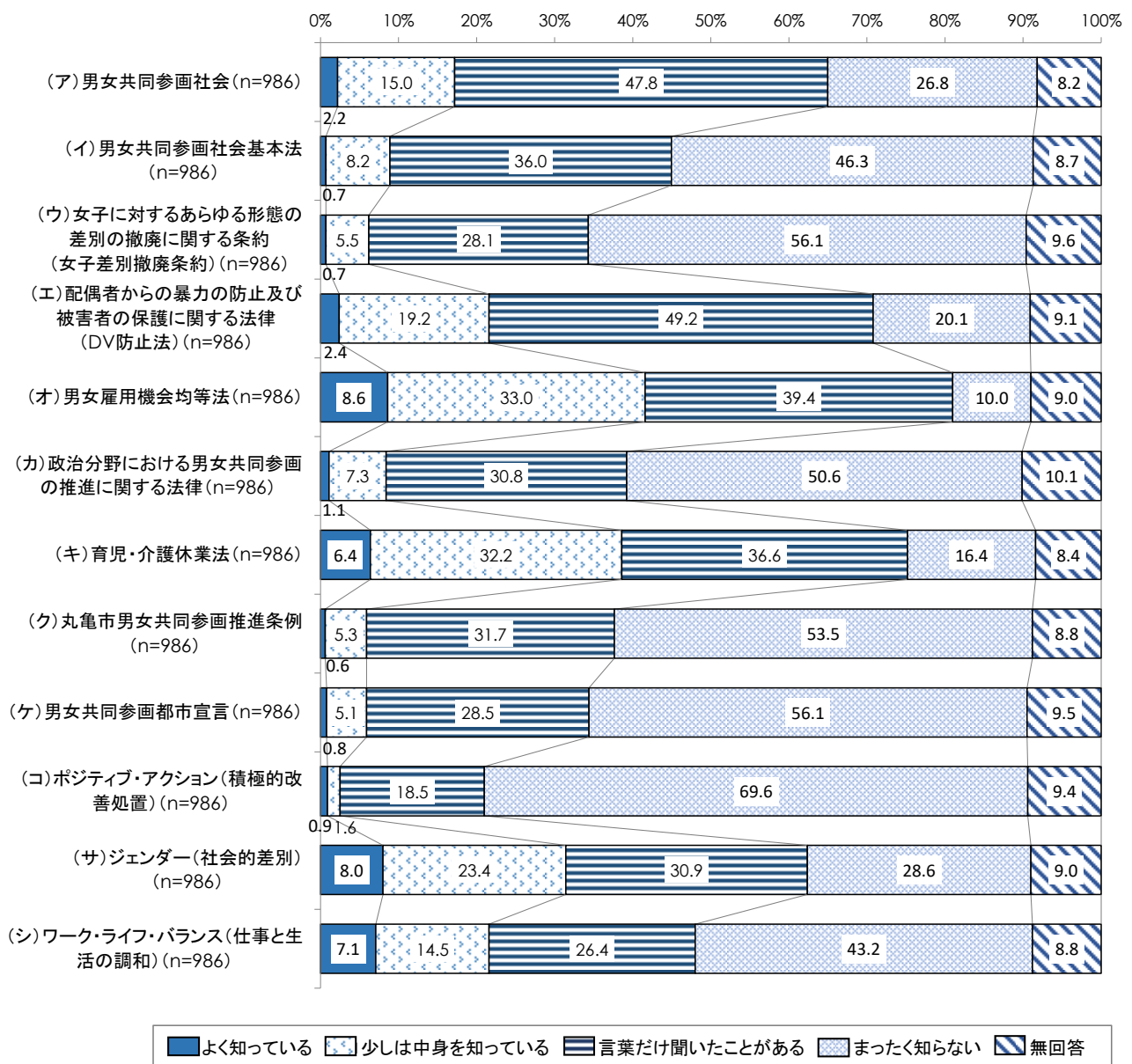
問 21. あなたは男女共同参画に関する(ア)から(シ)までの項目についてどの程度知っていますか。
(○は各項目1つずつ)

【全体】

男女共同参画に関する項目についての認知度についてみると、「よく知っている」、「少しは中身を知っている」を合わせた『知っている』では「(オ) 男女雇用機会均等法」の割合が最も高く、次いで「(キ) 育児・介護休業法」、「(サ) ジェンダー（社会的差別）」、同率で「(エ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」、「(シ) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の順となっています。

「まったく知らない」では、「(コ) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」69.6%の割合が最も高く、次いで「(ウ) 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）」、「(ケ) 男女共同参画都市宣言」が同率で56.1%の順となっています。

【 男女共同参画に関する項目についての認知度 】

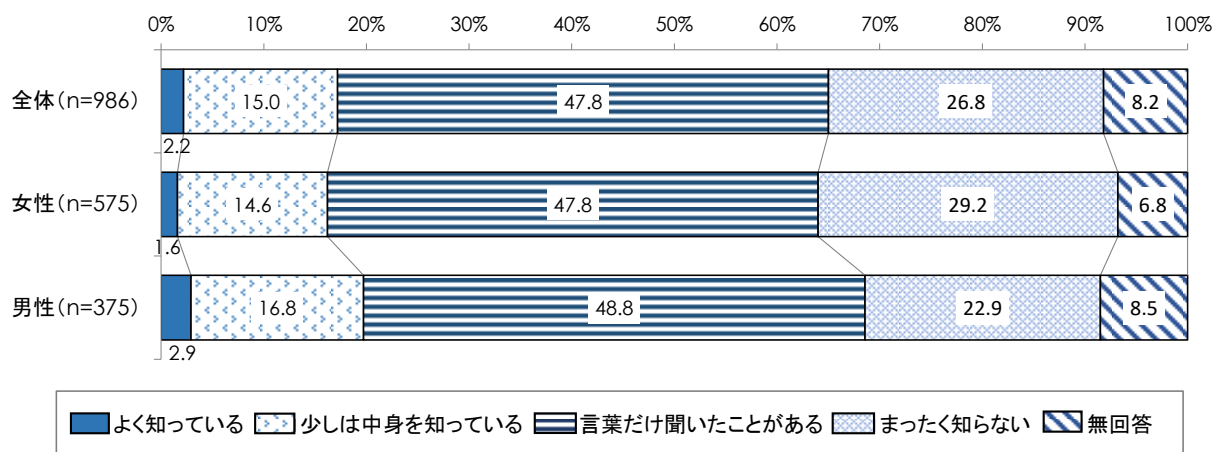


ア 男女共同参画社会

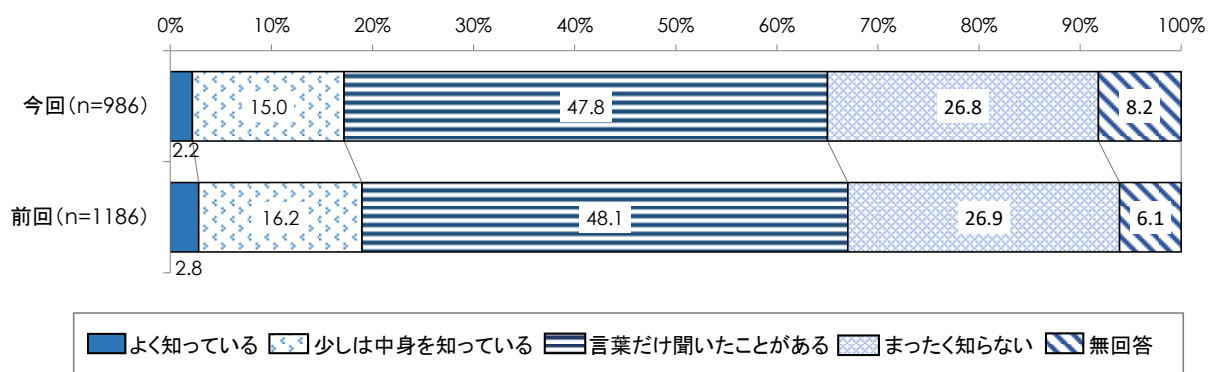
男女共同参画社会の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」47.8%の割合が最も高く、次いで「まったく知らない」26.8%、「少しは中身を知っている」15.0%、「よく知っている」2.2%の順となっています。

性別や前回調査との比較では、概ね同様の割合となっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(ア 男女共同参画社会) 】



【 前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(ア 男女共同参画社会) 】



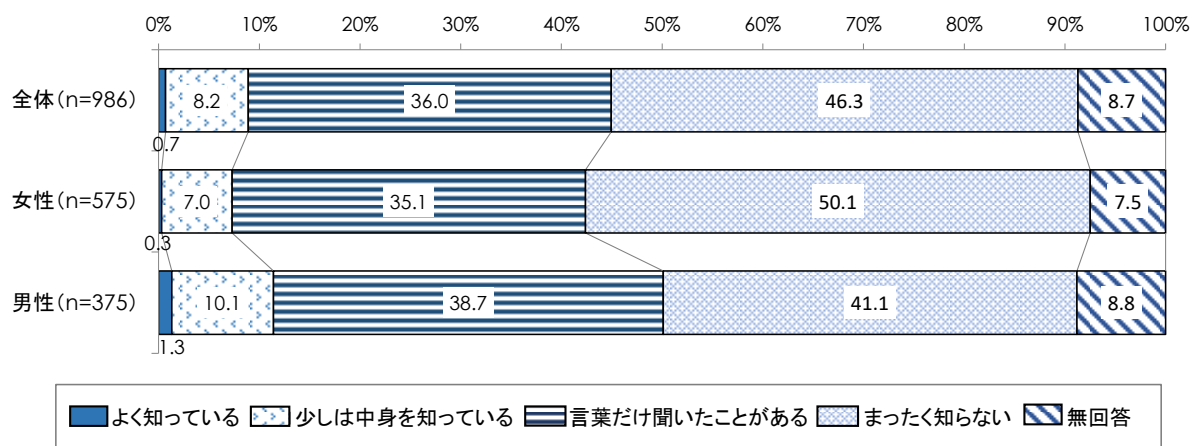
イ 男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会基本法の認知度についてみると、「まったく知らない」46.3%の割合が最も高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」36.0%、「少しは中身を知っている」8.2%、「よく知っている」0.7%の順となっています。

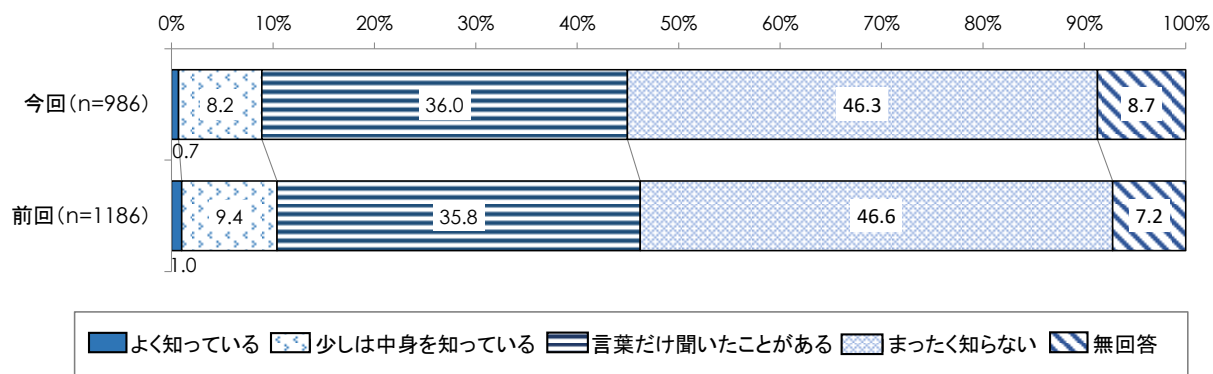
性別にみると、女性は男性より「まったく知らない」の割合が9ポイント高くなっています。

前回調査との比較では、概ね同様の割合となっています。

【性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(イ 男女共同参画社会基本法)】



【前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(イ 男女共同参画社会基本法)】

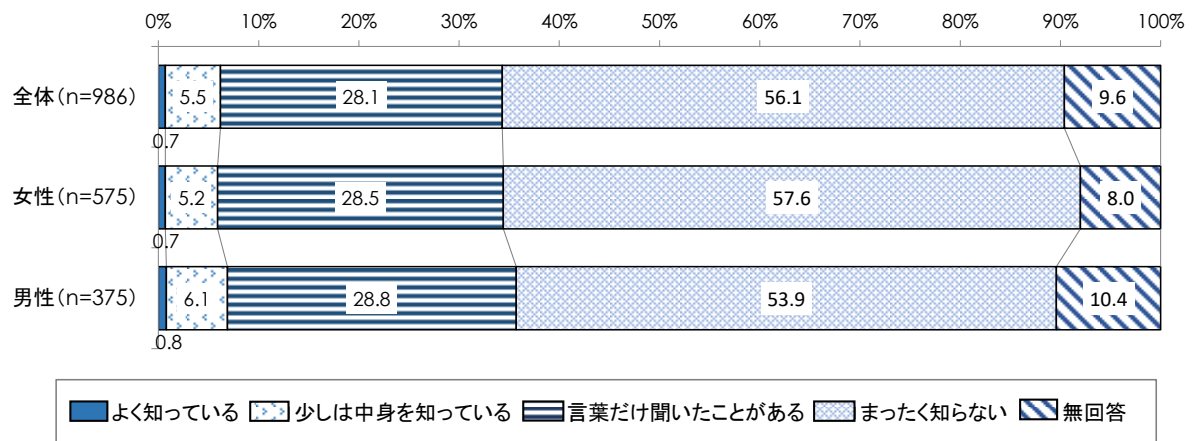


ウ 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女子差別撤廃条約)

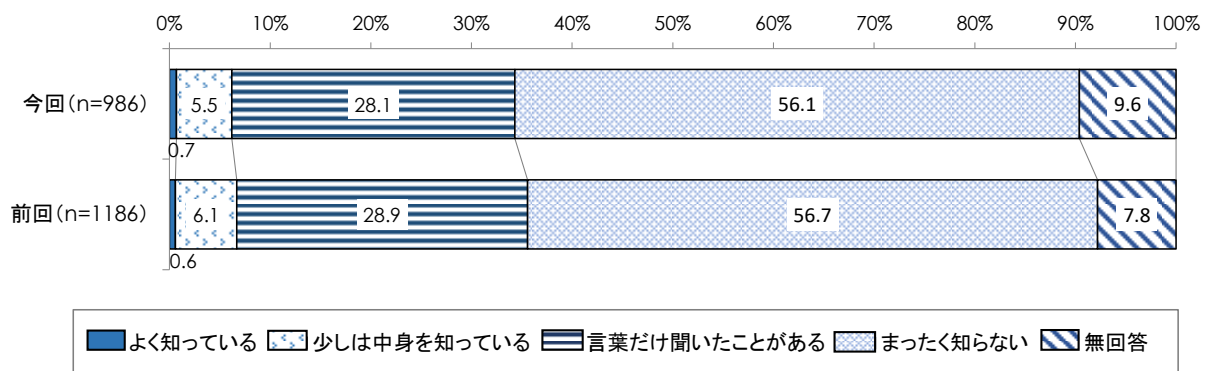
女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女子差別撤廃条約)の認知度についてみると、「まったく知らない」56.1%の割合が最も高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」28.1%、「少しは中身を知っている」5.5%、「よく知っている」0.7%の順となっています。

性別や前回調査との比較では、概ね同様の割合となっています。

【性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(ウ 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女子差別撤廃条約))】



【前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(ウ 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女子差別撤廃条約))】



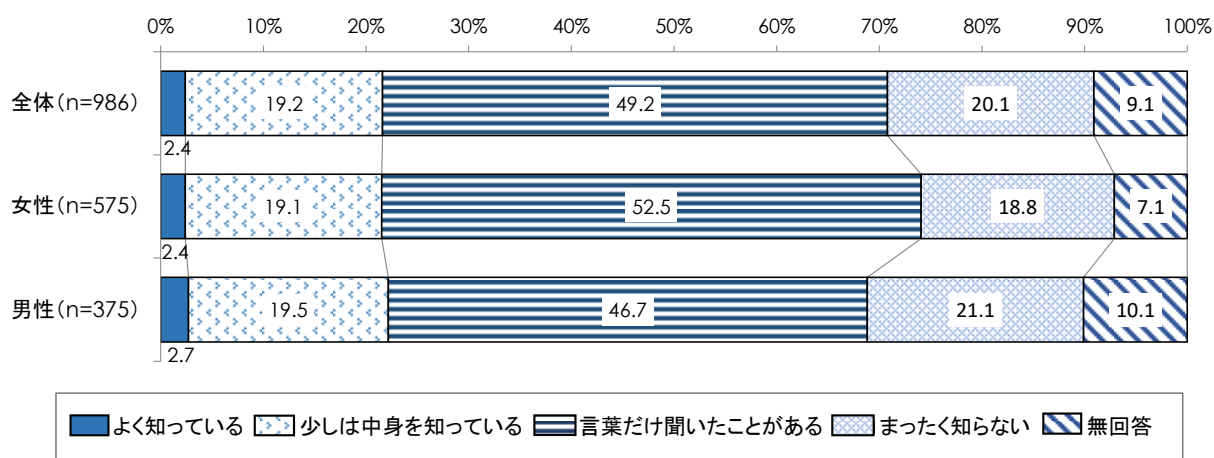
エ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」49.2%の割合が最も高く、次いで「まったく知らない」20.1%、「少しは中身を知っている」19.2%、「よく知っている」2.4%の順となっています。

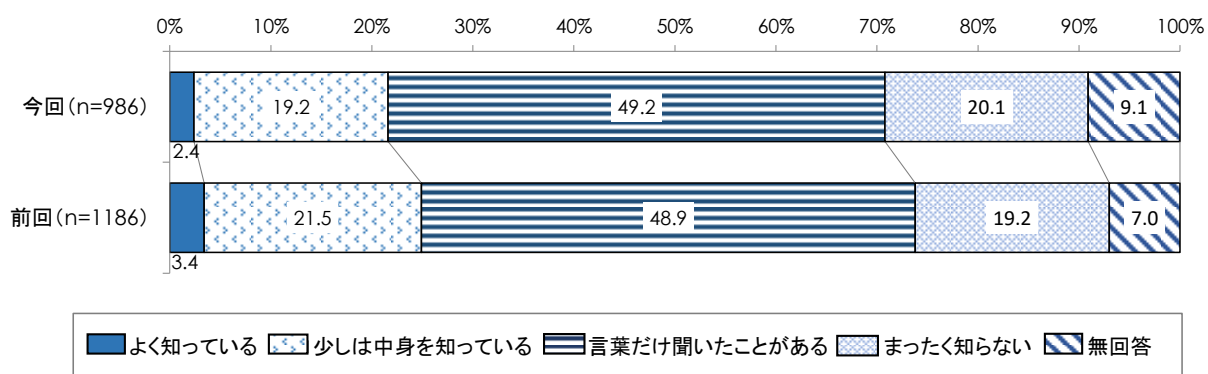
性別による差はあまりみられませんが、女性は男性より「言葉だけ聞いたことがある」の割合が、男性は女性より「まったく知らない」の割合が若干高くなっています。

前回調査と比較すると、概ね同様の割合となっています。

【性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(エ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法))】



【前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(エ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法))】



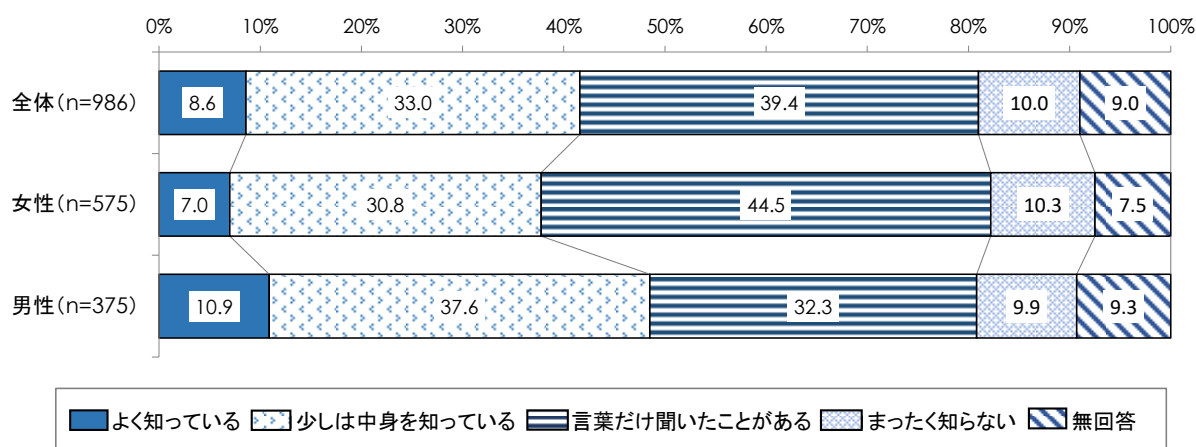
オ 男女雇用機会均等法

男女雇用機会均等法の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」39.4%の割合が最も高く、次いで「少しは中身を知っている」33.0%、「まったく知らない」10.0%、「よく知っている」8.6%の順となっています。

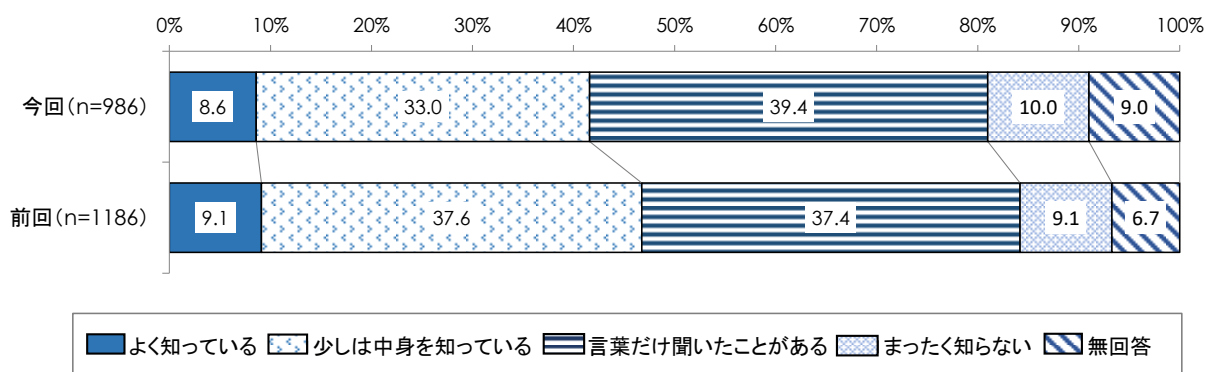
性別にみると、男性は女性より『知っている』の割合が10.7ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「少しは中身を知っている」の割合は低く、「言葉だけ聞いたことがある」の割合は高くなっています。

【性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(オ 男女雇用機会均等法)】



【前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(オ 男女雇用機会均等法)】

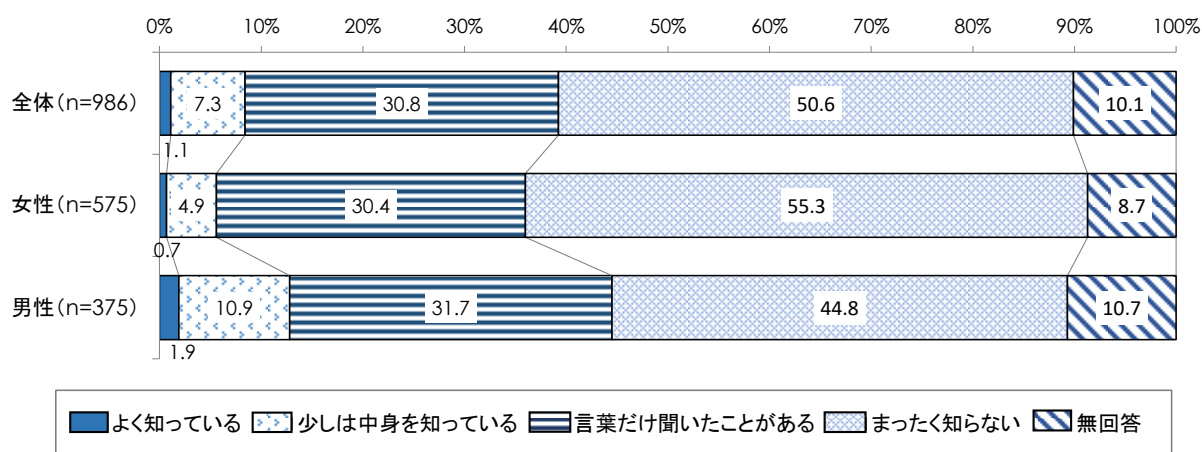


カ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

政治分野における男女共同参画の推進に関する法律の認知度についてみると、「まったく知らない」50.6%の割合が最も高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」30.8%、「少しは中身を知っている」7.3%、「よく知っている」1.1%の順となっています。

性別にみると、男性は女性より『知っている』の割合が7.2ポイント高く、女性は男性より「まったく知らない」の割合が10.5ポイント高くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(カ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律) 】



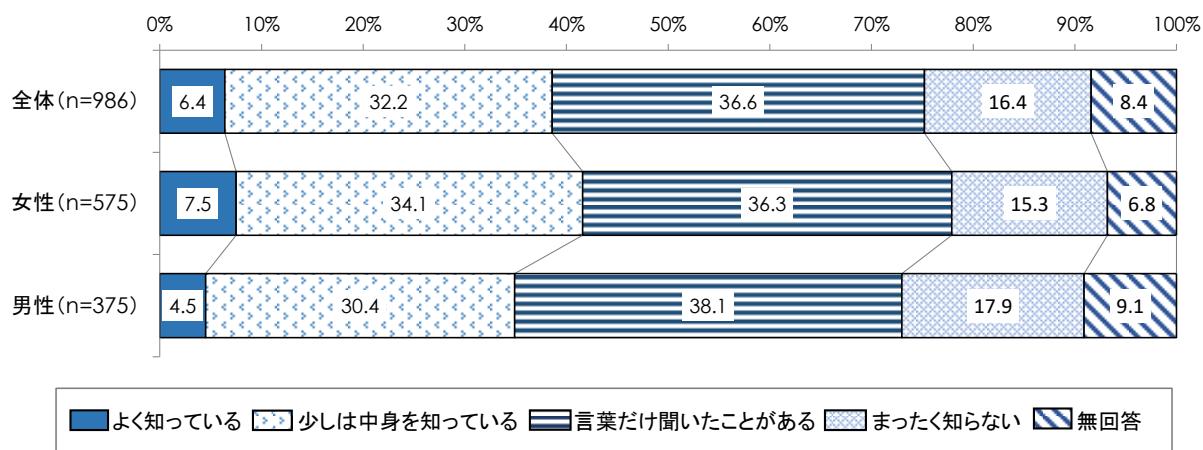
キ 育児・介護休業法

育児・介護休業法の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」36.6%の割合が最も高く、次いで「少しは中身を知っている」32.2%、「まったく知らない」16.4%、「よく知っている」6.4%の順となっています。

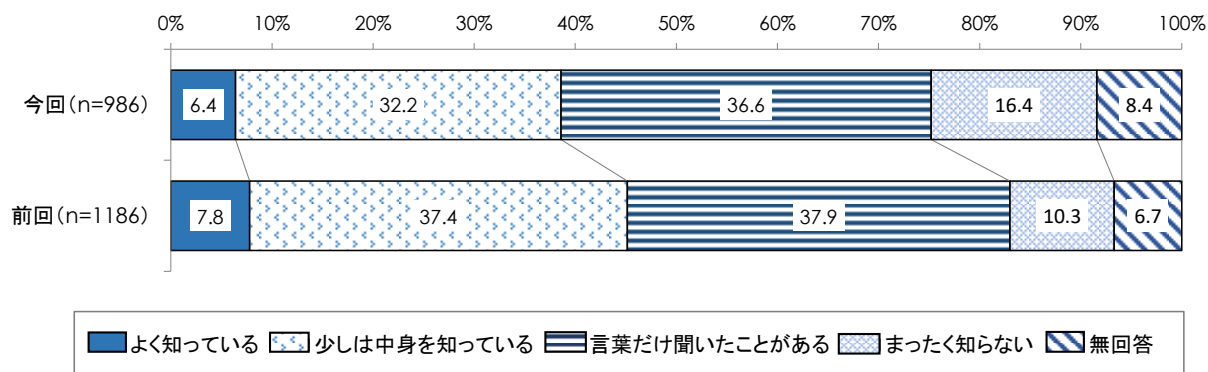
性別にみると、女性は男性より『知っている』の割合が6.7ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「まったく知らない」の割合が高くなっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(キ 育児・介護休業法) 】



【 前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(キ 育児・介護休業法) 】

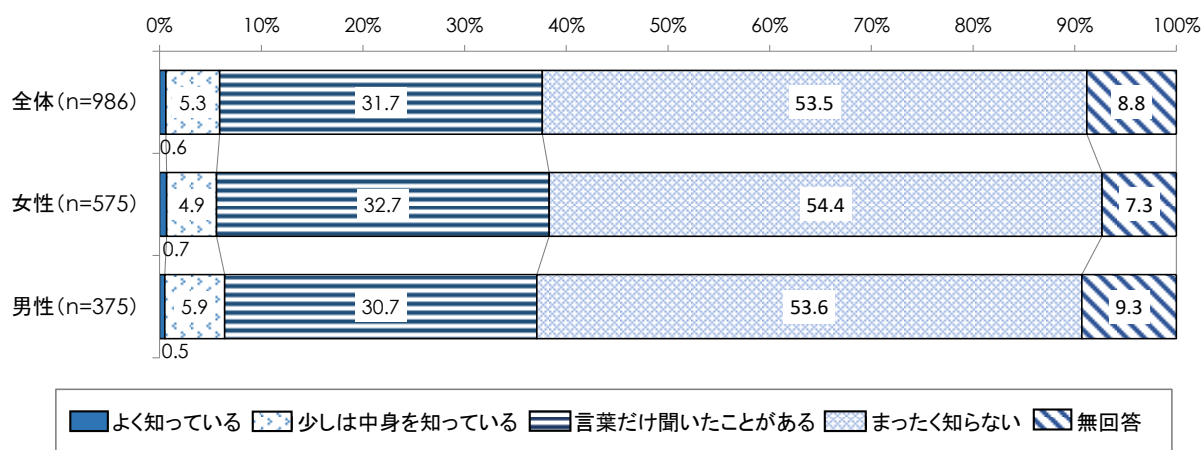


ク 丸亀市男女共同参画推進条例

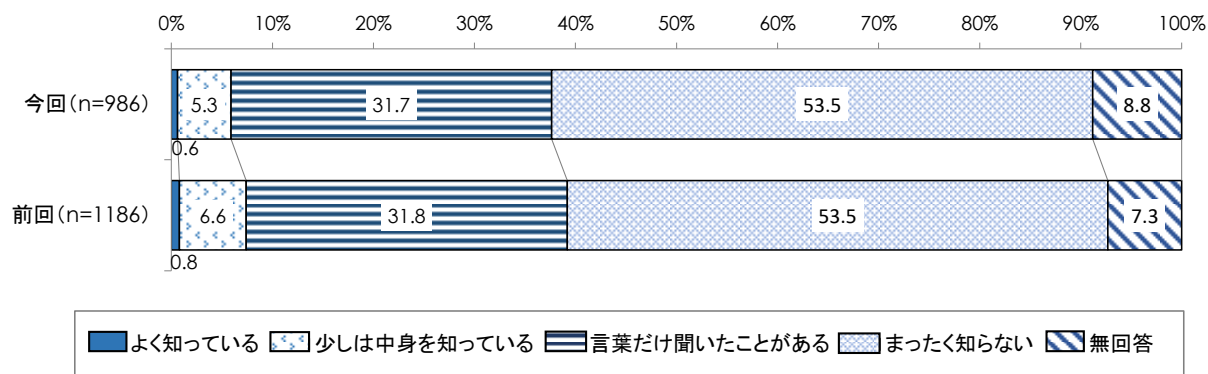
丸亀市男女共同参画推進条例の認知度についてみると、「まったく知らない」53.5%の割合が最も高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」31.7%、「少しは中身を知っている」5.3%、「よく知っている」0.6%の順となっています。

性別や前回調査との比較では、概ね同様の割合となっています。

【 性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(ク 丸亀市男女共同参画推進条例) 】



【 前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(ク 丸亀市男女共同参画推進条例) 】

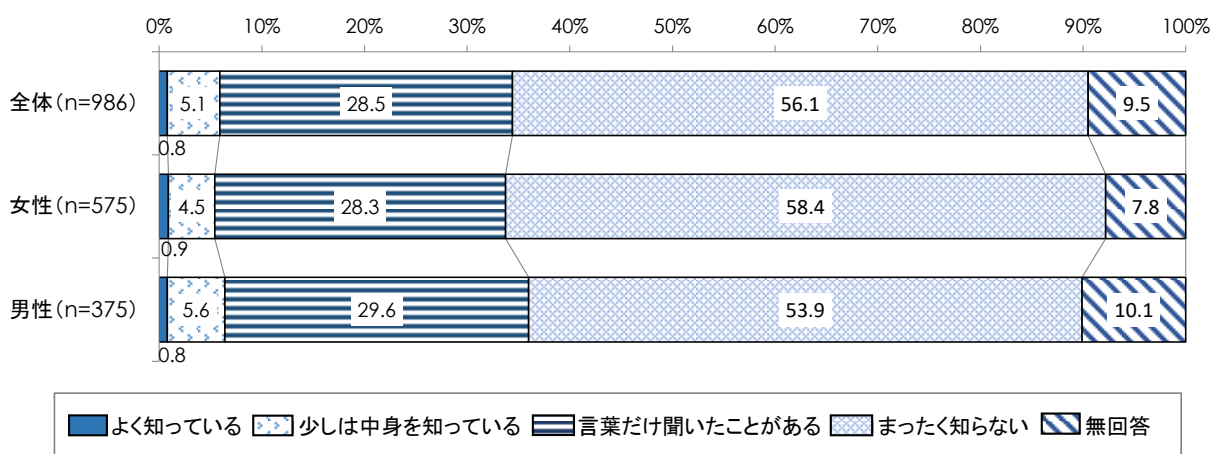


ケ 男女共同参画都市宣言

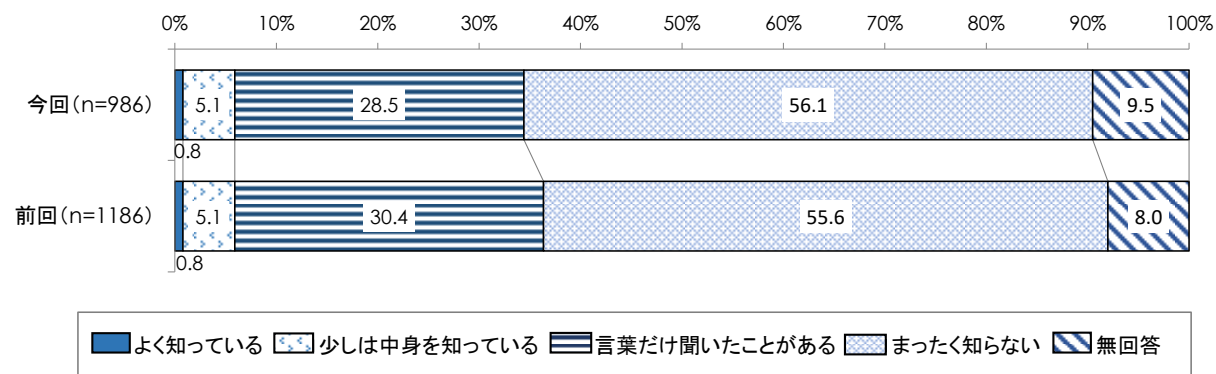
男女共同参画都市宣言の認知度についてみると、「まったく知らない」56.1%の割合が最も高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」28.5%、「少しは中身を知っている」5.1%、「よく知っている」0.8%の順となっています。

性別や前回調査との比較では、概ね同様の割合となっています。

【 性別こみた男女共同参画に関する項目についての認知度(ケ 男女共同参画都市宣言) 】



【 前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(ケ 男女共同参画都市宣言) 】



コ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

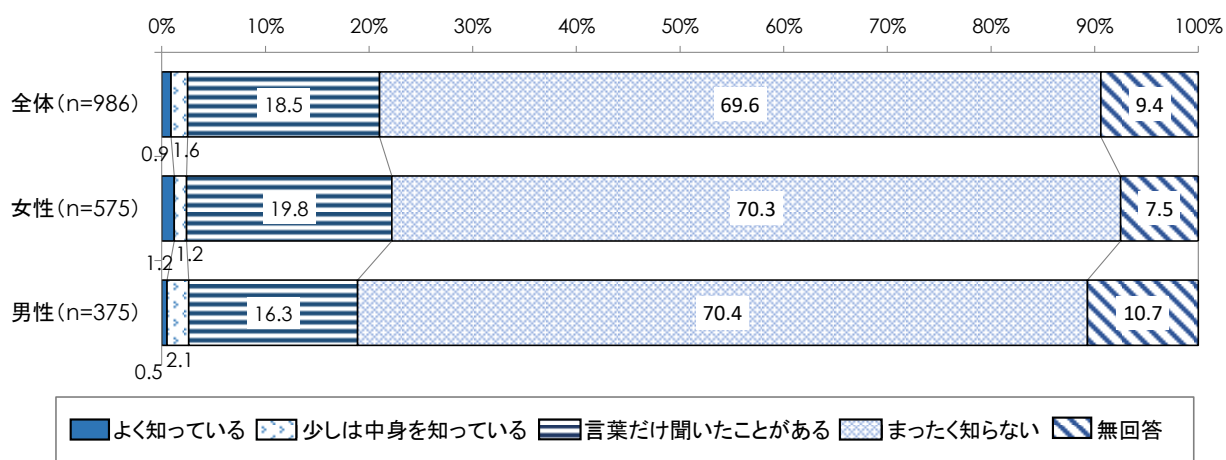
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)の認知度についてみると、「まったく知らない」69.6%の割合が最も高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」18.5%、「少しは中身を知っている」1.6%、「よく知っている」0.9%の順となっています。

性別による差はあまりみられませんが、女性は男性より「言葉だけ聞いたことがある」の割合が若干高くなっています。

前回調査との比較では、概ね同様の割合となっています。

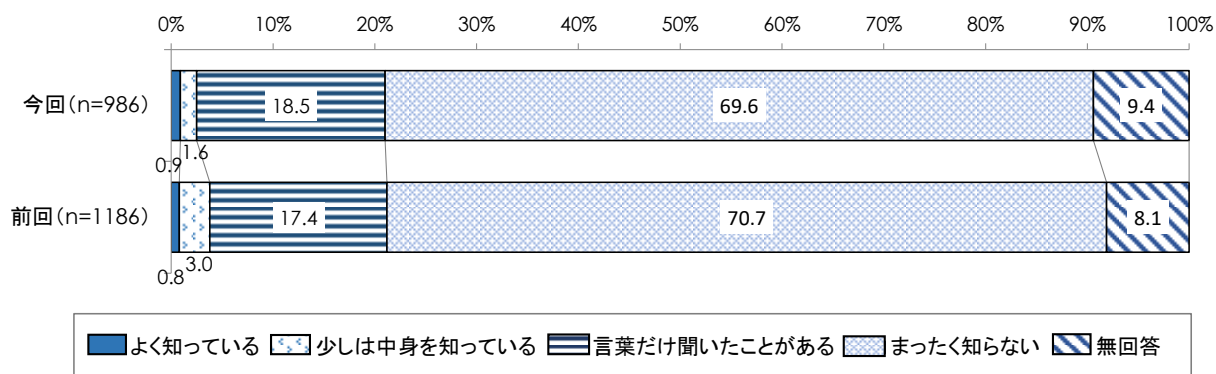
【性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度

(コ ポジティブ・アクション(積極的改善措置))】



【前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度

(コ ポジティブ・アクション(積極的改善措置))】



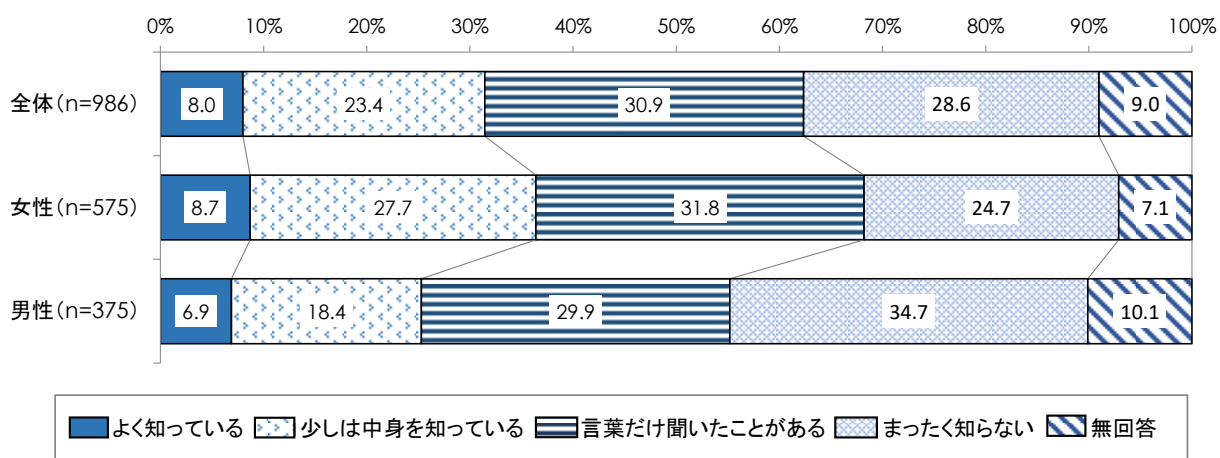
サ ジェンダー(社会的性別)

ジェンダー(社会的性別)の認知度についてみると、「言葉だけ聞いたことがある」30.9%の割合が最も高く、次いで「まったく知らない」28.6%、「少しは中身を知っている」23.4%、「よく知っている」8.0%の順となっています。

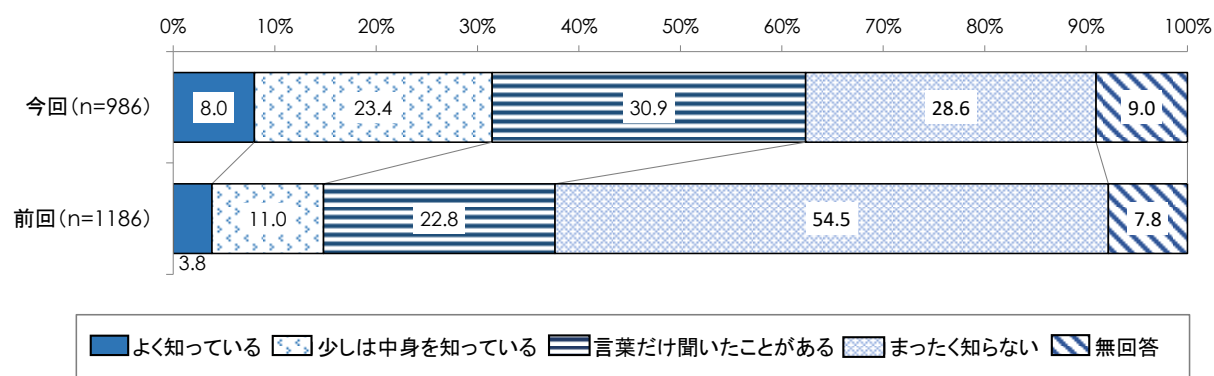
性別にみると、女性は男性より『知っている』の割合が11.1ポイント高く、男性は女性より「まったく知らない」の割合が10ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、『知っている』の割合は16.6ポイント高く、「まったく知らない」の割合は25.9ポイント低くなっています。

【性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度(サ ジェンダー(社会的性別))】



【前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度(サ ジェンダー(社会的性別))】



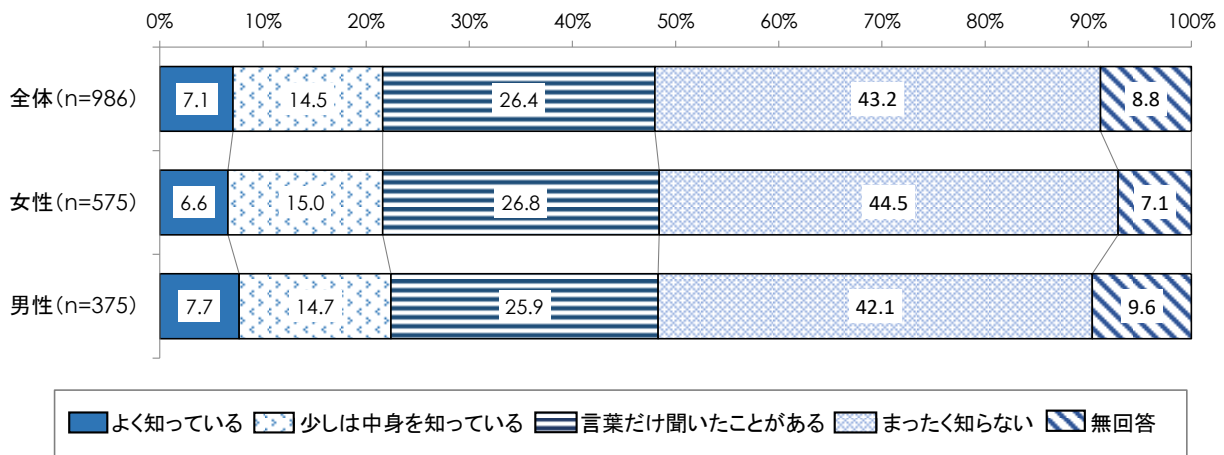
シ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) の認知度についてみると、「まったく知らない」43.2%の割合が最も高く、次いで「言葉だけ聞いたことがある」26.4%、「少しは中身を知っている」14.5%、「よく知っている」7.1%の順となっています。

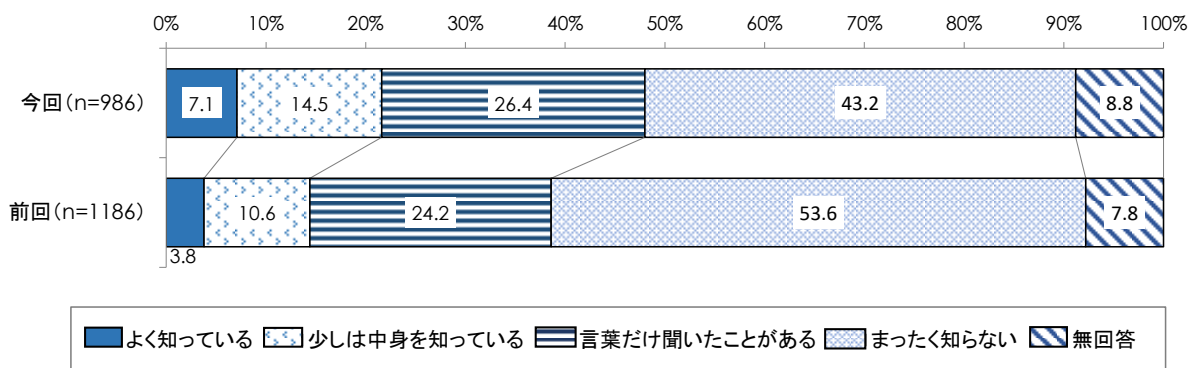
性別にみると、概ね同様の割合となっています。

前回調査と比較すると、『知っている』の割合は7.2ポイント高く、「まったく知らない」の割合は10.4ポイント低くなっています。

【性別にみた男女共同参画に関する項目についての認知度
(シ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和))】



【前回調査と比較した男女共同参画に関する項目についての認知度
(シ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和))】



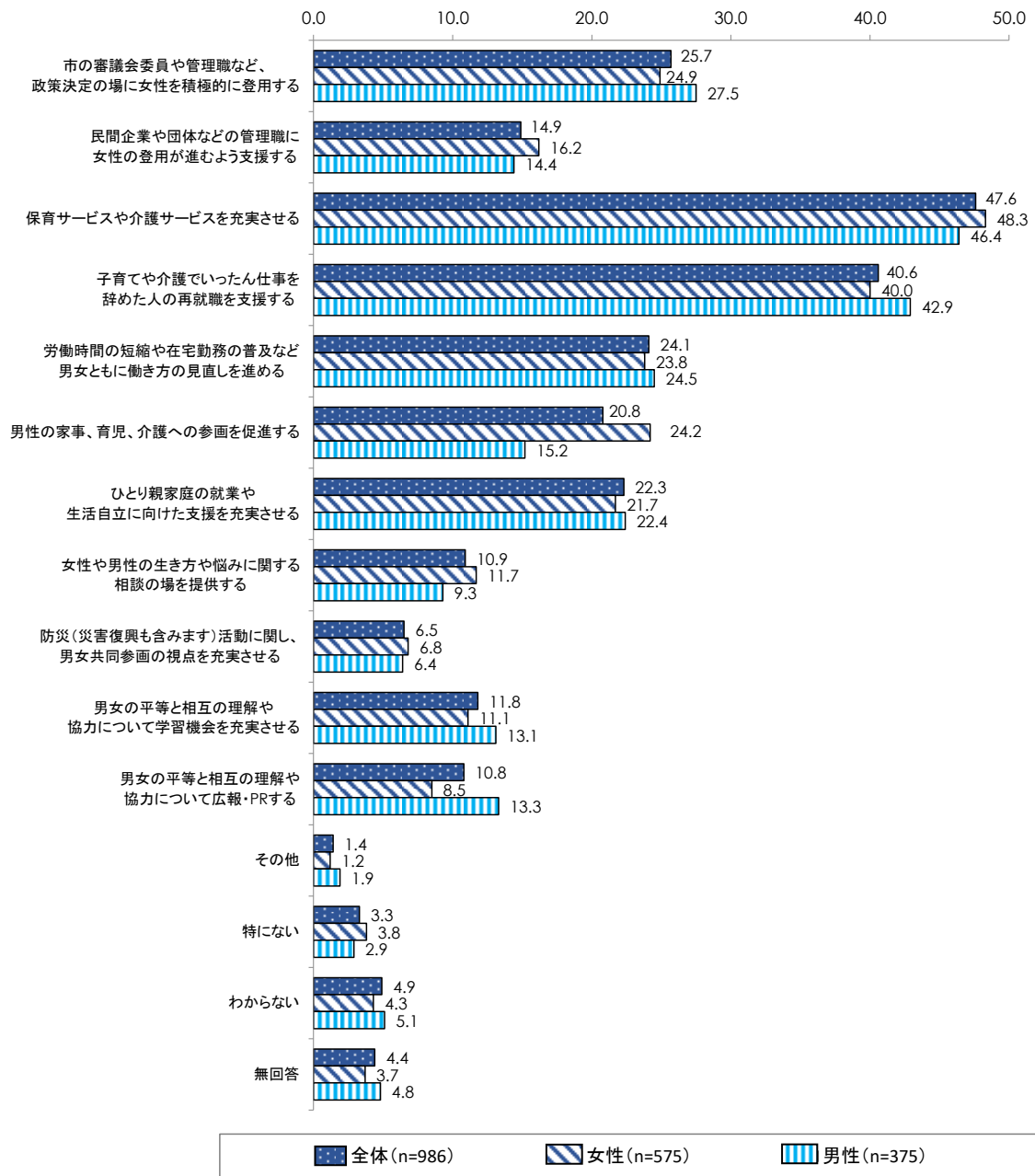
問 22. 男女共同参画社会を実現していくために、今後、丸亀市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は特に必要だと思うものを3つまで)

男女共同参画社会を実現していくために、丸亀市が力を入れていくべきことについてみると、「保育サービスや介護サービスを充実させる」47.6%の割合が最も高く、次いで「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」40.6%、「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」25.7%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」24.1%の順となっています。「その他」としては、「女性の人事担当者を増やすことで女性の社会地位向上を図る」、「トップの人たちの意識改革」、「男女問わず有能な人材の起用」などの回答がありました。

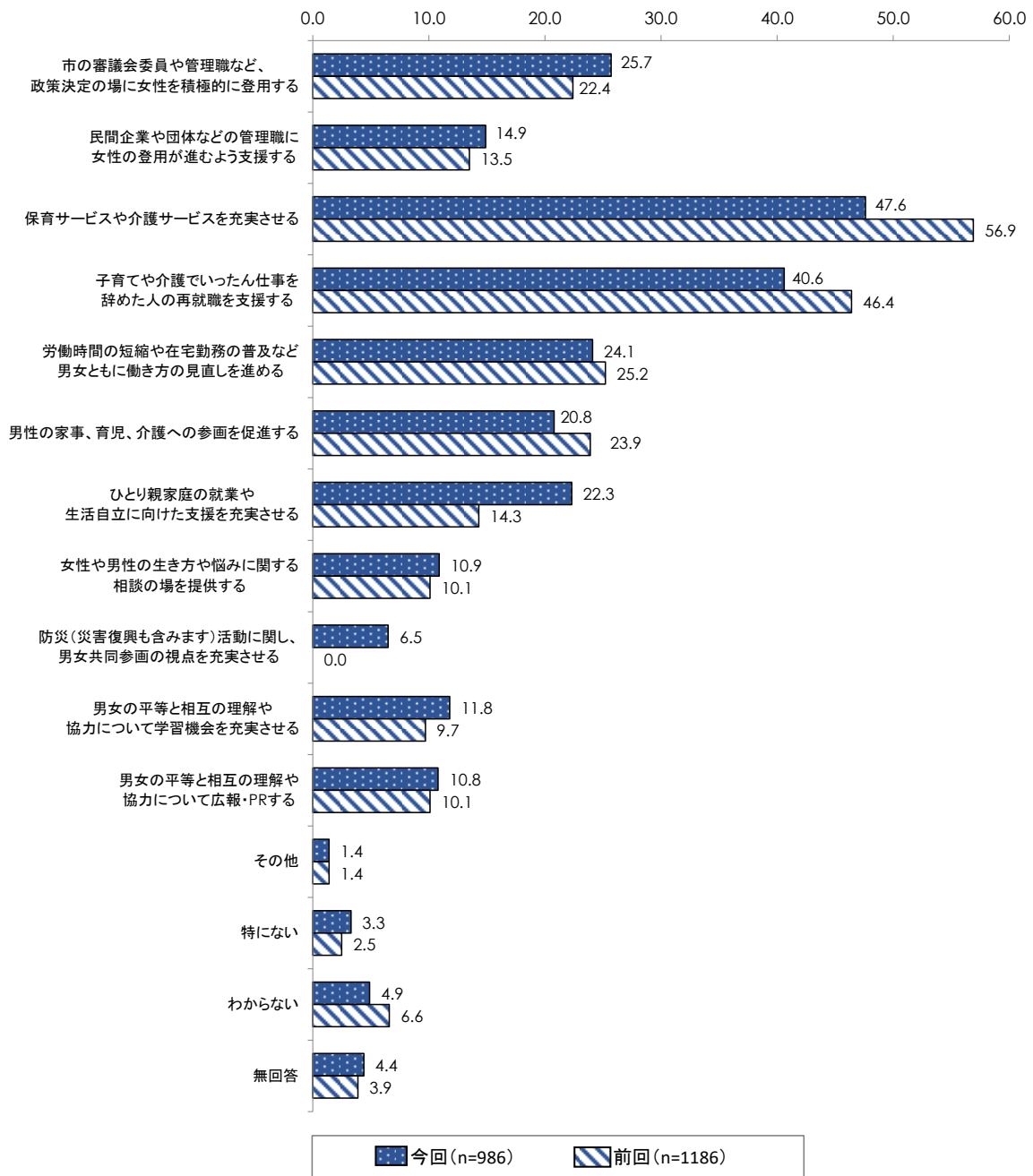
性別にみると、女性は男性より「男性の家事、育児、介護への参画を促進する」の割合が9ポイント高くなっていますが、概ね同様の割合となっています。

前回調査と比較すると、「保育サービスや介護サービスを充実させる」の割合は9.3ポイント、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合は5.8ポイント低くなっており、「ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実させる」の割合は8ポイント高くなっています。

【性別にみた丸亀市が力を入れていくべきことについて】



【 前回調査と比較した丸亀市が力を入れていくべきことについて 】



※前回調査では「防災（災害復興も含みます）活動に関し、男女共同参画の視点を充実させる」の選択肢はありませんでした。

問 23. 男女共同参画社会づくりについてご意見などがありましたらご記入ください。

(抜粋)

丸亀市は男女共同参画を積極的に取り組んでいると思います。自治会の方でも男女ともにいろいろと行事に参加しています。しかし一般社会に出ると、まだまだ進んでいない部分もあります。次世代を担う子どもたちも行事に参加し、いろいろな人がいて社会が成り立っていることに気づいていけばと思います。

(65～69 歳 女性)

働きたい人は働く、家で介護や育児に専念したい人はそうするというような、自分のやりたいことが実現できる社会になってほしい。男女問わず。私は経済的に許されるなら育児に専念したいと思う。仕事・家事・育児の負担が大きい。更に地域の活動やPTAにも参加させられ、体力的にも精神的にも辛い。女性を社会に参加させようというなら、男性もこれまで女性が主に担ってきた家庭内の仕事をどんどんしていかないと、女性ばかりがしんどい。専業主婦、主夫も良いと思う。(35～39 歳 女性)

”男女共同参画社会”について、なかなか知名度がないことが心配です。日常の話題で、男性と女性の社会的あり方が話題にのぼる事はありますが、(DV、雇用、家庭内のあり方等)”男女共同参画社会”の事などは、意識しておりませんでした。今回のアンケートで勉強になったし、興味を持つことができました。今後もこのような活動をどんどんして下さい。(40～44 歳 女性)

小学校の頃から男女平等について教育した方がいい。特に若い世代は共働きが多く女性の負担が家事や育児で多い傾向にある。子どもの頃から教育は男女平等だけおしえるのではなく、男性も女性も家事ができるようにしていく必要がある。社会においては上司が男性と言うのが多く、昇進にも男性を登用するケースが多い。業務量が同じであったり男性の方が少なかったり能力が低い場合もでも同様である。介護休暇について育児休暇ほど給与の面で充実していない、かなり減らされる。また取る職員が少なく取りづらい。法的整備をしてくれたら取りやすい(介護休暇がない職場も多いので)(45～49 歳 女性)

女性の社会的立場が弱いから救済しなければいけないという風潮がよく見られますが、そのような考え自体が女性を弱い立場にしてしまっている部分があると思います。そのような主義主張は女性の立場が弱くないと成立なくなってしまうので。男が～、女が～、ではなく、その手前の男女に関わらず、働く人は～、DV被害者は～、育児する人は～、介護する人は～というように各人の立場でそれぞれ使えるルール作りをすべきと思います。男に優遇、女に優遇とかを考えている点では共同参画には遠いかと。各家庭の生活設計に合わせて、その立場になった人が男女問わず使えるシステム作りを願います。自分はシングルマザーですし、DVの相談を受けたのは男性からだったので、「女性の〇〇センター」みたいなものばかりでできるのにはうんざりしています。(30～34 歳 男性)

私の働いている会社は、パートには扶養手当がありません。労働基準局に問い合わせた所「支給するかどうかは、会社に任せてある」ということでした。会社に任せるのではなく、国か又は県で扶養している人には扶養手当がもらえる様にして欲しいです。女性はなかなかパートじゃなく社員になる(シングルマザーの場合)のは難しいです。(40～44 歳 女性)

<p>男女共同参画社会、リプロダクティブライツ、男性の育児休暇など、義務教育時代に正しい知識が欲しかったものばかりです。成年向けの啓発のみならず、小学生の年齢でも理解し、考えられるようなポスター、教育があればと思います。ジェンダー論については近年発展している文化であり、難しいこともあるとは思いますが、丸亀市の積極的な取り組みを期待しています。人権尊重都市、待っています！！</p> <p>(18～24 歳 女性)</p>
<p>女性が働く時代という言葉だけが一人歩きしている気がする。実際男性の様に働く環境が色々な視点でない感じがある。(35～39 歳 女性)</p>
<p>男女共同参画社会の前提として、教育の機会均等、貧困の再生産の防止が重要と考えます。この観点から、特にひとり親世帯への支援の充実が望まれます。(70 歳以上 男性)</p>
<p>発言力のある女性が多く登場していく必要がある。その中でもリーダーシップをとっていく立場にある国政、行政からも男女比が同等になるようにしていく必要がある。またメディアの発言力は強いので強い女性がしっかり働いている場面を多く取り入れてもらう必要がある。男性の方が上と思っている男性の方が多い(または家の事は女性がすべきと思っている人が多い)ことが、根づいていることを正すには、仕事がいつでも休みやすい環境(早く帰りやすい環境)を作ることも大切だと思う。(35～39 歳 女性)</p>
<p>子供が満3歳をむかえると、労働時間の短縮ができなくなる。小学校高学年になるまでは、短時間の勤務をできるようにしてほしい。育休明け、短時間勤務が終了などのタイミングで、退職される方が多い(労働条件が合わなくなるため)(40～44 歳 女性)</p>
<p>男性女性が気軽に参加でき、協力してできる料理教室やコミュニケーションのとれるウォーキング等を定期的に開催したり、地元の企業に協力してもらい男性がしている仕事を女性が、女性がしている仕事を男性が経験したりできれば、お互いの大変さがわかるのではないのでしょうか?豊かな生活が当たり前になっているので、テレビ番組の無人島生活のような不自由を知ればいろんなことに感謝できると思います。</p> <p>(55～59 歳 女性)</p>
<p>政策決定後の具体的計画、実行が行われているのか?実行性のある実のある行事、長期的視野で女性の活用をすべきと思う。(70 歳以上 女性)</p>
<p>まずは幼児教育から男の子はとか女の子はという考えの植え付けを廃止していかなければいけない。国外ではどのような取り組みをしているかも目を向けて欲しい。親権に関してもどちらか一方がかかえてしまっている今の日本では参画社会とは遠い関係にしていると思う。男性がパートにならない理由はどこにあるのか深いところから見直しが必要だと思う。最低賃金を引き上げたりして男性の就業時間を削減することにより家庭で持つ時間も増え共同生活がしやすくなると思う。(35～39 歳 女性)</p>
<p>このアンケートを回答するにあたり、まず感じたことは「男女共同参画社会づくり」とは何だろうということ。 「男女共同参画社会づくり」とは何なのかを知ってもらう広告や出前授業(学生向け)を行うべきではないでしょうか。その活動等を行うことにより、「男女共同参画社会づくり」とはどういうもので、「男女共同参画社会づくり」をしないとこういった問題が起こるという理解が深まると思います。そして、やっとな的を射た意見が出ると思います。(18～24 歳 男性)</p>

<p>私は父子家庭でした。母子家庭には手厚い保護が有るように感じていた。逆に男性の方が不利な法律だと思う。父子家庭にも手厚い保護、援助が必要だと思う。父子だろうが母子だろうが子供を育てていくのはどちらも大変だと思うので平等に扱ってほしいです。(50～54歳 男性)</p>
<p>男女共同参画社会とは、学校で聞いた以来でした。このことについて考えること自体久しぶりで、何も知らないな…と思いました。より過ごしやすくなるよう色んなことを知ったり、行動したりしたいけど何も分かってないのだなと身に染みました。若者でも分かりやすく、楽に、軽い気持ちで社会参加出来る何かがあるといいなと思いました。考える機会をありがとうございました。(30～34歳 女性)</p>
<p>・コミュニティの活動に(男女共同参画社会)取入れるもの良いかと思います。・年代毎に取組み時代のニーズに合った活動の中で生きがいを見つけるものこの主旨に合っていると思います。・高齢になっても男女平等と相互の理解によって充実した日々が送れることを祈ります。(70歳以上 女性)</p>
<p>共同参画社会はあくまでも理想であって現実の実態とあまりにも差異がある(70歳以上 男性)</p>
<p>市がサービスの内容などをもっと市民に伝えるべき 知らなくて損する事が多すぎる。 (50～54歳 女性)</p>
<p>目標というかゴールをもっと明確にすべき 一般の人々に広く知ってもらい話し合う期会を求めたい。 (55～59歳 女性)</p>
<p>日本は、特に政治の場、社会の中への進出が少ない。女性には子育てや家事などがあり平等になる為のハンディがあると思うのでそのハンディを取り除くための諸施策が必要だと考える。(70歳以上 男性)</p>
<p>政治からはじまり地域社会に至るまで、日本は女性の進出がおくれている。女性のもつ生活感に根ざした細やかな感覚やアイデアはとても貴重だと感じています。女性がもっと社会に進出することで、多面的な政策がうち出せるのではないかと常々感じています。メディアでとりあげられるのもなんと男性ばかりなのか。(65～69歳 女性)</p>
<p>女性も過剰な配慮を必要としている訳ではない。男女共に配慮が必要な方に対してのみ対応を行うべき。仕事をする上で、男性だから育児の都合で休むより仕事をするべき、女性だから育児の都合で休んでも大目に見るといのがおかしい。上層部がいつまでもそのような考えだと、制度だけつくっても意味がない。 (18～24歳 女性)</p>
<p>雇用機会の創出を図ったとしても、女性は結婚→出産のプロセスでどうしても仕事を離れないといけな い。そのために、女性は管理職に就きたいという意志があまりないと聞く。この解決のためには2点必要。 まず一つは民間企業や公の職場において、保育サービス、介護サービスの利用が男女共に「常識として」利用 できること、2つ目は、職場のポジションに育休後も復帰できる、あるいは同給与水準のポジションに戻 れる仕組みづくり。行政、特に国家主体で先導してもらうことで、下部組織の地方自治体も実践しやすい。 排他的に海外事例を拒絶するのではなく、海外の良い事例も柔軟に取り入れて、多様性と受容性を兼ね備え た社会に、風通しの良い社会になってくれたら嬉しいです。(25～29歳 男性)</p>

<p>男女関係なく弱者（子育て、介護等）に対してケアする体制をつくっていくことが丸亀市の強さに直結していくと思います。男女の区別をするからこそ子育ては女性がするもの、DVは女性が被害者、という固定観念が生まれすべてが悪い方向に向かってしまうのです。市長にぜひ柔軟な発想で強い丸亀市に導いてもらいたいと思います。（50～54歳 男性）</p>
<p>保育士、介護士の待遇を改善すべきだと思います。改善されると、安心して自分の母親なり子供を預けられると思います。女性の社会進出や少子高齢化を防ぐことの為には、皆が協力して助け合える社会にならないと男女共同参画社会づくりは有り得ないと思います。（30～34歳 男性）</p>
<p>私は、4月～5月中旬頃まで主人に育休を取ってもらい、自分自身は4月から職場復帰しました。本当に助かったし、快く育休に入らせてくれた主人の会社には感謝しています。ワーキングママが多い今の時代、もっともっと男性も育休が取りやすい世の中になれば良いと思います。（25～29歳 女性）</p>
<p>男女平等は大切ですが、何もかも、そこへもってゆく、あてはめるのではなくて、男女の性差があつて良い、むしろあつた方が良いという事もあるので、多数の意見や、少数の意見でも、深く考えてゆくべきです。（60～64歳 女性）</p>
<p>ワーク・ライフ・バランスを更に充実させること。これには、言葉と内容を一致させる必要がある。ワーク・ライフ・バランスには、時間と共に賃金や住宅他、生活を充実・安定させることが基本にあるので、単なる働き方を変えても、意味はない。（70歳以上 男性）</p>
<p>ひとり親家庭だが働けど働けど暮らし楽にならず母子手当をもらっていた時は所得制限があり、パートで目一杯働けば母子手当は止められ税金は上がり、子供には数時間しか起きていた顔に会えない。子供の中学、高校、先は大学、不安でしかたない。もっと働きたい。体が働くうちに働きたい。労働時間に制限をかけないで。（40～44歳 女性）</p>
<p>若い人から老人まで幅広い年齢の人が参画できる様にして欲しい。声の大きい人やいぼっている人、地位の高い人ばかりが発言しない様に、チャットやTV会議などで顔や姿が見えなくても発言できる様工夫して欲しい。相談にも「聞くだけ」「他の部署にまわす」などがない様にマイルストーンを作る、スケジュールを作って今後どの様にすすめていくのか、進まない時はどの様な方法を取るのか考えて、DVや女性であることの差別をうけている人に希望をあたえてほしい。（45～49歳 女性）</p>
<p>私は男女共同参画社会というものの知識がかなり足りていません。なので、的外れな意見かもしれませんが女性を引っぱりあげて社会に参加させることも大切ですが、男性を女性が立つ位置に引き戻して、同じ目線で社会を見てほしいです。いまだに、家事・育児は女性がして、男が働き、休日は休み遊ぶ（自分だけ）という人が多い。地域社会との関わり（自治会）や子どものことは女性まかせという人も少なくないと思います。それを改善させるような社会づくり、制度を望みます。（30～34歳 女性）</p>
<p>男女共同参画社会づくりはすばらしいと思いますが、これが少子化の原因の1つという気がするので複雑です。（45～49歳 男性）</p>
<p>単身者への配慮も必要であると思います。（65～69歳 女性）</p>

<p>男女共同参画社会と言う言葉さえ知らない、理解出来ていない事から改善。内容をもっとわかりやすく誰もがわかっていただけのようにして行く事が一番ではないかと思います。(50～54歳 女性)</p>
<p>男女共同参画がとり上げられるのは一見良いことのように思われるが、就活で男性と女性が候補に挙げた場合、最終的に女性の方が採用されることには納得がいかない。社会全体がパラダイムシフトしていないにも関わらず、女性の方が優遇されたりすれば、男性の側は損害を受ける。国からの要請なのかどうかは知らないが、見かけ上男女共同参画をうたっていれば良いのであってそれを実践すべきではない。理念と実態は一致などしないことを今一度理解してもらいたい。無駄なことに時間を割くなかれ。(40～44歳 男性)</p>
<p>職場は男女の格差は大分なくなっているがその分、男の人は昔の考え方、育て方で、家ではまだ、主婦まかせで、共働きでも、主婦に負担がかかっている。教育現場から、このしきたり、考え方を教育してほしい。(40～44歳 女性)</p>
<p>男女共同参画社会づくりについては、おたがいの協力がすべてだと思います。まずは身近な異性に対して(母・妻・娘etc)もっと理解するために、会話の時間をつくる必要があると思います。相手に対しての思み込みが誤解をまねきケンカになったりするので、まずは気楽に話せるようになる必要があると思います。DV関係はとにかく、逃げ場所をつくってほしいと思います。カウンセリングは重要だと思います。(50～54歳 男性)</p>
<p>高齢の一人暮らしに対して、あまり回答ができる質問ではなかった。(70歳以上 女性)</p>
<p>市が中心となって、男女平等に向けた環境整備を計画的に推進してってください。(65～69歳 男性)</p>
<p>男女が平等、不平等よりも、市、県、国の役人さん達がまずしっかりしないと、社会は変わらないと思う。女だって男と同じく仕事もしているし、だからと言って男性を蹴落としたい訳でもない。社会、家庭それぞれにルールがあるのだから仕方ないことも多いだろうし。このようなアンケートの結果がどこに反映されているのか?やっている意味を知りたい。(40～44歳 女性)</p>
<p>性別関係なく、職場・家庭で共に参画できるような社会になればよい。丸亀市でも、市議会議員や、管理職により多くの女性が活躍できるようにしてほしい。アンケートをとって、それで満足するのではなく、結果をふまえての行動をしてほしい。(45～49歳 男性)</p>
<p>子育てや介護などで退職をしなくても大丈夫な就労方法があれば若い世代の方々も子育てがしやすくなるのではないのかなと思います。一度退職してしまうとなかなか再就職も大変だと思います。男女共同参画はなかなか、こうすればいいというのが出てこないのかもしれませんが、こういうアンケートがあると、その時々で、考えさせられることがあるので、必要だなと思います。(40～44歳 女性)</p>
<p>働く環境におけるハラスメント(あらゆる)の排除を目指すことで各個人が働きやすく生きやすい社会になると考えます。(60～64歳 女性)</p>

<p>チームで仕事をする職種であれば、育休等のフォローも（人員を確保できれば）可能だとは思いますが、そうでない、専門性の強い職種ではどうやってもフォローに限界がある、この事実を無視して男女共同参画の制度を進めても、必ずどこかで不和が生じる。フォローする側の視点に立った考えが足りない気がする。</p> <p>(35～39 歳 男性)</p>
<p>〇〇課などを作り、形だけ整えて、やっている気になることだけはさけて欲しい。そして、無意味に人員ばかりを増やすこともやめて欲しい。（税金のムダづかいだと思うので）やるからには中身を充実させ、実行性のあるものに。（65～69 歳 女性）</p>
<p>大事な問題だと思いますが、私自身自覚が足りない事と痛感いたしました。もっともっとPRして欲しいと思います。（70 歳以上 女性）</p>
<p>丸亀市は城や瀬戸内海またおいしいうどん等観光資源も豊かにあるので丸亀市の町おこしを男女共同参画で推進していけばよいのではと思います。（60～64 歳 男性）</p>
<p>昔に比べて現在はかなり女性の社会参画は進んでいると思います。しかし、女性の立場を伴っていない男性も多く、昇進などに「嫉妬」する者もいます。（55～59 歳 男性）</p>
<p>独居老人のため参考になる回答ができませんでしたが、防災に対しても弱者ですので一般の方々に迷惑かけないように老人なりにできる事はがんばります。防災男女関係なく！！（65～69 歳 女性）</p>
<p>男女共同参画社会そのものについて、興味関心を持つ市民を増やさないと、理解も、その後の進展も期待できません。法律や条例があっても、具体的にどう活用できるのか、私達市民がわかりやすい様な表現にしたものを、公報などで定期的に連載すると、意識の定着に繋がるのではないかと思います。また家庭だけでなく、企業でも、そういった男女共同参画社会についてのセミナーや研修を行い、管理職以上の意識向上を図っていく必要があると考えます。（30～34 歳 女性）</p>
<p>イクボス宣言されて、様々な活動をされておりますが、民間でそのような取り組みを行うのは難しいと思います。現実的な事業から取組まれた方が、よいのではないのでしょうか。働く女性が子どもを安心して低価格（無料でも）で預かってもらえるような社会作りに向けての企画をされてはいかがでしょうか。一部の企業や人しか対象にならない政策をPR されても腹が立つだけです。将来的に民間でもイクボス宣言が浸透するようになる社会になるのが理想的ですが、本当に市民の立場に立った政策を考えて頂けると幸いです。</p> <p>(20～24 歳 女性)</p>
<p>DVといえば、男性から女性へのイメージが強いが、近年は、女性から男性へのDVや、モラルハラスメントが増加している。現在において女性の相談機関は存在するが男性が相談できる機関が少ないように感じています。また、男性単身で子育てしている世帯も増えつつあると思うので、サポート機関などを、伴わせて整備してもらえればと考えます。（40～44 歳 男性）</p>
<p>きっと昔よりは女性も働きやすい社会になっていると思いますが、やはり、出産等どうしても働けない状況がでてきます。そこで女性が復帰しやすい、社会を作ろうとして下さっているのはありがたいです。会社によって待遇がまちまちだと思いますが、社会に基準のようなものがあれば、会社も動いてくれそうです。女性の社会進出によって、婚期が遅れたり、子どもの数が減少したりするかもしれませんが、女性の仕事がしやすい社会づくりで、そこも変わっていくだろうと思います。よろしくお願いします。</p> <p>(30～34 歳 女性)</p>